谷川貞治「青木くんが不在の対抗戦はありえない」

kamipro



紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

enterbrain MOOK

2009
142
特別定価940yen

"キラー吉田"、怨念の12.31『Dynamite!!』参戦!
『戦極』を追われた"素浪人"の凄味を見よ!!

吉田秀彦

本誌独占激白!!
「DREAMや『Dynamite!!』を
盛り上げるつもりはない」

石井慧

DREAM vs『戦極』実現!!
特集 対抗戦とは何か?



大混乱大晦日!! 二大柔道王が毒舌三昧!!

大晦日のくそったれ!!

吉田道場

の真実」

』番組収録



「最強」を愛する者が集う店
魔裟斗長期愛用グローブ展示販売中!
年末年始は元旦のみ休業
福袋などお楽しみ企画やります!
どうしても欲しいモノがある
日本再上陸!! ヒクソン・グレイシー
BRUCE LEE
高価買取・格安販売!
マスク、ベルト、Tシャツ、ビデオ、本、雑誌、CD、パンフ、フィギュア他…50,000点販売中!!
買取方法★簡単!即決!大満足!★
お持込の場合
営業時間内に当館へ直接お持込ください、その場ですぐ査定→お支払いします!
※一部高額商品は一度お預かりさせていただき、後ほどご連絡する場合もございます。
配送の場合
「商品が多すぎる」「家から遠い」などの場合は、宅配または郵送でお送りください。
届き次第24時間以内に査定をして、ご連絡後、指定の口座にすぐ入金します。
※送料はお客様ご負担とさせていただきます。在庫状況により一部買取できない商品もございますので、
お送り頂く前に必ず必ず電話・FAX・メールなどでご連絡ください。
事前におおよその買取金額をお知りになりたい場合はメール (info@toudoukan.com)
またはFAX (03-3512-2080) などで具体的なタイトルをお知らせください。早急にお返事いたします。
※雑誌、パンフレット類は在庫過多の為お値段をお付けできないものが多いです。
▼携帯からも注文できます!
テレビ東京系
「開運!なんでも鑑定団」
に当館長が鑑定士として出演
http://www.toudoukan.com
毎日夜9時 連日約100点新入荷商品を更新!!
〒101-0061
東京都千代田区三崎町
2-9-9ナガヤビル5F&6F
(JR水道橋徒歩3分)
03-3512-2080
午前11時～午後9時 (年中無休)
後楽園ホール
東京ドーム
西口
JR水道橋駅
東口
マクドナルド
ファミリーマート
バトルロイヤル
チャンピオン
闘魂ショップ
神社
東京歯科大
富士そば
闘道館
(1F居酒屋どんたく)
白山通り
コロッセオ
薬局
マニア館
牛角
薬局
T-1
格闘技プロレス買取販売!世界最強の品揃え!
闘道館

2009 No.142 CONTENTS

kamipro

表紙撮影／梅木麗子

こっちの柔道王も問題発言!?

石井慧はいったい何を考えてるんだ!?



MMA

002 吉田秀彦の激白
006 石井 慧
010 いまこそ吉田秀彦に燃えろ! 座談会
016 三崎和雄
020 青木真也
024 川尻達也
028 谷川貞治 FEG代表
033 証言・吉田秀彦 李春成／長南亮
044 小見川道大のくそったれ会見
049 新生『戦極』とは何か?
052 國保尊弘 J-ROCK代表

TAIKOSEN

058 坂本靖パンクラス代表が語る修斗との対抗戦
062 シュウ・ヒラタ
065 永田裕志×金原弘光「新日本プロレスvsUインターの真実」
072 西垣 梓〈戦極グリーン〉
076 菊地成孔
081 新日本プロレス vs Uインター変態座談会
086 新日本プロレス 対抗戦の効果と副作用
088 小林邦昭 維新対抗戦人生
092 村上一成が語る「新日本プロレス vs UFO」
097 女子プロレス対抗戦変態座談会
104 小佐野景浩「新日本プロレスvsWARの舞台裏」

PRO-WRESTLING

113 潜入!! 『アメトーーーーーーク! 俺たちのゴールデンプロレス』番組収録
116 加地倫三『アメトーーク!』プロデューサー
121 特集・ハッスル崩壊 酒井正和 スマッシュ代表／朱里／坂田亘

SPECIAL

138 石岡沙織×杉山しずか

Columns

080 椎名基樹の『サムライ三昧』
103 掟ポルシェの『萌え萌え女々苑』
108 花くまゆうさくの『豆リングの汁』／金原弘光の『どこまでやるの!?』

吉田秀彦の怨念が大晦日に火をつける!!

『戦極』を追われた素浪人・吉田秀彦、
ゴルフコンペで『VIVA！JUDO』で大晦日をブッタ斬る!!



大晦日に火をつける!!

「え？ 石井とやるんですか？」
11月27日の合同記者会見の席で発された吉田の一言に、戸惑いを覚えた読者の方もいることだろう。そして業界関係者は「これは試合当日まで予断は許さないな……」とささやき合った。
いったい『SRC』（以下『戦極』）に、吉田秀彦に、大晦日に何が起きているのか──？ あらためてここまでの流れを簡単に説明しよう。
11月下旬、大晦日『戦極』有明コロシアム大会の緊急中止がアナウンスがされ、『Dynamite!!』との緊急合体、事実上の合同開催が発表された。『戦極』のメインイベント吉田秀彦vs石井慧も必然的に『Dynamite!!』のリングに〝移籍〟することになったが、なにやら雲行きがあやしくなる。それは『戦極』を主催するWVR取締役の國保氏が解任されてしまったからだ──。
國保氏は吉田道場をマネージメントするJ－ROCKの社長でもあるが、『Dynamite!!』との合体計画は、國保氏抜きで進められていた。解任の理由はあきらかにされていないが、吉田秀彦を抱える人物にこの仕打ちはなぜ？
あえて過激に書くとすれば、國保氏の解任の件と合わせて想像すると、吉田道場勢は〝何かしらの理由〟をもって事実上、『戦極』から追われたかたちになる。
来年以降も継続すると言われている『戦極』に、吉田道場の選手が参戦するかどうかはさだかではないが、いまのところ『戦極』と運命共同体だった吉田道場は〝何かしらの理由〟をもって、『戦極』と袂を分かったとしか見えないのである──。
それでも石井戦の契約を結んでいる吉田秀彦は、この複雑なシチュエーションの中、『Dynamite!!』のリングに足を踏み入れなければならない。
大晦日イベントの消滅、國保氏の解任、吉田道場勢の『Dynamite!!』出場は未定──。吉田秀彦は納得できないことだらけではないのか。
こうしてさまざまな怒りの火種を抱えたまま、12月9日千葉県のカナリヤガーデンカントリークラブで開催された『第6回SSSチャリティゴルフ』コンペ、そして12月13日の『VIVA! JUDO』で思いのたけをぶちまけるのだが、これがまたメチャクチャ刺激的でおもしろい！ その姿は00年初頭、成田空港で言いたいことをやって、やりたいことをやっていたアントニオ猪木を彷彿させるのだ。ンムフフフ。
まずはゴルフコンペの模様からお伝えしよう。青コーナーより、キラー吉田の登場です!!

──大晦日に一緒に試合をするはずだった小見川選手の試合はなくなりそうな雲行きですけど。

吉田 そうなんですか？

──（『戦極』フェザー級の）タイトルマッチはなくなったみたいです。

吉田 **というか、発表されてないじゃん、何も。**

──正式には発表されてないですね。

吉田 タイトルマッチとかじゃなくて、誰と誰がやるとか、カードの発表もしてないでしょ。

──そうですね。小見川さんも普通に練習はされているんですか？

吉田 いや、だって、いきなり言われても試合できないから。やっぱり、いつでもできるように練習はやってますよ。逆にね、こんなに遅くなると選手がかわいそうですよね。いま、誰が出るかも決まってないでしょ？

──そうですね。対抗戦をやるという会見から、何一つカードは発表されてないですからね。

吉田 **やめようかな、俺も。**

──かなり衝撃発言ですね。

吉田 いいじゃん、もう魔裟斗の試合だけで。**（テレビ中継の）5時間ずっと魔裟斗と誰かがやるっていう。**

──試合の舞台が『SRC』から『Dynamite!!』に変更になったということに、しっくりきてないところもあるんですか？

吉田 だって、有明でやるって言ってて、知り合いとかも、その近くでホテルも取ってたし、チケットも買ってた人もいっぱいいるし、それに対してのなんの弁明も何もないでしょ。それはちょっと**ファンをバカにしてる**なって思うし。選手は選手でね、タイトルマッチを目指してやってきて、こういうかたちになって、半分以上は出れなくなると思うんで。そのへんは早く誰が出るのか発表してもらいたいと思うし。俺は決まってるから「悪いな」って思っちゃうんですよ。

──國保さんも言ってましたけど、ほかの吉田道場の選手は『戦極』との契約は終わっていると。今後について、吉田道場のボスとして話し合ったりしてます？

吉田 いや、そこは俺が触れることじゃないし。

──同じ大会で魔裟斗選手の引退試合が行なわれることについてはどう思います？

吉田 それは最初から決まってたことだから。だから、ボクがどうのこうのっていうのはないですね。

──國保さんが『戦極』を主催するワールド・ビクトリー・ロードから解任というかたちになったことについては吉田さんはどうお考えですか？

吉田 そこはボクが口出すことじゃないし。まあ、ウチのマネージメントの社長なんで。あとは任せるしかないですよね。

──大晦日はカードも全然発表されてないですけど、対抗戦ということで、DREAMには負けられないというのは『戦極』

こんなんだったら、分かれてやったほうがみんないいパフォーマンスを見せられたと思いますよ

の彦の吉田選手としてはあります？

吉田　べつにない。まあね、みんな準備も充分できてないと思うし。20日で身体作れって、いまから言われてもなかなか作れるもんじゃないからね。記者会見にも『戦極』の選手も出てましたけど、誰が出れるかわかんないじゃないですか？

——そうですね。唯一、カードが決まってる吉田さんとしては、『Dynamite!!』側に対抗戦のカードはいつぐらいまでに出すべきだというのはありますか？

吉田　いや、すぐ出さないとまずいでしょ。なるべく早くカード出してよ。

続いては12月13日『VIVA！　JUDO』終了後のカコミ取材の模様だ。今回はキラーどころか〝悪ノリ〟しまくる吉田ワル彦モード!!

吉田　右足のケガ？　痛いんだよ。技をかけられない。ローキックを蹴ったらスネを痛めました。（「骨折？」）すぐ開き直ってそうやって聞くんだから！　『手術した』とでも書いといてくださいよ（笑）。打撲ですよ、打撲。相手のヒザが当たりました。ケガしたのは一昨日（12月11日）金曜日です……**ヤバイ、こんなこと言っちゃダメなんだ！**　ホントにこんなことしか書かないんだから（記者陣を見て）。だいたいこの前のコンペのときも、オレは冗談で言ったのに「ボイコット」とか書かれてるしさあ。あれですごい会社に問い合わせ来たらしいよ。「出ないのか？」って。やめてよ。いい迷惑だよ。**今日は何もしゃべらないよ。**

——大会まであと20日を切ってますけど。

小見川の場合だって、年末あると思ってたし、有明で試合があることになってたから、少しは練習のモチベーションも入ってょっと、けっこう微妙ですよね（しんみりと）。

——当日、道衣は着ますか？





ゴルフコンペで優勝した吉田は「優勝したから、これで大晦日は出ないぞ!!」とキラージョーク炸裂!!　ゴキゲンじゃないか、秀彦!!（髙田本部長調）。

吉田　そうですね。20日を切ってほかの組み合わせが決まってないのはどういうことなんですかね。けっこうそっちが心配になってきた。**本当にボクの試合もあるんですかね？**　ゴルフで会見やってから4日経つけど、なんも発表ないんだよね。だから、このままいくと試合ないんじゃないかって話だよね、大会自体が。あるんですか？（記者に逆質問）。

——試合については吉田さんだけが発言してて、相手からの盛り上げがないことについては？

吉田　わかんないですよ。ただ、ボクは一選手として**「どうなってるの？」**って思いますよ。そりゃあね、テレビでやることはありがたいし、年末大晦日でやるはありがたいけど、選手からしてみると誰が出るかわかんないし、どうやってモチベーション上げていいかわかんないし、ましてや二つが一つになってやるっていうのに、こんな直前まで何も決まらないっていうのは、**お互いによくないと思いますね（キッパリ）。**「大会自体あるのかどうか？」ってそういうことにもなってくるでしょ。盛り上げられないでしょ（だんだん語気を強めて）。**だから、だから！**　マスコミの意見として、それを新聞に載せたほうがいいですよ。

——吉田道場の選手も大晦日に出るんですよね？

吉田　だからー、**準備できないですよ！**（語気を強めて）モチベーション上がらないんですから。それで対抗戦だって言われてもねぇ。だって、いまから、たとえばカズ（中村和裕）の場合なんかは、なんにもわかってないから減量できるわけでもないし。（本人は）「落とせ」って言われたら「落とす」って言ってるけど、こんなに万全な体調じゃないと、できないから。試合自体ができるかもわからないからね（厳しい表情で）。

——いいもの見せられないですよね。

吉田　そうそう。

——大会の場所が変わったことについては？

吉田　まあ、試合があることに関しては、ボクは変わってないから、やらなきゃいけないっていうのは自分の中ではあるけど、ほかの選手は自分の試合があるのかないのかわからない中で、練習していかないといけない、それはオレはイヤだなって。そのへん、早くはっきりしてもらえればなって。でも、もうあと20日しかないけどね。（突然笑いだし）**ウハハハハ！**　こんなんだったら個々でやったほうがみんないいパフォーマンス見せられたと思いますよ（あきれ顔で）。やる、やらないっていう前に、もう……選手がみんなもうモチベーションが落ちちゃってるからね。

——小見川選手は出ないんですか？

吉田　だから聞いてないですよ！（逆ギレ気味に）。だから早く決めてくれ、と。

——昨日、桜庭和志が「吉田さんはもう決まっちゃってるんですよね」って言ってましたよ。

吉田　ああ、オレとやりませんかって？り上がるでしょ？　こうなった場合はね。

——自分の相手は誰がいいか？

吉田　ボクは欠場！　ウハハハ！　あ、ミスターXとかそういうのにして（悪ノリ

石井はボビー・オロゴンのほうが盛り上がるでしょ。
ボクの相手？ ボクは欠場！ ウハハハ!!

書かないんだから（記者陣を見て）たい
たいこの前のコンペのときも、オレは冗談

——大会まであと20日を切ってますけど。

吉田　だからー、**準備できないですよ！**

レ気味に）。だから早く決めてくれ、と。

小見川の場合だって、年末あると思ってたし、有明で試合があることになってたから、少しは練習のモチベーションも入ってましたけど、**コレ**が発表されてから「あるんですかね？」っていう状態だから練習にも身が入らないですよね。

——タイトル戦の可能性もありましたが。

吉田　いや、それもどうなるかわかんないし、とりあえず決めてほしい！

——吉田さんはモチベーションを保てていますか？

吉田　保ってるとかじゃなくて、ボクは最初から決まってたから。でもこのままいったらねぇ、本当にあるのかないのかわかんないし、逆にボクだけ決まってて悪いなって思いますよ。**だから異様ですよ！**（語気を強めて）道場でもみんなが一致団結して（リングに）上がっていこうっていう雰囲気にならないから！　……なーんか、テレビばっかり先行しちゃって、**選手のこと考えてないのかな**って思いますよね。（あきれたように）ボクたちもやはりテレビの中の一つのアイテムだとも思うからいいんですけど！　それをやるのに選手はいい練習しなきゃ、いいパフォーマンスできるわけないし、一応そういうのはやっぱりあるからね。まあ、**上の人たちが何を考えているかわからない**けど、「言ったらやるんだ」って言われたら、やるしかないし、でもいいパフォーマンスは見せられないかもしんないし……。ねぇ？　ちょっと、けっこう微妙ですよね（しんみりと）。

——当日、道衣は着ますか？

吉田　**当日って、（試合は）あるんですか？**

——あるという前提で話していただければ……。

吉田　**だって何も発表がないんだもん（すねるように）**。なんか、自分の中でも試合があるのかないのかよくわからないから……**もう盛り上がってないですよね。**

——盛り上げようがないってのはありますか？

吉田　それいいね。**「『Dynamite!!』、盛り上げようがない』ってタイトルで。**

【記者陣爆笑】

吉田　決まり！　でもそうするとまた出禁になっちゃうね（『東スポ』記者に向かって）。まあ、またやっちゃいましょう。**『東スポ』だから許されることって、けっこうあると思うよ（けしかけて）**。あ、いいじゃん、最後に「と、吉田が言った」って入れれば。

オレが責任持つよ。「どうやって『Dynamite!!』を盛り上げるの？」ってのはどう？「魔裟斗に頑張ってもらうしかないな……と、吉田が言った」とかね。**アハハハハ！**　もうおもいきって対戦カードも変えればいいのに、ボクのも。**石井（慧）vsボビー（・オロゴン）**とか。そのほうが盛り上がるでしょ？　こうなった場合はね。

——自分の相手は誰がいいか？

吉田　**ボクは欠場！　ウハハハ！**　あ、ミスターXとかそういうのにして（悪ノリして）。**オレは誰だ？　オレ、誰がいいですか？（笑顔で記者に逆質問）。**




「大晦日のくそったれ!!」VIVA! JUDOのカコミ取材では“ネコ柔道”の小見川道大も大炎上!!　いますぐ44ページにくそったれ！

——昨日、桜庭和志が「吉田さんはもう決まっちゃってるんですよね」って言ってましたよ。

吉田　ああ、オレとやりませんかって？　アラフォー対決？　まあ、べつになんでもいいよ、オレは！　だからリングに上がって、べつに格闘技じゃなくてもいいじゃない？　**ジャンケンで先に10勝したほうが勝ち**とかね。そっちのほうが時間がもつでしょ。**ウハハハハ！**　ジャンケン意地対決って感じで。……もうこういうこと言うと、『東スポ』が喜んでしょうがない。

【記者爆笑】

——國保尊弘代表がWVRの取締役を解任されましたが。

吉田　解任っていうか、自分で辞めるって言ったんでしょ（鋭い語調で）。出てるのは解任ってなってるけど。そのへんの内部事情はボクに聞いても困るところなんで！　**あー、よくしゃべった。**『東スポ』が喜ぶネタばっかり。

「今日はしゃべらない」と言っておきながら大放言！　石井vsボビー・オロゴンやジャンケン対決をいいかげんに提案するわ、どうにも悪ノリが止まらないから最高なのである。いいぞワル彦！

一方、対戦相手の石井慧からも衝撃的な発言が飛び出している。次のページを一本背負いの要領でめくれ!!

——アメリカに最終調整に行ったと思ったら、亀田vs内藤戦のとき客席にいるのがテレビに映ったんで驚きましたよ。いつ

た。

ルとガンガン練習したくなりましたね。
——今回、アメリカではどこで練習されてるんですか？



――アメリカに最終調整に行ったと思ったら、亀田vs内藤戦のとき客席にいるのがテレビに映ったんで驚きましたよ。いつ帰国したんですか？

石井　亀田（興毅）選手の試合前日ですね。

――帰国は急に決まったんですか？

石井　ホントに急ですよ。帰国するって決めた翌日にはもう飛行機に乗ってましたからね。まだアメリカに行って2週間弱だったんで、このタイミングで帰ることになるとは、自分でも驚きです。

――なぜ、突然帰国することに？

石井　いろいろ問題があったんですけど、一つは亀田選手の応援に駆けつけることになったこと、あとは首の問題ですね。

――首は調子悪いんですか？

石井　悪くはないんですけど、帰国しなくちゃいけないなら、首に注射をぶすっと打ってもらって、よりガンガン練習できるようにしようってことですね。体調は万全です。大高酵素飲んでるし。

――大高酵素ですか。

石井　さりげなくＣＭ獲得アピール（笑）。

――何を言ってるんですか（笑）。亀田選手からは、なんでもメールが来たらしいですね？

石井　『ｋａｍｉｐｒｏ』の対談以来すっかり仲良くなって、メールで「観に来てほしい」って誘われたんですよ。テレビ局からの要請もあったし、それで帰国したんですけど、亀田選手は同級生で頑張ってもらいたいから、昨日は心から応援したし、ホントに勝ててよかった。

――刺激を受けたんじゃないですか？

石井　気合い入りましたね。より一層頑張らな、と思って。自分も〝おっちゃん世代〟に負けられないですから。すぐアメリカ戻って、（ＡＤＣＣ王者の）ドライスデー

デビュー戦直前の『SRS』有明大会中止に不快感吐露！
吉田秀彦戦が最初で最後の“大連立”興行出場か!?

独占インタビュー

石井慧

「『Dynamite!!』のために闘うつもりはない」

世界各国での1年間を修行を経て、いよいよプロ総合格闘家としてデビューする石井慧。
しかし、ここにきて突如、デビュー戦の舞台である『SRC』有明大会が中止となり、『Dynamite!!』でデビューすることとなってしまった。
はたして、この状況を石井はどう感じているのか？　石井慧が現在の心境を本誌だけに激白した。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／吉場正和



ルとガンガン練習したくなりましたね。

――今回、アメリカではどこで練習されてるんですか？

石井　ロバート・ドライスデールのところで寝技をやって、あとはフランク・ミアのジム。その二つが中心ですね。

――寝技はドライスデール、総合はフランク・ミア。

石井　そうですね。ドライスデールの寝技はホントにアメージングの一言につきますよ。あんな強い人とやったことないです。あの人とか、あとフォレスト・グリフィンとかとスパーリングやってるんですけど、最高の環境ですね。

――今回はフィル・バローニのところには行ってないんですか？

石井　いや。フィルには凄い助けてもらってますよ。やっぱりいいヤツですね。

――フィル、こないだのＵＦＣの試合も素晴らしかったですね。負けちゃいましたけど、試合はエキサイティングで。

石井　試合後「鼻がいてえ」とか言ってましたけどね。でも、彼には悪いことしたなって思うんですよ。

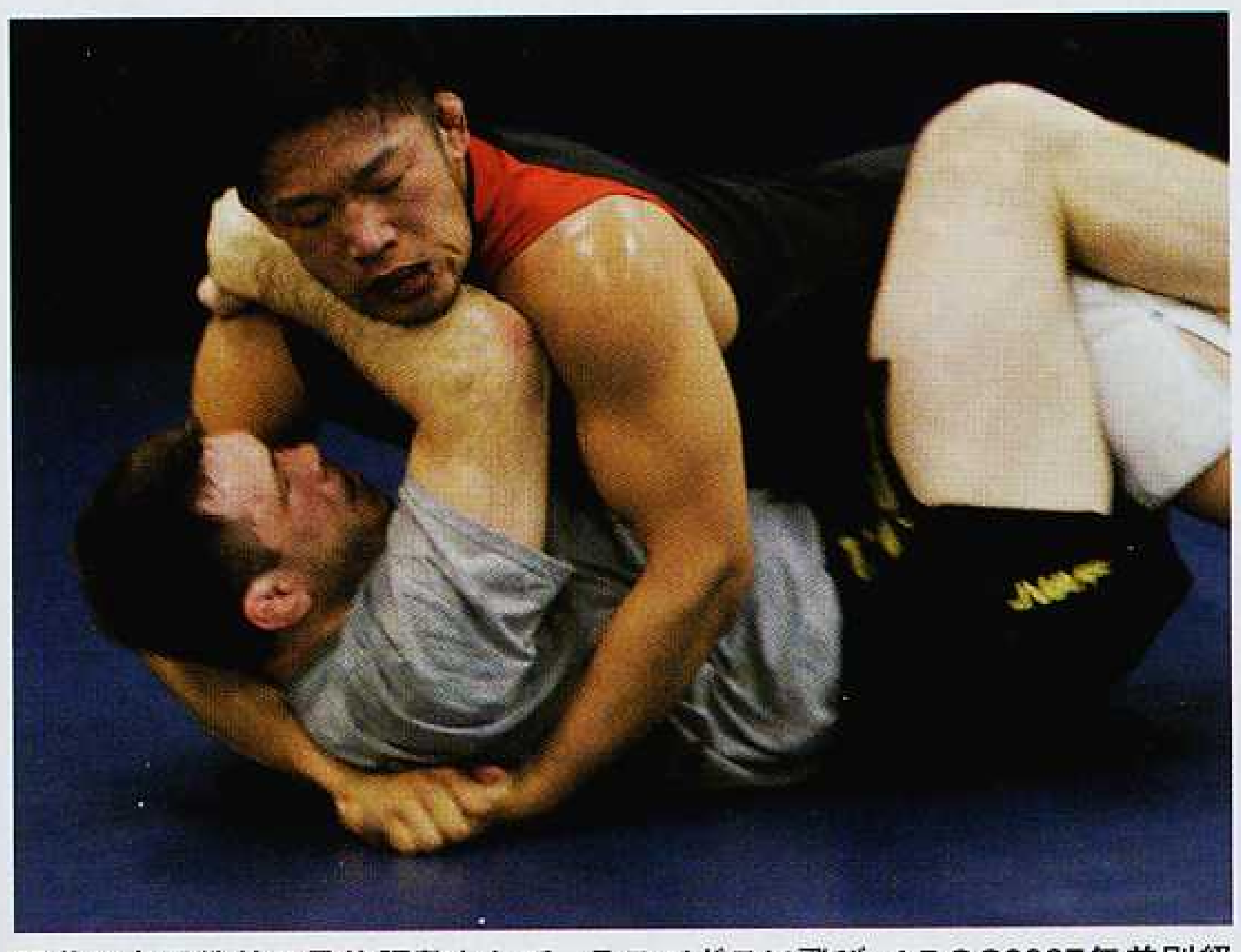
――どういうことですか？

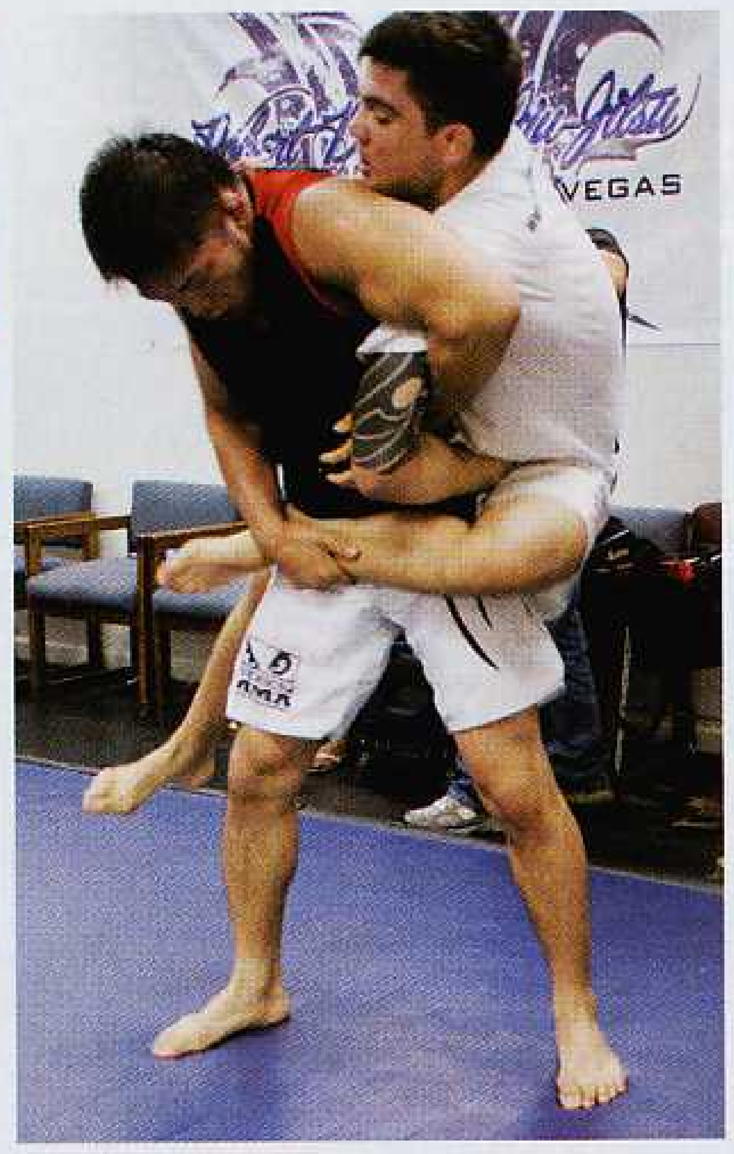
石井　筋肉兄弟として、セコンドについてあげられなかったんで。マッスルブラザーはあと二人いますけど、マーク・コールマンもケビン・ランデルマンもついてませんでしたからね。ランデルマンなんて、女連れて観客席で普通に観てたから。

――兄弟がバラバラになりつつありますか（笑）。

石井　だからフィルには、全然仲良くもなさそうな、最近知ったようなコーチがセコンドについてて、チームワーク的なものがなかったんですよね。それで翌日、フィルからメールが来て「俺はずっと一人だ」と

か書いてあるんですよ（笑）。
——またいじけちゃって（笑）。フィルがコールマンのセコンドについてときは、闘う本人以上に燃えてたんですけどね。
石井　そういう人が今回のフィルにはいなかったんですよね。だから、自分がつくべきだったな、と思って。
——石井選手は大晦日、誰にセコンドついてもらうつもりなんですか？
石井　もちろんフィル・バローニ。
——フィルにセコンドも頼むんですか！
石井　あとドライスデールにもついてもらう予定。ドライスデールは「日本で試合したい」とも言ってて、彼が来たら少なくとも日本人選手はみんな極められちゃうんじゃないですかね。
——日本人のセコンドはつけないんですか？
石井　だって、いないんだもん。最初はフランク・ミアのジムのコーチで日本語話せる人がいるから、全部やってもらおうと思ってたんですけど、練習に行ってもフランク・ミアの姿がないんですよ。それでフィルに聞いたら「フランク・ミアはあそこのジム、もう出たぜ」とか言ってて。
——離脱しちゃってるんですか（笑）。
石井　だからホントは、ミアがタイトルマッチやるときのコーチ陣についてもらう予定だったんですけど、フィルとドライスデールにお願いしようと思って。
——なるほど。いろいろ大変なんですね。で、石井選手がアメリカで練習しているあいだに、日本も大変なことになっていたわけですけど。デビュー直前になって、『戦極』（SRC）が有明コロシアムをキャンセル、『Dynamite!!』との合同大会になったことについて、どう思いますか？
石井　もったいないですよ。なんのために、『戦極』がここまで頑張ってきたのか。『戦極』を盛り上げるために自分を獲得したのに、それをK—1側に譲るようなかたちになってるわけじゃないですか。
——まあ、合同とはいえ、大会は『Dynamite!!』ですからね。
石井　自分と吉田選手の試合を『戦極』が仕切っていたとしても、自分がデビューした場所は『Dynamite!!』ってことになっちゃうんですからね。向こうが頭を下げてきて今回のことが実現したのかもしれませんけど、頭だけ下げて「勝った！」って思ってるはずですよ。
——石井獲得のために尽力した人たちの





石井は吉田戦前の最終調整として、ラスベガスに飛び、ADCC2007無差別級優勝者ロバート・ドライスデールのもとで特訓。フォレスト・グリフィンらと連日にわたるスパーリングを行なった。大晦日、いよいよ総合格闘家・石井慧がそのベールを脱ぐ。

DREAMと『戦極』が一緒になることが総合格闘技界のためになるとは思えない！

頑張りが台なしになってしまった、と。
石井　ストゥーピッド！ってことです。
——おそらく吉田選手も同じ思いでしょうね。
石井　吉田選手はもっとじゃないですか。「ここで石井とやれば『戦極』を盛り上げることができる」って思ったからこそ、対戦を受けたはずなのに。ストゥーピッド！
——石井選手としては、決まったからにはやるしかないって感じですか？
石井　こういう状況はムカつきますけど、やるしかないですよ。
——格闘技界のためにもやるしかない。
石井　いや、これはもう自分のためになっちゃいますね。DREAMと『戦極』が一緒になるのが、格闘技界のためになるとは思えないし、『Dynamite!!』を盛り上げるために闘うわけじゃないし。
——格闘技界のためになるとは思えないのはどうしてですか？
石井　やっぱり日本の格闘技界ってPRIDEとK—1の二つがあったから、切磋琢磨して盛り上がったわけじゃないですか。それがPRIDEがなくなって、『HERO'S』がDREAMになって大きくなったかと言えば、べつになってないわけじゃないですか。
——まあ、なってないですね。
石井　パイが縮小してしまうし、一つになったら選手のファイトマネーだって上がらないと思いますよ。あぶれる選手もたくさん出てくると思うし。
——確かにそれはあるかもしれませんね。
石井　ラーメン屋で働かなきゃいけなくなる選手がたくさん出てきますよ。
——なぜラーメン屋限定（笑）。
石井　とにかく僕と吉田選手の試合がTBSで放映されること自体は、自分にとっては凄くいいことですけど、今回の件については、長い目で見て格闘技界のためになるとは思えないです。あんまりスポンサーの言うことばっかり聞いててもダメだと思うんですよね。
——難しい問題ですけどね。
石井　それに自分はPRIDEは大好きでしたけど、『Dynamite!!』っていうイベントには、あんまりいい印象ないんですよ。去年はなんか「キン肉万太郎の正体は石井慧だ」みたいな噂まで出るし。
——そういえばありましたね（笑）。
石井　なんで正体隠して出なあかんねんって！『キン肉マン』の漫画自体は好きですけど、命懸けで闘うのに、正体隠してマスク被って出たくないですよ。だからもう大晦日はよけいなことを考えず、吉田選手を倒すことだけ考えます。ほかのこと考えると、ムカつくし、悲しくなってくるから。
——こういうことがあったから、「石井慧、格闘技界に嫌気。柔道界に戻りたがってる」みたいな記事が出るんでしょうね。
石井　なんですか、それ？
——あ、知りませんか？『週刊現代』に出てたんですよ。「初戦が引退試合!?　石井慧が漏らした『柔道界に戻りたい』」っていう記事が。

ったりしたとき、冗談で「あ～、チクショー！　柔道戻ろっかな～」とか言ったことあるんですよ。でも、ガチで言ってないし、

——わかりました。大晦日以降のことって伝えといてください。容赦なく全力でいきますから。

石井 もったいないですよ。なんのため

――確かにそれはあるかもしれませんね。

う記事が。



石井は
優勝者
日にわ
そのへ

自分はPRIDEは大好きでしたけど『Dynamite!!』にいい印象はない



いしい・さとし■1986年12月19日、大阪府出身。2008年北京オリンピック柔道100kg超級金メダリスト。昨年プロ転向を宣言し、今年の大晦日、吉田秀彦を相手に満を持して総合格闘家としてデビューする。181cm、103kg。

石井 なんやそれ（笑）。どうしてそういう嘘を平気で書けるんかな。それ書いたヤツ、一番チ○カス。

――詳しく内容を説明すると「石井は打撃のセンスがなくて、自信喪失。柔道関係者に『柔道界に戻れますか?』と持ちかけた」って書いたありました。

石井 そんなん「センスない」なんて昔から言ってるじゃないですか。それに柔道時代から「センスない」とか「どんくさい」って言われてることやからね。そのセンスのないヤツがオリンピックで金メダル獲ってるんやから、黙ってろって!

――では、「柔道界に戻りたい」なんてことも言ってない、と。

石井 言うわけない。いまの柔道界の状況知らんで書いてるでしょ。戻りたいような状況じゃないじゃないですか。逆に「ああ、柔道界にいなくてよかった」って思ってるくらいですから。

――では事実無根、と。

石井 そうですよ。……あ! でもちょっとだけ言ったかもしれない。

――言ったんですか⁉

石井 パワー・オブ・ドリームで練習してるとき、しんどかったり、うまくいかなかったりしたとき、冗談で「あ～、チクショー! 柔道戻ろっかな～」とか言ったことあるんですよ。でも、ガチで言ってないし、誰も本気にしてないですよ。

――じゃあ、それをおもいっきり膨らませて書いたのかもしれないですね。

石井 でも、柔道関係者に相談なんかしてないですからね。『週刊現代』って講談社でしたっけ? もう講談社に内容証明送ったほうがええんかな。じつは12月に出る自分の単行本が講談社から出るんですけど（笑）。

――では、自分の本が出る出版社を訴えるという、不思議なことが起こるかもしれない、と（笑）。

石井 なんで同じ出版社が足引っぱるんやって! やっぱり書いたヤツがチ○カス! 以上!

――まあ、アメリカで練習するっていうのは、そういう雑音が入らないからいいかもしれないですね。

石井 ホントそういうことですよ。これからガンガン練習再開するし。まあ、大晦日を見てくれってことですよ。

――『Dynamite!!』のゴタゴタで、もし対戦相手が変更になったらどうしますか?

石井 いや、自分はもう吉田選手と闘うことしか考えてないです。

――吉田戦以外と基本的にノーだと。

石井 吉田選手って練習してるんですか? まだ、契約で揉めてるんですかね。

――いろいろ問題があって難航はしてるみたいですけど、吉田選手本人は練習してるとは思いますけどね。

石井 自分は当然、ちゃんと仕上げていきますから、「あんまりほかのことばっかり考えてると、大変なことになりますよ」って伝えといてください。容赦なく全力でいきますから。

――わかりました。大晦日以降のことっていうのは、考えてますか?

石井 考えてないですね。いまは大晦日に集中してるし、日本がゴタゴタするなら、早くアメリカで試合することも目指したいっていう気持ちもあるし。もしくは新団体設立とかどうですかね?

――自ら新団体設立しますか。

石井 『LEGEND2』とか（笑）。

――それは観たい（笑）。

石井 それか猪木さんに頼んで、IGFで総合格闘技の試合を組んでもらうとか。IGFには小川（直也）さんや澤田（敦士）先輩、ジョシュ・バーネットもいるし、それでいいんちゃうかな。

――石井慧がここでIGF入りしたら、ひっくり返りますよ（笑）。

石井 まあ、そんなん考えるより、とにかく大晦日の試合を観てください。エキサイティングな試合で、吉田選手を倒しますから!

――デビュー戦期待しております!

【09年11月30日/都内・某所にて収録】

石井慧 総合格闘技デビュー記念本『石井魂』5名様にプレゼント!



吉田秀彦戦を前に石井慧総合格闘技デビュー記念本『石井魂』が出版された。柔道を捨てプロ格闘家の道を選んだ真相。小川直也、秋山成勲との関係、そしてこの1年間の歩みなど、たっぷり記したこの本を本誌読者5名様にプレゼント! 宛先は143ページの読者プレゼントコーナーを参照ください。

『石井魂』講談社刊
1,470円（税込）


――前号は各方面からいろんなクレーム
が来て大変でしたよ。
松林　前号といえば、「やっぱり恐ろしい

どね、『ハッスル』関係者いわく（笑）。
松林　はあ～。そんな認識じゃ早かれ遅
かれこうなるわけだよな。

ったクォンタム・ジャンプ・ジャパン（以
下、クォンタム）という企業が『ハッスル』
と別れて、独自の『スマッシュ』というイ

座談会出席者

松林貴



今号も大晦日の“対抗戦”に妄想炸裂!

こんな吉田を待っていた！

いまこそ! 吉田秀彦に燃えろ! 座談会

今回もやってまいりました、マット界座談会! お題はもちろん大晦日。まだまだ混乱が続く大晦日周辺だが、ここにきて俄然吉田秀彦がおもしろくなっている。政治的背景を抱えて『Dynamite!!』のリングに上がる吉田の魅力とは!? そして対抗戦はどうなるのか!?

聞き手／ジャン斉藤　撮影／梅木麗子　写真／乾晋也

プロレス大賞の選考基準は、もうプロレスファン全員というより〝顧客満足度〟

――前号は各方面からいろんなクレームが来て大変でしたよ。

松林　前号といえば、「やっぱり恐ろしい山口日昇座談会」をやったじゃない。あの反響を見て思ったんだけど、もういまの時代、誰もが山口日昇さんのキャラクターを知っていると思ったら大間違いなんだね。

――要するに「あんな人だったんですか⁉だったら早く教えてくださいよ！」みたいな声があったんですか？（笑）。

松林　そうそう。そもそもさ、「鬼畜編集長」とか「犬殺し」のエピソードさえ、誰も知らないんだもん。

ガンツ　そりゃそうですよ。だってそういうネタを載せてたのって、まだPRIDEがブレイクする前の話ですからね。『kamipro』がバトラーツをメインで扱ってた時代でしょ？（笑）。

――ウチにもあの座談会にはいろんな反響があったんです。まったくそんなつもりはないんですけど「なんであそこまで山口日昇を持ち上げるんですか！」とか。

松林　も、も、持ち上げてるぅ～⁉　どこをどう読めば、持ち上げてることになるんだ。

――ある関係者は「あそこまで山口さんのせいにされて、目頭が熱くなった」っという反応もあったみたいです。

松林　〝せい〟も何も、山口日昇さんが『ハッスル』の代表なんですけど。

――まあ、昨年のハッスルGPが盛り上がらなかったのは、『kamipro』がちゃんと取り上げなかったせいらしいですけどね、『ハッスル』関係者いわく（笑）。

松林　はあ～。そんな認識じゃ早かれ遅かれこうなるわけだよな。

――で、そんな『ハッスル』ですけど、ようやく12・25両国大会の中止が発表されましたね。まるで取り上げてくれるなと言わんばかりに夜23時頃にリリースされて。あと『ハッスル』のメインスポンサーが新イベントを立ち上げることになって。

ガンツ　『スマッシュ』という、いろんな意味でセンス抜群なイベントの旗揚げですね（笑）。

――簡単に状況を説明すると、今年の8月頃から『ハッスル』のメインスポンサーだったクォンタム・ジャンプ・ジャパン（以下、クォンタム）という企業が『ハッスル』と別れて、独自の『スマッシュ』というイベントを旗揚げしたということですよね。ただクォンタムとしては、その発表記者会見の前日まで『ハッスル』としてやっていきたいということで、山口さんとは交渉を続けていたみたいですけど。

松林　でも、翌日の記者会見でイベントのロゴから何から準備できているんだから、やっぱりそこは二段構えだったんじゃないの？　どっちにも転んでも進めるかたちで。ただ、この選択って「0か1か」じゃなくて、「0か0・5か」の選択って感じだよね。でも、なんで山口日昇さんは「0」に見えるほうを選んでしまったんだろうねえ。

ガンツ　『スマッシュ』の「0・5」っぷりも素晴らしいですよ（笑）。「新宿FACE」という単語が出てきただけで、「これはキタな！」って雰囲気がありますもん。

――でも、いまのプロレスはもう新宿FACEや新木場1stRINGのスケールで、とりあえずはガマンしてやっていく時代だと思いますよ。

松林　これは嫌味でもなんでもないんだけど、いまのプロレスって要は〝超エリート〟しか観てないわけでしょう。だって今年の『東スポ』プロレス大賞の年間最高試合賞が大日本プロレスの伊東竜二vs葛西純だっていうんだから。確かに凄い試合だったのかもしれないけれど、「限られた人しか観てないけど、この試合が選ばれるだろうな」という予想すら俺にはできなかったもん。

ガンツ　だから、いまの基準ってもう〝顧客満足度〟なんでしょうね。プロレスファン全員とかじゃなくて、「そこに観に来た人たちの満足度が満点だったから大賞にしましょう」と。

松林　そうなんだ……。でも、逆にあの発表のせいで俺は伊東竜二vs葛西純がどんな試合だったのか気になってしょうがないんだよ。

――直木賞や芥川賞も結局は雑誌の売り上げをアップさせる〝興行〟であるように、松林さんにそう思わせた時点でプロレス大賞側の狙いは成功してるんですよ（笑）。

松林　でも、こんな時代なのに『YouTube』でも観られないんだよ（※編集部注＝後日、12月14日にサムライTVにて放映された）。

ガンツ　この謎かげんは凄い（笑）。

――いずれにしても顧客満足度というのはどのジャンルでも問われるわけじゃないですか。一転してこの一年間の格闘技界の顧客満足度といえば……。

ガンツ　今年のDREAMは満足度という点では、ちょっとねえ……。この空洞化っぷりは最近の観客動員に如実に表われてるもんね。

松林　俺的にはあの7月の超ビッグイベント、『UFC100』で完全に今年の満足度の絶頂を迎えちゃったからなあ（笑）。

ガンツ　僕は1月のヒョードルvsアルロフスキー戦だけで、すでにピークを迎えましたが（笑）。



12月8日、クォンタム・ジャンプ・ジャパンの酒井代表が新イベント『スマッシュ』の旗揚げを発表。酒井社長をはじめ、これまで『ハッスル』に関わっていたTAJIRIやKGこと朱里も登場。事実上の活動休止となった『ハッスル』はどーなるの!?

座談会出席者

松林貴
うまいものとおもしろいものがある場所には、ぶらりと現われる本誌・編集次長。来年2月に行なわれるUFC初のオーストラリア大会に行こうかどうか迷い中。

堀江ガンツ
本誌・編集部員。変態座談会主宰者であり、その変態道は海を渡ってUFCにまで通じている。今回はラッシャー木村チックな吉田秀彦への勝手な妄想が止まらない。

ここ2年の五味は彼の魅力が発揮できるマッチメイクや物語に乗っていなかった

――で、『Dynamite!!』も、いま現在発表されているのは魔裟斗の引退試合とK―1甲子園と石井慧vs吉田秀彦、そしてスーパーハルクの決勝戦だけでしょ。まあ、TBSからすればこのカードだけで番組は作れるんでしょうけど（笑）。

ガンツ　このカードの決まらなさっぷりは3週間前とは思えないよ！　それに、石井vs吉田だってちゃんと試合があるのかどうかも微妙じゃない。吉田の発言をたどると、「やっぱりやるんだ」という感じにはなるんだけど。

――谷川さんのツイッターを読むかぎりではカードが決まらないのは「選手や関係者がワガママを言いすぎだ」ということらしいですけど、でもボクが選手でも200パーセント揉めますよ。3週間前にオファーがきたら（笑）。

ガンツ　これだけ階級が分かれてて身体を作るのも大変な時代に、3週間前のオファーなんて受けられないよ。外国人選手がなかなか出られなくなったのは、この急なオファーを受けられないからだもんね。

松林　もしくは身体を作らないで出るかだよね、メルヴィン・マヌーフみたいに（笑）。

ガンツ　しかも、いまって1敗しただけで自分の価値が落ちちゃう時代じゃないですか。日本の価値観として「負けてもいい試合をしたから使ってあげる」というのがあるけど、世界中のプロモーションが戦績に目を光らせてる中で、選手は「レコードを汚したくない」という人ばかりだからね。だって、戦績でファイトマネーがまったく変わってきちゃうわけだから。

――ちなみに青木真也vs川尻達也をやる噂もありますが……それもどうなるかわからないみたいですね。ファンからすれば、二人とも対抗戦に出てほしい声が圧倒的なんですけど。

ガンツ　青木vs川尻は確かにいいカードだけど、この二人が出ないと対抗戦の意味合いはガクンと落ちちゃうよねぇ。ハッキリ言って青木と川尻が出ない時点で対抗戦というのはもう成り立たない（キッパリ）。だって「俺こそがDREAMだ！」と思ってるのはその二人だけでしょ？

――青木や川尻には「一緒にするな！」とか言われそうですけど、個人的にはホセ・カンセコも違う意味でDREAMを背負ってる感じはしますね（笑）。

松林　ある意味、この3人だけでいい、DREAM軍は（笑）。

ガンツ　で、一方でファンがイメージする『戦極』って、やはり吉田道場であり、五味隆典であり、北岡悟なんですよ。でも、その全員が出てないんだから対抗戦になるわけがないよね。

――やっぱり、一発目の合同記者会見のズンドコぶりが致命傷になってますよ。いきなり「ミルコをやりたい」とか言い出す中尾KISSとか破綻系興行マニアのボクとしてはある意味でメチャクチャおもしろかったんですけど（笑）、乱闘寸前になるくらいの挑発合戦にならなきゃダメだったのかなあ、と。

松林　廣田（瑞人）選手ももったいなかったよねえ。せっかく青木選手が「『戦極』ライト級チャンピオンが誰だか知りませんが～」って振ってるのに「アルバレスとやりたいです」って。

――青木真也がせっかく気を利かせたのに（笑）。

ガンツ　もし、青木と川尻が対抗戦に出ないなら、もう対抗戦というより、ただのコラボレーションだよね。

――それに加えて、堀江さんが「出るんじゃないか」と予想していた五味隆典ももの凄く微妙になってますね。

ガンツ　またしても俺の「kami・iブログ」の大予想が外れそうで、皆さんどうもすみませんでした!!（笑）。

――『DREAM・10』には巨大な隠し球が二つある」に続いて（笑）。

ガンツ　どちらもコラム書いた時点では、かなり確信あったんだけどな～。

松林　でもさあ、いまの五味隆典が対抗戦に出てきて、それってファンにとって魅力的なカードになるのかな？

ガンツ　いや、逆に五味しかいないですよ。だって、青木や川尻と対抗するのに廣田の名前が挙がるのは彼がチャンピオンだからという理由ですよ。でも、本当の対抗戦という意味では、DREAMとか『戦極』とか関係なしに、もう五味しかいないですもん。

松林　うーん。でも俺、VTJの試合を観ちゃったから、まったくいまの五味には興味がないんだよねえ。

――そういう意見もわかりますけど、いまの五味に期待感があるのは、「俺たちの五味隆典はこんなもんじゃないだろ！」という思いがあるからでしょうね。ここ2年の五味って決して彼の魅力が発揮できるようなマッチメイクや物語に乗ってなかったわけじゃないですか。

ガンツ　逆にいままでの『戦極』のマッチメイクで燃えろというほうが難しいですもんね。北岡戦は燃えたけど。

松林　まあそうだね。最近で一番おもしろかったのは中蔵隆志との試合だもんな。

――だからFEG側も五味が出るんだったら、相手は青木か川尻という話で進めてたみたいなんですよ。ただ、五味はアルバレスとやりたかったみたいですね。

松林　またアルバレス!?　ホントにモテモテだねぇ（苦笑）。

ガンツ　まあ、アルバレスは名勝負製造機であり、アメリカ進出を考えてる五味にとっては非常に意味がある相手であり、ファンにとっても超魅力的なカードだけど。このタイミングでは、絶対に青木や川尻との試合のほうが観たいよね。



対抗戦発表会見で一人、戦極軍に噛みついた青木真也。同階級の廣田に対して「戦極のチャンピオンは誰だか知りませんが～」と吹っかけたのだが……。廣田はここでDREAM軍に乱闘を仕掛けるぐらいの勢いがほしいぞ！

――このタイミングを逃しちゃうと、もう青木戦や川尻戦は実現しなさそうだなあ。とくに青木戦は。

松林　五味はUFCへ行くってことになるのかな？　なんか、前にも似たような話をした気がするんだけど。

松林　なんでまたこのタイミングなの？

ガンツ　五味は北岡戦で『戦極』との契約が切れたわけですけど、なぜ、そのときに

松林　BJペンまでたどり着いたら凄いことだね。

ガンツ　UFCのライト級ってBJペン

からないみたいですね。ファンからすれば、二人とも対抗戦に出てほしい声が圧倒

ラボレーションだよね。

——それに加えて、堀江さんが「出るんじ

ガンツ　いや、逆に五味しかいないです

の試合のほうが観たいよね。

いまこそ！ 吉田秀彦に燃えろ！ 座談会

——このタイミングを逃しちゃうと、もう青木戦や川尻戦は実現しなさそうだなあ。とくに青木戦は。

ガンツ　最後のチャンスだったなあという感じはあるよね。2〜3年後に実現するような気もするけど、そのときはもう違っちゃってる気がするし。

松林　でも、そもそも青木くん自身は五味戦には興味はあるのかな？

——やるんだったらやるけど、そういうふうに騒がれるのがイヤみたいな。

ガンツ　でもそれってさ、青木としてはここ数年の実績として「俺とはやってきたことが違う」って意識が強烈にあって、実力的に同じように見られたり、自分が挑戦する側みたいに思われたりするのがイヤなんじゃない？　でもやったらおいしいし、勝つ自信もあると思うから、絶対にやりたいはずだよ。ただ、自分の口から「やりたい」というと、いまの五味を評価してるふうに見えるからイヤなんじゃない？

松林　それを口にしちゃうと、青木くんが培ってきた価値が崩れちゃうというのはあるだろうね。

ガンツ　逆に五味は青木とはやりたくないだろうけどね。

松林　五味はUFCへ行くってことになるのかな？　なんか、前にも似たような話をした気がするんだけど。

ガンツ　噂では実際にUFCとストライクフォースからオファーが来てるみたいですね。だからこそ大晦日が難航してるんでしょう。

凄く簡単に言うと、國保さん一派が『戦極』の経営悪化の責任を取らされた



かねてから『Dynamite!!』参戦がウワサされていた五味。ここ2年ほどは五味らしい活躍がほとんど見られていないだけに、ぜひ青木戦もしくは川尻戦で大爆発してほしい！

松林　なんでまたこのタイミングなの？

ガンツ　五味は北岡戦で『戦極』との契約が切れたわけですけど、なぜ、そのときにアメリカに行かなかったかといえば、金銭的に評価が低かったからでしょう。連敗中であり、2年間で1勝しかしてなかったわけですから。

——PRIDEでニック・ディアスに負けて（その後、無効試合）、『戦極〜第一陣〜』ではドゥエイン・ラドウィッグに勝ったけれど、そのあとゴリアエフ、北岡に連敗。

ガンツ　それが、曲がりなりにも修斗とキング・オブ・ザ・ケージのチャンピオンに勝って、いまは価値がある程度復活したんでしょう。しかもUFCとストライクフォースの争いというのがいい感じに湧き起こってるじゃない。だからUFCも「ストライクフォースに取られるぐらいだったら取っちまおう」という感じで、かなりいい条件のオファーという話だね。

松林　ということは、もしUFCが獲得したら、2戦目あたりで五味vs宇野薫という日本人対決があるかもしれないということだよね。

ガンツ　あるかもしれないですね。そういうカードは平気で組みますから（笑）。でも、どんなカードが組まれるにせよ、やるんだったら絶対に勝ってほしい。日本に青木とか川尻とか、ファンが熱望するカードがたくさんある中で、ある種そのファンのニーズに背いてチャレンジするんだから。ちゃんと勝ってこないと裏切りですよ。青木、川尻が悔しがるような活躍をしてほしい。

松林　BJペンまでたどり着いたら凄いことだね。

ガンツ　UFCのライト級ってBJペンが凄すぎるから人がいないように見えるけど、じつは横綱のBJペンにたどり着くまでに大関クラスが10人ぐらいいますからね（笑）。

——『Dynamite!!』に話を戻すと、もう一つ大きなテーマが吉田道場問題ですよ。

松林　〝問題〟って、吉田道場はいまどんなことになってるの？

ガンツ　これは非常に複雑なんですけど、凄く簡単に言うと、要は國保（尊弘）さん一派が『戦極』の経営状況悪化の責任を取らされたということになるのかなぁ。

松林　ふーん。たとえばさ、対抗戦を発表した会見では「3月に『戦極』の興行が予定されてます」という話だったでしょ。それが開催されるとなったときに、そこにはもう吉田道場の選手および関係者はいないという捉え方でいいのかな。

ガンツ　そうですね。だから、『戦極』っていままでどんな組織図だったかというと、J−ROCKの國保さんがプロデューサーで、そこに吉田道場の選手がガッといた、と。その周りに『戦極』と契約した選手が集まってて、それをドン・キホーテが全面的にバックアップしてたという図なんですよ。けど、今回『戦極』の中枢にいた國保さんおよび吉田道場勢が完全に外されちゃったということですよね。

松林　ということは、細かいことを言っち

ガンツ　そのお膳立てがなくなった途端にゴルフコンペで毒を吐きまくってるわけだから（笑）。

か。そのメガネスーパーから援助を切られた天龍源一郎が、WARになっちゃって「下の人間を食わせていくしかねえ」って

「反ドンキ同盟！」って感じで旗を振ってそうだもん（笑）。

――中村カズがかつての盟友のドンペン

松林　これこそ対抗戦だよね。

ガンツ　ええ。対抗戦って何がおもしろいって、背負うものがあって、それを失な



07年秋に新格闘技イベントの旗揚げを発表したWVR。木下社長や安田会長、そしてジェイロックの國保社長が手を結び、のちに戦極が誕生することとなったのだが、木下社長はいつの間にか退任、さらに今回の件で当時の座組みは完全に崩れてしまった。

吉田は哀愁漂うはぐれ国際軍団のラッシャー木村的な部分がある

いまこそ！
吉田秀彦に燃えろ！
座談会

ゃうと吉田道場の選手たちは、契約は全部消化したけれど、吉田秀彦の契約だけが残ってるということなの？

ガンツ　おそらく吉田は大晦日の契約が残ってるんでしょう。

――だから極端なことを言うと、今後、『戦極』やDREAMには吉田道場勢は上がらないかもしれないのに、なぜか吉田は『Dynamite!!』には協力しないといけないという複雑さ（笑）。

ガンツ　いいよねぇ（しみじみと）。ここにきて、ついに〝ワル吉田〟が出てきそうな感じはしますよ。

――だって『Dynamite!!』は吉田にとって超アウェーですもんね。対ファンではなくて、その状況がアウェーってことなんですけど。吉田道場勢の控室が凄く狭くてリングまで遠い場所だったり、ケータリングも用意されてないかもしれない（笑）。

ガンツ　だから、ホントの意味で〝敵地〟で闘うのは吉田だけなんですよ。だって、ほかの『戦極』の選手は、要は「これからは一緒にやっていきましょう」という意味で、〝ホーム〟なんだから。『Dynamite!!』で試合することは新たな職場での第一弾なんですよ。でも吉田道場だけはそっから完全にはハブれた〝はぐれ軍団〟なんだもん。哀愁漂うはぐれ国際軍団のラッシャー木村的な部分はあるでしょう。

松林　寺西勇もマイティ井上もいないラッシャー木村（笑）。

ガンツ　でも、セコンドに切り込み隊長みたいな小見川（道大）が横について、やる気があるのかないのか瀧本誠がいて、その横でおにぎり食べてる中村カズがいるみたいな（笑）。こういう状況になると、俄然、吉田に乗れるよね！　いままではそうでもなかったけど……。

――あ、そうでもなかった（笑）。

ガンツ　というのも、吉田秀彦って人物自体は本当に親分肌で豪快で力道山みたいなんだよね。だけど、いつも完全に体制側だし、ちゃんとバックに大きいスポンサーがいて、全部お膳立てができてたから、その魅力が見えにくかった。

松林　確かに、本当はダークサイドなところがありそうなのに、どの雑誌のインタビューを読んでも模範解答の言葉しか出てきてないからね。

ガンツ　おもしろいのは、たまに「名倉さーん！」とか「ガクトー！」とか、そんなのでしたからね。

――いまの吉田は、かつて成田会見で毒を吐きまくってた猪木さん状態ですからね。「今日は悪口は言わねぇですよ！」と言いながら、暴言三昧するという（笑）。

対抗戦って背負うものがあって、それを失なう瞬間があるからおもしろい

ガンツ　そのお膳立てがなくなった途端にゴルフコンペで毒を吐きまくってるわけだから（笑）。

——しかも舞台は『Dynamite!!』でしょ？　『Dynamite!!』って、もともと吉田のデビュー戦のために用意されたイベントなのに、その男が怨念を持って『Dynamite!!』に帰ってくるこのシチュエーションったらね。

ガンツ　スポンサーを失なってようやく吉田の無頼な感じが出てきたよね。ホントこれこそ"反骨の柔道鬼"って感じだもん。それに、石井慧戦を受けるということは、もう元からそれで引退するという決意もあったと思うんだよね。

——それも『戦極』のためなら……」って潔く受けたはずなのに。しかも下の選手たちの試合もどうなるかわからない。小見川じゃないけど、「大晦日のくそったれ!!」って思ってるはずでしょう。

ガンツ　まさかこんなシチュエーションで引退しようと思ってた試合を迎えるなんて、凄い運命ですよ。もう、いまの吉田道場勢は鎧と風呂敷一つで山野を駆けめぐってる落武者みたいでカッコいい！

——サダハルンバという名の落ち武者狩りに会わないでほしいですね（笑）。

松林　落武者を狩らせたら谷川さんの右に出る者はいないからね（笑）。で、これまでの格闘家やプロレスラーでそういうシチュエーションってあったっけ？

ガンツ　まあ、ちょうど『戦極』ってSWSみたいだって言われてたじゃないですか。そのメガネスーパーから援助を切られた天龍源一郎が、WARになっちゃって「下の人間を食わせていくしかねえ」っていうのに似てますよね。「新日本と俺が闘うしかないんだ」みたいな。

——ホントに天龍っぽいですよ。ここで吉田が『Dynamie!!』に上がらないと、吉田道場勢の上がるリングがなくなる可能性だってありますもんね。

ガンツ　小見川なんて当時の折原昌夫とか平成維震軍の齋藤彰俊という感じがするじゃない。吉田が柔道着一つでさいたまスーパーアリーナの花道から入場してくる脇で、目をギラギラさせた小見川が



スポンサードするイベントを戦極から『Dynamite!!』に変えたドン・キホーテに対し、注目の石井慧も難色!?　来年、石井はいったいどこのリングを狙っているのだろうか。

「反ドンキ同盟！」って感じで旗を振ってそうだもん（笑）。

——中村カズがかつての盟友のドンペンくんを「なぜ裏切った！」って襲ったりしてね（笑）。しかし、柔道家って孤独になると本当に輝きますね。小川直也にしても、秋山成勲にしても。いまの二人はその孤独から逃げちゃいましたけど。

松林　そうだねえ。そもそも総合格闘技とかプロレスに転向する柔道家って、全柔連のような柔道のメインストリームから外れちゃった人たちばかりだからね。

——来年以降のDREAMも、吉田道場という外敵がいるだけで盛り上がりそうですよね。アリスターが外敵だってだけでK-1があれだけ騒いでるんだから、吉田道場がDREAMであいう存在になったら、俄然興奮しますよ。だから今回の吉田はもうvs石井だけじゃないですよね。

ガンツ　でも、対戦相手の石井も今回のドン・キホーテの寝返りはよく思ってないみたいなんだよ。だから、石井も『戦極』系イベントにはもう上がらない可能性もありますよ。ヘタしたら別のスポンサーつけてほかのイベントで闘うということもありえるよね。冗談抜きに、そういう突拍子もないことをやりそうだからね。あの宇宙人っぷりも凄いですよ。誰も本心がわからないんだから。そういう意味でもホントに吉田vs石井は奇妙な試合になりますよ。みんなが違うベクトルで絶対に負けられないという。

——当初は吉田vs石井って魔裟斗の引退試合じゃないけど、あくまでも"見出し"の色が強いカードであって、そこまで求心力があるカードじゃなかったじゃないですか。でも、ここにきて吉田vs石井は完全にバケましたよね。

松林　これこそ対抗戦だよね。

ガンツ　ええ。対抗戦って何がおもしろいって、背負うものがあって、それを失なう瞬間があるからおもしろいんですからね。そういう雰囲気があるのはいま、吉田秀彦だけですから。

——あ、そういえば、我々が吉田に大注目してるときに、TBSはあいかわらずのんきなことを言ってるというウワサを聞きましたよ。

ガンツ　そうそう。ブレット・ロジャース、アンドレイ・アルロフスキー、ティム・シルビアの3人が大晦日に向けて準備しているという話が挙がってるみたいなんだけど、こんないい選手たちを前にして、TBSは「そんなガイジンよりチェ・ホンマンとボブ・サップは出ないのか」って言ってるという。このアンテナの鈍さ（苦笑）。

松林　あいかわらず「視聴率＝おもしろさ」だと思ってるんだ（笑）。

——そんなに目先の視聴率にこだわるなら、超低視聴率のTBS報道番組「総力報道！THE NEWS」で小林麻耶の代わりにサップをキャスターに使ってろって話ですよ！

【09年12月10日／都内・エンターブレインにて収録】

たら、考えられる選手ではありますよね。
――昨日のイベントで桜庭さんは「体重を増やして藤田選手とやりたい」と言って



限出場停
崎は12月
決まった三

――三崎さん、おひさしぶりです！
三崎　おひさしぶりですね（苦笑）。
――無期限出場停止処分の解除が発表されて、晴れて『Dynamite!!』参戦となると思うんですが、処分解除という連絡を受けて、率直にどう思われました？
三崎　やっぱり、選手としてのケジメの部分と、またこれからファイターとしてやっていく部分を考えたときに、これからは選手として、まずはファンの皆さんの前に立つということは僕のこれからの使命だと思ってましたので。そういう意味で、いままで以上に自分を奮い立たせて、ファンの皆さんに喜んでもらえるような試合をしていきたいと思ってます。
――で、今日は12月13日で締切ギリギリなんですが、『Dynamite!!』のカードがまったく発表されずに困ってるんですよ。三崎さんに言ってもしょうがないと思うんですけど（笑）。
三崎　いや～、選手も困ってますよ（苦笑）。
――ですよね。週明けには三崎さんのカードも含めて、発表されるんじゃないかと思うんですけど、いま現在はご自身のカードについて何か聞いてます？
三崎　聞いてないですね。
――『Dynamite!!』には出たいという気持ちは当然あるんですよね？
三崎　いつ何時オファーをいただいても出れる準備はしていましたね。……「いました」って言ったら「いつからだ？」って話になっちゃいますけども（笑）。ここ最近はとくに力を入れて練習はしてます。
――今回はDREAMとの対抗戦ということで、三崎さんの階級的に、早くから桜庭（和志）選手との対戦の噂が挙がっていましたけど、耳には入ってました？
三崎　耳にはしてました（笑）。階級でいったら、考えられる選手ではありますよね。的な部分っていうのは、一番いいときに比べたら落ちてるかもしれないですけども、

たら、考えられる選手ではありますよね。
——昨日のイベントで桜庭さんは「体重を増やして藤田選手とやりたい」と言っていたみたいなんですけど（笑）、『Dynamite!!』にかぎらず、機会があれば闘ってみたい選手だったりします？

三崎　正直、桜庭さんは僕が格闘技を始めた頃からスターだったんで、イメージとしては桜庭さんというのは雲の上の存在なんですよね。ずっと、そういう目で見てましたし、「やりたいな」とか考えたことってて正直なかったんですよね。ただ、ここ最近の桜庭さんの試合を観ていて、「桜庭さんの強さってなんなのかな？」っていうことを考えるようにはなりましたね。

——ここ最近は年齢的なものも含めて、力が落ちてきているのかなという見方もされていたと思うんですけど、このあいだのゼルグ"弁慶"ガレシック戦で、「やっぱり、強い！」と思わされましたからね。

三崎　そうなんですよ。僕なりにですけど、あの試合で感じることが多かったんで。

——どういったことを感じたんですか？

三崎　人によってはいろんな見方があるでしょうけども、僕にとっては完璧な試合だったなと思うんですよ。あの体勢で足関を取りに行って、見方によっては紙一重な試合だったと思うんですよね。

——止められてもおかしくなかったですよね。

三崎　そうですよね。これは凄く生意気な言い方ですけど、僕が見た感じでは桜庭さんはたとえ殴られても、意識が飛ぶ前に極める自信が絶対にあったと思うんですよね。それはたぶん桜庭さんの経験であったりとか、感性の部分だと思うんですけど、あの試合を見て、勝負感というか、何か一つ抜けてるなというか。確かに肉体的な部分っていうのは、一番いいときに比べたら落ちてるかもしれないですけども、でもそれ以上に上がってる部分というのが確実にあるんじゃないかと思うし、そっちのほうが怖いなと思うんですよ。

——その怖さを体感してみたいとか？

三崎　そうですね。それはやっぱり向かい合ってみなければわからないものなので。そういう意味では怖いモノ見たさじゃないですけども（笑）、どんな怖さを持ってるんだろうとか、ダン・ヘンダーソンにしても、秋山（成勲）さんにしてもそうでしたけども、向かい合ったときに「怖い」って思う何かがあるんですよね。おそらく桜庭さんにもそういう怖さというか、野生の強さみたいなモノを感じるんじゃないかと思うんですよね。……もし向かい合うことがあればですよ（笑）。

——はい。ちょっと前の報道ではアメリカから帰国した秋山選手が谷川（貞治）さんから三崎戦のオファーがあったことを明かしてたんですよ（笑）。

三崎　え、それは知らなかったです（笑）。

——直接、谷川さんから電話がかかって

『Dynamite!!』での復活を前にマイクの鬼が事情説明

「これだけはハッキリさせたい。グラバカから"独立"ではなく"退団"です」

無期限出場停止処分解除でダイナマイッ！

三崎和雄

今年5月に公務執行妨害により逮捕、有罪判決を受け、『戦極』コミッションから無期限出場停止処分が下された三崎。その後、11月8日付けで所属していたグラバカを退団した三崎は12月11日に行なわれたコミッション会議で処分の解除が決定。『Dynamite!!』への参戦が決まった三崎をひさびさに直撃すると、本人から意外なアピールが……!?

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／吉場正和　試合写真／乾晋也



『やれんのか！』での秋山成勲戦、今年8月の『戦極～第九陣～』での中村和裕戦でも三崎のセコンドには常に菊田の姿が。11月8日付けでグラバカを退団した三崎に対し菊田は「三崎本人から独立して一人でやってみたいという相談を受け、その気持ちを尊重するかたちで、今回独立という運びとなりました」とコメントを発表していたが……。



ましたけど、耳には入ってました？

三崎　耳にはしてました（笑）。階級でいっ

きて「大晦日出られない？」と聞かれて、「UFCと契約があるので出れません」と断ったみたいですけど（笑）。

三崎　それは無謀ですね（笑）。

——でも、秋山さんは将来的には三崎さんともう一度対戦したいと言っていました。三崎さんもいまは現実的に無理ですが、もう一丁っていうのはあります？

三崎　そういう気持ちはやっぱりありますよね。決着もついてませんし、刺激という意味では、ああいう選手と向かい合ってしまうと、それ以上の刺激がやっぱりほしくなってしまうんですよ。

——そういうのはあるんでしょうね。三崎さんの一番最近の試合というと、8月の中村（和裕）戦でしたが、あの試合は、勝っても負けても翌日から試合に出られなかったり、ファイトマネーもなしだったりと、モチベーションという意味では非常に難しい試合だったと思うんですけど、その試合で飛びヒザからのフロントチョークで一本勝ちという結果を残したのは、ホントに凄いなと驚かされました。

三崎　あの試合に関しては、やっぱり、試合っていうのは相手あってのものなので、カズに申し訳ないなっていう気持ちもあったんで。それと、おそらく自分一人の考えであれば、自粛というかたちで試合に出場してなかったと思うんですけど、いろいろな周りの声があったりとか、出ることが自分のケジメだと言われれば「そうですか」としか言える立場になかったですし。

——練習もそれほどできてなかったと聞きました。

三崎　できてなかったですね。結果は勝ちましたけど、決してあの試合には満足してないし、俺はカズに対してあの試合は1勝だと思ってないですから。できればな

三崎　僕が菊田さんに言ったのは「グラバカを辞めさせてください」と。理由うんぬんに関しては個人的なことなんで、あまり

かったことにしてもらいたい試合です。

——そ、そこまで。

三崎　だから、カズとはもう1試合やりたいなって心から思ってますし。ただ、満足はしてないですし、結果は納得してないけども100パーセントの状態でなくても結果的に勝てたということに関して言えば、神様から何かヒントをもらえたのかなと。それが今後どう活かされていくのか



09年8月の『戦極～第九陣～』で中村和裕と対戦した三崎。勝っても負けても翌日から無期限出場停止処分が下されていた三崎は飛びヒザからのフロントチョークで勝利すると、試合後は四方に深々と礼をし控室へ。大晦日もネイチャー殺法が炸裂するか？

はまだわからないですけど。

——では、『戦極』の有明大会が中止になって、DREAMとの対抗戦が『Dynamite!!』で行なわれると聞いたときはどう思われました？

三崎　普通に驚きましたけど、僕としては今回の件にかぎらず、どうしても大きな団体が二つあると、いい部分も悪い部分も存在すると思うんですよね。

って受け止めたから。それは俺の表現で書いたんだよ」って言われれば、それはしようがないんで。それもわかるんですよ。

01年7月にパ
極』などで活
。同年12月
cm、83kg。

——それはPRIDEと『HERO'S』時代も含めてってことですか？

三崎　そうですね。やっぱり、世界と渡り合うっていうか、対抗していくということを考えたときに、はたしてこれはいいことなのか、悪いことなのか考えるところが僕なりにあったんですけど。……愚痴を言ってもしょうがないですけどね（苦笑）。

——愚痴になっちゃいますか（笑）。

三崎　日本の格闘技界は、それこそPRIDEの頃は世界最高峰と言われて、世界中からトップファイターが集まってきて凄い盛り上がりを見せてきたわけじゃないですか。あれを経験してるファンや選手っていうのは、どっかで「ぽか～ん」と穴が空いちゃってるような感じのままだと思うんですよね。

——PRIDE全盛時代と比べると勢いは落ちてしまってますからね。

三崎　じゃあ、あの頃の勢いを取り戻すにはどうしたらいいかっていったら、やっぱり僕はこれしかないと思うんですよね。二つの団体が一緒に仲良くやっていくのでも、ライバル同士でもどっちでもいいと思うんですけど、やっぱりお互いに背中を向け合ってくすぶっていても、なんの解決にもならないんじゃないかなと思っていたので。だから、今年の大晦日に初めて一つになって試合が組まれるということは僕はよかったんじゃないかなと正直思いましたけどね。

——三崎さんにとって、この流れはアリだと？

三崎　ただ、僕個人の考えで言えば、やっぱり二つの団体は残すべきだと思うんですね。今回は対抗戦というかたちになりますけども、そのあとはお互いが自分たちの畑を耕して切磋琢磨してやっていって、

——ここまでの流れで理解するに、菊田さんとなんかしらあったのかなと思っちゃうんですけど。

次がいつになるかはわかんないですけど、またそこで盛り上がるようなアクションを起こせばファンも盛り上がるだろうし。選手も意地とプライドがぶつけられる場があるのはいいことだと思いますね。

——今年は三崎さんにとってモノ凄くいろんなことがあった年だと思うんですけど、グラバカから独立したっていうのも大きな出来事ですよね。

三崎　いま、〝独立〟とおっしゃってましたが、一つ言わせてもらっていいですか？

——ん？　何か言い方を間違えました？

三崎　ここだけはちゃんと伝えておきたいんですが、僕は自分で〝独立〟だとは思ってないですから。

——独立ではない？

三崎　〝独立〟ではなくグラバカを〝退団〟したと思ってるんで。僕は自分で「グラバカから独立します」という言葉は一度も使ってないし、辞めるときも「独立させてください」ということはひと言も言ってないですから。「これから一人でやっていきたい」っていうことも言ってないわけです。

——そうなんですか。

ですし、今号では坂田亘選手にもサーフィン話を聞いていまして。二人ともプロサーファーを目指してるらしくて。



出場停止処分中は取材等での露出は控えていた三崎が、ひさびさに公の場に姿を見せたのが『戦極～第十陣～』でプロデビューを控えた泉浩の公開練習。茶髪&黒々と日焼けした三崎は得意の飛びヒザ蹴りを泉に伝授！

「プロになりたい」ってサーフィン始めたばかりの人はみんな思うんです

てないし、俺はカズに対してあの試合は1勝だと思ってないですから。できればな

三崎　僕が菊田さんに言ったのは「グラバカを辞めさせてください」と。理由うんぬんに関しては個人的なことなんで、あまりしゃべるつもりはないんですけど、僕は「辞めさせてください」っていう言葉しか伝えてないのに、〝独立〟って言葉が頻繁に見受けられるのが、ちょっと悔しい部分で。

――三崎さんとしては〝独立〟という意識はないわけですか？

三崎　僕の中では独立というと、自分でジムを持ったり、そこから離れて自分で何かを始めるとか、そういうことが独立なんじゃないかな、と。たとえば、美容師さんが独立するってことは「自分で新しくお店を持ちます」ってことだと思うんですね。

――のれん分けじゃないですけど、独立というとそういうイメージですよね。

三崎　「独立するんで辞めさせてください」ってことだと思うんですよ。でも、この美容師さんが予定もなく、次の仕事も決まらず辞めることを独立とは僕は言わないと思うんですよ。

――確かに。当事者にとってはそこは重要なところでしょうね。

三崎　そうなんですよ。菊田さんの発表でも、「本人から独立したい。一人でやってみたいという言葉を受けたので」ってあったんですけど、それは発表される前に菊田さんに問いかけたんですよ。「僕はそういう言葉は言ってませんけども、どういうことですか？」って聞いたら、「そこは表現の違いだから。俺は辞めるって聞いたときに、一人でやっていくんだな。独立だな

体が二つあると、いい部分も悪い部分も存在すると思うんですよね。

って受け止めたから。それは俺の表現で書いたんだよ」って言われれば、それはしょうがないんで。それもわかるんですよ。そういうふうに受け止める人もいるんだなっていうね。

――比較的、菊田さんのことを知っている自分なんかからすると、非常に、らしいなとは思います（笑）。

三崎　でも、「辞めさせてあげたんだよ」っていうふうに言われると僕もちょっと悔しいんで。僕は「辞めさせてくれ」って言って辞めてるわけですから。そこを「表現の違い」って言われれば、僕もそれ以上食いつくつもりもないですけど、僕の気持ちでは〝独立〟ではなく〝退団〟です。

――退団以来、グラバカには行ってないんですか？

三崎　もちろん、行ってないです。……「もちろん」っていうのもへんですけど（苦笑）。

――理由はあまり語りたくはないということでしたけど、簡潔に言うと退団は退団でも〝円満退団〟ではなかったということでよろしいでしょうか？（笑）。

三崎　いや、円満だったとは思いますよ。辞めるときも円満で辞めたわけだけど、そのあとに円満にするかしないかの問題ですから。なんか奥歯にモノが詰まったような言い回しになってしまいますけど（苦笑）。



みさき・かずお■1976年4月25日、千葉県出身。01年7月にパンクラスでプロデビュー。その後、PRIDE、『戦極』などで活躍。今年11月8日付でグラバカを退団しフリーに。同年12月11日をもって無期限出場停止処分が解除に。179cm、83kg。

KAZUO MISAKI

の畑を耕して切磋琢磨してやっていって、

――ここまでの流れで理解するに、菊田さんとなんかしらあったのかなと思っちゃうんですけど。

三崎　まあ、そこは想像に任せるというか。あくまでも個人的な問題ですから。でも、今回の決断は自分にとってマイナスだとは思ってないし、マイナスでもプラスに変えていけばいいだけだと思ってるんで。

――まあでも、フリーになって、可能性としては、同じファイターですから、ゆくゆく菊田さんと闘う可能性もないこともないでしょうし。……べつに煽ってるわけじゃないですけど（笑）。

三崎　あるかもしれないですよね（笑）。

――あ、そうですか。そういう答えを期待して聞いてみたんですけど（笑）。

三崎　その試合ってファンは観たいですかね？

――元同門対決という意味では煽りやすいですし。菊田さんが執拗にアピールしている田村戦よりももしかしたらニーズはあるんじゃないかな、と（笑）。

三崎　そうですかね？

――まあでも、相手選びには慎重な菊田さんは受けないような気もしますけど。

三崎　すいません、そこはノーコメントで。

――そこはノーコメントですか（笑）。そういえば、三崎さんといえばサーフィン好きとしても有名ですけど、ここ最近のマット界でちょっとしたサーフィンブームが起こってるのはご存じですか？

三崎　あ、そうなんですか。

――五味（隆典）選手もハマってるみたいですし、今号では坂田亘選手にもサーフィン話を聞いていまして。二人ともプロサーファーを目指してるらしくて。

――そうなんですか。

三崎　五味くんは聞いてましたけど、坂田さんもサーファンやるんですか。けっこう長いんですかね？

――最近始めてハマったみたいです。

三崎　「プロになりたい」っていうのはサーフィン始めたばっかりの人はみんな思うんですよ。

――あ、そういうものなんですか（笑）。

三崎　運動神経がいいヤツっていうのは、すぐ立ったりできるようになるんですけど、その先がとてつもないですから。これは五味くんとか、坂田さんだからってわけじゃなくて、「プロサーファーになりたい」って言ってる人が、たぶん5年後に同じことを言ってるかって言ったら、絶対言ってないと思うんで（キッパリ）。

――そうでしたか。

三崎　僕はサーフィンは18の頃に始めて、それから5年ぐらい年間３００日ぐらい海に行ってたんですけど、その頃にはとっくに「プロになりたい」と思う気持ちはなくなってましたからね。

――やはり、サーフィンも格闘技と同様、プロの世界はかなり厳しい、と？

三崎　プロになること自体がまず大変ですし、プロになってからもホントに厳しい世界なんで。まあ、自分には無理だなと思ってから僕はエンジョイサーファーに変わりましたから（笑）。

――では『Dynamite!!』では三崎さんがエンジョイできるような対戦相手になることを願ってます！

三崎　エンジョイできるように頑張ります！（笑）。

【09年12月13日／都内・目白『カフェ ドゥ ルー』にて収録】

世界のワオ木、全方位迎撃宣言！

「川尻でも五味でも『戦極』でも誰でもかかってこい!!」



DREAMライト級チャンピオン

――青木さん！　本日12月10日の時点では、まだ大晦日のカードは発表されてないんですが……。

青木　正直、どんなオファーでも受けます結局は主催者が決めることだから。

――合同記者会見の席では「『戦極』のチャンピオンは誰だかわかんないけど」と廣田（瑞人）選手を挑発してましたよね。

DREAMライト級チャンピオン

青木真也

一昨年はJZカルバン戦が直前でチョン・ブギョン戦に、昨年は秋山成勲戦が濃厚になるも結局はエディ・アルバレス戦に。青木真也の大晦日は一筋縄ではいかないのです。というわけで、今年もなかなか落ち着かない対戦カード！　川尻戦か、廣田戦か、それともこれが噂の……!?

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫

——青木さん！　本日12月10日の時点では、まだ大晦日のカードは発表されてないんですが……。

青木　正直、どんなオファーでも受けますよ。なんでもいいし、誰が相手でもいいです。どうして決まらないのかボクにはさっぱりわからないですけどね。調整が大変なんでしょ、いろいろ。

——相手が決まらないと不安になりませんか？

青木　全然。だって試合をするのがボクの仕事なんで。逆に仕事ないほうが不安になりますけど。

——このご時勢、好き嫌いを言ってる場合じゃないと？

青木　そうそう。だから誰でもいいんですよ。

——今回の大晦日は『戦極』との対抗戦という話もあるじゃないですか。そのプランを初めて聞いたときはどう思いました？

青木　まあ、べつにどうでもいいですよ。眼中にないですからね。だって、あの『戦極』だよ？

——ど、どういう意味ですか（笑）。対戦相手として興味はないんですか？

青木　やるんならやりますけど。結局主催者に「やれ！」って言われた相手とやるのがボクの仕事なんで。主催者がどう判断するかじゃないですか。まあさ、『戦極』の選手がアルバレスとやりたいとかミルコとやりたいとか田村潔司とやりたいとか、自分で好き勝手言うのは自由だけど、結局は主催者が決めることだから。

——合同記者会見の席では「『戦極』のチャンピオンは誰だかわかんないけど」と廣田（瑞人）選手を挑発してましたよね。

青木　いいジャブを振ったんですけどね。まあ、向こうはつまんないこと言ってましたけど。

——つまんないことを言ってましたか（笑）。

青木　童貞感漂うというか。でも、あの残念さがいつもの『戦極』じゃないですか？

——『戦極』は残念な団体ですか（笑）。じゃあ、廣田選手の返答でちょっと冷めちゃったところはありました？

青木　冷めちゃったというか、最初から眼中にないっす。

——一方、大晦日は川尻選手とのタイトルマッチという話もあるそうですが、そうなると、青木さんが出ない対抗戦ってどうなんだろっていう声も当然ファンから上がってくると思うんですよね。

青木　そうやって言ってもらえることは凄くありがたいことですね。でも、青木vs川尻っていうカードもDREAMの総決算ではあるし、意義のあるカードではありますからね。まあ、そういう意味で、ホントにボクは主催者に求められたものをやるだけです。結局、これはボクの仕事なんですよ。だから来たものをやるしかないんです。それでみんながワガママ言っていたら、格闘技界全体がメシ食えなくなりますから。実際にワガママ言う選手が多いから、こうやってカードも決まらないんでしょうし。

——どんなカードでも受けるというのはチャンピオンとしての責任もあるんですか？

青木　そうっすね。ベルトを獲って一息つくのは誰でもできると思うんですよ。ベルトを獲って、そこからファンやイベントに対して何ができるかじゃないですか。「ベルトを獲ったぜ！」で終わりじゃないと思いますから。

——青木さんにとっては、まだまだDREAMに返さなきゃなんない思いがあるわけですね。

青木　DREAMに返さなきゃいけないかっていうか、ボク、DREAMが好きか嫌いかっつったらわかんないけど（笑）。

——わかんないんだ（笑）。

青木　うん。でも信頼関係はありますよね。それは感じてますけどね。

——要は信頼できているからこそ、主催者が投げてくるどんな球でも打てる姿勢があるわけですね。

青木　はい。全部、打ちますよ。現に全部打ってるもん。ボク、毎回言うんですよ。じゃあ、誰がリスク背負ってんだって。

——まあ主催者ですけどね。

青木　でしょ。だったら打つしかないじゃん！

——そこに青木さん自身の要望はないんですか？

青木　自分の要望をずっと言ってたら仕事になんないですよ。

——でも青木さんくらいの立場だったら、



合同記者会見で青木が挑発するも、『戦極』ライト級王者・廣田瑞人は「アルバレスとやりたいです」と返答。スカした感じでもないので、なんとも微妙なムードに。

『戦極』とはやってもいいけど眼中にない。あの『戦極』だよ？



青木、川尻、五味の3人が最後に接近したのは、2年半前のPRIDE六本木ヒルズ会見にさかのぼってしまう。あのときから三者のドラマは目まぐるしく動いている。

べつにいいですよ、五味さんとでも。でも、ボクとやる気はないでしょ

自分の要望を言ってもある程度融通を利かしてくれると思うんですけど。

青木 ボクも言いたいことは言いますよ。でも、落としどころを見つけて言ってますからね。拳を振り上げてケンカすんのは誰でもできるでしょ。まあ結局、リスクというか、誰が金を払ってるかって話ですよ。

——それはお客さんにも当てはまりますよね。

青木 そうなんです。誰が自分を支えてくれてるのかって話で、主催者やファンに対して、笑って自分を曲げられるカッコイイ男になりたいですね。だから自分本位というより、自分を支えてくる人たちのために闘いたいです。

——もし青木さんが自由に闘えるとしたら誰とやりたいんですか?

青木 正直、誰でもいいです。ボクのいまのモチベーションって、自分の限界値超えなんですよ。自分の限界値を超えられるんであればべつになんでもいい。そのために試合が必要だし。とにかく試合がしたいっす。ただそれだけ。とにかく試合があればいい。いっぱい試合がしたい。

——では、先ほど「眼中ない」と言っていた『戦極』の選手でもかまわないと?

青木 うん。やりますよ。

——それは川尻戦も同じなんですね?

青木 まあ、べつに『戦極』の残念な連中とやるんだったら、川尻さんとやったほうがいいかもしんないですね。彼のほうが全然強いし。

——そういえば、五味さんが大晦日に出るとすれば、青木さんか川尻さんとやるって話もあったそうですね。

青木 べつにいいですよ、五味さんとやっても。こっちはべつになんもない。五味さんがどうしたいのか、あとは主催者が誰を選ぶかじゃないですか。

——そこまで是が非でもやりたいという相手はいない、と。

青木 うん。BJペンと是が非でもやりたいかっていったら、べつにやんなくてもいいです。ワガママ言って、みんなに迷惑をかけてまで、自分の主張を通したくないもん。

——べつに大晦日じゃなくていいんですけど、この先、ファンが凄く見たがってるカードがあったとしますよね。

青木 はい。

——そのときある程度、青木さんがいろんなしがらみを一旦でも壊さなきゃなんないって局面がきたらどうします?

青木 う〜ん、それはまた究極な質問ですね。難しい。でもボクも裏切りたくないですよね。それはファンを裏切るっていうのもあるかもしれないけど、それ以上にやっぱりボクはお世話になった方々を裏切りたくないですね。少なくともいままでボクは裏切らない格闘技人生を送ってきたので。……つまんないこと言ってますか、ボク。

——そんなことはないですよ(笑)。ご自分でそういう感覚があるんですか?

青木 もっとイケイケな発言をしたほうがいいのかなって。

——ただ、青木さんが何に対して裏切れ

青木 ありますよ?

——苦しさがわかっちゃってるから。主

って報道しているみたいですよ。

青木 知らない。聞いてないですよ。でも、

青木 う〜ん、好きですよ。ヘンな言い方ですけど。生き方もカッコイイし、好きで

どんなにボロボロになってもゴキブリのように生きていける。ボク、強いですよ

がいいのかなって。

——ただ、青木さんが何に対して裏切れないとか信頼してるってのが、もしかしたらファンにはわかりづらいのかもしんないですね。それは旧PRIDEスタッフということですか？

青木 そうですよ。ず〜っとやってますからね。

——青木さんが「全然アメリカには負けてない」みたいな話をするじゃないですか。

青木 はい。

——確かにそういうポテンシャルもあると思うんですけど、いまだにカードが発表されてないとか、そういうことを含めてファンの主催者に対する信頼関係ってけっこう危ういと思うんですね。

青木 ああ、チケットを買ってくれてるファンに対して申し訳ないって気持ちは純粋にありますよね。だから、ボクの立ち位置ってちょうど中間だと思うんですよ。お客さんありき、主催者ありき、ある種中間的な見方をしてしまう。主催者とか内部は内部で凄く大変なことがわかってるから、ファンには「主催者も大変なんだよ」って気持ちもありますよ。で、主催者には「ファンのために早くカードを発表してくれ！」という気持ちもあります。

——青木さん、主催者の事情を汲みすぎてるところはありますよね。

青木 あります？

——苦しさがわかっちゃってるから。主催者の事情を理解する青木真也と、好き勝手叫ぶ青木真也のバランスを理解してもらうのは、凄く難しい作業ですよね。

青木 まあそれはしょうがない。じゃあボクがDREAMで損してるかつったら損してないと思ってるんで。日本のライト級で一番評価されてんのは誰だっていったら、正直、青木真也だという自負はありますし。うん。そういう部分でDREAMでやってきたことは、全然損してないと思うんですよ。まあそれを苦労ととるか得ととるかわかんないですけどね。ボクは得していると思う。

——そういえば、海外のサイトでは、3月のストライクフォースに青木さんが出るって報道しているみたいですよ。

青木 知らない。聞いてないですよ。でも、それも含めてボクはDREAMの外交カードって側面もあるから、それはそれで理解しています。

——DREAMの兵隊ですね。

青木 いや、ホントそういう見方もできるかもしれませんね。でもそれで強い相手と闘えたり、自分のやりたいことができるんだもん。

——でも、ファンは義理や組織に殉じるよりも、青木さんに対しては「競技者としてどこまでできるのか見たい」と思ってるフシがあるんですよ。

青木 現にできてるじゃないですか。

——いや、ムチャしすぎてボロボロになるんじゃないかとか。

青木 いや、それで本望だし。何を言ってんすか。そんななんかかわいそうな人みたいに言わないでほしいんですよね（ムッとしながら）。

——そりゃ思いますよ。昨年今年で何試合やったって話じゃないですか。

青木 まだまだしたりないもん。強くなりたいし、ヒマだもん。

——強くなりたいはわかるけど、ヒマだもんって（笑）。

青木 ヒマで困ってんです。ぶっちゃけ、ヒマ。年間通してヒマなんですよ。それにどんなにボロボロになってもさ、ゴキブリのように生きていける自信はあるし。ボク、強いですよ。だから川尻さんだろうが、五味さんだろうが、『戦極』だろうが、ホントに誰でもいいんです。「かかってこい！」って感じですね。

——ちなみに川尻さんにはどんな思いがありますか？

青木 う〜ん、好きですよ。ヘンな言い方ですけど。生き方もカッコイイし、好きですよ。尊敬してる部分もあるし。

——一緒にやってきた仲間というか。

青木 ボク、友だちとか仲間とか嫌いなんで、そういう言い方したくないんですけど。

——五味さんは好きですか？

青木 川尻さんとはまた違った意味で好きですね。説明できない、もう説明できない！ でも、青木vs五味って触れないほうがいいんだよ。

——どうしてですか？

青木 だって五味さん、ボクとやる気はないでしょ。それがわかってるのにボクが触れるのは意味ないでしょ？

——今年はなんとかなると思ったんですけどねぇ。ぶっちゃけ、大晦日はいつくらいにカードが決まると思います？

青木 最悪12月30日でいいですよ。

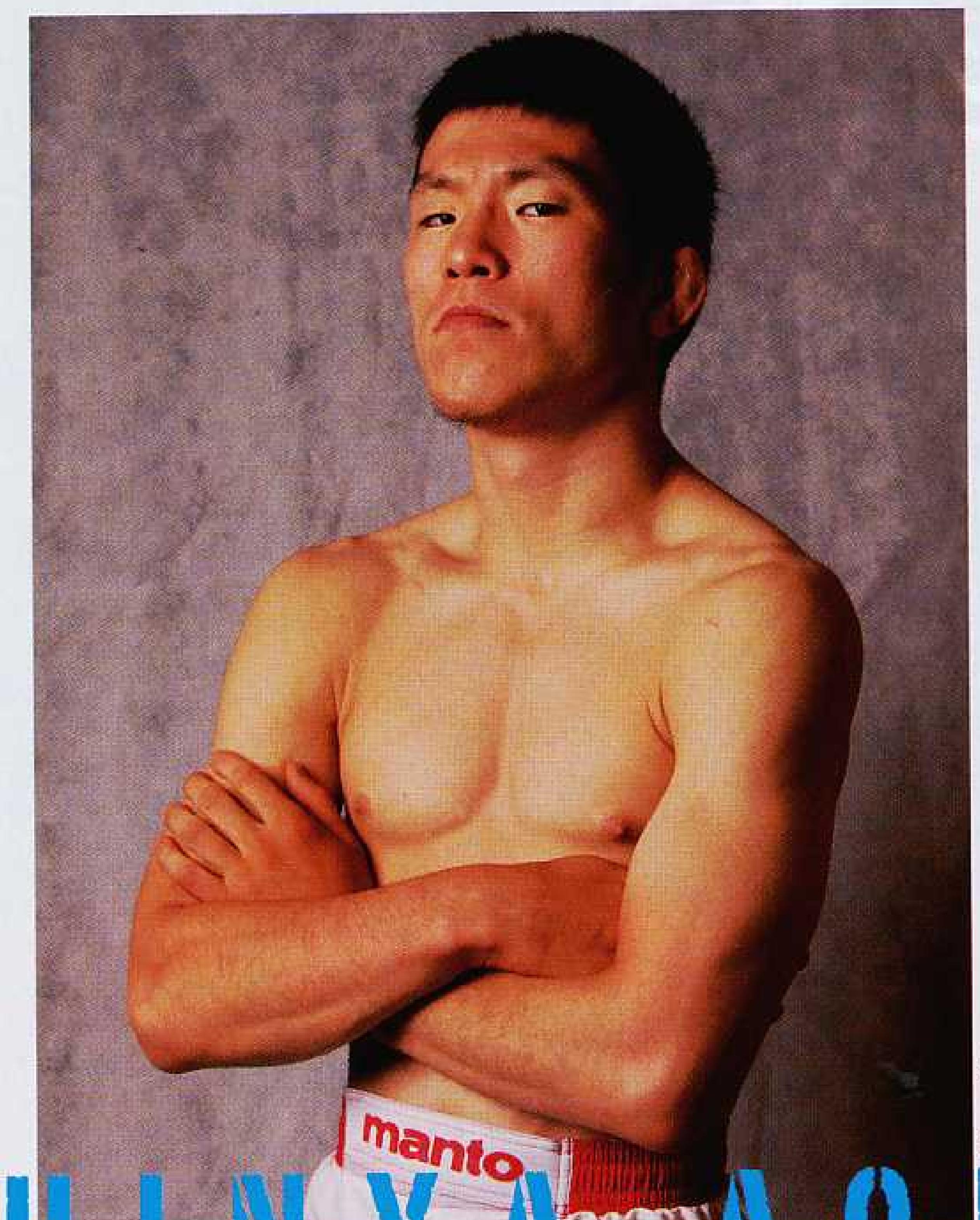
——試合前日（笑）。

青木 試合ができるだけでオッケーです！ 押忍!!

【09年12月10日／都内・DEEPジムにて収録】

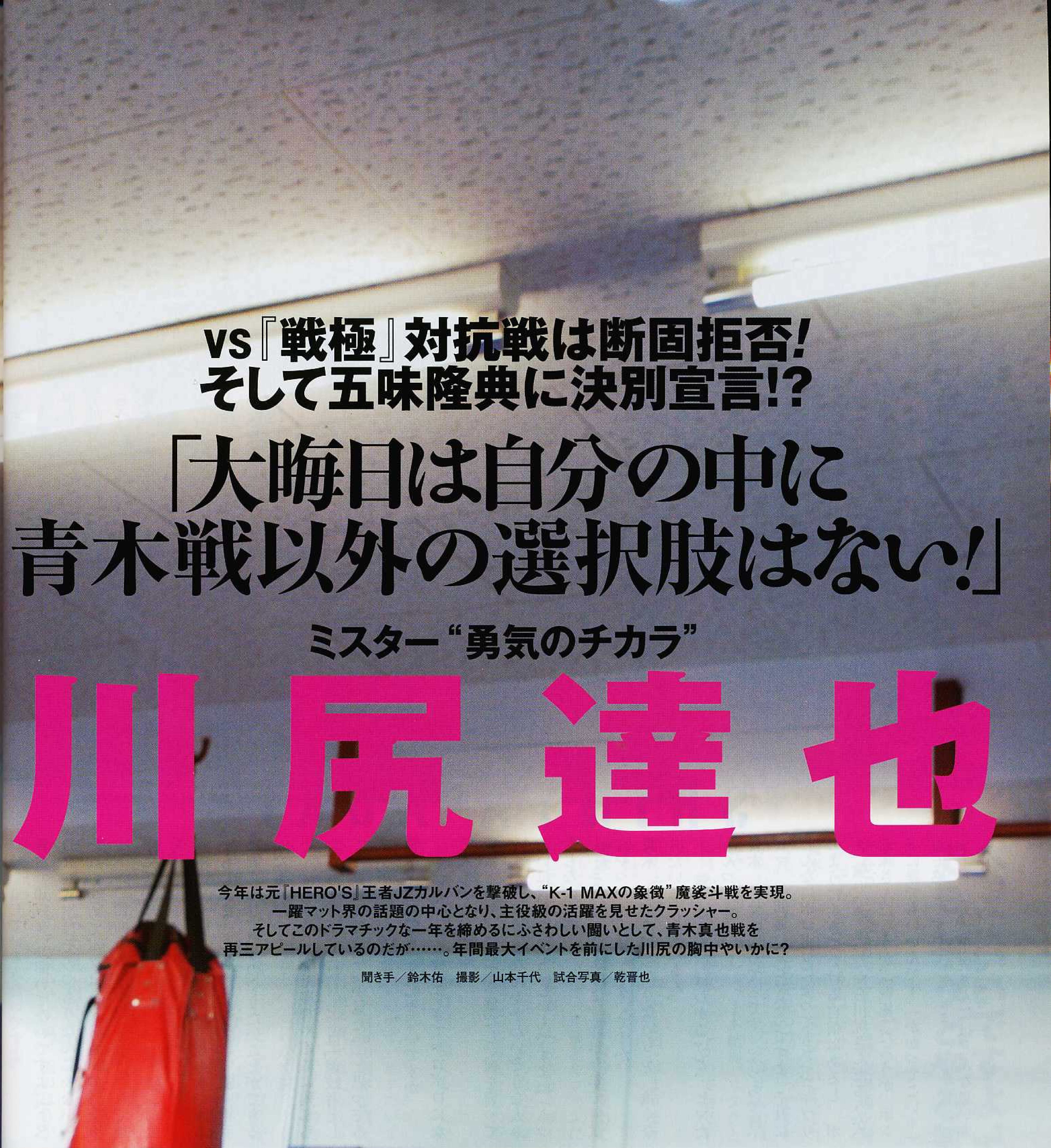
締め切り直前の12月14日時点の情報によれば、明日12月15日にやっと『Dynamite!!』の追加カード発表会見が行なわれるそうだが、青木真也のカードは固まっていないとのこと（もし発表されていたらすみません）。

今号でサダハルンバがインタビューで語っているように、川尻達也戦or対抗戦の選択で、主催者方面が絶賛検討中なのだろう。まさかホントに12月30日まで引っぱられることはないと思うが、ファンからすればどちらに転んでも大一番には変わりはない!!



SHINYA AOKI

あおき・しんや■1983年5月9日、静岡県出身。早稲田大学、警察学校を経てプロ格闘家へ。柔道、サンボ、柔術などに取り組み、現在、総合格闘技軽量級では屈指の技術を誇るグラップラー。その実力は世界中で高く評価されている。ニックネームは"バカサバイバー""跳関十段"など。180cm、70kg。



vs『戦極』対抗戦は断固拒否！ そして五味隆典に決別宣言!?

「大晦日は自分の中に青木戦以外の選択肢はない！」

ミスター“勇気のチカラ”

川尻達也

今年は元『HERO'S』王者JZカルバンを撃破し、“K-1 MAXの象徴”魔裟斗戦を実現。一躍マット界の話題の中心となり、主役級の活躍を見せたクラッシャー。そしてこのドラマチックな一年を締めるにふさわしい闘いとして、青木真也戦を再三アピールしているのだが……。年間最大イベントを前にした川尻の胸中やいかに？

聞き手／鈴木佑　撮影／山本千代　試合写真／乾晋也

——川尻さん、『Dynamite!!』で行なわれるDREAM vs『戦極』の対抗戦発表会見のときに欠席されましたけど、あれはまたどうして？

川尻　あぁ、単純に風邪をひいちゃったんですよ。え、なんでですか？

——いや、てっきり対抗戦には出場しないという固い意思表明なのかと思ったんですけど（笑）。

川尻　違う違う、ホントに風邪ひいたんですって！　……まぁ、確かに対抗戦って聞いても「べつに」って感じではありましたけどね（ボソっと）。

——川尻さんとしては大晦日の照準はあくまでも青木さんとのタイトルマッチ一本ということで？

川尻　それはもちろん！　僕はそれしか考えてないし、もう決定だってとらえてますから。

——すでに大会開催まで3週間を切ってるのに、いまだに青木戦は正式発表されてないわけですが、モチベーション的にはどうですか？

川尻　いや、もう青木くんが（ヨアキム・）ハンセンからベルトを獲った時点で、ずっと彼と大晦日にやるつもりで練習してるのでとくに問題はないですね。多少、気持ち的にまだ淡々としてるところもありますけど、会見で正式発表されればテンションも一気に上がるでしょうし。

——なんにせよ、対抗戦は視野に入れてない、と。

川尻　ていうか、あんな時期にいまさら対抗戦だなんだって言われても、すでに僕は違うスイッチが入ってるんだからなんとも思わないですよ。まぁ、客観的に考えれば、対抗戦は団体の看板を背負った闘いなわけだし、リスクがあっておもしろいとは思いますよ。でも、そもそも一般の人は『戦極』の選手のことを知らないと思うんです



わけだし、リスクがあっておもしろいとは思いますよ。でも、そもそも一般の人は『戦極』の選手のことを知らないと思うんですよ。

――DREAMと違って地上波で大会中継があるわけじゃないですから、知名度の差はあるかもしれないですね。

川尻　正直、世間を相手にする大晦日でそういう選手たちと試合しても、(JZ)カルバン戦や魔裟斗戦、僕がこの一年でやってきた闘いの意味がないっていう気がするんですよね。

――単純に『戦極』に対してはどういうイメージを持ってます？

川尻　どっちのイベントが上とかどうとか、そういうのはとくにないんです。ただ、個人レベルでいえば自分が『戦極』の選手に負けてるとはまったく思ってないし、闘ってきた世界が違うとは思ってますね。まぁ、北岡（悟）くんは他の『戦極』の選手と比べて、これまでにやってきたことは断トツで凄いと思うし、あの中では別格かなって気はしますけど。

――なるほど。あの、せっかくタイトルマッチに向けて気分が高まってるところに水を差すようで申し訳ないんですが、川尻さんこそ対抗戦向きというか、他流試合のようなヒリヒリした闘いが似合うイメージがあるんですよね。

川尻　え、そうですか？

――たとえば、魔裟斗戦や武田幸三戦、総合でも五味隆典戦や宇野薫戦にはそういう要素が強かったから、あれだけ盛り上がったんだと思いますし。

川尻　あぁ、言われてみると確かにそうかもしれませんね。

――対抗戦というからには、その団体を

代表する選手が出場しないと、興味半減みたいな部分ってあると思うんですよ。そういう意味では、やっぱりミスターDREAMの川尻さんに青木さん、あとはカンセコ……。

川尻　なるほど……うん？　カンセコ？　ちょっと、ソッチの枠と一緒にしないでくださいよ！　じゃあ、ボブ・サップだっていいじゃないですか（笑）。

――失礼しました（笑）。まぁ、ファンの中には「川尻vs青木戦も観たいけど今回は対抗戦でもいいんじゃないか？」「DREAMの切り札的カードならDREAMで実現すればいいんじゃないか？」って考える人も少なからずいるんじゃないかな、と。

川尻　いや、でも、魔裟斗選手の引退試合や吉田秀彦vs石井慧戦を観たいと思ってチャンネルを合わせた一般層にも響く試合って、対抗戦よりも僕と青木くんのタイトルマッチだと思うんですよ。対抗戦という響きだけで期待されても、内容で勝負できるかといったら決してそうじゃないっていうか。

――なるほど。

川尻　それに去年の大晦日に武田選手に勝って、僕が今年一年で目指してきたのは『Dynamite!!』でDREAMのタイトルマッチをやることだったんで。青木戦以外に自分の中では選択肢はないですね（キッパリ）。

――そこは譲れない、と。

川尻　うん。ていうか、なんか僕絡みで観たい対抗戦のカードってあります？　たとえば、僕が『戦極』の誰とやれば日本全国が盛り上がると思います？

――に、日本全国ですか……う～ん（笑）。とりあえず、携帯サイト『kamipro


青木が10.6『DREAM.11』でライト級新王者に戴冠すると、すかさず川尻は対戦をアピール。しかし、青木は「検討します」とつれない一言。はたして大晦日のリングで川尻と対峙するのは？


7.13『K-1 MAX』で川尻はDREAMを背負って魔裟斗と対戦。敗北を喫したものの、“一歩踏み出す勇気”で究極の他流試合に臨む姿は、観るものの感動を呼んだ。

僕と青木くんの試合の方が対抗戦よりも一般層に響くと思うんです

ムーブ』の「大晦日に観たいカード」アンケートでは、vs北岡戦やvs廣田瑞人戦が上位に入ってましたけど。

川尻　でも、北岡くんは大晦日は出ないって宣言してるわけだし、廣田選手はベルトを持ってるんだから青木くんと王者同士でやるのが自然じゃないですか？　そう考えると「え、俺、誰とやればいいの？」みたいな。

――テーマ性が見出せない、と。

川尻　もし、来年も対抗戦という流れが続くのであれば、それは僕も興味が出てくると思いますよ。というか、手っとり早く両方のイベントが一緒になっちゃえばいいと思いますし（笑）。もともとは一緒だったんだしね。

――元サヤに納まる、と（笑）。でも、対抗戦の機運が高まっても、かたくななまでに川尻さんがタイトルマッチにこだわりを見せてるっていうのも興味深いんですよね。

川尻　やっぱりベルトってナンバーワンの象徴じゃないですか？　ベルトを持ってる選手だけが特別な存在で、なんでも言える権利があるっていうか。

――ベルトを獲ったら何を言いましょう？

川尻　……まだ、そこまで考えてないですけど（笑）。あの、ぶっちゃけ、べつに青木くんが相手じゃなくてもいいんです。ベルトを持ってるのがたまたま青木くんっていうだけの話で。でも、僕たちの闘いがDREAMの切り札と言われる中で、個人的に今回はホントにベストタイミングだと思うし、これを逃したらのちのちまた青木くんと交わるチャンスがあるかどうかだってわからないんだし。

――交わるチャンス、ですか？

川尻　流れってあるじゃないですか？　ここで対抗戦に傾いたら、いままで作った流れがリセットされる。ここで一度完結させないと、僕自身もその先に進めないっていうか。やっぱり一つの道をナアナアにしてほかのことはしたくないんですよ。修斗でベルトを獲ったときもそうだったけど、昔から僕はアレをやりながらコレというのはできないタチなんです。一つの目標を定めて達成しないと次のことは考えられないっていうか。

――なるほど。

川尻　今年はファイターとしてもこんな激動の一年はないってくらい濃密だった。少なからず僕にも格闘技界を盛り上げたっていう自負があるからこそ、ここは一年の締めくくりとしてこだわりたいっていうか。

――現にウチのアンケートでも川尻さんが上半期のマット界MVPでした。

川尻　だからあとは……主催者サイドを信じるしかないですね（笑）。

――谷川さん頼みというか（笑）。あと、今回の大晦日は五味さんが出場するっていう噂もありました。川尻さんは3月の『DREAM・7』の煽りVでは五味さんにエールを送ってましたよね。

川尻　五味選手ね……う～ん（苦笑）。

——に、日本全国ですか……う～ん（笑）。とりあえず、携帯サイト『kamipro



青木が10.6
かし、青木

っていうだけの話で。でも、僕たちの闘いがDREAMの切り札と言われる中で、個

エールを送ってましたよね。

川尻　五味選手ね……う～ん（苦笑）。

五味選手は06年くらいから時間が止まっちゃってんじゃないですかね

——あ、そこで苦笑い（笑）。

川尻　いや、もうホント、彼はいつまでトップのつもりでいるのかなって。この前のバリジャパの煽りVで、五味選手が「日本でやるべきことはもうないでしょ」みたいなこと言ってたからビックリしたんですよ。もう2006年くらいから時間が止まっちゃってんじゃないかって。

——ダハハハハ！

川尻　確かに当時は僕も負けてるわけだし、五味選手は敵なしだったかもしれない。でも、そこからもう時間が経ってマット界の流れも変わってきてるわけじゃないですか？　まぁ、その中であれだけ言うことがぶれないのは逆に凄いなって思いますけどね（笑）。

——嫌味ですね～（笑）。

川尻　いや、なんかもう観てたら頭きちゃってね！（吐き捨てるように）。僕は五味選手のことは選手として好きだし、彼が試合で負ける姿を観ても「そんなもんじゃないだろ！」っていうのがあったんですけど、あの煽りVを観てたらそう思ってた自分がバカらしくなって。「コイツ、何もわかってねえな」って。まぁ、いまはもう気にするのはよそうっていうか、闘いたいとも思わないですね。

——それはファンから観たいという声が上がっても？

川尻　現時点ではないですね（キッパリ）。五味選手、「俺に挑戦したいと思ってるヤツはいないだろ」みたいなことも言ってたじゃないですか？　てことは、たとえ僕がDREAMのチャンピオンになったとしても、いざ五味選手とやるってときに、向こうは僕を挑戦者だと思ってそうだし（笑）。ちょっと勘違いしすぎなんじゃないかって感じですね……またこういうこと言うと、「何を偉そうに」ってネットで叩かれそうですけど（笑）。まぁ、とにかくいまは対抗戦でも五味戦でもなく、青木真也とタイトルマッチ、それだけですよ。ホント。



かわじり・たつや■1978年5月8日、茨城県出身。04年修斗ウェルター級王座に君臨。PRIDEを経て08年からはDREAMを主戦場とする。同年の『Dynamite!!』で武田幸三からKO勝利。今年7月には魔裟斗のK-1 MAX最終試合の相手を務めた。171cm、69.9kg。

TATSUYA KAWAJIRI

——ちなみに青木さんには、PRIDE時代からの仲間意識のようなものはあったりするんですか？

川尻　それは少なからずありますよ。やっぱりPRIDE休止から『やれんのか！』、それにDREAMって一緒に盛り上げてきたと思いますし。

——最近では川尻さん、「青木くんは新人類だから理解できない」「彼とは格闘技に対するイデオロギーが違う」って言ってましたよね。

川尻　……青木くんも昔は無口でおとなしい感じだったんだけどな～（笑）。青木くんと最初に会ったのって、僕の二度目のシャオリン戦（04年12月24日）の前で、彼が出稽古に来たときなんですよ。彼がちょうどプロデビューしたての頃じゃないかな。

——そのときはどういう印象でした？

川尻　覚えてるのが、青木くんとスパーリングを一本やったら、僕がギックリ腰になっちゃって（笑）。まぁ、僕の疲労が溜まりすぎてたからなんですけど。でも、その頃から彼は細いわりに体幹がシッカリしてるし、強いなと思いましたね。

——実力の片鱗はあったんですね。

川尻　でもホント、PRIDE武士道に出始めた頃の青木くんは真面目で好青年って感じだったんですけど、どこでどうなったのか……。あのひねくれたキャラも彼なりのプロとしてのアピールなんでしょうけど（笑）。まぁ、彼とは世代も違いますしね。

——そういえばDREAMのライト級戦線だと、宇野（薫）さんがUFCに戦場を移したので、日本人だと川尻さんが年長者なんじゃないですかね？

川尻　えぇ？　30オーバーって僕と石田くんくらいなんですかね？　中村（大介）選手は？

——見た目は渋いですけど、まだ20代ですね。

川尻　そっか～、もう僕もオジサンですね（苦笑）。でも、自分自身は年を取ったって感覚は全然しないし、これからMMAの選手寿命もどんどん伸びていくと思うんですよ。桜庭さんだって、弁慶相手にあんな凄い試合を見せてくれたじゃないですか？　MMAって技術的にまだまだ確立されてない分野だから、行き詰まりがないんですよね。あとは自分のコンディションだけしっかりしてれば40歳までできると思うし。

——選手寿命ということで考えると、川尻さんがエディ・アルバレス戦やギルバート・メレンデス戦で見せたような、真っ向から打ち合うファイトスタイルってリスクが高いですよね？

川尻　だから、最近はもっと頭を使おうと思うようになりましたね。ちょっと成長しました（笑）。でも、男として引けない闘いもあるんですよ。「ここで引いたら男として終わりだ」みたいな相手とはバチバチな試合になるかもしれない。

——青木さんとやるとしたらどんな試合になりそうですか？

川尻　やっぱり彼はクレバーだし、こっちも頭を使った闘い方になるでしょうね。でも、ああいうタイプに苦手意識はないんですよ。逆に得意意識っていうか、けっこういけるんじゃないかなって……うん（ニヤリ）。

——何はともあれ、いまは早く大晦日のカードを正式発表してくれって感じですか？

川尻　そうですね。世間的に注目の集まる魔裟斗選手の引退試合や吉田vs石井戦に便乗して、視聴率もベルトも獲るだけですよ！

【09年12月12日／茨城県・T—BLOODにて収録】

――谷川さん！　いきなりですけど、残念ながら『kamipro』はハッスルし

WGPとかK―1MAXってマッチメイクで揉めることは少ないし、発表もそんな

青木VS川尻は固まってない。二人を

サダハルンバ大提言！　対抗戦のカギは青木真也にあり！

青木くんには、前田日明や長州力のように戦極の悪口をたくさん言ってもらいたいなあ



FEG代表
谷川貞治

一向に発表されない『Dynamite!!』の対抗戦カード。
谷川さん、いったいどうなってるの!? ということで、
最近ツイッターで話題を読んでいるサダハルンバのインタビューに行ってきた。
対抗戦に向けて、サダハルンバの脳裏にはこんな考えがあった。

聞き手／ジャン斉藤

――谷川さん！　いきなりですけど、残念ながら『kamipro』はハッスルしすぎたせいで、今号で休刊になってしまうんですよ……（しょんぼり）。

谷川　ウソ!?

――ええ、ウソなんですけど。

谷川　んあ～！　そんなことを言ってるとツイッターに書いちゃうよ～。

――あ、それはおもしろいことになりそうだから、ぜひお願いします！（笑）。そのツイッター効果で谷川さんに対するファンの評価が凄く上がってるみたいですよ。

谷川　そうなの!?　それは凄くうれしいなあ。でもホントはボク、ツイッターってなんだかよくわかってないんだよね。なんかケータイにファンからどんどん質問が来るようになったから「返信しないと！」と思って、一生懸命返信してるんだよ。

――その程度の認識なんですか（笑）。

谷川　そしたらあっという間にツイッターの登録者数が3000人ぐらいになったみたいだね。

――でも、逆に関係者は怒ってる人も多いみたいですよ。「カードはもう決まってます」ってつぶやいてるけど、関係者は「そんな話は一つも聞いてない！」とか。

谷川　んあ～。

――12月12日現時点で対抗戦のカードは一つも発表されてませんが、いったいどうなってるんですか？

谷川　ええっと……、発表できるのはまだ来週の月曜か火曜かなあ（ぶつぶつ）。

――もう『Dynamite!!』も中止しちゃいましょうか（笑）。しかし、ここまで発表ができない理由はなんでしょうか？

谷川　一番たいへんなのは〝登場人物〟が多すぎることだなあ。たとえばさ、K―1WGPとかK―1 MAXってマッチメイクで揉めることは少ないし、発表もそんなに遅くないじゃない。それはボクが一人で交渉できるし、一人で解決できるからなんだよね。

――K―1は立ち技世界最高峰の舞台ですから、ほかの団体からのオファーをちらつかせてながらの駆け引きはできませんよね。

谷川　だから他人の意見はもちろん聞きますけど、基本的にボクが片っ端から電話して交渉して「次は○○vs○○ね」ということで決められるけど、総合になるといろんな団体があるし、団体によって気にするポイントも全然違うんですよ。それに日本人選手にはとくにマネージャーもついているからね。



『Dynamite!!』と『やれんのか!』の二元中継が実現した07年大晦日。三崎vs秋山戦のただならぬ"果たし合い"の空気感は、テレビの向こうにもシビレるぐらい伝わっていた。

青木VS川尻は固まってない。二人を対抗戦に出せという声も多いから

――揉めないわけがない（笑）。

谷川　それに、『戦極』を頑張ってやられてた國保さんがいなくなっちゃったじゃない。だから、國保さんがいれば國保さんにさえ話を通せばいい話を、何人にもしないといけないんですよ。そして話をしたところで、みんなの意見が一致するわけないからねぇ。『戦極』側はそういう状況なんだけど、DREAM側もDREAM側で『戦極』と一緒にやる状況に戸惑ってる人が多かったりするし、登場人物が多いということですよ。

――ということは、まだまだマッチメイクは難航しそうだ、と。

谷川　もちろん、もう決定しているカードもありますけどね。

――業界の噂では、青木真也vs川尻達也のDREAMライト級タイトルマッチが決定したとか。

谷川　それはまだ固まってないです。というか、青木選手と川尻選手を対抗戦に出せという声も多いんですよ。

――ほほう。

谷川　というのは、今回はDREAMと『戦極』の対抗戦をやるという話で進めてるじゃない。で、対抗戦って何がおもしろいかというと、やっぱりヒリヒリした緊迫感なんですよ。最近でいうと、秋山成勲vs三崎和雄みたいな、ヒールとベビーフェイスが真っ向分かれて勝負する感じというか。あるいは先日の亀田（興毅）vs内藤（大助）もそうで、このあいだの世界タイトル戦は若干その雰囲気は弱まったけど、以前は亀田が完全なヒールだったわけじゃない。それって何かというと、やっぱり対戦を焚きつけたり、試合を盛り上げたりする存在が必要ってことなんだよね。

――確かに、あの対戦をあれだけ盛り上げたのは秋山成勲であり、亀田興毅の存在ですもんね。

谷川　で、今回の対抗戦を盛り上げられる力があるのは、やっぱり青木選手なんですよね。

――まあ、こないだの会見も一人だけ対抗戦モードでしたし（笑）。

谷川　彼はヒールというわけじゃないけど、青木選手が対抗戦に入ってることがやっぱり重要なんだよね。だからボクは個人として青木選手には対抗戦に出てもらいたい。だって青木選手が対立概念を作らなかったら、DREAM側は誰も作れないもん。もうボクが『戦極』に噛みつくしかなくなるんだよ！

――それはそれで興味ありますけど（笑）。でも、おっしゃるように、これまでのプロレスの歴史を見ても、対抗戦となると潰すか潰されるかの勝負ですもんね。

谷川　でしょ？　そういう緊迫感を出さないと盛り上がらないもん。そして、それは選手が対抗意識を燃やしてくれるのが一番なんですよ。だって対抗戦というと思い出すのは、やっぱり前田日明、そして長州力じゃない。

――潰し合いになったときのあの二人は確かに最高！　対抗戦って試合の緊迫戦

SADAHARU TANIKAWA

もおもしろいですけど、試合前の舌戦がおもしろかったりしますからね。意味はよくわからないですけど、長州なんて宮戸に「死んだら墓にクソぶっかけてやる！」とか言ってたんですよ。こんな語彙、聞いたことがない（笑）。

谷川　だから、今回の対抗戦にも〝前田日明〟と〝長州力〟がほしいんです。だから対抗戦のカードというのは一つ一つおもしろくなると思うんだけど、青木選手がいないと盛り上がらないんですよね。

――でも、谷川さんが青木vs川尻に乗り気じゃないということは、DREAM側がやりたいと望んでるということですか？

谷川　それは笹原くんに聞かないとわからないんだけど、今年はそういう流れの中で二人が頑張ってきたというのがあるからねぇ。それが晴天の霹靂じゃないけど、11月の半ばに急きょ『戦極』と対抗戦をやるということになったじゃない。だから、選手としてもそこにこだわる理由は充分あるということだよね。

――とくに川尻選手の場合はずっとタイトルマッチを目指してやってきたわけですもんね。

谷川　魔裟斗やカルバンと闘ったのも、タイトルを獲りたいからだし。そういう流れの中で自分の実積をちゃんと作っていこうという思いがあったと思うしね。そこは難しいですよ。でも、ボクは青木選手にも絶対に対抗戦をやってほしいと思ってるんだよね。凄く光ると思う。

――どうしたらいいもんすかねぇ……。

谷川　ホントに困ったねぇ。

――じゃあ、青木真也にはタイトルマッチと対抗戦の2試合やってもらいましょうか。それでこそ〝大黒柱〟という説得で。

谷川　ホントにやってくれないかなあ……（真顔で）。



対抗戦に必要なのは、前田日明や長州力のような存在というサダハルンバ。この二人に匹敵する"噛みつき力"があるのが青木真也だというが、青木が対抗戦メンバーから外れるのはホントに痛い!

対抗戦を発表した会見で光ったのは青木選手と、そして吉田選手だった

――じょ、冗談なんですけど（笑）。

谷川　それに川尻くんにだってDREAMライト級の層の厚さをこの対抗戦でみせつけてほしいと思ってますよ。対抗戦に絡むことによって川尻くんが光る部分って凄くあるからね。

――そもそも、この二人が対抗戦に出ないと、『戦極』のライト級だって死にますもんね。

谷川　もう対抗戦をやらないんだったら、DREAMも『戦極』もお互いにタイトルマッチをやるしかなくなりますよ。

――う～ん、ザ・ファン不在（笑）。

谷川　でもたとえ青木vs川尻になったとしても、いまのムードだったらギリギリまで発表できないよね。対抗戦を持ちかけた安田会長にしてみれば、「対抗戦をやろうと言ってるのに、どうして団体の選手同士がタイトルマッチをやってるの？」って話になるし。

――たとえばの話ですけど、青木選手と川尻選手が対抗戦に出るとなった場合、この二人の対戦候補として五味選手が挙がるということもあります？

谷川　それはいまの段階ではなんとも……。

――五味選手は『Dynamite!!』出場に関して乗り気なんですか？

谷川　出場することはなんの問題ないと思うんだけど。

――対戦相手次第。聞くところによると、アルバレスとやりたいみたいですね、五味選手は。

谷川　ボクは直接五味選手と交渉したことがないからわからないけど、五味選手ってかなりこだわりがある選手みたいだから、そういう意味でまだよくわからない部分は多いです。

――いずれにしても、青木vs川尻がどうなるかで対抗戦の運命が決まってきそうですね。

谷川　逆にそこが一番難航しそうなんだけどねぇ。

――でも、DREAM軍の中に青木真也がいないと盛り上がらないと言われましたけど、逆に『戦極』軍の中に吉田道場勢がいないというのは物足りないんじゃないですか？

谷川　それで言えるのは、対抗戦を発表したあの会見で光ったのは青木選手と、そして吉田選手だったよね。やっぱりこちらが望むような緊迫感を持っていたのは、その二人だけでしたよ。

――『戦極』を追われたのに『Dynamite!!』に出ないといけないこと自体が〝対抗戦〟になってますもんね。

谷川　そこだけは『戦極』&DREAMチーム vs吉田道場みたいなってるよね。だから、一般の視聴者は吉田vs石井というと〝石井のデビュー戦〟という捉え方をするんだろうけど、コアな格闘技ファンからすると、そういう思いを背負って『Dynamite!!』で闘う吉田選手を観てみたいという感じでしょう。

――谷川さんから見て、やっぱり吉田道場勢というのも魅力的ですか？

谷川　いちプロデューサーという立場からすると、いまのタイミングでは、とくに

たのは、『戦極』チームに入ってくれない？」ってことだったんだもん。

――なぜ『戦極』チームに（笑）。話は戻し

で選手が一人も来てないこともあったし。もちろん今年もごちゃごちゃはしてるけど、選手がいるというのはありがたい話だ

いといけないでしょうし。

――確かに、2年前に秋山vs三崎をやったときは、三崎選手ってほとんど名前は知

秋山くんに言ったのは「『戦極チームに入ってくれない？』」ってこと

場勢というのも魅力的ですか？

谷川　いちプロデューサーという立場からすると、いまのタイミングでは、とくに小見川選手なんかは魅力的だよね。もちろん中村カズ選手も瀧本選手もいい選手だと思うけど。瀧本選手なんかは金メダリストだから、凄く大晦日的でもあるし。だから言える範囲でいうと、それはボクらの事情じゃないからねぇ。

――吉田道場勢を『Ｄｙｎａｍｉｔｅ!!』に出したくても、谷川さんの鶴の一声じゃ動かせない部分があるんですか？

谷川　まあ、そうだね。『戦極』には『戦極』の事情があるし、今回は調整役だからツラいですよ。人様の選手を強引に出すというのもよくないし、ボクは『戦極』が出さない選手を無理やり出すことはしたくないですから。

――そういえば、谷川さんは魔王（秋山成勲）に連絡されたそうですね。秋山さんによると「谷川さんから電話がかかってきて、三崎と試合をしないかと言ってきた」という話になってますよ。

谷川　そうなの？　それは秋山くん本人が言ってた話？

――そうみたいです。

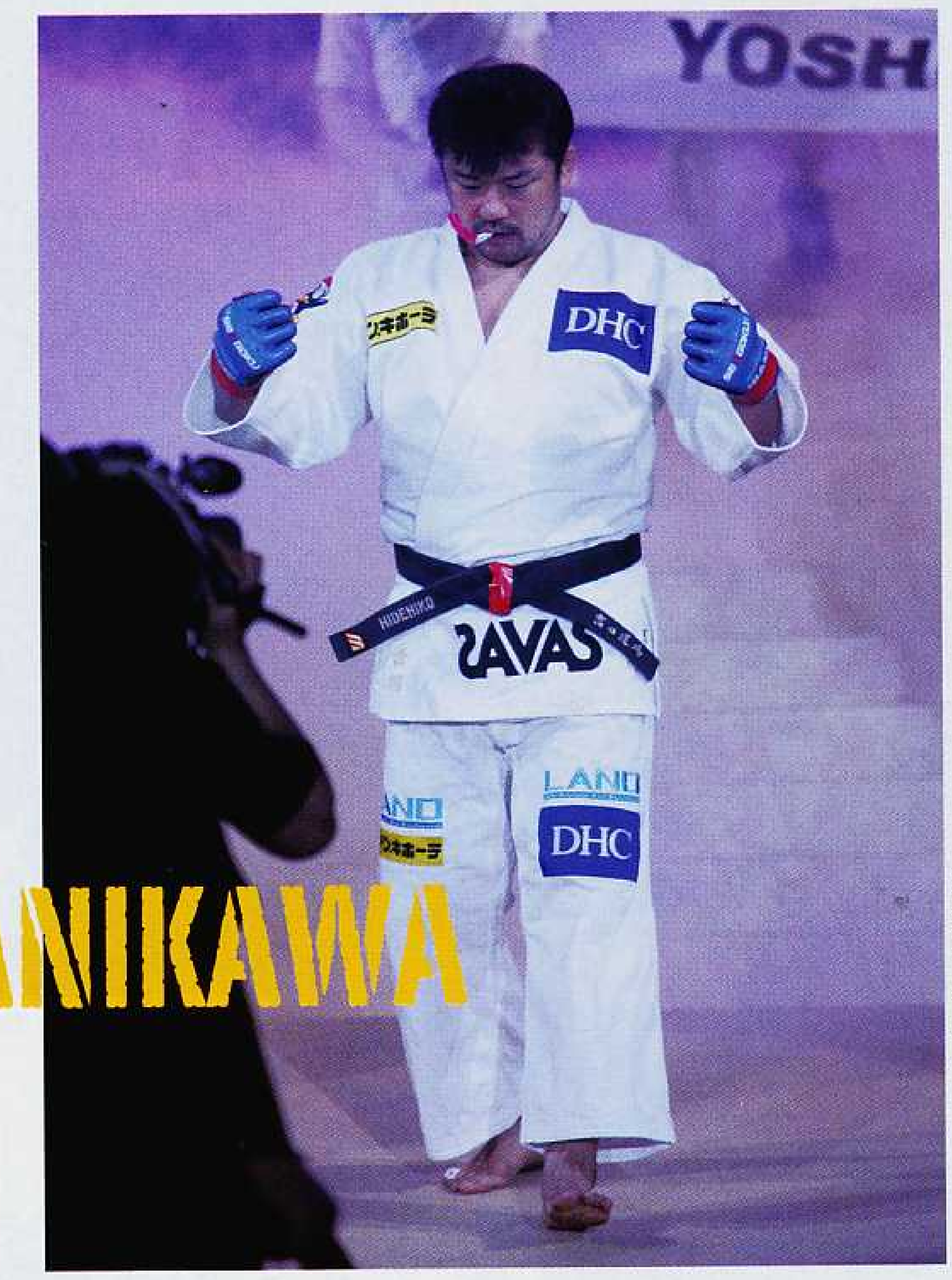
谷川　えー、でもそれは正確じゃないなあ。

――でも、コンタクトをとったのは事実なんですね（笑）。

谷川　いや、ちょっと連絡してみようかなと思ってね。でも、秋山くんはちょっとトボけてるよ。だってボク秋山くんに言ったのは、「『戦極』チームに入ってくれない？」ってことだったんだもん。

――なぜ『戦極』チームに（笑）。話は戻しますけど、今年の混乱ぶりってあの２００３年の大晦日と似かよってますよね。ある人とその話をしたら「でも、あのときはまだお金もあったし、夢もあったよね」って話になったんです。確かに、今年も混乱してますけど、あまりお金は動いてなさそうだし（笑）、どうにも政治的なことが優先されてる部分はありませんか？

谷川　でもさ、あのときに比べると選手がたくさんいるよね。だって、会見にあれだけの選手がいるというのは、２００３年とは大違いじゃない？　『イノキボンバイエ』に関しても、会見を開いてるのに「今日の発表は何もありません！」ということで選手が一人も来てないこともあったし。もちろん今年もごちゃごちゃはしてるけど、選手がいるというのはありがたい話だよ。だってＫＩＤくんが対抗戦に出てくれるんだもん。



吉田道場の今後を背負って、"敵地"『Dynamite!!』で闘わなければならない吉田秀彦。当日は吉田や、小見川ら吉田道場勢がどんな顔で入場してくるかにも注目したい!

SADAHARU TANIKAWA

――噂によると金原（正徳）選手と闘うとか。

谷川　あのときはホントに選手がいなかったもんなあ。ボクも最終的には曙さんに頼ったわけだからね。ＰＲＩＤＥだって誰もいなかったと思うよ。

――『ＰＲＩＤＥ男祭り』はぶっちゃけ、カードはよくなかったですよね。じつは『イノキボンバイエ』が一番選手が充実してたという（笑）。ヒョードル、アレキサンダー、藤田和之、アリスターもいるわ、いまでは考えられないですけど、じつはＬＹＯＴＯ vs リッチ・フランクリンも実現してましたし（笑）。

谷川　今回に関してはそこは選手はいすぎるぐらいいるからどうってことないです。

――でも、いくら対抗戦が期待できるとはいえ、対抗戦で視聴率は獲れるのかって声も上がってますね。ここ最近の格闘技イベントの視聴率における価値観だと、この対抗戦に視聴率獲得の要素はほとんどないですし。

谷川　ボクはけっこう獲ると思ってますよ。対抗戦というだけでわかりやすさがあるじゃない。たとえば猪木軍 vs Ｋ－１みたいに、各試合の意味というのがわかりやすいことは凄く大きいですよ。しかも重要なのはその雰囲気だよね。だから、我々もそこに特化してプロモーションをしないといけないでしょうし。

――確かに、２年前に秋山 vs 三崎をやったときは、三崎選手ってほとんど名前は知られてなかったのに、やっぱりテレビからもただならぬ緊張感は伝わってきましたからね。仮に今回が獲れなくても、格闘技の緊張感を見せつけることによって、今後のこやしになってくれればいいというか。

谷川　そうそう。だからこそ過剰に煽ってくれる〝前田日明〟や〝長州力〟がほしいんだよね。ガチンコで映えてくれる人がさ。このあいだのＫ－１ ＷＧＰなんかもそうだけど、日本人選手やキワモノがいなくてもちゃんといい視聴率は獲れるんですよ。だから、大晦日というとどうしても子どもからおじいちゃんおばあちゃんまで幅広い層を対象に考えないといけないけど、やっぱり一番に考えるべきは緊張感をどれだけ出せるかですよね。アリスターなんかいい感じで火をつけてくれたじゃない。

――「Ｋ－１は楽だ」の一言で。

谷川　あれでアリスター vs トーナメントみたいになったもんね。意外かもしれないけど、あれはホントにアリスターにＤＲＥＡＭ愛があるからなんだよ。

――へえ～、それはいい話ですね。

谷川　青木くんや川尻くんはもちろんだけど、ガチンコでマヌーフなんかもＤＲＥＡＭ愛があるからね。でもさ、ボクなんかは逆に闘ってる団体に対して愛着が生まれない選手がいるほうが不思議なんだよ。……だから秋山選手を『戦極』チームに入れてやろうと思ったんだけど。

――あ、ＤＲＥＡＭ愛がなかったからですか（笑）。

谷川　まぁ、秋山くんの場合は屈折した〝ＤＲＥＡＭ愛〟はあるんだけどね。でも、



「K-1は楽だ」の一言でアリスターvsK-1軍の様相を呈した12.7K-1 WGP。準決勝ではK-1を背負うバダ・ハリとの対戦となったが、08年『Dynamite!!』での二人の因縁も含めて、この日一番の大勝負として注目された。

マッチメイクって格闘技の横にいる人たちとの感性の勝負だったりする

SADAHARU TANIKAWA

ファンを惹きつけるためにも団体愛というのはもの凄く必要だしね。魔裟斗なんて典型的な例じゃない。だから佐藤選手とかも強いんだけど、K－1 MAX愛をまだまだ感じられないからファンの惹きつけ方が違うんだと思うんだよなあ。

――そういえば、谷川さんってツイッターで「今回カードが決まらないのは選手がワガママ言いすぎるから」というふうにつぶやいてたそうですけど、それってよく考えたら、これまで選手をさんざん甘やかしてきた谷川さんのせいのような気がするんですけど。

谷川 えー……と、まあ、そうだね。

――ワハハハハ！

谷川 だけどボク、そんなに甘やかしたかなあ。自分ではそんな甘やかした感じはしないんだけど、まあなんていうのかな。マッチメイクって格闘技の横にいる人たちとの感性の勝負だったりするじゃない。

――ああ、それはよくわかります。

谷川 だから甘やかしているというよりも、その感性を無視するとおかしなマッチメイクになったりするんだよね。結果的にイージーファイトになっても、それが選手を引き立たせる場合もあるんだよ。「あ、コイツはこういう選手を選ぶヤツなんだ」と思わせることが狙いだったりさ。

――たとえばUFCなんかは、谷川さんから見て〝おもしろくない〟部分だったりするんですか？

谷川 いや、UFCはそれでも感性はあるよ。だって、一応ファンが観たいものを汲んでマッチメイクしようとしてるもん。だから、カードを決めるときって、我々プロモーターがファンの声を受けてそれを選手と感性の勝負をするわけなんだよ。自分が何を観たいかということよりも。だから、「ファンがこういうふうに望んでるよ」というのをぶつけて、それを選手がどう持っていくかだよね。

――なるほど。ところで大晦日のカードも決まってないのに鬼が笑っちゃう質問になりますが、来年もDREAMはやるんでしょうか？

谷川 もちろん、やります。で、来年は韓国大会をやろうという話もあるんですよ。というのは、韓国で開催したK－1 WGPの開幕戦を観て、DREAMの関係者があの熱い客に驚いて「これはいける！」って思ったみたい。確かに韓国マーケットもちゃんとすれば客は熱いし、いいですからね。

――ユン・ドンシクやチョン・ブギョン、チェ・ホンマンと、韓国人ファイターもいますもんね。

谷川 うん。K－1もやるし、ついでに言っておくと、みんななくなると勘違いしてるみたいだけど、『戦極』もありますよ。

――K－1もDREAMも『戦極』もある。谷川さんはまだ格闘技界に残るんですか？

谷川 残るに決まってるよぉ!!（怒）。

――ウチと一緒に〝休刊〟しましょうよ～！

谷川 ガンバレ、山口日昇!!

【09年12月12日／都内・某所にて収録】

スポーツマンの仮面をかぶった柔道鬼

吉田秀彦の正体



『Dynamite!!』で隠された"キラー吉田"の魅力爆発か!?

「K-1は

よ。だって、一応ファンが観たいものを汲

【09年12月12日／都内・某所にて収録】

最近の吉田秀彦の姿に驚いている人は多いのではないだろうか。『SRC(戦極)』とDREAMの〝合体〟によって、『Dynamite!!』で石井慧戦を行なうことになった吉田だが、ことあるごとに不穏な発言を繰り返しているのだ。

まずは両大会の〝合体〟が発表された記者会見では、石井戦についてたずねられると「石井とやるんですか?」。

12月9日、チャリティゴルフコンペ後の囲み取材の際には、DREAM vs SRC対抗戦のカードが決まっていないことに苦言を呈し、さらにこう続けた。

「ほかのカードも決まらないんだったら、俺もやめようかな(苦笑)」

「もう『Dynamite!!』の中継は5時間ずっと魔裟斗の試合でいいんじゃない?」

さらに『SRC』有明コロシアム大会がキャンセルになったこと、カードが決まらないことに対して、こう毒づいてみせる。

「有明でやると言って、そのあと弁明も何もない。自分の知り合いもチケットとかホテルを押さえてたからね。『はい、そうですか』とは言えないよ。まあでも、ここまでカードが発表されないっていうのはファンをバカにしてるし、選手もかわいそうだよね」

12月13日に行なわれた柔道セミナー『VIVA JUDO』後の取材でも、吉田の『Dynamite!!』への苦言は続いた。

「本当に大会はあるんですか? 自分の試合は決まってるけど、ほかは

ついにあらわになった吉田秀彦の怒り

『Dynamite!!』でむき出しになる 勝負師の本性

大晦日『SRC』有明大会が中止となり、『Dynamite!!』での合同大会が開かれることが決まり、いまひと際鈍い光を放っているのが吉田秀彦だ。機会があるたびに、不穏な"正論"を吐き、大晦日の大会のあり方を批判する吉田。この男はどんな思いを背負って大晦日のリングに上がるのか。

文／橋本宗洋　写真／乾晋也

吉田が〝裸単騎〟で大晦日の闘いに挑もうとしているのは間違いない

何の発表もない。大会はないんじゃないですか?」

「テレビで大晦日にやれるのはありがたいけど、こんなにカードが決まらないんじゃ、大会も盛り上げられない。まして二つの団体が一つになるのに、これじゃあ互いによくない。モチベーションが上がらないし、別々に大会をやったほうがよかったんじゃない?」

吉田の発言は、大会に出場する選手であれば絶対にできない類のものだ。まして吉田には〝アスリート〟というパブリック・イメージが強い。言葉で波紋を投げかけるタイプとは思われていなかっただけに、衝撃も強いのだ。

ただ、〝オリンピックを制したアスリート〟は、吉田の一面でしかないだろう。というより、アスリートが〝清廉潔白〟あるいは〝無味乾燥〟だというイメージの仕方自体が、大きな誤解なのかもしれない。

柔道という競技人口の多いスポーツで、4年に一度のビッグイベントを制するのは、並大抵の人間ができることではない。それを成し遂げるためには、アクの強い勝負師である必要があったはずなのだ。

吉田の中学・高校の先輩である古賀稔彦は、吉田の精神的な強さについてこう語っている。

「(強い先輩に囲まれ)いくら投げられてもまた立って闘わなくちゃいけない環境で育ってましたから、彼は。やっぱり打たれ強さ、忍耐力の強さっていうのは吉田は人一倍のものを持ってると思いますよ」

「そして、自分が上級生になったときにはチームのポイントゲッターとしてやってきて。小さな身体で、どんな相手だろうと勝たないといけない宿命を背負ってたんですよ。そういう中で磨かれた、吉田の勝負師としての芯の強さっていうのは相当なものがあると思いますね」

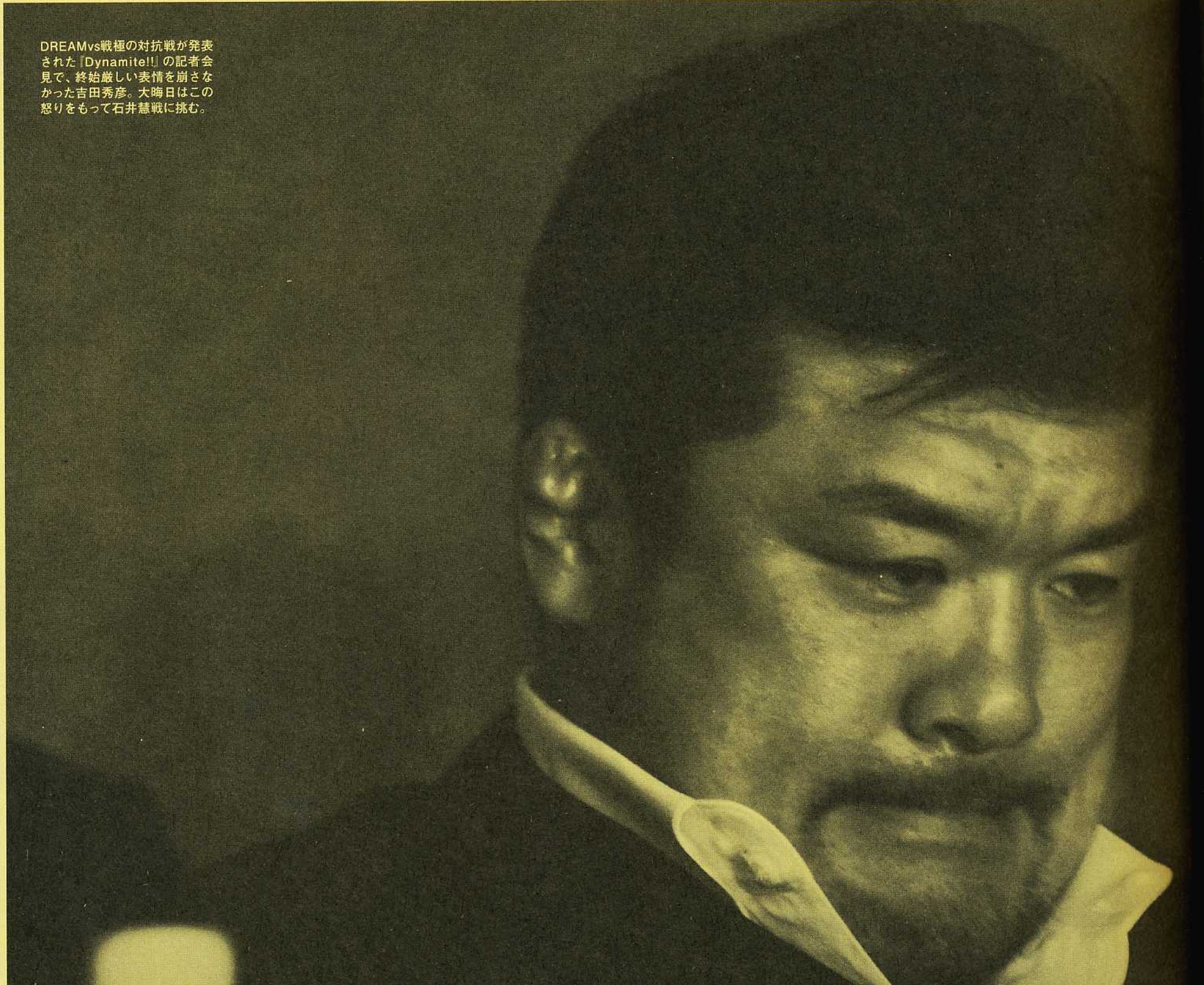
古賀と吉田は、ともにバルセロナオリンピックで金メダルを獲得している。古賀は直前の練習で負ったケガをおしての優勝だった。そして、負傷した際の練習相手が吉田だったのである。つまり吉田は「先輩にケガをさせてしまった」という心の重圧を乗り越えて金メダルを獲得したのだ。それもオール一本勝ちで。やはり、並大抵の精神ではない。

プロ入り後も、吉田はあらゆる勝負から逃げなかった。デビュー戦の相手は超大物であるホイス・グレイシー。その後も佐竹政昭戦や田村潔司戦などリスクのある日本人対決に臨み、ホイスとの再戦も受けた。

PRIDEではミドル級、無差別級とオファーがあったGPにはすべて出場。『戦極』の旗揚げ戦も、本来はエースとして勝つことが重要だったはずなのに、ジョシュ・バーネットとの一戦に臨んでいる。

そして今回の石井戦である。同じ柔道出身で、自分よりはるかに若い石井は、吉田にとってリスクの大きい相手のはずだ。それでも吉田は逃

れば、吉田が『Dynamite!!』の会見に出席したこと自体、衝撃的なことだったらしい。國保氏の解任とともに、吉田が大晦日から〝手を



DREAMvs戦極の対抗戦が発表された『Dynamite!!』の記者会見で、終始厳しい表情を崩さなかった吉田秀彦。大晦日はこの怒りをもって石井慧戦に挑む。

そして今回の石井戦である。同じ柔道出身で、自分よりはるかに若い石井は、吉田にとってリスクの大きい相手のはずだ。それでも吉田は逃げなかったのである。逃げなかっただけでなく、吉田は随所で勝負師としての〝アク〟も見せている。デビュー戦では袖車絞めの体勢に入ると「落ちた！」とアピールしてレフェリーストップを誘う。

それ以後も柔道技を知らない相手に対し、容赦なく寝技に持ち込み、柔道着を使った技でタップを奪っていった。道衣を使うことに対しての批判も起こったが、勝つために最善の手段を使うのは勝負師としての鉄則だったのだろう。そうかと思えば、ヴァンダレイ・シウバに打撃戦を挑んだこともある。打撃を試したいなどという理由ではなく、ケンカ腰で立ち向かった結果が打撃戦だったのである。

古賀いわく、吉田は「自分よりも身体のデカいヤツを見ると、無性に闘志が湧いてくるタイプ」。『Dynamite!!』が『SRC』を吸収したと考えたとき、吉田にとって『Dynamite!!』は〝無性に闘志が湧いてくる〟〝デカいヤツ〟なのかもしれない。

まして今回の〝合体〟と同時期に、『SRC』を運営するワールドビクトリーロードでは、國保尊弘氏が取締役から解任されている。國保氏は吉田が所属するJ－ROCKの社長、つまり吉田の盟友でもある。

裏事情はわからないが、そこではただごとでない人間模様が繰り広げられているはずだ。ある関係者によれば、吉田が『Dynamite!!』の会見に出席したこと自体、衝撃的なことだったらしい。國保氏の解任とともに、吉田が大晦日から〝手を引いて〟もおかしくなかったということだろう。実際、彼以外の吉田道場の選手たちは皆、会見に出席していない。

そういう状況にあって、吉田は会見に出席し、『Dynamite!!』出場も決定事項として発表された。そこには契約などの事情も絡んでいるのだろうが、ともあれ吉田が〝裸単騎〟で大晦日の闘いに挑もうとしているのは間違いない。

大晦日の〝合体〟には、対抗戦とビジネスとしての交流という二つの側面がある。だが、吉田に限ってはそのどちらにも関係がない。しかし同時に、彼は大晦日に関するあらゆることに対して〝対抗戦〟と挑んでいるという見方もできるのではないか。会見には出席し、しかし公然と大会のあり方を批判し、そういう中で実際に試合を行なう。

今回の試合は、おそらく吉田の選手生活における〝最後の大勝負〟だろう。その大会は、会場こそ違えど自分がプロデビューした『Dynamite!!』。そして華々しくデビューを飾った7年前とは違い、今回は〝裸単騎〟の闘い……。

吉田の中に、いまどんな思いがあるのだろうか。大晦日のリングで、彼はどんな〝勝負師としてのアク〟を見せるのだろうか。吉田vs石井戦には〝お茶の間向けのアスリート対決〟という以上の複雑で濃厚なドラマが渦巻いている。

の苦言は続いた。
「本当に大会はあるんですか？ 自分の試合は決まってるけど、ほかは

「（強い先輩に囲まれ）いくら投げられてもまた立って闘わなくちゃいけ

たはずなのに、ジョシュ・バーネットとの一戦に臨んでいる。

——今日は吉田選手の自叙伝『職業・柔道家』の共著者でもある李さんに、いまの吉田秀彦の魅力について語ってもらいたいんですよ。

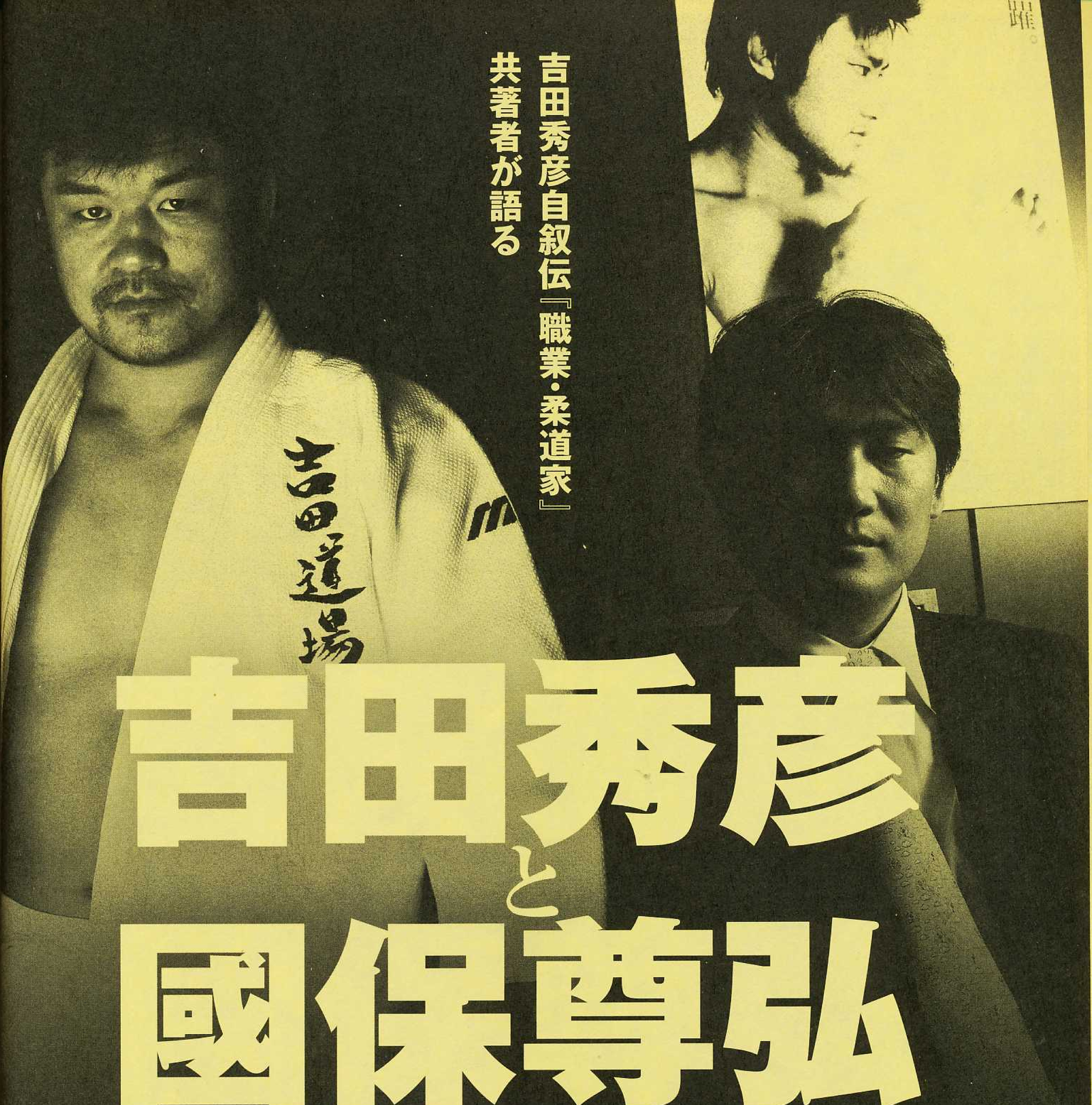
ite!!』の会見に出たとき、イライラしてたでしょ？ 記者はみんな吉田秀彦のコメントがほしいのに、まったく寄せ付けなくてさ、「え、大晦日やるんですか？

——そもそも吉田選手が石井戦をなぜ受けたかといえば、『戦極』のために受けた部分が大きいわけですよね？

李 当然でしょう。石井戦っていうのは、

れほどイライラしながらの試合はないんじゃないですか？

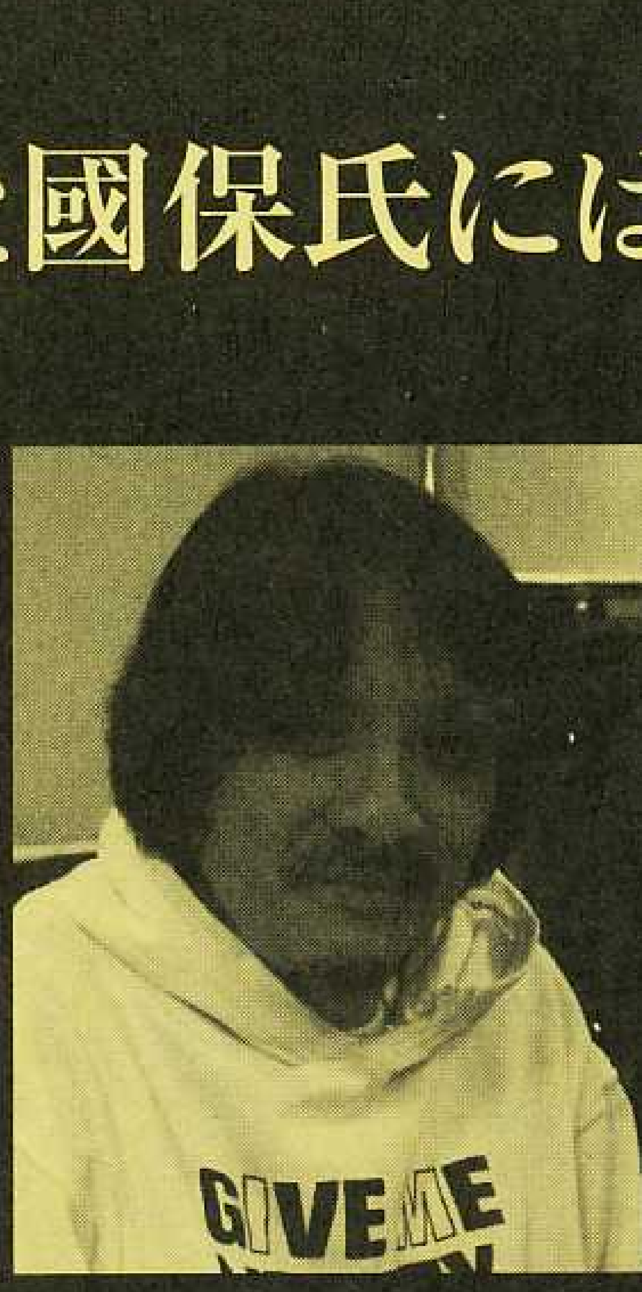
李 そうだね。これほどではないけど、田村（潔司）戦なんかも乗り気じゃなかった



吉田秀彦自叙伝『職業・柔道家』共著者が語る

吉田秀彦と國保尊弘

「吉田と國保氏には選手と代理人以上の信頼関係がある」



スポーツジャーナリスト

李春成

吉田秀彦の自叙伝『職業・柔道家』の共著者であるスポーツジャーナリスト李春成さんに、今回の一件、そして吉田秀彦と、元『戦極』取締役でJ-ROCK社長の國保尊弘氏について語ってもらった。

聞き手／堀江ガンツ

吉田は『戦極』を盛り上げるために真っ先に「石井とやる」と言ったんだよ

――今日は吉田選手の自叙伝『職業・柔道家』の共著者でもある李さんに、いまの吉田秀彦の魅力について語ってもらいたいんですよ。

李　まあ、彼もいま大変だからね（苦笑）。

――大変なことになって、逆に本来のというか内面にあった魅力が出てきた気がするんですよ。スポーツマンの吉田秀彦っていうパブリックイメージとは違う、鬼の部分が。

李　どこでそう感じました？

――一昨日ですか、ゴルフコンペかなんかで、大晦日についてかなり辛辣なことを言ったりとかしてて。

李　そうらしいね。僕は行けなかったんだけど、どんなふうに言ってました？

――たとえば、『SRC』の有明コロシアム大会が突然中止になったことも、「自分のチケットを買ってくれた人が何人もいて、ホテルも取ってるのになんの説明もなくこうなってるし、カードもいまだに何も発表されてないわけでしょ？　ハッキリ言ってファンを馬鹿にしてるよね」っていうようなことだったり。

李　それを公のメディア関係のいる前で言ったんだ？　いいねえ（笑）。

――だから今回、吉田道場がまるごと『SRC』から外されたような状態になって、その怒りが魅力になってるなって。

李　吉田秀彦は『戦極』を愛してたっていうか、『戦極』で骨を埋める、『戦極』を死に場所として決めたっていう、そんな覚悟を彼には感じるじゃない。『Dynamite!!』の会見に出たとき、イライラしてたでしょ？　記者はみんな吉田秀彦のコメントがほしいのに、まったく寄せ付けなくてさ、「え、大晦日やるんですか？　僕はなんにも聞いてませんけど」とか言って流されちゃって（笑）。

――大同団結ムードを出そうとしてる中で、一人「俺はそうじゃねえぞ、俺は部外者だぞ」っていうのを強烈に出してましたよね。

李　うん。石井とのカードは、あくまで『戦極』でのカードであり、その大会がないのなら、試合自体が流れたというようなニュアンスの発言だったよね。



12月9日に千葉で開催された『第6回SSSチャリティーゴルフコンペ』で見事優勝をはたした吉田は、コース終了後の囲み取材で「ほかのカードも決まらないし、俺もやめようかな」「これだけカードが発表されないのは、ファンをバカにしている」など、主催者への苦言を連発。イライラを隠そうとはしなかった。

――そもそも吉田選手が石井戦をなぜ受けたかといえば、『戦極』のために受けた部分が大きいわけですよね？

李　当然でしょう。石井戦っていうのは、吉田秀彦自身が真っ先に手を挙げたんだから。

――あ、そうだったんですか。〝ゴールドメダリストハンター〟菊田早苗選手が手を挙げるより前に（笑）。

李　ずっと前だよね。石井慧が『戦極』と契約するって決まってすぐに「石井とやる」って言ってたし、その前からもメディアの反応を覗いながら期待に応えようとする、彼独特の佇まいをみせていたような気がするしね。

――それは、もちろん自分が石井の相手になれば、『戦極』にとっても一番いいからっていうこともあったんでしょうね。

李　うん。そういう男なんだよ。吉田秀彦っていうのは。

――普通だったら、石井選手のような自分の地位を奪いかねない若い選手との闘いは嫌がりますよね。

李　石井だったら負けてもいいっていう覚悟があるんじゃない？　それで『戦極』が軌道に乗るのならってことなんだろうけど。

――だからおそらく、吉田選手の『戦極』での試合って、全部「『戦極』のために」っていう試合だったと思うんですよ。

李　うん。そういう側面はあるだろうね。旗揚げ戦もジョシュ・バーネットなんかとやっちゃってね。それに、一度オファーされたカードは基本的に断らない男だから。

――そして今回は「『戦極』のため」の最たるものとして受けた石井戦が、そうじゃなくなってしまったわけですから、これほどイライラしながらの試合はないんじゃないですか？

李　そうだね。これほどではないけど、田村（潔司）戦なんかも乗り気じゃなかったみたいだけどね。

――田村戦も本人としては不本意だったわけですか？

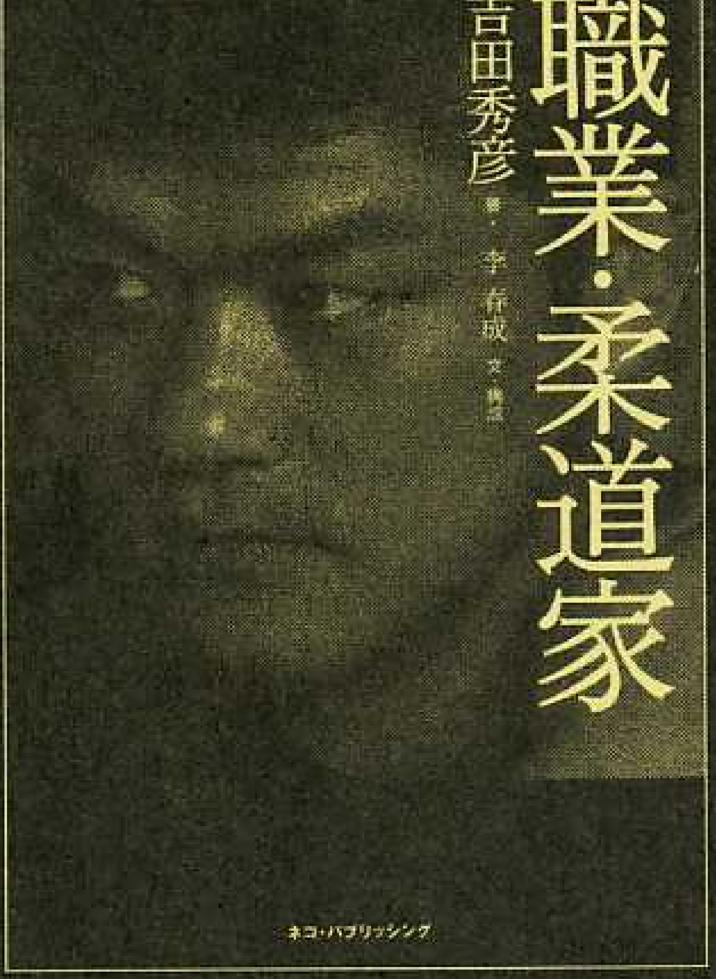
李　あんまりやりたがってなかったと思うな。腹の中ではクエスチョンマークだらけだったんじゃない？　だって田村はプロレス出身でしょ。プロレスラーと闘うっていうのは、あの当時の彼の中では筋が通らなかったわけですよ。

――ああ、なるほど。とりあえず「まあ、組まれたらやりますよ」っていう。

李　あのときは、べつに「PRIDEのため」というのはなかっただろうけどね。断らないっていうだけで。彼がよく言う「仕事」だよ。あ、プロレス隠語の「ワーク」とは違うよ。

――今回、『Dynamite!!』に出るっていうのは、吉田道場の下の人間を食いっぱぐれにさせない、という意識もあるんですかね？

李　もちろん、それも一つにはあるんじゃないの？　彼を慕ってついてきて、プ



2004年末に発行された、吉田秀彦と李春成氏の共著『職業・柔道家』（ネコ・パブリッシング刊）。この本の中でも吉田と國保氏との信頼関係などについては触れられているので、興味がある方は、ぜひ手に取ってみてほしい。

ロで闘っていくって決めてる選手がいるわけだから。小見川道大とか、(中村)カズとかね。彼らが今後、プロとして食っていけるレールを敷いてやるという役割も託されてるからね。

――いまは『戦極』から國保さんが外されて、吉田道場も丸ごと外されたような状態ですからね。急にそこまでなるとは思ってませんでしたけど。

李　僕もそこまでになるとは知らなかったんだけど、『Dynamite!!』の会見場では、J－ROCKの社員は何人か見かけたんだけど、國保さんの姿が見えなかったんだよね。ああいう大事な会見で彼が不在っていうのは珍しいので、「もしかしたら何かあったんじゃないか」ってピンときたんだよね。國保さんはストレートなタイプで激情型だから、なんか言って揉めちゃったのかなって。

――ブチ切れてしまったんじゃないか、と(笑)。

李　そしたらその翌日か翌々日にファックスが来て「國保取締役を解任」って書いてあったから、あれはビックリしたよ。ということは、あの段階で吉田選手は國保さんが首を切られることをわかってるはずだからね。おそらくは、その要因となったのが『Dynamite!!』との合体でしょう。彼らにとっては、不快以外の何物でもないよね。

――吉田選手にとって、國保さんっていうのは、自分の所属事務所社長というだけじゃなくて、プロになる前から結びつきが強い人なんですよね？

李　そうそう。マネージャー、代理人という以上の結びつきというか。「代理人」っていうと、一時期「悪役」扱いされた時期があったでしょ。サッカーの中田英寿とか、野球の野茂英雄などの移籍で必ず「代理人」と言われる仲介業者が出てきて、契約成立と同時に、そのアガリをかっぱらっていくみたいな、凄く悪いイメージが勉強不足のメディアによって作り上げられた時期があったじゃない。もちろん心ない代理人がいることも事実なんだけど、代理人の本当の役割っていうのは、選手の引退後の生活までプランニングしてやる、いわゆる〝ライフプランナー〟が彼らの仕事だからね。だけど吉田選手と國保社長の間からは、その一線すらも越えた信頼関係を感じるよね。

――ライフプランナー、もしくはそれ以上の信頼関係ですか。

李　そうだよ。吉田選手と國保社長が出会ったのって、バルセロナオリンピックの直後なんだよ。

――金メダルを獲った直後。

李　うん。たしか帰国後に内輪の祝勝会みたいなのがあって、そこに國保さんは主催者の友人として現われて、そこで出会ったのがきっかけだから、もう15年以上の付き合いになるよね。J－ROCKっていう会社はいまでこそ、サッカー選手や野球選手もマネージメントしているけど、もともとは吉田秀彦を中心とした会社で、それこそ会社名も吉田選手の意見が生かされてるわけだから。

――そうだったんですか。

李　そう。「柔道」と「ジャパン」の頭文字「J」で、あとはロックミュージシャンも事務所入りするっていうんで、それでJ－ROCKなんだよ。

――そんな簡単な理由で付けた名前だったんですか(笑)。

李　その前に國保社長が吉田選手のために作った会社は「柔(やわら)ジャパン」だからね。これも吉田選手が付けたらしいけど(笑)。

――素晴らしいネーミングセンスです(笑)。でも、ホントにプロになる前からのパートナーってことですよね。

李　だからね、吉田選手が「プロ格闘家になる」って言いだしたとき、國保さんは吉田選手の生涯年収を算出してみたんだよ。そしたら、プロってファイトマネーが高いと言っても、いつまでも現役でいられるわけじゃないし、税金でかなり持っていかれるから、あのまま新日鐵で定年まで勤め上げるべきだって言ったんだって。

――それこそライフプランナーだから、ちゃんと引退後のことまで考えて。

李　でも、吉田選手は一度口に出したことは、自分の中での決意が固まってることだから、國保社長も吉田選手のプロ活動を全面的にサポートする決意を固めたらしいよ。だからね、お互い気が合う部分もあるんだろうね。なんかのコマーシャルじゃないけど「私作る人、あなた食べる人」みたいなさ、お互い補完し合ってる部分があるんだよ。

――染之助・染太郎的なところがあるんですね(笑)。

李　吉田選手は「全部下駄預けたよ」と國保社長に言って、國保社長は「任しといて」と。まあ、女房役だよね、ピッチャーとキャッチャーみたいなもんで。

――要はその二人で「吉田秀彦」っていうものができあがってたっていう部分もあるわけですよね。

李　そうそう。まさにそういうことだよね。

――今回、その二人で一人といえるほどのパートナー、女房役が突然切られたってことですよね。

李　だから、そういうことを知っていれば、『Dynamite!!』の会見で、なぜ吉田秀彦があんなに不機嫌な態度を取ったかっていうのがわかるんじゃないかな。それで谷川プロデューサーは矛先を収めるようにか、あわてて言うんだよね、「まあ、吉田選手の事情もいろいろありますから」って。

――事情がいろいろあるどころじゃないですよね(笑)。

李　メチャクチャあるよ、大問題が。だけど大手メディアは、そんな事情を知ってるのか、それとも知らないのか、どこも触れようとしないわけさ。まぁ、そのおかげ



吉田秀彦と國保氏の二人三脚で歩んできた吉田のプロ生活。その集大成のはずであった石井慧戦が、まさか國保氏を外したかたちで『Dynamite!!』で開催されることになるとは……。

でボクらみたいなフリーランスにも仕事が生まれるんだけどね(笑)。

――以上のことを考えると、いまFEGとワールドビクトリーロードで大同団結

勝って、『戦極』がイベントとして成功したら、「自分の役目は終わった」って思ってたんじゃないの？　サクちゃんみたいに、飄々と闘い続けるってことはできな

「仕事ですから」って(笑)。やるとなったら、物事をネガティブに考えない人でもあるしね。バルセロナオリンピックのとき、先輩で親友でもある古賀稔彦が自分

してきましたよね。

李　いろんな意味で、楽しみな試合になるんじゃない？

――ところで来年以降、吉田道場ってど

ていうと、一時期「悪役」扱いされた時期があったでしょ。サッカーの中田英寿と

信頼関係を感じるよね。

――ライフプランナー、もしくはそれ以

で勤め上げるべきだって言ったんだって。

――それこそライフプランナーだから、

れようとしないわけさ。まぁ、そのおかげ

でボクらみたいなフリーランスにも仕事が生まれるんだけどね（笑）。

――以上のことを考えると、いまFEGとワールドビクトリーロードで大同団結ムードを出してますけど、この大晦日が終わったあと、吉田選手がDREAMなり新生『SRC』なりに出る可能性は少ないですよね？

李 うん、少ないでしょ。もともと『戦極』っていうのは、吉田選手と國保さんが立ち上げから関わってることもあって、『戦極』に対する愛情っていうのは凄く強かったんだよね。愛情っていうか、義理をはたす任侠感でやってきたんだと思うけど、國保さんが外れた新生『SRC』に対して、はたして義理をはたす必要があるのかどうか疑問だよね。

――もう〝自分たちの団体〟じゃなくなって、〝自分たちを切り捨てた団体〟になったわけですからね。あのまま吉田vs石井戦が『SRC』として有明で行なわれていたら、吉田選手はこの試合で引退してた可能性ってあったと思いますか？

李 勝敗にもよるけど、ありますよね、それは。身体も限界に近いだろうし、石井が勝って、『戦極』がイベントとして成功したら、「自分の役目は終わった」って思ってたんじゃないの？　サクちゃんみたいに、飄々と闘い続けるってことはできないタイプだろうからね。

――じゃあ、大晦日の『SRC』有明大会は、捨石になるぐらいの覚悟を持って挑むはずだったわけですね。

李 だと思いますよ。





11月25日に行なわれた『Dynamite!!』の会見で、集合写真撮影が終わったあと、「俺は関係ない」とばかりに、真っ先にその場を離れた吉田。TBSの撮影クルーの質問にもほとんど答えず、ピリピリとした緊張感を一人醸し出していた。

――そんな思いが踏みにじられた感じなんでしょうね。では、大晦日の『Dynamite!!』というのは、吉田選手にとって筋が通らないところに筋を通しにいく感じなんですかね。

李 ま、やっぱり彼はこう言うと思うよ。

國保氏は吉田にとってライフプランナー。二人合わせて「吉田秀彦」なんだよ

「仕事ですから」って（笑）。やるとなったら、物事をネガティブに考えない人でもあるしね。バルセロナオリンピックのとき、先輩で親友でもある古賀稔彦が自分とのスパーリングで骨折しちゃってさ、自分もダメになりかかったけど、ネガティブにならずに金メダルを獲ったわけでしょ。オリンピック選手っていうのは、やっぱり芯が強いんだよね。石井慧もそういうタイプだよね、どんなに追い込まれても、物事をネガティブに考えないでしょ？

――自分が金メダルを獲るってことを疑わなかった人ですよね。

李 だから、いろんな雑念はあるだろうけど、「仕事ですから」の一言で、ネガティブな感情を排除して石井戦に挑んでいくと思うけどね。石井選手もその気だと思うしさ。

――石井選手も今回の『SRC』有明大会中止、『Dynamite!!』と合同大会決定ということには、あまりいい感情を抱いてないみたいですね。

李 でも、彼もそういう感情を捨てて、試合に集中するでしょう。彼は僕がインタビューしたとき言ってましたよ。「『なんだよ、柔道の現役金メダリストってこんなもんかよ』と思われるような試合は絶対にしない。吉田選手よりもずっと若い自分がヘタな試合をしたら、自分がこれまでやってきたことも裏切ることになる」って。だから、吉田選手と石井選手はお互い別のプレッシャーがあるけど、ヘタな試合はできないことには変わりないからさ、大変な試合になるだろうね。

――だから、いろいろゴタゴタがあったケガの功名じゃないですけど、ここにきて俄然、吉田秀彦vs石井慧戦の興味が増してきましたよね。

李 いろんな意味で、楽しみな試合になるんじゃない？

――ところで来年以降、吉田道場ってどうするんですかね？

李 どうなるんだろうね。ちょっと國保さんと話したいんだけど、まだドタバタしてて彼の頭の中も整理つかないでしょ。だから、もうちょっと落ち着いてから、年明けにでも連絡入れようと思ってるんだけどね。いま連絡すると、激情型の國保社長のままだろうし（笑）。

――いまはそっとしておいたほうがいい、と（笑）。

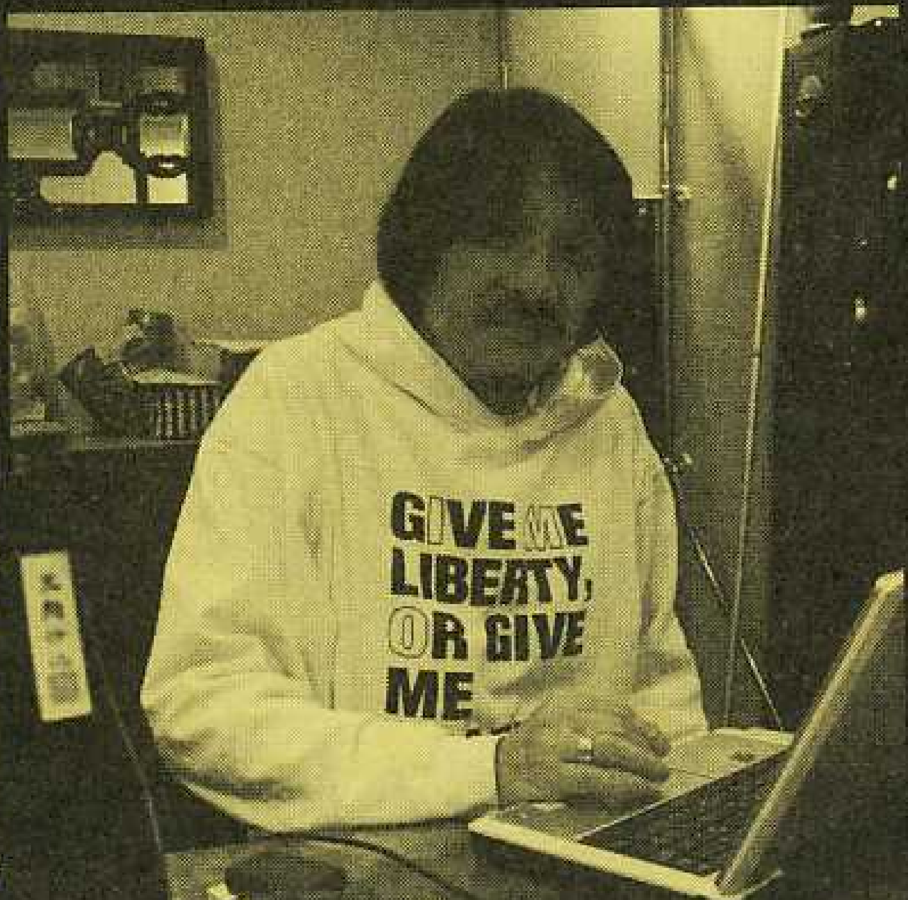
李 じゃ、インタビューはこれぐらいにして。どうですか、ガンツくん。そろそろ一杯いきますか？

――まだお昼の2時ですけど、もう飲みの時間なんですか？

李 僕にとっては普通だから（笑）。ま、ゆっくりしていってよ。

――では、締め切り直前なので、ちょっと一杯だけ（笑）。

【09年12月12日／都内・李春成さん自宅にて収録】



り・はるなり■1956年6月24日、東京都出身。84年のロサンゼルスオリンピックを契機に編集者からフリージャーナリストに転向。スポーツを柱にしながらも、広い意味でのエンターテインメント空間を描いてきた。著書に『不器用な王者たち』（ぴあ刊）、『職業・柔道家』（ネコ・パブリッシング刊）など。

――長南選手、今回は大晦日の吉田秀彦vs石井慧戦についてお聞きしたいんですが、その前に、長南選手自身の出場が発表されませんが……。

も話をしてて、そのこと自体、双方が知ってるという状況で。


――なるほど。

長南 情とかの話になっちゃうとキリが

緒に練習したことがあるんですよね。でも途中から来なくなって、そのあたりから、「これは二人が闘うことになるんだろ

長南 「オレはもう歳だ」「疲れた、疲れた」って言いながら（笑）。

――ああ、よく煽りVでも自分のことを



吉田さんはいま最高の状態です！

ピラニアが語る柔道王
長南亮

長南亮は吉田道場所属ではないものの、出稽古で頻繁に吉田道場を訪れ、選手たちとプライベートでも密接な関わり合いを持っている。吉田秀彦の試合にはセコンドにもついたことがあるが、石井慧戦を直前に控えた柔道王の状態をどう見ているのか？

聞き手／高崎計三

あえてなのか、石井のことは吉田さんは一切口にしないんです

——長南選手、今回は大晦日の吉田秀彦vs石井慧戦についてお聞きしたいんですが、その前に、長南選手自身の出場が発表されませんが……。

長南　今年はないですね。

——そうなんですか⁉　当然どちらか、いや両方からオファーがあってもおかしくないと思うんですが。

長南　まあ、僕もどちらかのイベントには出るつもりでいたんですけどね。それで、どっちに出るか決断しないといけないタイムリミットが迫ってまして。自分としては一つに選ぶってことはしたくなかったんですけど、両方同時に出るのは不可能なんで。

——さすがに長南選手でも物理的に不可能ですよね（笑）。

長南　それで、双方の条件を見て決めなきゃいけないなと思ってたら、『戦極』のイベントがキャンセルになっちゃって、いまのようなメチャクチャな状況になっちゃったんで。どっちにもレギュラー参戦してた選手も試合が決まらないような状況なんで、まったく自分が入り込む余地はないな、と。こうなることを知ってたら、DEEP CAGEに出てればよかったなと思いましたよ（笑）。

——引き合い自体は、両方からあったんですね。

長南　そうですね。どちらともつながりがあったんで、もう条件を出してもらって、それを見て決めるしかないなと、マネージャーとも話してたんです。どっちとも話をしてて、そのこと自体、双方が知ってるという状況で。

——なるほど。

長南　情とかの話になっちゃうとキリがなくなるし、どっちの関係者にもお世話になってたんで。アメリカに行っているあいだも、両方から応援してもらってましたし。

——今回は残念ですが、次に期待してます。さて、吉田vs石井戦なんですが、この一戦が決まる頃も長南さんは吉田選手と一緒に練習してたわけですよね。

長南　石井も吉田道場に練習に来てた時期があって、吉田さんと石井も、たぶん一緒に練習したことがあるんですよね。でも途中から来なくなって、そのあたりから、「これは二人が闘うことになるんだろうな」となんとなく予想はしてたんですけど。

——吉田選手は、石井選手のことを何か言ってました？

長南　あえてなのか、何にも言わないんですよね。練習してる時期も、石井がどうこうっていうのは一回も聞いたことがないです。オリンピックのこととかについても、まったく話してなくて。

——やっぱり、それだけ意識してたんですかね。

長南　ホントになんにも言わないんで、それもわからないんですよね。普段の試合前は「どういう攻撃がきそうかな」とかって聞かれたりすることもあるんですけど、今回はそれもなくて。まあ、それだけ相手がつかみどころがないんじゃないかっていう気もするんですけどね。まだデビューもしてないんで。

——そういう意味では情報がないわけですよね。

長南　柔道以外の、総合での動きは確立されてないわけだし、実際、本番になってどういう動きをするのかもわからないですからね。だからなのか、いろいろ思うところがあるのか、それはわからないですけど。

——いつもなら長南選手も含め、周囲から相手の情報は集めてるわけですか。

長南　でも、吉田さんは基本的に新しいことを取り入れるってことはないですからね。吉田さんのスタイルでずっとやっているというか。だから、いっつもネガティブなことを言いながら練習する感じで。

——ネガティブ？

長南　「オレはもう歳だ」「疲れた、疲れた」って言いながら（笑）。

——ああ、よく煽りVでも自分のことを「オッサン」って言ってますよね。

長南　でもここ数年、吉田さんを見てる中では、いまは最高の状態なんじゃないですか。

——ホントですか！

長南　気持ちの入り方とか、コンディション的にも。ここ数年はよくやってたなっていうか、いい試合できてないときは、練習のときから「これでよく試合できるな」って感じだったんで。それだけ懸けてるものがあるんじゃないですかね。

——なるほど。周りもそれをサポートしてる感じですか？

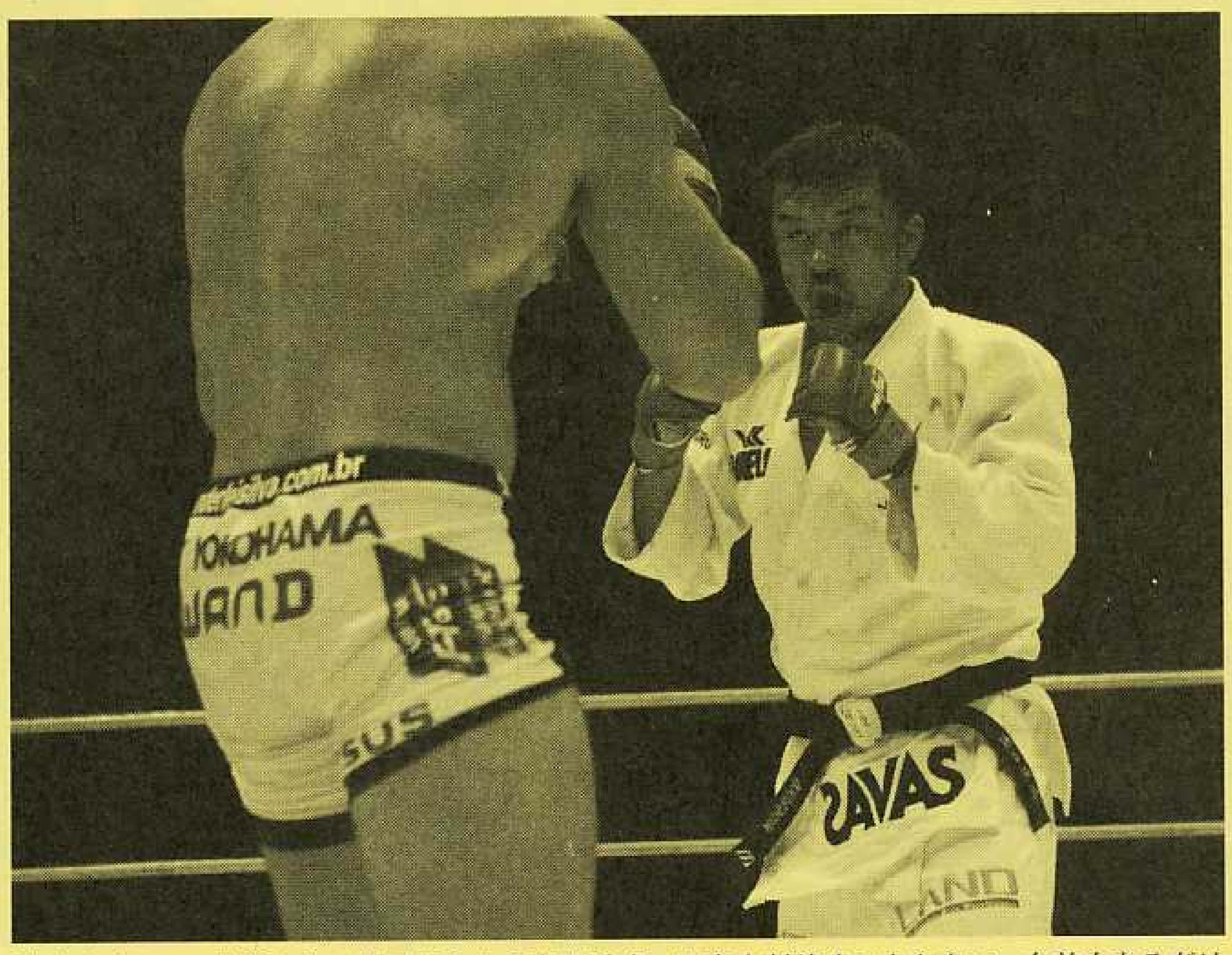
長南　いや、でも本格的な練習は髙阪剛さん、髙橋和生さんとか同年代の人たちとのほうに移してる感じなんですよね。若い選手たちとガンガンやるというより、髙橋さんたちとずっとやってるんじゃないですか。ボクシングジムを紹介してもらってやったりもしてるみたいですけど、まあ若手に対する意地みたいなものもあるんじゃないですか。

——じゃあ、最近は練習はそんなに一緒にはしてないんですか？

長南　そんなこともないですよ。一緒にすることもあるんですけど、今回はメインはなぜかそっちという感じで。いままでの試合とはちょっと違うのかなと、勝手に思ってるんですけどね。やっぱり若手だと「おまえらは若いからな」って言えますけど、同世代の人たちにはそれは言えないですからね。

——逆にそっちで追い込むわけですね。

長南　わざとそうやってるのかもしれません。全部予想ですけどね。何を考えてる



試合のオファーを断らない男で知られる吉田秀彦。日本人対決もいとわない。名前もあるだけに主催者からすれば、非常に使い勝手があるし、頼りになるファイターだ。振り返ると吉田絡みのビッグマッチは非常に多い。



吉田道場の結束力は吉田の人柄によるところが大きい。ちなみに写真の走り込み合宿には長南も参加していたが、熟睡中のため記念撮影には不参加

吉田さんは一回だけ練習した人でもチケットを買って応援に行く

のか、あんまりよくわからないんで（笑）。
——べつに打ち解けてないわけではないんですよね？
長南　ええ、よくプライベートでも遊んでもらったりしますしね。ただ、言葉でどうこうというタイプじゃないというか、なんでも思いついたら直感的に動くほうなので。急に思い立ってキックボクシングのスパーリングに行ったりとか。なんでも直感と思いつきの方ですよ。あんまり計画的な感じではないですね。
——へえ〜。でも道場のメンバーとか、練習に来てる選手からは慕われてるんですよね？
長南　慕われてるというか、カズ（中村和裕）とか凄く近い選手は、あんまり入っていかない感じですよね。自分のほうがよっぽどしゃべるんじゃないかと思いますね。
——そうなんですか。
長南　やっぱり同じ会社の先輩だと、また違うんじゃないですか。こっちは練習はしてても、会社は違うわけですから。
——それだけまだ楽に接することができる、と。
長南　遠くはないですけど、あくまで外ですからね。柔道界の先輩とかでもないんで、そういうふうに構えるところはないですね。中の人から見たら、やっぱり吉田道場の看板的存在なわけですから。
——真面目でストイックなイメージがありますが、そうでもないという声も聞きますよね？
長南　そういう部分もあるだろうけど全然違うと思いますよ。
——全然（笑）。
長南　あれは作られたイメージですよ。遊びも好きですしね。本当はむしろオレに近いんじゃないかと思いますね。酒飲んで騒ぐ姿とかも。
——似たものを感じる、と。
長南　似たもの以上ですね（笑）。この前もメシ食ってるときに、一緒に行かせてもらったハワイ合宿の思い出話をしてたんですけど、酒を飲みまくった話ばっかりでしたから。テレビだとお堅いイメージがありますが、本当にそういう人だったらいまみたいに仲良くはできなかったでしょうからね。
——よく飲みに行くんですか。
長南　自分はたまにですけど、練習仲間たちで飲んだりすることもありますよ。基本的に盛り上げ役ですよね。真面目な話なんか一切しませんから（笑）。楽しく楽しくって感じで。あと、やっぱり話しても思いつきの人ですよね。
——というと？
長南　ついこの前もメシ食いに行ったんですけど、いきなり「長南、ラーメン屋やらない？」って言い出して（笑）。
——ホントにいきなりですね。共同経営的なことですか？
長南　いや、試合が流れてしまったオレに勧めてるだけで。何か、知り合いにラーメン屋やってる人がいるから、その気があるならいつでも紹介するよ、ってことで。オレ、「ラーメン屋やりたい」とか一回も言ったことないんですけどね（笑）。
——突拍子もなく（笑）。
長南　まあ、引退後のこととかも考えてくれてるってことだと思うんですけどね。だから、日頃は明るくて豪快な兄貴分っていう感じですよね。あと、自分が接した人間の試合は、どんな小さな大会とかでも、必ずと言っていいほど応援に来てくれますね。団体とか会場の規模によらず。

そういうところに吉田さんみたいな人が行ったら騒がれたりしそうですけど、それは気にせずに来てくれるんですよ。キックで一回だけ一緒に練習したような人

いけそうなときとか、そういうときの吉田さんって凄い強いと思うんで。そういうところの対決だと思います。石井はデビュー戦だし、ここで自分の価値が問わ

長南　今回は全部、自分から進んで動いてたりとか、フィジカルとかもしっかりやってたりとか、だいぶ違いますね。だから、あの頃並みとは言わないですけど、ざ

長南　はい、まったく選ぶことはないんで。
——金メダルというキャリアがありながら、打撃にも積極的に臨んだり。

そういうところに吉田さんみたいな人が行ったら騒がれたりしそうですけど、それは気にせずに来てくれるんですよ。キックで一回だけ一緒に練習したような人でも、チケット買って応援に来てくれたりとか。

——それは、練習した選手は嬉しいですよね。親分肌というか。

長南　はい。温かさを感じますよね。そういうところであまり人の目を気にする人じゃないんで。あとは、観るのが好きなんじゃないかなというのも感じますけどね。

——いやあ、それは慕われますよね。

長南　それも全然計算してるわけじゃないし。純粋に応援してくれてますからね。有名な人だけど、偉ぶるところがなくて、男が惚れる人という感じですね。だから、練習仲間だけじゃなくていろんな人が周りに集まってくるんじゃないですか。

——なるほど。さて、石井戦ですが、長南選手はどう見ますか?

長南　身体では石井のほうが上回ってると思うんですよね。コンディションとか、若さとか。そこに吉田さんの気持ちとか根性で対抗していくかたちじゃないですか。あと、何かここ一番のパワーっていうのは吉田さんのほうが強いと思うんですよ。そういうものは持ってる人だと思うんですよね。追い込まれたときとか、逆にいけそうなときとか、そういうときの吉田さんって凄い強いと思うんで。そういうところの対決だと思います。石井はデビュー戦だし、ここで自分の価値が問われる試合だと思うんで、気合いは入ってるでしょうけどね。その彼のフィジカルに、吉田さんが気持ちで向かうという試合じゃないですか。

——吉田選手のここ一番の強さをいままでに感じた場面はどのへんですか?

長南　自分は二回目のヴァンダレイ・シウバとの試合でセコンドについたんですけど、判定2—1で負けましたけど最後のほうは首を極めそうになったりとか、殴り合いでも引かなかったりとか。あの頃はやっぱりピークだったんじゃないですかね。ここ数年は自分の身体にむち打ちながらという感じで、あまり楽しそうな印象はなかったですね。

——でも、今回は違うと?



ちょうなん・りょう■1976年10月8日、山形県鶴岡市出身。上京後、U-FILE CAMPに入門し、01年にプロデビュー。04年からはPRIDE武士道に参戦。現UFCミドル級王者アンデウソン・シウバにフライング・レッグロックで一本勝ちしたことも。09年4月までUFCに参戦していた。177cm、77kg。

吉田さんが若いときから総合をやっていたらバケモノになっていた

長南　今回は全部、自分から進んで動いてたりとか、フィジカルとかもしっかりやってたりとか、だいぶ違いますね。だからあの頃並みとは言わないですけど、だいぶ戻ってきてるんじゃないですか。だから楽しみですね。

——下馬評としては石井選手という声も多いようなんですが。

長南　石井がよくわからないですからね。吉田道場に来ていた時期はあまりいい動きはしてなかったんですけど、ただ彼は練習量も多いし真面目なんで、そのときとは別人でしょうね。デビュー戦だし、初めてやる中でどういうものを見せるか、楽しみですね。予想は立てられないですけど(笑)。

——不確定要素が多いですからね。

長南　だから、ラスベガスで賭けの対象になっても、オッズがつかないと思いますよ。対象外になっちゃうでしょうね。吉田さんが有利だと思いたいですけど。

——吉田選手にしても、いまの石井選手の情報は少ないわけですよね。

長南　そういうことは気にしてないんじゃないですかね。それよりも自分の体調を整えたりとか、そういう部分だと思いますよ。格闘技界がゴチャゴチャして、気持ちが上がらないときとかもあると思うんですけど、しっかり練習はしてますからね。

——でもPRIDE時代から、相手を選ばないし、どんな相手にもしっかり向かっていきますよね。

長南　そうですね。ただ、そこは自分も同じですからね。やっぱりプロなら、言われた相手とやるのがあたりまえなんで。自分が共感できるところではありますね。

——確かに長南選手もそうですね(笑)。

長南　はい、まったく選ぶことはないんで。

——金メダルというキャリアがありながら、打撃にも積極的に臨んだり。

長南　ただ、もしもっと若い頃からやってたら、とんでもないバケモノになってたんじゃないのかなとも思うんですよね。たとえばUFCトップクラスとも争えたんじゃないかぐらいの。そういうのを持ってる人ですよね。一番最初に吉田さんと練習したときに、「柔道家ってこんなに強いのか」って驚いたんですよ。パワーとか。それからほかのメダリストとも練習したんですけど、吉田さんほど桁はずれたものは感じなかったんですよね。

——才能が飛び抜けてたわけですね。

長南　それでもコンディションが落ちてきてからの話ですからね。もし金メダル獲った直後とかに総合をやってたら、とんでもないことになってたんじゃないかと。それはファン心で観てみたかったですね。

——ほかの選手とはどう違うんですか?

長南　基本的にみんな腰の強さとかキレとかプレッシャーとかあるんですけど、吉田さんはおかしい力を持ってるんですよ。

——おかしい力(笑)。

長南　鉄みたいな、ホントに。柔道マシーンみたいなのを相手にしてる気にさせられるときがありますね。人間離れしたような。最近は、そういう感じにちょっと戻ってきてるんですよね。

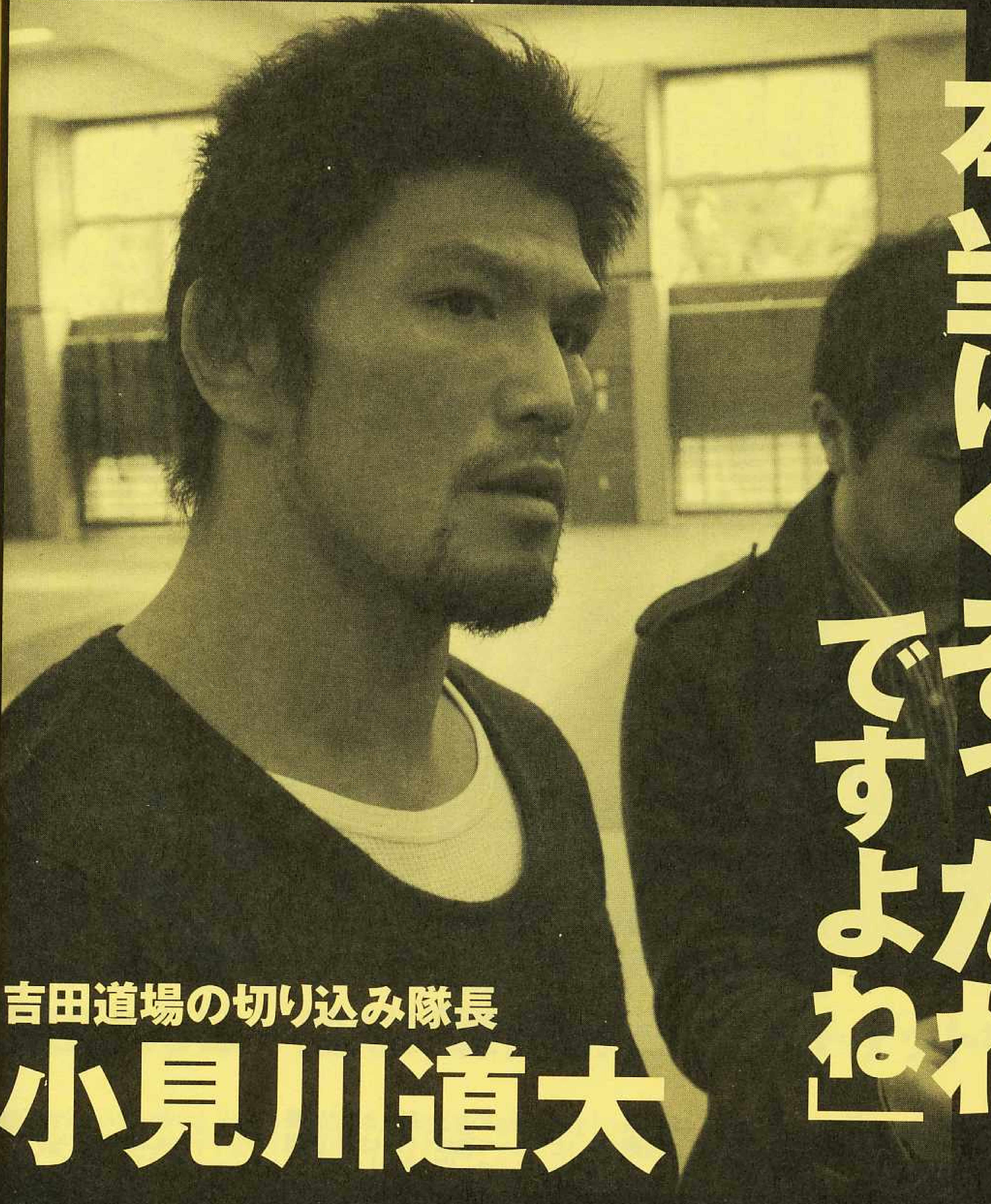
——再びマシーンになってる、と。

長南　そうですね。だから楽しみです。

——こちらもが然楽しみになってきました! ありがとうございました!

【09年12月10日/電話取材にて収録】

ー!!
こ
?
ショックか
006年6月
格闘技のミ
もしろい!
in.co.jp/



吉田秀彦に続き、この男も大激怒だニャー!!

「試合があるのかもわかんない。本当にくそったれですよね」

吉田道場の切り込み隊長

小見川道大

締め切りのくそったれ!! この号が店頭に並んでいる頃にはもしかしたら発表されているかもしれないが、今年『戦極』でブレイクした小見川道大の大晦日出場が12月13日時点で決まっていない。

本来ならば『戦極』有明コロシアム大会で金原正徳が持つフェザー級タイトルに挑戦するはずだったが、イベントの消滅に伴い白紙になってしまった。

いったい小見川の『Dyamaite!!』出場はあるのか? 12月13日、『VIVA! JUDO』に参加した小見川が〝くそったれ!〟節で胸中を明かしてくれた。

(試合がまだ決まってませんが) 腹立たしいですよ。これこそ「くそったれ!!」ですよ! もともとタイトルマッチっていう話だったじゃないですか。なんか上の事情だかしらないですけど、選手には関係ないですから、そんなこと (吐き捨てるように)。

(対抗戦より、タイトル戦がやりたい?) いやいや、そういうんじゃなくて、やるのか、やらないのか。もう3週間も切ってるのに、それすらもわからないじゃないですか。それを早く決めてほしいですよね。

(発表の遅い向こうのペースに合わされるのがイヤだ?) 向こうのペースっていうよりも、べつになんにも謝罪もないわけじゃないですか。こっちは夏開けてタイトルマッチにもこぎつけたわけですから。それに対して試合をやりますよとか、早く決めてほしいですよね。

(練習は普段どおりに?) はい。大晦日に出たい気持ちは強いですよ。

(金原正徳とのタイトル戦は消滅濃厚だが?) タイトルマッチは……いまそれは頭から消えたんですけど、ただ試合があるのかないのかもわかんないっていうのは、本当にくそったれですよね。

(タイトルマッチを抜きにするとDREAM勢とは闘いたいか?) そうですね、はい。やりたいっていう気持ちはありますね。

いつでも闘ってもいいように、明日からちょっと合宿に行きます。千葉です。(自転車修行か?) 自転車はやんないです。スパーリング中心ですね。(吉田選手も行くのか) いや、相手がいないんでいかないですね。

(体重は63キロでやるのか) 63キロは無理ですね。落ちないです。こんなに決まってないのにいきなり63まで落とせって言われても無理っすよ。(いまの体重は?) 72か73ですね。(通常の試合前の体重と同じか) このままですね。

(まだ主催者からは連絡ないのか) 何も。(國保尊弘代表がSRCの取締役を解任されたが) あんまり上の事情っていうのは、選手は試合をやるだけなんで。そういうことはわからないですね。

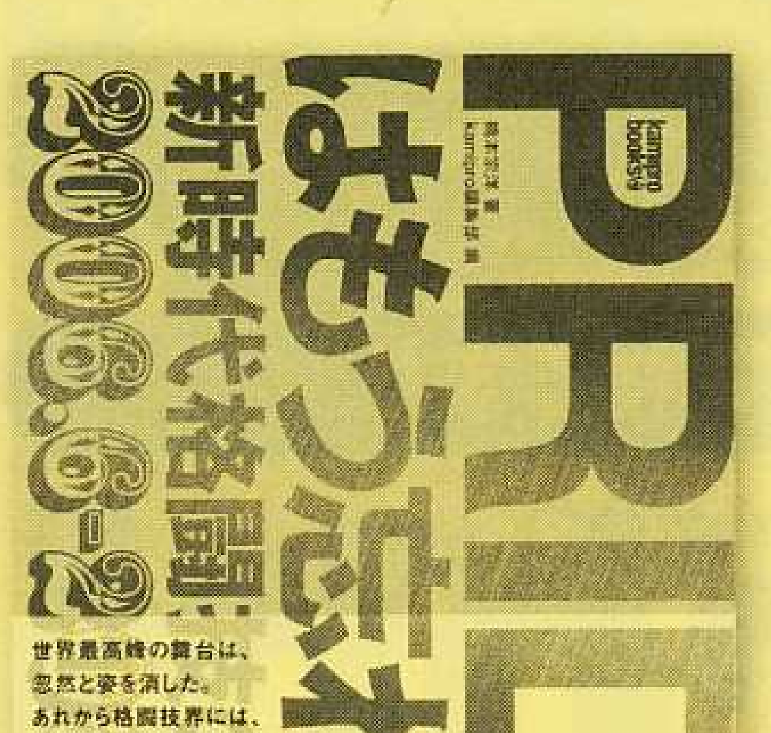
(来年も続けてSRCで?) それもちょっと……何もわからないです。

あくまで現時点の噂ではあるが、小見川には所英男 or 高谷裕之戦がリストアップされているというが、はたしてどうなるか。大晦日に「くそったれ!!」節を響かせる小見川が見たい!!

フジテレビショックからDREAM.11まで――!!

日本格闘技界に何が起こっていたのか?

MMAクロニクル
『PRIDEはもう忘れろ! 新時代格闘技のミカタ』発売!!



「残酷だって? 人生ってのはそもそも残酷なもんなんだよ。負けはしたけど、俺はマークを尊敬するね」(フィル・バローニ)

人生は残酷だ。格闘技も残酷だ。誰もが残酷の中で闘っている。フジテレビショックから、DREAM.11まで。日本格闘技界はいろいろなことがありすぎた。本書は2006年6月から2009年10月まで、格闘技界で行なわれた試合、事件を通して"新時代格闘技のミカタ"を提唱するものである。ミカタは見方であり、味方だ。やっぱり格闘技はおもしろい!

全国書店にて絶賛発売中!!

B6変型判 336ページ 定価=1,680円(本体1,600円+税) 橋本宗洋 著/kamipro編集部 編
発行/エンターブレイン 発売/角川グループパブリッシング

本書は『kamipro』、携帯サイト『kamipro.Move』に掲載された橋本宗洋氏の原稿を厳選のうえ、加筆・修正したものです(一部書き下ろしあり)。

enterbrain 発行/株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表)
発売/株式会社角川グループパブリッシング
[エンターブレイン総合サイト] http://www.enterbrain.co.jp/



kamiどうなる'09大晦日
『Dynamite!!』
直前スペシャル近日配信
笹原圭一DREAMイベントプロデューサー

もちろん日本の大会も総力取材!!　大晦日のビッグマッチも速報します!!



美女格闘技『ジュエルス』BLOG

注目の美女格闘技イベント『ジュエルス』のBLOGを毎日更新中。月替わりの12月担当はHIROKOです!!



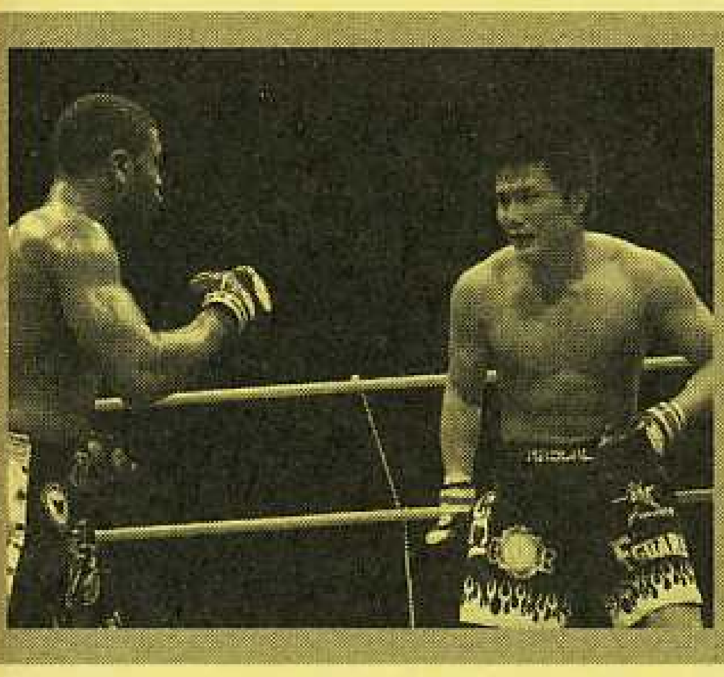
金沢“GK”克彦 こちらプロレス村役場ドットコム

元『週刊ゴング』編集長・金沢“GK”克彦氏が、プロレス界の最前線で見てきたこと、取材したことを週一回のコラムで激筆!!



週刊!? ワオ木真也

携帯サイト『kamipro Move』で大好評不定期連載中の青木真也のコラムがこちらで一部のみ読めてしまう!! いま最も注目すべき世界的なファイターの素顔に迫る!!



試合速報

注目の試合の内容をいち早く速報します。試合の写真はもちろん、試合後のコメントなども細かくレポート!! 生観戦後も必読ですよ。



ニュース

カード発表や重大発表など、規模の大小にかかわらず記者会見の模様を素早くお伝えします。最新情報はここで読もう!!

最新号情報

次号の表紙は?　内容は?　そんな疑問にいち早くお答えします。雑誌『kamipro』およびkamipro booksシリーズの発売情報はこちらで!!



青木真也『週刊!? ワオ木真也』を一部公開中です!!

プロレス&MMAの総合WEBサイト

kamipro.com

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

カミプロドットコム

無料です!

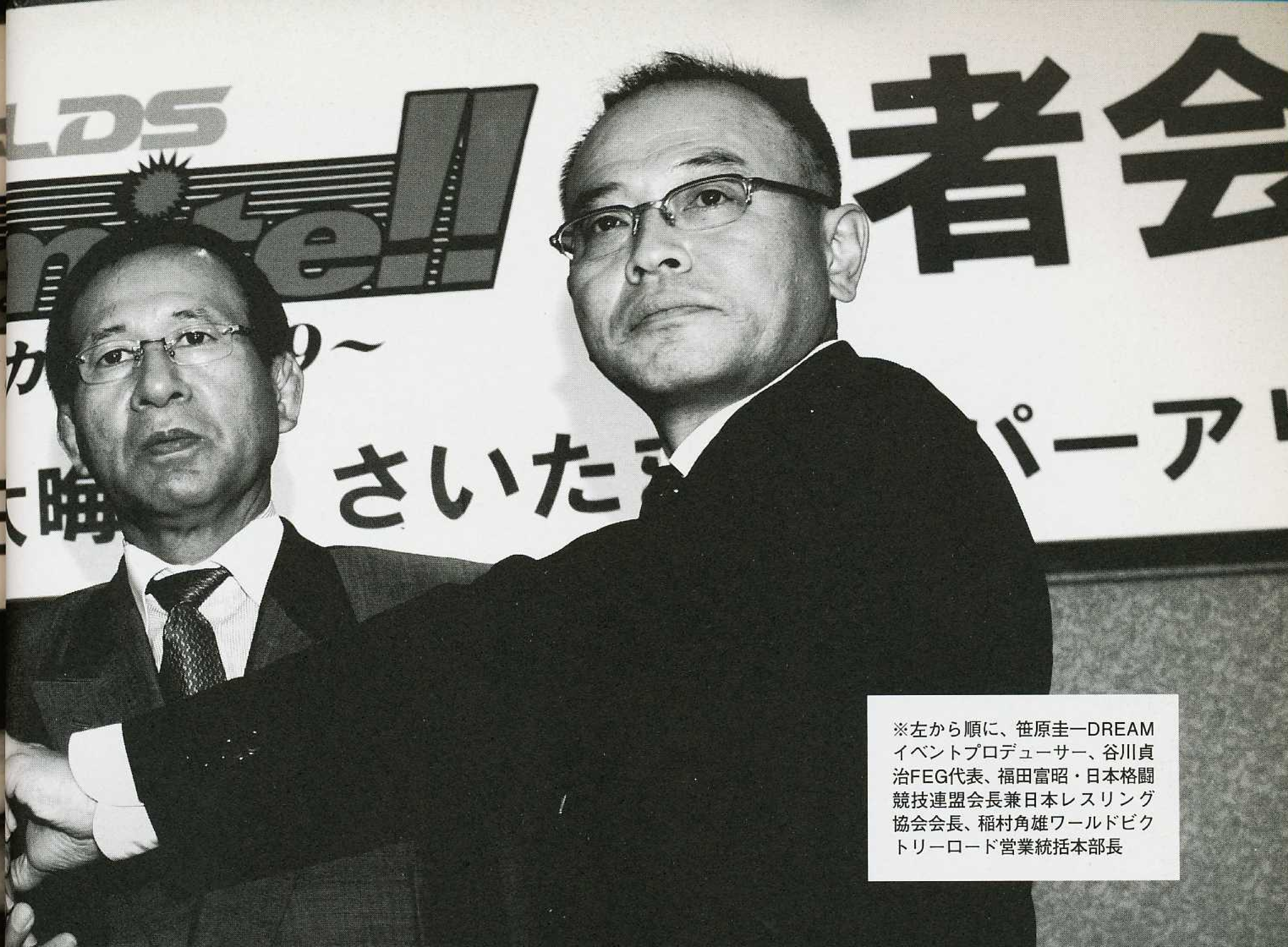
レッツ毎日アクセス → http://www.kamipro.com/



DREAMとの対抗戦実現! 國保取締役解任!
戦極あらためSRCは波乱の船出――

戦極は どうなってしまうのか?

『戦極』の門をくぐると、そこは『Dynamite!!』だった……!?
『戦極』あらため『SRC』として大晦日に有明コロシアムで生まれ変わるはずが、結局は『Dynamite!!』との合同大会に。
國保取締役の突然の解任など、大晦日を前に波乱続出の『戦極』の舞台裏にこっそりと潜入!



※左から順に、笹原圭一DREAMイベントプロデューサー、谷川貞治FEG代表、福田富昭・日本格闘競技連盟会長兼日本レスリング協会会長、稲村角雄ワールドビクトリーロード営業統括本部長

』と電撃合体の裏で

起こっているのか——

うわ〜ん！　うわ〜ん！　いったいぜんたい『戦極』はどうなっちゃうんだよぉ‼（号泣）。

というわけで、大晦日の『Dynamite‼』で『戦極』とDREAMの対抗戦が決まり、盛り上がりを見せる格闘技界だが、『戦極』としては決して浮かれてばかりはいられないのだ。

ここ数ヵ月の『戦極』周辺の動向を振り返ってみると、まずは『東スポ』にて「DREAMと『戦極』の対抗戦が『Dynamite‼』で実現」との記事が掲載されてから約1週間後の11月20日、『戦極』を主催するワールド・ビクトリー・ロード（以下・WVR）から大晦日に有明コロシアムで予定されていた『SRC』の会場変更がリリースにて発表。WVR菅原邦夫代表名義で送られてきたリリースによると『SRC』は「現在人気が殺到し、有明コロシアムでは収容しきれない可能性も」あるとのことで「別の大きな会場を調整中」だという。新たな会場および内容については「近日中に発表」と書かれていたが、このリリース到着から5日後の25日（水）、都内にて『Dynamite‼』の会見が行なわれ、かねてから噂されていたDREAMと『戦極』の対抗戦の開催が正式に発表された。

この大連立会見の前に発売された『kamipro』をはじめ専門誌すべてに登場した谷川貞治FEG代表は、会見よりも先に対抗戦の実現を明言し、今回の大連立は『戦極』のビッグスポンサー、ドン・キホーテ安田隆夫会長のおかげとあちこちでアピール。

しかし、『SRC』の中止、もしくは延期というのはかなり早い段階から噂されていたのも事実。今回の合同大会決定の裏には「吉田vs石井というビッグカードが決まっていながら地上波中継を獲得できず、安田会長が激怒した」だの、「収容しきれないほど売れていたはずのチケットはじつはそれほど売れていなかった」、さらには『スポーツニッポン』のように「大会中止は地上波放送交渉の難航と資金難」が原因とズバリと報じたところもあった。

大連立会見の際に谷川代表は『戦極』サイドとの交渉について「『戦極』さんには二人のオーナー（ドン・キホーテ安田会長&CWE柳田康友会長）がいらっしゃるので3人で話し合いました」と説明し、これまで『戦極』のスポークスマンとして活躍して



混乱は大晦日だけでは終わらない!?

『Dynamite!!』との

戦極に何が起こ

大連立会見の際に谷川代表は『戦極』サイドとの交渉について「『戦極』さんには二人のオーナー（ド

ン・キホーテ安田会長&CWE柳田康友会長）がいらっしゃるので3人で話し合いました」と説明し、これまで『戦極』のスポークスマンとして活躍してきた國保広報は話し合いの場に加わっていなかったとあらためて明言（この会見で柳田会長の存在を知った人も多かったはず）。

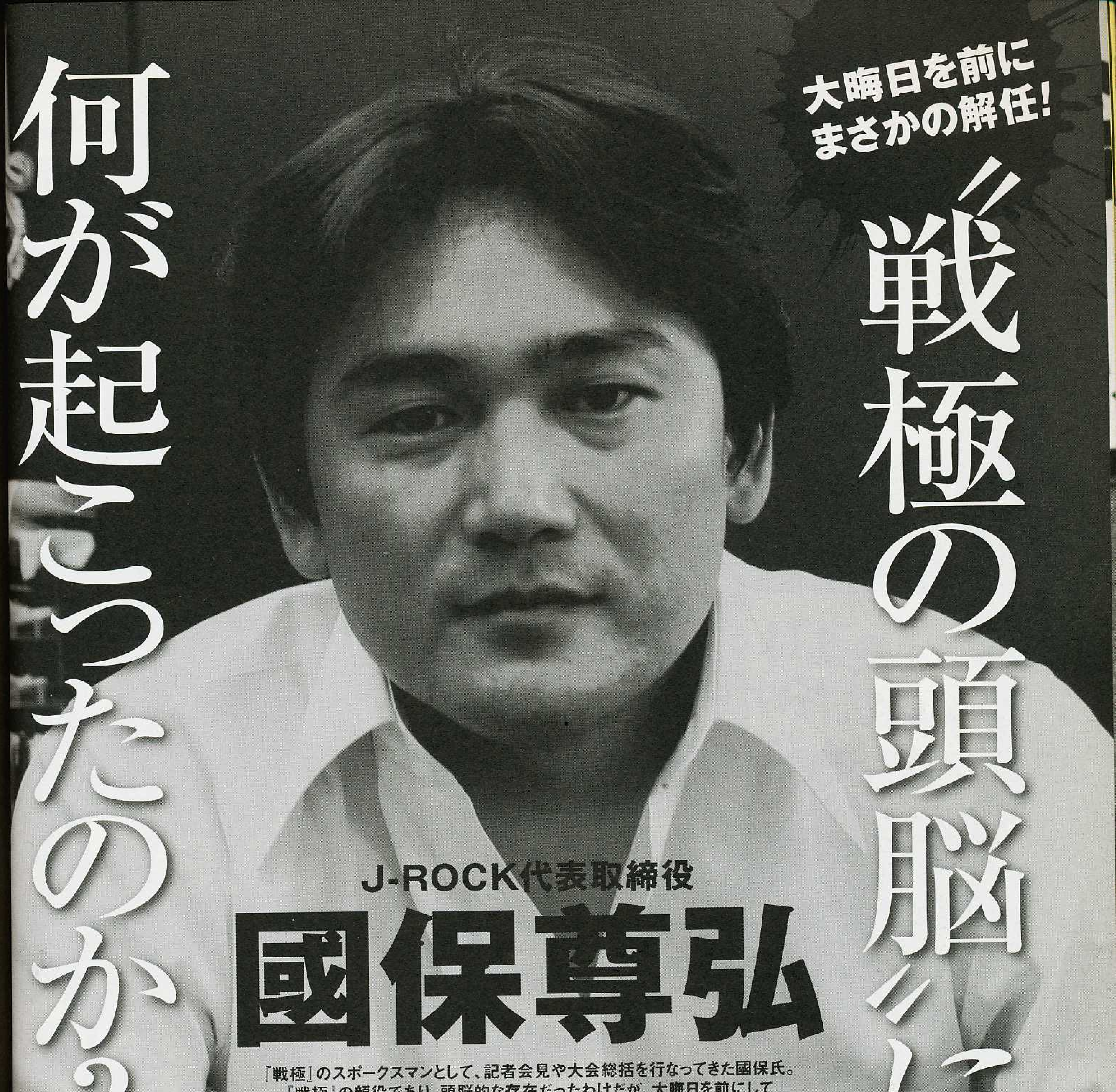
國保広報といえば、大会後には全試合をたっぷりと総括することでおなじみで、K—1なら谷川EP、DREAMでは笹原EP的存在。なおかつ吉田秀彦や小見川道大ら吉田道場勢が所属するJ—ROCKの代表でもあるため、交渉の場に入っていないのは不自然な気もする。

実際、大連立会見には國保広報も姿を見せていたが、『戦極』の顔として壇上に上がったのはマスコミの前には初めて登場となった〝WVR営業統括本部長〟稲村角雄氏。稲村氏は、来年以降のドンキと『SRC』の関係を聞かれると、「私はドン・キホーテの役員（常務取締役兼CCO）も兼ねていますが、来年以降も総合格闘技を応援していくことに変わりはありません」と断言。次回大会も3月に予定しているということで、「いままで以上に『戦極』を力強くバックアップしていく」とキッパリ。

しかし、戦極の乱は止まらない。大連立会見の翌日には、またしてもWVR菅原代表名義のリリースが各マスコミに到着。その内容は「國保取締役解任」というショッキングなもの。その理由として「取締役解任に相当する事由があったと認められた」と書かれているが、具体的な理由は明らかにされていない。なお、國保氏の後任には前日の会見に出席した稲村氏が選任され、今後『戦極』では國保氏に代わって稲村取締役がスポークスマン的な役割をはたしていくことになるという。

そうと決まれば話は早い。DREAMとの対抗戦が決まった『戦極』側の顔としてアピールしてもらうべく稲村取締役にインタビュー取材を依頼するも、多忙と國保氏解任後の新体制が固まっていないとのことで、結局、取材は受けてもらえず。

ならばと、次のページから國保氏に『戦極』の動乱ぶりを語ってもらった。シャキーン！



大晦日を前に
まさかの解任!

〝戦極の頭脳〟に何が起こったのか?

J-ROCK代表取締役

國保尊弘

『戦極』のスポークスマンとして、記者会見や大会総括を行なってきた國保氏。『戦極』の顔役であり、頭脳的な存在だったわけだが、大晦日を前にしてまさかの取締役解任という事態が勃発!! 一寸先は闇というが、格闘技界は何が起きるかわからない……とりあえず本人インタビューをシャキーン!!

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／乾晋也

――今回の大晦日の件で、國保さんは格闘技界では一躍〝時の人〟になってるんですよ。

國保　そうなんですか?（苦笑）。

――ファンからすれば「いったいどうなってるの?」という状況になってますから。大晦日は『Dynamite!!』を観戦されるんですか?

國保　まだ決めてないですね。これから調整します。

――今日現在12月8日ですが、吉田（秀彦）選手は『Dynamite!!』で石井慧選手と闘うことになっていますけど、実際にこの試合は行なわれるんですか? 雲ゆきが怪しいムードも若干ありますが……。

國保　「行なわれますか?」って、ウチが主催するわけじゃないからね。こちらは選手を出すということだけですから。行なうか、行なわないかは主催者に聞いてもらわないとわからないですね。

――でも、先日に行なわれた合同会見のときには、正直吉田さんは微妙な発言をしてました。「『戦極』では決まったカードですけど、ここでやるんですか?」みたいなことを言ってましたけども、J-ROCKの代表としてのお考えはどうなんでしょうか?

國保　まあ大晦日の流れは、いままでの流れを汲んでいったほうがいいと思いますけどね。ただ、戦極を旗揚げから引っぱってきた吉田としては、現状を飲み込むのに時間がかかるのではないでしょうか? とはいえ、決定したことですから、マインドを変えて石井戦に向けてよい調整をしてもらいたいと思います。

――なるほど。そもそも『戦極』の有明大会を中止して、『Dynamite!!』に合流するのは前代未聞の出来事ではありますよね。

國保　そうですね。『戦極』に対する思いは当然いろんなかたちでありましたけども、今回の件はあくまでも会社（WVR）

國保　そうですね。『戦極』のオフィシャルホームページをはじめ、選手交渉など多くの業務を我々のほうで管理してまし

らすれば食い違いがありますよね?

國保　そこは本当にわからないですね。17日には正式に辞任書もお渡ししてます

と思うん

――でも

『戦極』

國保　そうですね。『戦極』に対する思いは当然いろんなかたちでありましたけども、今回の件はあくまでも会社（ＷＶＲ）の決定ですから、仕方ないと思います。

――今回の動きは谷川さんいわく、10月の末ぐらいからドン・キホーテの安田会長と話をして進めていたということですけど、そうするとそれは11・7『戦極』両国大会の前からの話になりますね。

國保　そうなりますけど、ボクはその交渉をしていませんから。大晦日の有明をやめるという話が本格化してきたとともに、11月10日の役員会で取締役辞任の意向は伝えてあるんですよ。

――そういった報道もされてますよね。なぜ國保さんのほうから辞めるという判断をされたんですか？

國保　（大晦日の興行が）一つになることで非常に喜んでくれるファンの方々もいると思うんですけど、逆に有明大会を期待してチケットを買ってくれたファンもいるんですね。それにテレビ局関係、放送関係、関係者、協力者、イベントスタッフ……いろんな人たちが有明大会に向けて調整していた、と。だから、一つになるということで当然、大会としてのバリューは大きくなりますし、もしかしたら喜ばしいことであるのかもしれないですけど、反面迷惑をかけたところもたくさん出てきたんです。ボクが今回の件を報告して、いろいろと調整はさせていただいたんですが、ただ、今後『戦極』の広報として、このような結果になったにもかかわらず、継続してやっていくことはできないだろうと。

――では、11月10日の時点で『戦極』の内部的には、國保さんは外れる流れになってたんですね。

國保　そうですね。『戦極』のオフィシャルホームページをはじめ、選手交渉など多くの業務を我々のほうで管理してましたけども、そういった業務なんかも引き継ぎしています、現在は新しいスタッフで行っていると思います。

――その「我々」っていうのはＪ－ＲＯＣＫということになるんですか？

國保　そうですね、関連会社も含みますけど……ＷＶＲから委託を受けていた業務を、中途半端にそこだけ携わるということもできないと思いますから。ですからボクらのスタッフが関わってる業務は10日以降、順次引き継ぎをしていった、と。有明大会中止というリリースも、もう我々の手を離れてやっていたということですね。

――でも、そのあとに國保さんの取締役解任というリリースがありましたけど、10日で辞任の意向を伝えているというお話か



合同会見の席上に國保氏の姿はなく（会見場には訪れていたが）、数日後、『戦極』から取締役解任のリリースが流された。何か起きているのは明らかだ……。

らすれば食い違いがありますよね？

國保　そこは本当にわからないですね。17日には正式に辞任書もお渡ししてますし、そういった文書も送ってますし、実際業務も事前に引き継いでますからね。（解任のリリースに）どういう意味があるのか、そこはちょっとわからないですね。

――そのリリースの文面よると「取締役解任に相当する事由があったと認められた」と。読む人が読むと、何か悪いことをしたんじゃないかってとられちゃうと思うんですけど。

國保　そこはわからないですね。

――正直、納得できない部分もあったりしますか？

國保　納得できる、できないというより、あまりそこを重要視してないですね。ボクとしては10日に意向を伝えた時点で、とにかく業務を円滑に引き継がなきゃいけないということと、会社（ＷＶＲ）としての意に沿って選手たちにも話さなきゃいけないと思って話してきたし、謝罪も含めて関係各所に出向いたつもりでいますし。

――繰り返しの質問になっちゃいますが、國保さんもＷＶＲ取締役として谷川さんと安田会長の話し合いの場にいないのはやっぱり見る人から見たらへんだと感じると思うんです。しかも國保さんは吉田道場を抱えた立場でもあったりするじゃないですか。

國保　吉田道場うんぬんはまったく関係ないと思います。ＷＶＲと吉田道場を一緒にしてしまうとおかしくなってしまうと思うんで。

――でも、選手をマネージメントしつつ『戦極』の広報を同時にやってるというやりづらさはありませんでした？

國保　う～ん、そうですね、吉田道場の選手に対して〝逆えこひいき〟をしてしまうということですね。

――マッチメイクであったり判定を含めて「吉田道場だから」っていう声が当然出てくるということで。

國保　判定に関してはボクらが一切携わってるところじゃないんですよ。これに関しては梅木（良則）さんというしっかりとした審判部長がいてですね、ここに一任ですから。ボクらが口を出すことっていうのは一切ないわけですね。ですからそれ以外の部分で吉田道場の選手だけをえこひいきしてるように見られないように、ホントに公平に扱ってきたつもりだし、しいて言うなら〝逆えこひいき〟みたいになってたかもしれないですね。

――なるほど。國保さんには広報という肩書きもありましたし、『戦極』のスポークスマンのイメージが凄く強いですよね。たとえば「スーパーハルクをやるＤＲＥＡＭとはやりたいことが違う」みたいな発言をされてたわけじゃないですか。そういった『戦極』の方向性は安田会長も含めて決められていたんですか？　それとも國保さん主導のカラーだったわけですか？

國保　いや、それはやっぱり会社としてみんなで話して「こういう方向性でやっていこう」と決めたかたちですね。

解任以前に、11月10日の役員会で
取締役辞任の意向は伝えてあるんですよ

――では、國保さん個人としてはFEGさんとの歩み寄りはどうお考えだったんですか？　去年の大晦日も合同興行のお話は出ていましたよね？

國保　まあ、どこかで一緒にやれるタイミングっていうのはあるのかなとは思ってましたけども。去年にしても「いまじゃないだろうな」とは思ってましたね。

――新体制となった『戦極』サイドからは「有明コロシアムに収容しきれないため」の会場変更のリリースがされて、結果的に『Dynamite!!』に合流というかたちになりましたけど。

國保　そのリリースは私が内容を見てリリースしたものではなくて、現在、実際の運営をしているスタッフたちが出したものだと思いますから、その件に関してはわからないですね。

――少なからず「資金難」を理由に挙げる報道もありますが、國保さんもこれだけ長く携わってきて、やはり資金面は苦労してきた部分なんですか？

國保　まあ資金難という言い方はですね、やはり大きな株主がついているわけですから。お金がなくて選手にギャラが払えないとかスタッフに対してお金が払えないとか、そういう会社ではないと思いますよ。

――イメージ的には『戦極』はスポンサーも含めて資金面では日本の格闘技界の中では安泰という見方があったと思うんですけど、やっぱり運営は厳しい現状はあったんですか？

國保　経理的なものにボクらは携わってないからわからないですけど、スポンサーや後援組織はそれなりに集まってましたんでね。

――後援会はパンフレットを見ると、かなりの数がついてましたよね。ただ、地上波の放映権料が見込まれない中、チケット収益とPPV収益だけでは正直に言えば苦戦していたんじゃないかな、と。

國保　確かに全体的な話として、チケット収益というのは格闘技のいいときから比べたら落ちてるのかもしれないですよね。ただ、同時にテレビの放映権料も落ちてますから、テレビの放映権料が入ったら安泰だってことはないと思うんですね。テレビを使っていろんなかたちでプロモーションできる、と。こういったことがメリットだと思いますね。



『戦極』はいまから2年前の3月5日にスタート。本誌的には『戦極』ポーズや「シャキーン!!」効果音、芝居がかったナレーションなど、いろんな意味で楽しませてもらったが、来年からはこのカラーも変わってしまうのか？（しょんぼり）。

選手の出る場所は業務として作っていきますが、自主興行は考えていない

――これも一部の報道ですけど、今回の『戦極』の決断は、吉田vs石井というスーパーカードがありながらうまく地上波中継がまとまらなかったことが一つの原因じゃないか、とされていますけども。地上波の交渉も國保さんが表に立ってやっていたと思うんですけど。

國保　かなり煮詰まった状態ではあったことは確かですね。何かが決まってないということではなく、かなり煮詰まった状態でした。

――『戦極』といえばテレビ東京で深夜番組をレギュラーでやってますけども、その番組は今後どうなっていくんでしょうか？

國保　3月まで契約は残ってますので、継続していくんじゃないかなとは思いますけども。どういった番組を作っていくのかは、現在は私の手を離れていますから。

――現在、WVR代表である菅原（邦夫）さんという方は昔から在籍されていた方ですか？

國保　そうですね。

――新しく常務になった稲村（角雄）さんというのはどういうスタンスで関わっていたんでしょうか？

國保　ドン・キホーテの常務の方なんですけども、その中でいろんなプロモーションに協力してくれたり、いろんなかたちでWVRに対して協力してくれていた方ですね。

――これからは稲村さんが國保さん的な立ち位置でやっていくという話を聞きましたけども。

國保　それはちょっとボクにはわからないですね。常務に引き継いでいる業務もありますけど。今後のWVRの中で、体制をどのようにしていくのかなどを決めていくのではないでしょうか。

――報道のされ方を見ても、円満ではないなというのは素人目にもわかると思うんですが、その中で今後吉田道場の選手はどこのリングで闘っていくのかが注目されています。

國保　10日の役員会では円満だったんですけど……。はたからそういうふうに見られたり、実際にそういうことになってるんであれば話は別ですけど。吉田道場勢は大晦日まではいままでの流れがありますんで、何か協力できることがあれば協力しようと思ってますし。

――吉田選手以外にも出場する可能性があるということですか？

國保　そういった話があればそれで相談していかなくてはいけないと思ってます。

――今年の活躍でいったら、小見川選手なんか名前も実績もファイトスタイルも対抗戦にはうってつけだと思うんですけど。

國保　いまの時点で話がないんでわかんないですよね。

――ないんですか。

國保　正式な話はないですね。ですから今日が8日でしょ。いまの時点で話がないと、あまり直前になっちゃうと減量とかいろんな問題も含めて厳しいかもしれないですよね。

――見方として「J－ROCKが外された」とか「國保さん失脚」みたいな報道もあると思うんですけど。なので吉田さん

的な情報にはあまり興味がない方でしたから……。

國保　（さえぎって）いや、ボクも初めか

常に多いですから。出るところがないっていうんじゃなくて、選手が足りないっていうのが現状ですから。それなりに頑

は思います。

――尻上がりじゃないですけど、内容を含めて手応えを感じてたんじゃないです

なりの数がついてましたよね。ただ、地上
ーションできる、と。こういったことがメ
立ち位置でやっていくという話を聞きま
ないですよね。

——見方として「J−ROCKが外された」とか「國保さん失脚」みたいな報道もあると思うんですけど。なので吉田さんはともかく吉田道場は使わないんじゃないか、という憶測もあるんですね。

國保　それはわからないですね。来年以降はお話があったところといろいろと協議しつつ進めていくということですね。いまほとんどの選手たちがフリーですから。フリーというのは契約が残ってないということですね。

——吉田道場の選手たちは、『戦極』との契約は切れているんですか？

國保　契約はすべてないですね。どこのリングでも闘える状態ではあります。まあ需要と供給の問題だと思うので、必要とされなければ出る必要もないだろうし。必要とされるんだったらそこで話をする、と。そういうことじゃないですかね。

——実際にDREAMとの対抗戦はいまの立場でどうご覧になってますか？

國保　まだカードが出てこないとなんとも言いようがないですよね。

——谷川さんがツイッターでいろいろとつぶやいたりしてるんですよ。そこから交渉が凄く難航してるのがわかるんですけど。

國保　そう言われても、いま言ったようにカードが並ばないことにはコメントのしようがないですよね。

——では、いま吉田さんが置かれた状況にはどう思われますか？　正直言って、練習に集中できてないところも少なからずあるのかなとか思うんですけど。

國保　まあ本人のいろんな気持ちや思いっていうのは当然あると思いますよね。いろんな思いを持ちついまは練習に励んでるんじゃないですか。

——吉田さんはもともと格闘技界の政治的な情報にはあまり興味がない方でしたから……。

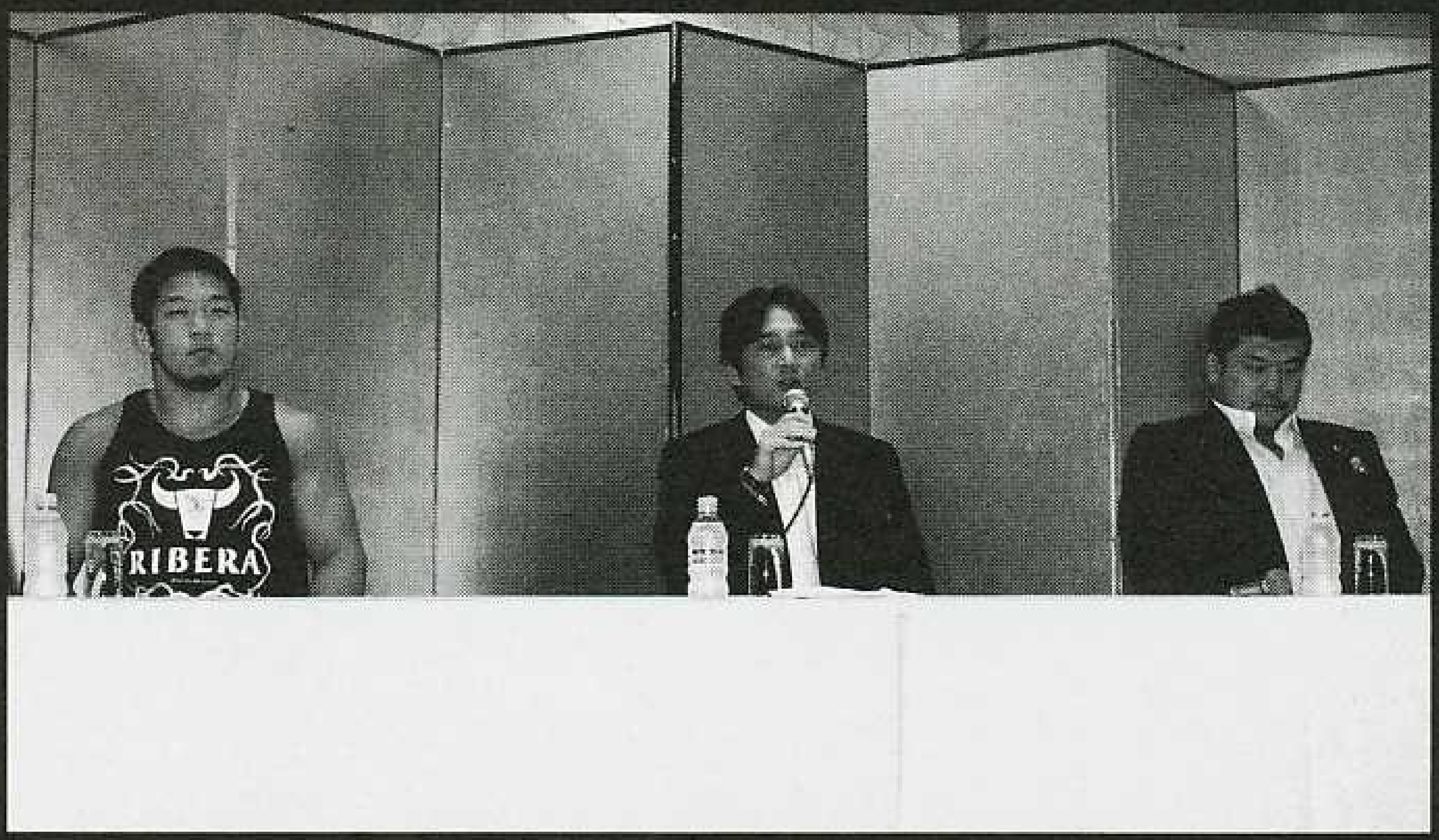
國保　（さえぎって）いや、ボクも初めから何も政治的には動いてないですから。政治的に動いてるんじゃなくて本当にするべきこと、やったほうがいいことをやればいいと思ってやってきただけですから。

——政治的も何もない、と。今後の可能性として、J−ROCKさんで大会を主催するっていう考えはあるんでしょうか？

國保　いまのところないですね。選手の出る場所っていうのは、ボクらの義務というか業務として作っていかなきゃいけないと思いますけども、J−ROCK興行っていうのは考えてないですね。

——出る大会がなくなってしまうというのはないんでしょうか。

國保　いま格闘技の大会っていうのは非常に多いですから。出るところがないっていうんじゃなくて、選手が足りないっていうのが現状ですから。それなりに頑張ってる選手たちは需要はあると思います。いろんなところから話は来ますよ。



吉田vs石井戦発表会見のヒトコマ。『Dynamite!!』&『戦極』の合体に関しては、図らずも微妙なスタンスの3人が並んでいる。

“戦極の頭脳”に何が起こったのか

——たとえば谷川さんとお話しするケースもあるってことですよね？

國保　今年の9月ぐらいですかね、ウチの会社に来て話したのは。9月の終わりか10月の頭かそのぐらいじゃないですかね。

——それは具体的なイベントなどの動きではなくて。

國保　まあ、イベントの話もありましたけども。そのときは「大晦日はお互いに単独でやりましょう」ということは言ってましたけどね。

——まあ谷川さんとしては視聴率とか含めて、吉田vs石井はできれば『Dynamite!!』で実現してほしいカードではあったとは思いますし。

國保　どうなんでしょうね、そのときは「べつにほしくない」って言ってましたけどね（笑）。

——ワハハハハ！　こうなる前にはウチの編集長にもそんなことを言ってたらしいですけど。

國保　まあ、いまはいろんな事情もあるんでしょうし。

——最後に、今後の『戦極』にはどんな思いを持って見ていきますか？

國保　今後の『戦極』に関してはボクらが運営していくということではないですから、できればいままでの流れを汲んでというかですね、同じように競技性を追及していったりリアルな格闘技ということでやってってくれたら嬉しいなとは思いますけども、いまの体制でどういうふうにしていくかっていうのは考えているとは思います。

——尻上がりじゃないですけど、内容を含めて手応えを感じてたんじゃないですか？

國保　そうですね、約2年間イベント継続したことによって『戦極』から生まれた選手っていうのも少なくないですし、これからかなと思ってたときではありましたけどね。

——では、どこかで無念というか、志半ばでというところはあったりします？

國保　そうですね。ボクらやいろんな人と選手もそうですし、スタッフ、いろんな関係各所、いろんな思いを持って話し、理解してくれた人たちに対しては非常に申し訳ないという気持ちでいっぱいですよね。最後まで全うできずに自分のほうからこういうかたちを選んでしまったということに関しては申し訳ないと思ってますけど、サポートであったりできることはしていきたいと思ってますけど。このすべての人たちに対してですね。

——来年以降というのは國保さんが格闘技界と関わる仕事というのは必然的に減っていくかたちになるんですか？　もともとJ−ROCKって格闘技関連以外の業務もやってる会社ではありますし。

國保　そうですね。ウチの格闘技以外の仕事、マネジメント会社としてやりたいと思うことをだいぶストップしてこの2年間がすぎてしまいましたので、ストップさせていた業務もしたいと思います。ただ、このイベントをやることによっていままで以上に多くの格闘技関係者の人たちとの関係ができましたんで、なんらかのかたちで関わっていくんじゃないかなと思いますけどね。

【09年12月8日／都内・渋谷『J−ROCK』にて収録】



12.31『Dynamite!!』
DREAM vs SRC 対抗戦
15日時点発表済みカード

山本“KID”徳郁 vs 金原正徳
桜井“マッハ”速人 vs 郷野聡寛
柴田勝頼 vs 泉浩
アリスター・オーフレイム vs 藤田和之
高谷裕之 vs 小見川道大
所英男 vs マルロン・サンドロ

気のチラ2009～』
ついに開戦!!
戦

ただいま、12月15日午後2時。待ちに待った大晦日『Dynamite!!』、DREAMvsSRC（戦極）対抗戦のカードがついに発表された！

待ちに待ちすぎて、締め切り超ギリギリのため、大晦日のカード発表および、特集のトビラページがこんな中途半端な位置にきてしまったが、発表された「カードは待ったかいがあった！」と思える、期待どおりのラインナップ。

フェザー級の〝キング〟であるKIDが、戦極フェザー級王者の金原と対戦。マッハと郷野もウェルター級日本人頂上対決でいきなり激突。ヘビー級はアリスターvs藤田という日蘭怪物対決が組まれた。さらに「階級なんて関係ねえ！」とばかりに対抗戦というより異種格闘技戦的な柴田勝頼vs泉浩も決定。

あとは〝黄金の〟ライト級と、ミドル級でどんな夢の対抗戦が組まれるか。ライト級には青木真也、川尻達也、廣田瑞人、横田一則、そして五味隆典が。ミドル級には桜庭和志、三崎和雄らスター選手が揃っているだけに、ぜひとも、燃えるカードを期待したい。

いずれにしても、このDREAMvsSRCの全面対抗戦は、日本マット界にとって最後の切り札とも言うべき、特大の起爆剤。格闘技ファンならいまこそ、さいたまに集結し、燃えあがれ！

というわけで今月の『kamirpo』は、DREAMvsSRC全面対抗戦を前に、これまでマット界で展開され、ファンを熱狂させてきた「対抗戦」を徹底特集します！



12.31『Dynamite!!～勇気のチカラ

DREAM vs SRC つい

特集 対抗

戦極vsDREAMの前にひっそりと(失礼)実現!

修斗vsパンクラスの対抗戦ってどうよ?



パンクラス代表 坂本 靖

11.23修斗JCBホール大会で、過去にさまざまな因縁があったパンクラスと修斗の対抗戦が実現した。4vs4で行なわれた対抗戦は修斗側の3勝1敗に終わったが、パンクラスismからは一人しか出場しなかったため盛り上がりに欠けた感は否めない。今回、修斗との対抗戦にゴーサインを出した理由、修斗との因縁とは何か、坂本代表に話を聞いてみました。

聞き手/阿修羅チョロ

——今回は〝対抗戦〟特集ということで、ひっそりと開戦した〝パンクラスvs修斗〟の対抗戦について、坂本さんにお話をうかがえればと思っております!

坂本 「ひっそり」って失礼な!……まあ、確かに『戦極』vsDREAMの対抗戦だったり、数年前のグラバカとの対抗戦に比べると、正直インパクトには欠けましたけどね。

——『戦極』vsDREAMはともかく、グラバカとパンクラスの対抗戦は盛り上がりましたからね。観客の盛り上がりも凄かったですし。

坂本 そうですね。パンクラスで対抗戦というと、あのときの近藤(有己)vs郷野(聡寛)戦までの流れにつきますねぇ……(しみじみと)。……というわけで、このへんでよろしいでしょうか?

——いやいや、本題はパンクラスと修斗の対抗戦なので。

坂本 まあでも、これは修斗さんにかぎらずですけど、ここまで総合格闘技という概念が確立されてくると、対抗戦といってもなかなか難しいところがありますよね。

——と言いますと?

坂本 いわゆる競技というか、総合格闘技という一つのジャンルになってきているので、どうしてもその中で対抗戦といっても巨人と阪神が闘うようなものですからね。

——巨人と阪神の試合は盛り上がりはしますけど、それほど目新しさはないですよね。

坂本 そういう意味で、チームだったりジムとしての対抗戦はアリだと思うんですけれど、概念としてのイ

ズムだったり、イデオロギーのぶつかり合いといったものは時代的に難

ていう。修斗さんに関しても、お互いがお互いに言い分があったとは思

が代わりに自分がアマチュアの試合に出ます」というFAXはいまだに

負けた伊藤選手が花道や控室で大荒れしていたのが、いまでも印象に残

旗揚げ以来、ある意味、パンクラスの象徴的存在だった尾崎允実社長。数年前から社長業から退き、現在はアドバイザー的な関わりをしているという尾崎氏によるパンクラス回顧録は小社より絶賛発売中ですよ!

ズムだったり、イデオロギーのぶつかり合いといったものは時代的に難しいんじゃないですかね。一昔前はグレイシーとか明確な対立概念があったりしましたけど、いまはそういうのも薄れてきてますし。

——競技として整備されてきたので、修斗とパンクラスの違いも微妙なルールの違い以外はほとんどなくなってきてますからね。

坂本 そうなんですよ。だから、「修斗とパンクラス、どっちが強いんだ!?」みたいな見方をする人は、いまはそれほどいないんじゃないかと思いますし。

——そうですよねぇ。

坂本 ……というわけで、このへんでよろしいでしょうか？

——いやいや、ちょっと待ってください。今回の修斗との対抗戦って、あちこちで〝因縁の〟とか〝犬猿の仲の〟とか表現されてますけど、いまいち、お互いの関係性というか、どういった因縁があったのか知らない人も多いと思うんですよ。「パンクラス　修斗　因縁」とかで検索しても、三島☆ド根性ノ助さんの騒動が出てくるぐらいで。

坂本 ありましたねぇ……（しみじみと）。

——パンクラス旗揚げから関わっている坂本さん的には、修斗に対してどういった認識を持ってました？

坂本 確かに因縁もあったのはあったんですよ。でもそれこそ裁判沙汰になったことがあるウェイン・シャムロックが言っていたことがありますけど、「オレにはオレの、パンクラスにはパンクラスの正義がある」っていう。修斗さんに関しても、お互いがお互いに言い分があったとは思うんですけどね。当時としてはお互いが「こっちが正しい」と思っていたという。先ほどの三島選手の件も、私の口から説明すると非常に長くなるので、下のほうで囲みで説明していただければと思うんですけど。

——了解しました（笑）。

坂本 あのとき、三島選手側から届いた「出場予定だったウチの選手が欠場になったので、申し訳ないですが代わりに自分がアマチュアの試合に出ます」というFAXはいまだに持ってたりしますからね（笑）。

——あ、そうですか（笑）。

坂本 べつに「いつか表に出してやろう」というので持ってるんじゃなくて、そのときの大会のファイルに一緒に入れていたのを、このあいだ、たまたま発見して「おおっ」と思っただけなんですけどね。

——ざっくりと説明すると、当時、修斗で活躍していた三島選手が自分のところの若手選手が欠場になってしまったので、代わりに自分が本名の「三島睦智」としてパンクラスの試合に出たのが、修斗的にはかなり問題だったみたいで、パンクラスに対して、かなり固くなったんですよね。

坂本 そうですね。結局、三島選手はその後、DEEPでウチの伊藤（崇文）選手と対戦しましたけど、あの試合なんかは〝対抗戦〟って感じがしましたよね。

——そうですね。負けた伊藤選手が花道や控室で大荒れしていたのが、いまでも印象に残ってますね。坂本さん的にはパンクラスの初期の頃って、修斗に対してどんな印象を持ってました？

坂本 正直、僕的には意識はしてなかったんですね。パンクラスの旗揚げ当初っていうのは、おかげさまでブームにも乗って、イケイケで行っていたときなので。なんというか、修斗にかぎらず、あまり周りを見ていなかったし、べつにそんな気にならなかったし、意識もしていなかったんで。

——それこそ、旗揚げ当初は修斗というよりは、UWFから分裂したリングスだったり、Uインターのほうが意識はしていたでしょうね。

坂本 そうですね。のちにリングスともいろいろありましたけど（笑）、商売敵、同業者っていう意味での意識は修斗よりも、リングスだったりUインターのほうが強かったですね。

——逆に修斗にとっては、パンクラスだけではなく、UWFの流れを汲むリングスやUインターとは「一緒にしてくれるな」という感じでしたよね。

坂本 そんな感じでしたね。「修斗というのは競技名です」というような。

——修斗もエンセン井上、朝日昇、桜井〝マッハ〟速人、佐藤ルミナという四天王がいてブームになっていた頃は、とくにプロレス的なものとの差別化をアピールしてましたからね。ルミナさんのように「プロレスに裏切られた」と言うような人も多かった時代ですし。

坂本 結局そこじゃないですか。修斗さん側にとってのパンクラスに対する嫌悪感というのは、UWFから派生してきた中の一つだから、いわゆる「プロレスなんでしょう？」とか、もっと言うと「八百長やってるんだろう？」っていう。

——まあ、ひと言で言ってしまうとそこなんですよね。要は「パンクラスには真剣勝負ではない試合もあるので、修斗と一緒にしてくれるな」と。

坂本 簡単に言ってしまえば、そこに行き着くと思うんですけど、いわゆる、やってないことを証明するのって難しいんですよね。やってることを証明するのは簡単なんですけど。

——痴漢の冤罪騒動じゃないですけど、確かにそれは言えますよね。

坂本 「それでもボクはやってない」というヤツですよね。

——周防（正行）監督ですね（笑）。

坂本 まあうちとしては、そこはムキになって証明する必要もないし。言い方は悪いですけど、「隣の犬が吠えてる。噛んできてる」っていうような意識でしたね。

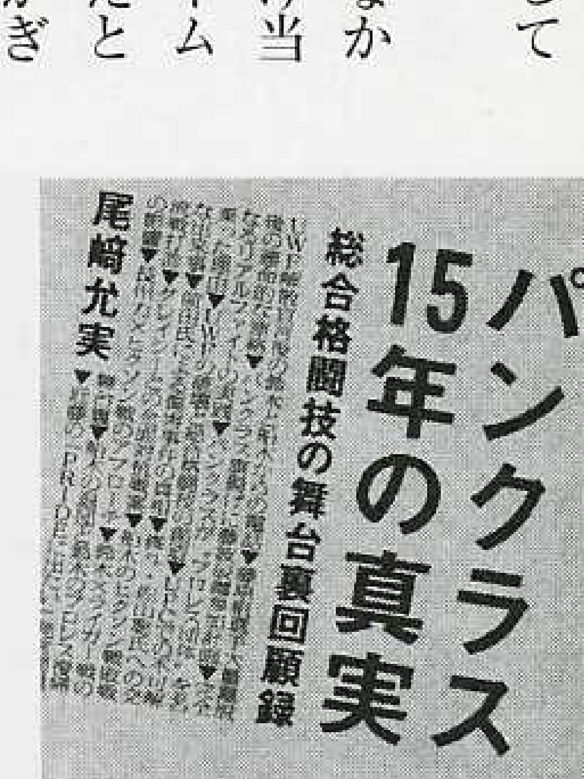
——たとえば、交流するなんて空気は一切なく？

坂本 いや、尾崎（允実）のほうは「業界のためにも交流戦をやろう」っていうのはあったんですよね。で、佐

修斗さんのウチへの嫌悪感は『プロレスでしょ』ってことですよね



11.23修斗JCBホール大会で実現した修斗vsパンクラスの4vs4対抗戦。当初、大石幸史の参戦が発表されていたがケガで欠場となり、ism所属として対抗戦に臨んだのは藤井恵と対戦したWINDY智美だけ。結果的に1勝3敗で敗れたパンクラスだったが「あまり負けた気がしない」という選手が続出。はたして、第2ラウンドは実現するのか？



旗揚げ以来、ある意味、パンクラスの象徴的存在だった尾崎允実社長。数年前から社長業から退き、現在はアドバイザー的な関わりをしているという尾崎氏によるパンクラス回顧録は小社より絶賛発売中ですよ！

山（聡）さんは即ＯＫだったんですけれど。

――まだ佐山さんが修斗に関わっていたときですか？

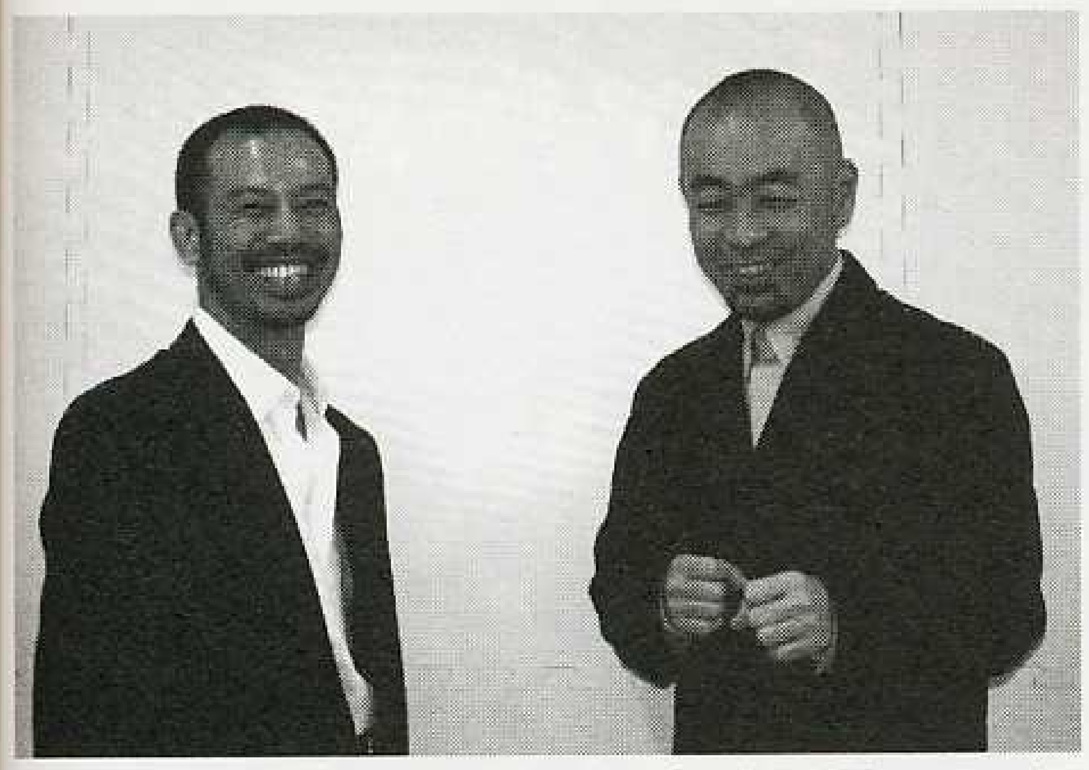
坂本　そうですね。ただ、修斗さんの体制っていうのは基本的にジム単位じゃないですか。結局、やるとなってもどこどこのジムの選手と話さなきゃいけないので。パンクラスの場合だったらパンクラスの選手ということでスムーズに一本化されているんですけど、修斗さんは各道場の集まりでできているんで。そんな流れで、いろんな道場と話していたらグチャグチャになっていう。

――そんな具体的な動きがあったんですね。

坂本　佐山さん的には「いいじゃないですか」という感じだったんですけど、そのあとぐらいに佐山さんも修斗さんから退かれちゃったんで。

――当時は船木（誠勝）さんや鈴木（みのる）さんもそれについてはＯＫというスタンスだったんですか。

坂本　そうですね。



「僕らが闘うほうが盛り上がるんじゃない?」と会見で互いにファイティングポーズを決めるパンクラス坂本代表とサステイン坂本代表。今後の対抗戦の流れはこちらのW坂本次第か。代表対決も観たいぞ!



パンクラスからグラバカに移籍したKEI山宮とは会見の度に謎の挑発合戦を繰り返している坂本代表。代表ながら撮影も行なう坂本氏に対し山宮は顔出しを拒否。こんなやりとりが毎回行なわれているのだ。

――過去にいろいろとありながら、今回、対抗戦が実現したっていうのは、パンクラスの体制が変わったのが大きかったみたいですね。尾崎さんがパンクラスの現場から離れたから交渉の席に着くことができたと。

坂本　修斗さんのパンフレットとかにもそう書かれていましたね。

――尾崎さんっていうのは、現体制のパンクラスには関わっていないんですか？

坂本　いまは会長というような立場でアドバイスをもらっています。

――そうでしたか。マスコミ的には坂本さんが代表というような認識はかなり前からありましたけど、表立っては発表してなかったですよね。

坂本　そうですね。ハッキリとは打ち出していなかったんで。そういう部分も含めて、年末から来年の頭にかけて新しい体制に関して発表するかたちになると思います。ワールド・ビクトリー・ロードであったり、ドン・キホーテであったりとの関係も含めて。

――そうなんですか。これも知って

パンクラスに関して近々、新しい体制を発表できると思います

る人は知ってますけど、『戦極』あらため『ＳＲＣ』を主催するワールド・ビクトリー・ロードとパンクラスはドン・キホーテの本社内に事務所を構えていますからね。

坂本　そうなんですよ、じつは。

――では、それまで尾崎社長がネックとなって関係がよろしくなかったのが、坂本さんがトップになったことによって、話し合いの場が持たれて対抗戦の話になったわけですね。

坂本　そうですね。まあでも、「対抗戦をやりましょう」というのは、あくまでも修斗サイドからの話でしたけどね。

――パンクラスから持ちかけた話ではない、と。

坂本　ええ。結局、アマチュア活動をやりながら、ランキング制度をとって大会をやっているのは修斗さんとパンクラスだけなんですよね。ほかのイベントは、たとえばチャンピオンへの挑戦者はプロモーターだったりが「この選手」と決めた人がなれるっていうシステムなので。

――ＤＲＥＡＭや『戦極』なんかもそうですよね。

坂本　だから、そういう意味でも似てるな、と。若林（太郎）さん的には「似てきたな」なんでしょうけども（笑）。

――細かいこだわりはあるでしょうからね（笑）。

坂本　若林さんも関わっているパラエストラ東京の柳澤（雅樹）選手がパンクラスのアマチュアからプロになったっていう例もありましたし。そういった選手から、「パンクラスはへんなことやってる」とかいうのも耳に入ってこないし、ゆっくりと見方が変わってきたのかなとは思います。

――修斗側から話があったということですが、やはり修斗も大きく関わっている『ＶＴＪ』が10月にあって、翌11月の修斗興行と、2ヵ月連続でＪＣＢホールというビッグマッチ用の会場を押さえていたので、起爆剤となるようなマッチメイクを組みたいということで、パンクラスに声をかけたってことなんでしょうね。

坂本　それはあると思いますよ。やっぱり、いくら「競技」って言っても興行ですから。お客さんに来てもらうためにいろんなものを主催者としてはやらないといけないんで。そういう中で、一つのテーマとしてパンクラスとの対抗戦というのを選択したんだと思います。

――大会の煽り映像では「革命的な交流」と大々的に打ち出されていましたが、正直、ボクなんかは「革命的は言いすぎでしょ」って思ってしまいました。これまでの経緯を間近で見てきた坂本さんなんかにすれば、「これは凄いことだな」っていう実感はあったりします？

坂本　いや～、僕は正直ないですね。というのも、パンクラスのリングにはシューターがこれまでもすいぶん

そもそもパンクラスと修斗の因縁ってなんなの?

今回、対抗戦が実現したパンクラスと修斗だが「そもそもパンクラスと修斗の因縁って何?」と感じる人も多いと思うので、ここで簡単に説明しよう。

表面化していない確執も多々あったようだが、パンクラスと修斗の一番ポピュラーな因縁といえば02年に勃発した三島☆ド根性ノ助のパンクラス出場問題だろう。

事の発端は、この年の5月に行なわれたパンクラス大阪大会でのパンクラスゲート（アマチュア扱い）に自身が所属するジムの選手が出場予定だったものの、ケガのため欠場に。これに責任を感じた三島が本名の「三島睦智」として代理出場したのがきっかけ。

当時ウェルター級1位だった三島に対し、修斗サイドは出場とりやめを要請するも、三島は「ファンに迷惑をかけたくない」と参戦を強行。これがきっかけとなり、パンクラス興行への修斗プロライセンス保持者の出場を禁止するというルールが設定されたのだ。

それからしばらく冷戦が続くも、尾崎社長が現場から離れたこともあり、今回実現に至った修斗とパンクラスの対抗戦。

『格闘技通信』を交えた騒動に発展した三島騒動や、それ以前のパンクラス・修斗問題については『カミスペ2009 MAY』にたっぷり掲載されているので要チェック!

出場してるんで、パンクラス目線ではそこまでのものは感じにくかったですね。

——大会後、パンクラス・ｉｓｍの選手とかも「対抗戦で負けたといっても、ｉｓｍの選手が負けたわけじゃないから、あまりピンとこない」というような言い方をしてる人が多かったですよね。

坂本 そういう発言をしていた選手が多かったですよね。それを聞いたときは「（藤井恵に負けた）ＷＩＮＤＹ（智美）もｉｓｍだろ」ってツッコもうかなと思ったんですけど（笑）。

——確かにそうなんですよね。

坂本 まあでも、選手がそう思ってるぐらいだから、お客さんなんかは「対抗戦と言われてもピンとこない」と思っても不思議はないですよね。それこそ、修斗四天王の時代に対抗戦をやってたら凄くおもしろかったと思うんですが。

——階級は違いますけど、船木さんや鈴木さんと修斗四天王の時代の対抗戦だったら相当盛り上がったでしょうね。で、ぶっちゃけ、今回の対抗戦はお互いのスポンサーでもあるドン・キホーテの力というのもあったりするんですかね？

坂本 まあ、そうですね。具体的にドンキさんのほうから「やれ」と言われたことはないんですけど、確かに同じスポンサーさんなので。そういう意味でもなんとなく周りから解けだしてる感はありましたね。それに僕は基本的に「来る者は拒まず、去るものは追わず」というタイプなんで。話があれば同じテーブルについてジャッジしたいと思いますんで。最初からＮＯという選択肢はないですね。

——vs修斗という意味では、大会数に比べて「出たい」という選手は多いと思うので、選択肢が増えるという意味では、お互いよかったという面もあるんじゃないですか？

坂本 そうですね。坂本（一弘サステイン代表）さんも言ってましたけど、たとえば、マモル選手の階級（バンタム級）なんかは「ＢＪ、マモル、漆谷（康宏）の3人で持ち回っているような感じになっているので、そこをパンクラスの新しい選手で掻き回してほしい」みたいには言われましたね。パンクラスにしても大石（幸史）選手なんかはキャリアもあっていろんな選手ともやってるんで、モチベーションを考えると「新しい風を入れてもいいんだろうな」とも思ってたし。言い方は悪いですが、お互い使いづらいっていうか踊り場になってテーマを見出せなくなりそうな選手を行き来させるのは選手にとってもいい流れだと思うんですよね。

——対抗戦というよりは交流戦って感じですよね。

坂本 現実的にはそういう感じですよね。テーマからは逸れちゃいますけど。

——逸れたついでにお聞きしますが、いま、坂本さんってメチャメチャ大変そうじゃないですか。パンクラスの代表なのに会見の司会をやりながら写真も撮ったりパンフレットやリリースを作成したり、佐伯さん状態とでもいうか（笑）。

坂本 確かに佐伯さん状態ですね。でも、佐伯さんにはいろいろとヘルプしてくれるスタッフがいますけど、いま現在でいうと僕にはそういうスタッフがいないので。

——佐伯さん以上だと（笑）。パンクラス以外にも『戦極』だったり、アマチュア大会とかやることは盛りだくさんですし、それこそ修斗とのパイプもできたわけで、来年は今年以上に大変になるんじゃないですか？

坂本 苦労自慢するわけじゃないですけど……正直、大変です（苦笑）。でも、そういった人材的な部分も年内には整えたいというか、整えられると思いますので。

——あと少しの辛抱だと（笑）。先日の『Ｄｙｎａｍｉｔｅ!!』の合同会見にはパンクラスの選手は誰一人出席していませんでしたが、何か政治的なものがあったりするんですか？

坂本 そういうのは全然ないです。単純に大晦日にに出せる選手がいなかったというだけで。

——対抗戦的に参戦が期待されていた北岡さんは会見の前から、「どんなオファーがあったとしても大晦日は出ない」とアピールしてましたからね。

坂本 そうですね。11月の『戦極』で負けてしまって、その日の帰りのタクシーで「スタイルチェンジもしなきゃいけないし、ちょっと休んでもう一回考える」と。前向きにですけどね。

——本人も会見に出なかったことに対して「ハブられているわけじゃない。上の人とは話をしてます」とブログで書かれていましたし。上の人って、ドンキの安田（隆夫）会長なのかなって思ったんですけど。

坂本 まあ、僕でないことは確かです（笑）。

——今後、大晦日以降も対抗戦的なものが続いていけばパンクラスとしては『戦極』というか『ＳＲＣ』側として出していきたいというのはあるわけですか？

坂本 そうですね。本当なら大晦日の対抗戦にも出したかったのも事実です。それに北岡選手はドン・キホーテのＣＭにも出ることになって、12月6日からオンエアされるんですよ。ひょっとしたら、大晦日の『Ｄｙｎａｍｉｔｅ!!』でもオンエアされることになると思うんで、試合はしなくても知名度はアップするかもしれないです（笑）。

——楽しみです（笑）。ちなみにドンキのＣＭに出演が決まったのは安田会長直々のリクエストですか？

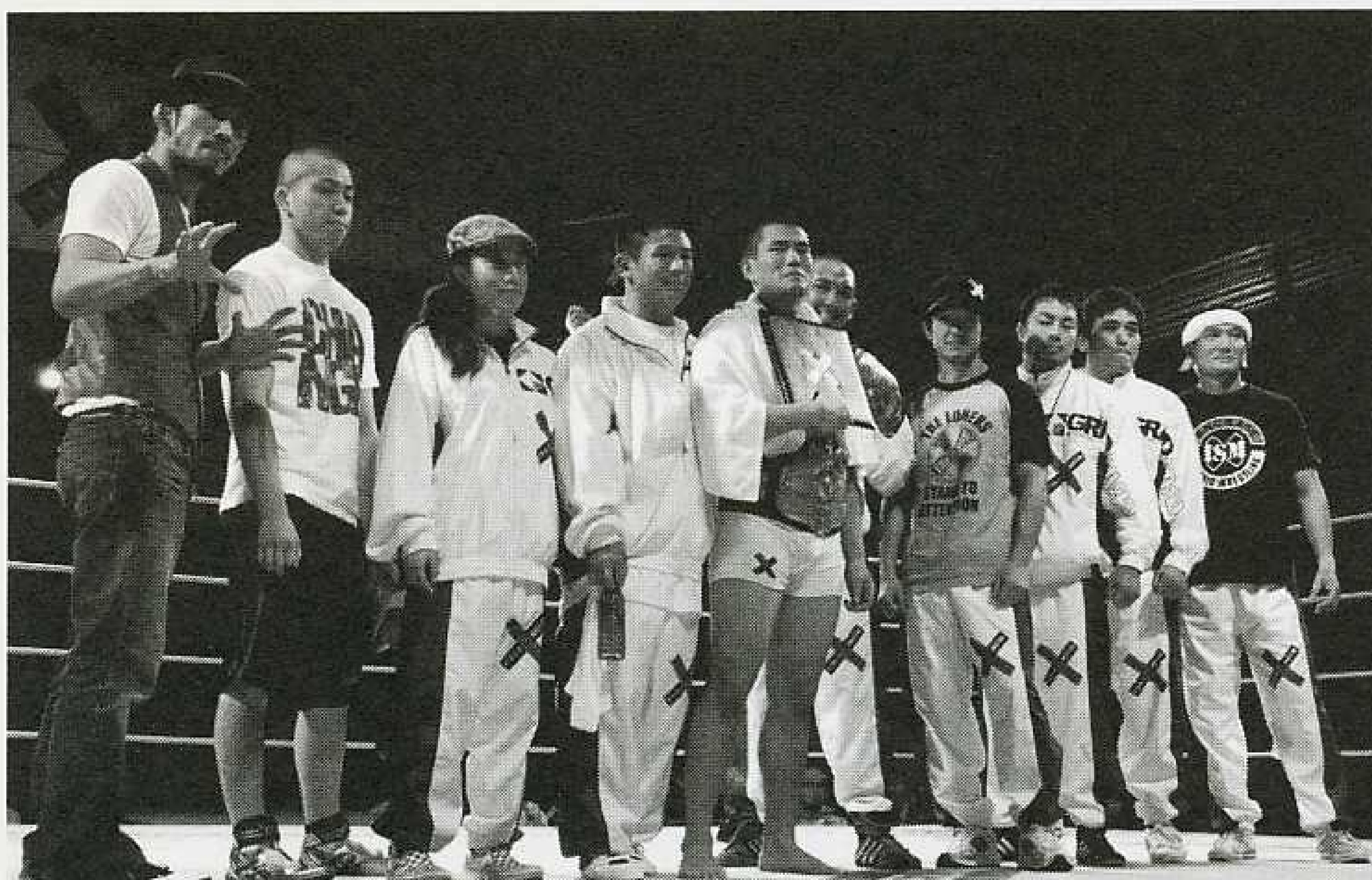
坂本 そうですね。会長直々にご指名いただきました。

——では、北岡選手はもちろん、坂本さんも体制が固まるまでは、いろいろと大変かとは思いますが、パンクラス代表として頑張ってください！

坂本 佐伯さんより楽できるように頑張ります！

【09年12月5日／都内・ゴールドジム原宿にて収録】

北岡選手は大晦日は試合はしませんけど、知名度はアップするかも……



修斗との対抗戦後初のパンクラス興行となった12.6「第5回ism主催興行」ディファ有明大会。今大会ではセミでライトヘビー級王者の川村亮が井上俊介相手に王座を防衛、メインでは金井一朗が竹内出からミドル級王座を奪取するなど年内最終興行でパンクラスの底力を見せつける結果に。来年のパンクラスにも期待!



さかもと・やすし■1966年12月14日、青森県出身。アパレル時代に選手と知り合い、パンクラスには93年の旗揚げから参加。現在はパンクラス代表ながら、マッチメイクや交渉事以外にも会見の司会やパンフレットの作成など、一人何役もの業務をこなしている。


——ヒラタさんがマネージメントする選手の中にも、大晦日『戦極』出場

だから契約解除か大晦日出場のどちらかを要求させていただいたんです

いとなると、選手からすれば「どうなってるの?」って不安になるし、ト

いえ、もの凄くショッキングですね、やっぱり。これは日本のMMA市場

選手なので精一杯努力します」とは言ってくれました。



対抗戦にあぶれるトップ選手が続出!?

さまよえる戦極ガイジンの悲劇

アメリカ在住スポーツマネージャー

シュウ・ヒラタ

『Dynamite!!』と『戦極』の合体に喜ぶファンもいれば、大困りの選手もいるのである。
とくに『戦極』大晦日出場が予定されていた選手たちはその筆頭だ。
その裏側をマネージメントの立場から語っていただいた。

聞き手／ジャン斉藤

―ヒラタさんがマネージメントする選手の中にも、大晦日『戦極』出場のオファーがあった選手は当然いたわけですよね。

ヒラタ　そうですね。じつは、ダン・ホーンバックルはウェルター級のタイトルマッチを瀧本（誠）選手とやることになってたんです。

―あ、そうだったですか。

ヒラタ　はい。正式な契約書は交わしていませんでしたが、『戦極』さんからは口頭でそういうふうに言われてまして。だから選手としても当然大晦日に向けて練習をしてきたわけですし、せめてタイトルマッチじゃなくても試合を組んでいただかないと大変困るというのが率直なところですよねぇ。

―試合となればトレーナーを雇ってキャンプを張ったりするわけですからお金はかかりますし、当然日々の生活もあるわけですよね。

ヒラタ　そうなんですよ。来年以降も『戦極』さんが継続するといっても、3月までは大会は開かれないと言われているんです。となると、5ヵ月間も無収入になるわけですから。それは3人の子どもを抱えている一家の主としてはありえないことですし、これはちょっと厳しい言い方になったんですけども、「大晦日にちゃんと試合を組んでくれるか、もしくはすぐに契約を解除してくれ」と『戦極』さんには伝えました。

―リリースしてくれ、と。

ヒラタ　そうしないと北米のプロモーションと交渉もできない。それにいまから交渉してやっと2月の大会に間に合うくらいじゃないですか。だから契約解除か大晦日出場のどちらかを要求させていただいたんですけども。

―その要求に対して、『戦極』側の対応はどういったものだったんですか？

ヒラタ　『戦極』さんは凄く誠意をもって対応してくださって、なるべく大晦日に試合を組めるよう努力してくれるということでしたし、あと北米での試合許可をすぐに出してくれました。

―つまり、国外に関しては独占契約ではなくなったということですね。

ヒラタ　ですから、すぐに北米の団体と話しまして、これは公に言えるんですけども、ダンは来年からシーズン2がスタートする『ベラトール』と契約しました。

―ヒラタさんは行動が早いですねぇ（笑）。

ヒラタ　でも、『ベラトール』もシーズン2が始まるのが4月8日ですからね。それまでに試合がないとダンも無収入になっちゃいますので。だから大晦日に試合することはもの凄く大切なことなので、いまでも『戦極』さんには猛プッシュしてるんですけども……まあなかなか難しいですよね。

―もう大晦日まで1ヵ月を切っていますし……（インタビューの収録は12月2日）。

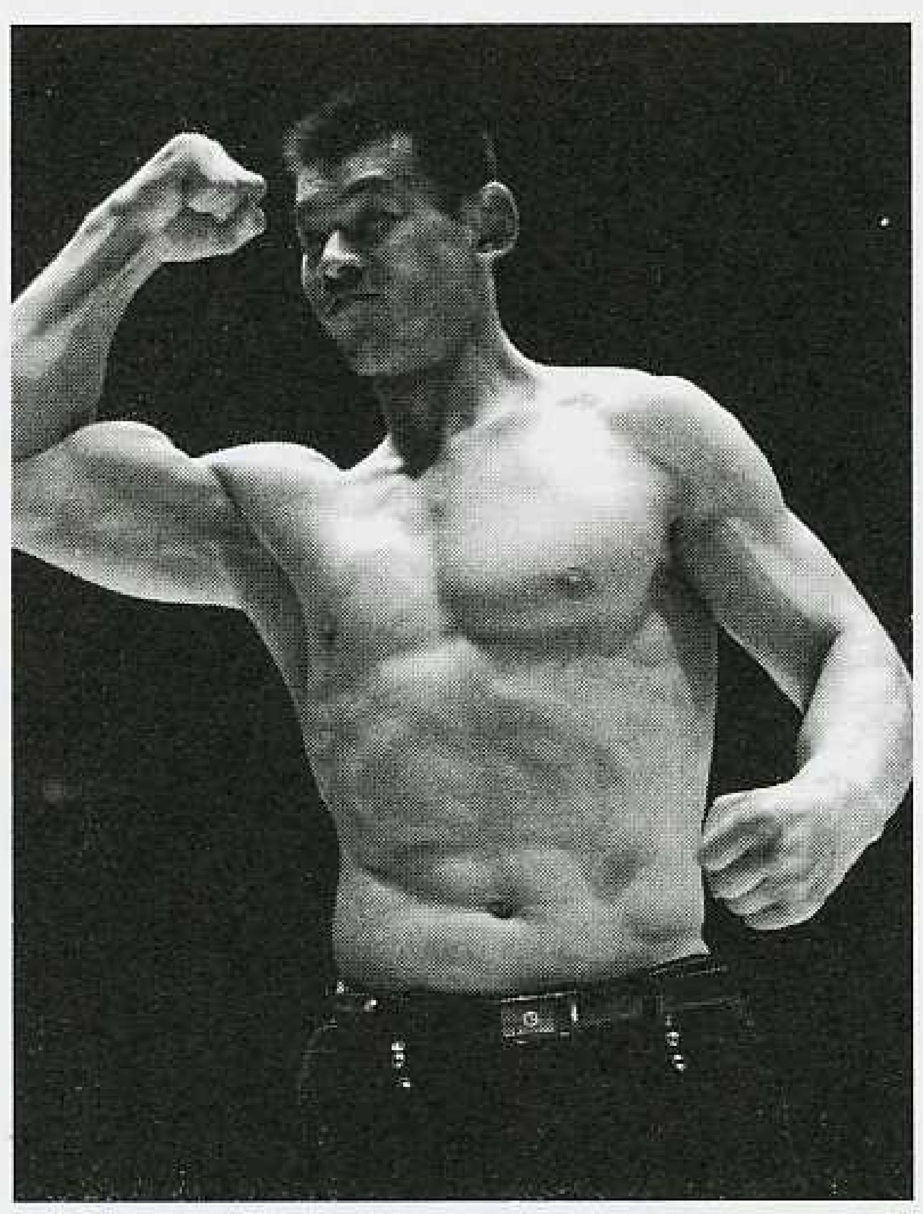
ヒラタ　就労ビザも取らなくちゃいけないんだったら、そろそろタイムリミットです。ビザの書類も届かないとなると、選手からすれば「どうなってるの？」って不安になるし、トレーニングどころじゃないですからね。まあ大変ですよね、いろいろ。

―そもそも『戦極』の大晦日イベントが消滅する話を聞いたときはどう思われました？

ヒラタ　ボクは凄くショックでしたねぇ。たとえばアフリクションやボードッグを見てもわかるとおり、アメリカだといきなり大会が飛んじゃったり、会社がなくなることは頻繁にありえることなんです。だから心の準備ができてたんですね。でも、その反対に日本の場合はそんなことはないだろう、と。いったん開催を発表してポスターを販売してるのに大会をやめちゃうことは「日本では絶対にないから」ってボクはクライアントに言い続けてきてたんですね。

―まあ、今回の事態はレアケースですよね。

ヒラタ　日本の格闘技史上では初めてなんじゃないですかね。いくら『Dynamite!!』と一緒やるとはいえ、もの凄くショッキングですね、やっぱり。これは日本のMMA市場が凄く冷たくなっちゃってるのかな……って。



世界中で本誌しか注目していない『戦極』レスリング大巨人のリュウ・トクリの今後も定かではない。あんなにハイテンションでアピールしていたのに……。

―『戦極』側から『Dynamite!!』に出られる選手も限られてきますから、困る選手はたくさん出てくるでしょうし。

ヒラタ　そうでしょうね。それでも『戦極』が来年以降も継続するのであればベストですけども。もしも『戦極』がなくなってしまうんだったら「すぐにDREAMと話してほしい」とか、そういうことは言われますよね、やっぱり。

―ちなみにダン・ホーンバックル選手の大晦日出場の件は、『戦極』を通してお話をされてるんですよね。

ヒラタ　そうですね。

―FEGとお話をされてるわけではないと？

ヒラタ　いまの契約先がWVR（ワールド・ビクトリー・ロード）なので、WVRがリリースしてくれないかぎり、やっぱりFEGさんとお話はできないじゃないですか。ですからボクがぶっちゃけて言ったのは、「どんな力を使ってでもいいからダン・ホーンバックルに試合をさせてくれ。試合をさせてくれないんだったらリリースしてくれ。そうしたらボクがすぐにFEGさんと話をしたいから」と。もうそこまで言ったんですよ。そうしたら『戦極』さんが良い対応をしてくれて「ダン・ホーンバックルは対抗戦に出てもおかしくない選手なので精一杯努力します」とは言ってくれました。

―ちょっと込み入った話ですが、もし『Dynamite!!』出場となっても、WVRさんからファイトマネーをもらうわけですよね。

ヒラタ　もちろんですよ。当然ね。

―でも、それはFEGから支給されたお金かもしれない。なんだか複雑ですよね。

ヒラタ　そうですね。ただ、『戦極』がちゃんと会場を押さえて来年もやるっていうんでしたら、主催者にとっては契約を消化したほうがいいと思うんですよね。

―実際『戦極』からは来年もやるというお話はあるんですか？

ヒラタ　3月に会場を押さえたと聞いてますね。「それ以降も開催するのか？」という質問をしましたけど、それに関してはまだ返答がないです。そもそも広報の國保さんが抜けましたが、いまのところ誰と話してどういうふうにすればいいのかっていうのが凄くわからないのです。

―いままでヒラタさんは國保さんとお話しされてきたんですか？

ヒラタ　そうです。國保さんと直で話してましたね。

―いまはどなたとお話しされてるんですか？

ヒラタ　一応、稲村常務のメールアドレスももらったのでメールを投げたんですけども、そうしたら、これまで『戦極』の広報をやられていた方から連絡があり、この方が窓口になるということでした。まあ、いずれにせよ、今週中に何かしらのコンクリート（具体的）な答えが出ないと本当に

戦極の悲劇

相手は誰でもいいから試合をさせてほしいと言っています

困るんですけども……。

——日本人にも今後がどうなるかわかんない選手がいますもんね。

ヒラタ こないだの記者会見で壇上に並んだ選手の中にも、大晦日に出場できない選手はいっぱいいると思いますし。せっかく合同記者会見をやってあそこで一枚もカードを発表できなかったということは「よっぽど内部で揉めてるんですね。大変なのは察しますけど」ってボクは言ってるんですけど（笑）。

——マッチメイクの難航に、結局分かれてやったほうがよかったんじゃないかっていう声も上がってるんですけど、ヒラタさんはどう思われますか？

ヒラタ ボクはマネージャーだから主催者側からすれば外野ですけども、そういったこと抜きにしてもボクは絶対に開催すべきだったと思いますね。なぜかというと、『戦極』の大晦日には吉田秀彦vs石井慧というビッグカードがあって、タイトルマッチをやってどんどん王者が決まって少なくともこれまでのストーリーも完結したはずじゃないですか。

——『戦極』の大晦日は、タイトルマッチがズラリと並ぶ予定でしたね。

ヒラタ そこでチャンピオンを作っちゃって来年からＤＲＥＡＭと対抗戦をやったほうがボクは盛り上がったと思うんですけどね。たとえば『戦極』の大晦日に突然桜庭（和志）選手が来場したりとか。

——それはホントのサプライズですねぇ（笑）。

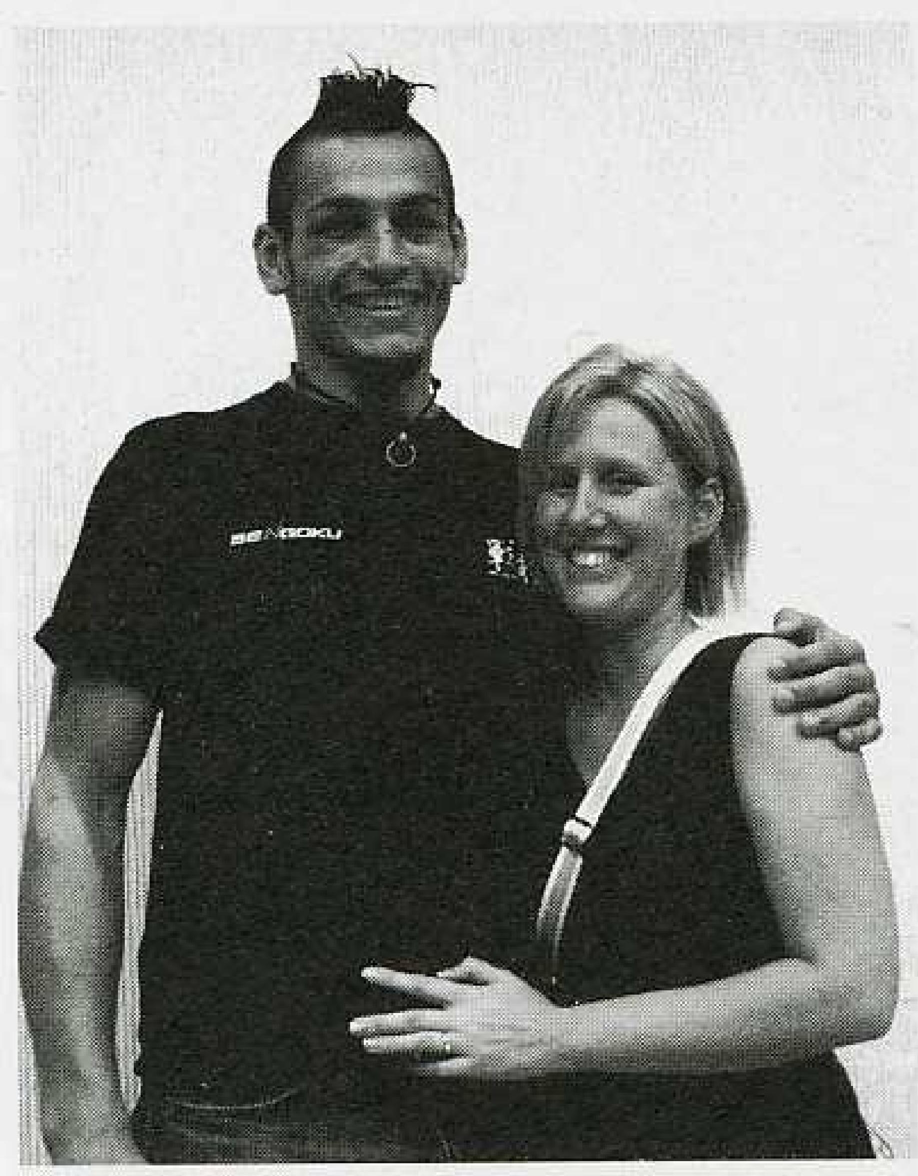
ヒラタ そもそも来年も同じようなスケールで『戦極』さんが継続していくのかっていうのも大きな問題ですし、『戦極』さんが継続していかなかったら日本はＤＲＥＡＭさんの独占市場的になりますから、それはそれでいろいろ難しくなるでしょうね。

——そうなると選手の選択肢が狭まってきますもんね。

ヒラタ これは警告として書いていただいてもかまわないんですけど、ホントにぶっちゃけた話をすると、テレビという媒体を通じての世界的な見方をすれば、アメリカのＨＤＮｅｔでオンエアされているＤＲＥＡＭも『戦極』も北米の他の大会も、そしてヨーロッパ各国で開催されて自国のテレビで放映されている大会も、視聴者数、観客動員数、そして企業スポンサーの数などを見ると、規模自体はあんまり変わんないんですよ。たとえばマメッド・ハリドブを輩出したポーランドのＫＳＷという大会は地上波のＰｏｌＳｔａｒでオンエアされているから視聴者数も多いですし、12月11日大会は、メインでワールド・ストロンゲストマン選手権を5連覇したポーランドの人気者マリウス・プジアノウスキがＭＭＡデビューをするので、１万５０００人収容の会場なんですが、チケットはもう10月下旬の時点で完売しているんです。それだけ北米やヨーロッパの力が大きくなってきてるってことを認識していただかないと。「ＤＲＥＡＭと『戦極』が協力してストライクフォースと提携すればＵＦＣにかなうかもしれない」みたいなことを思っていたら、それは大間違いだと思いますね。

——選手の実力差はまだしも、ＵＦＣとのイベントパワーの差は、残念ながら１００対１くらい離れてますもんねぇ。

ヒラタ そうなんですよ。ＤＲＥＡＭや『戦極』がここまでやってきたのは、日本にはまだＭＭＡをサポートするファンやスポンサーがいたからなんです。1〜2年ぐらい赤字続きでも継続できるだけの体力があるのは日本市場しかないってボクは思ってたんですが、それがちょっと崩れてしまったのは厳しい現実なのかもしれないですけども。選手たちは凄く残念だと思ってますよ。怒ってるとか失望するとかそんなことより先に「日本でこんなことが起こってしまって残念だ」と思ってるはずなんですよね。



ダン・ホーンバックルの奥様は、ご主人の試合のセコンドにつくほど仲むつまじい（!?）。試合消滅で無収入、それがきっかけで家庭不和が起きないことを祈るばかりである。ガンバレ、ダン・ホーンバックル!

——選手からすれば合体によってドタバタするなら、いっそのこと消滅してくれたほうがよかったという気持ちもあったりするんですかね？

ヒラタ アフリクションみたいにさっぱりなくなってくれたほうがよかったかもしれない（笑）。ボクはね、アフリクションがやったことは本当にヒドイと思うんです。1週間前に中止を発表して、選手たちはファイトマネーももらえないで大変だったと思うんですね。でも、「やめる」と決断したことによって全選手は次の日からほかの団体と交渉できたわけですよ。それだったら「やめる」って言ってくれたほうが選手は動きやすい。なまじ「来年も継続する」とか「3月は会場も押さえた」って言われてしまうと……。

——ちょっと動きづらいですよね。

ヒラタ 「待ったあげく、その大会が飛んだときどうするんですか」って話になる。ヘタすると来年1年を棒に振りますからね。

——新生ＰＲＩＤＥと似たようなケースですね。あのときも多くの選手はだいぶ待ちましたもんね。

ヒラタ そうなんですよ。「じゃあ3月の大会でタイトルマッチもやるんですか？」って話にもなるじゃないですか。タイトルマッチを目指して選手だって頑張ってきたわけですし。細かい話になれば、大晦日のルールだって10分1Rなのか3分5Rになるのかだって決まってないわけですよね。

——それなのに主催者から「いい試合してくれ」って言われても、選手からすれば困りますよね（笑）。

ヒラタ ホントそうなんですよ！ 選手たちもたとえば2ヵ月とかの調整期間を与えたほうが絶対にいい試合をしますからね。まあ、外人選手は日本のイベントはカード決定が遅いっていうことは心にとめてることなんで。だからとにかくもう試合をさせてほしいっていうことなんですよね。「相手は誰でもいい」とも言ってきてますよね。

——日本の格闘技界はそういう選手の情熱によって支えられてるってことですよねぇ……。

ヒラタ ボクから言わせてもらえば、これはビジネスですから外人選手全員をちゃんと優遇したりはできるわけがないんで、ポテンシャルのある選手や勝ってる選手だけを優遇して、あとは全員リリースするべきだと思いますよね。できないんだったら。とりあえずのリリースでもいいじゃないですか。友好的なリリースみたいな感じで。

——わかりました。大晦日にダン・ホーンバックル選手の試合を観られることを願ってます！

ヒラタ この本が発売される頃には状況が好転してることを祈ってます（笑）。

【09年12月2日／電話取材にて収録】

史上最大の対抗戦

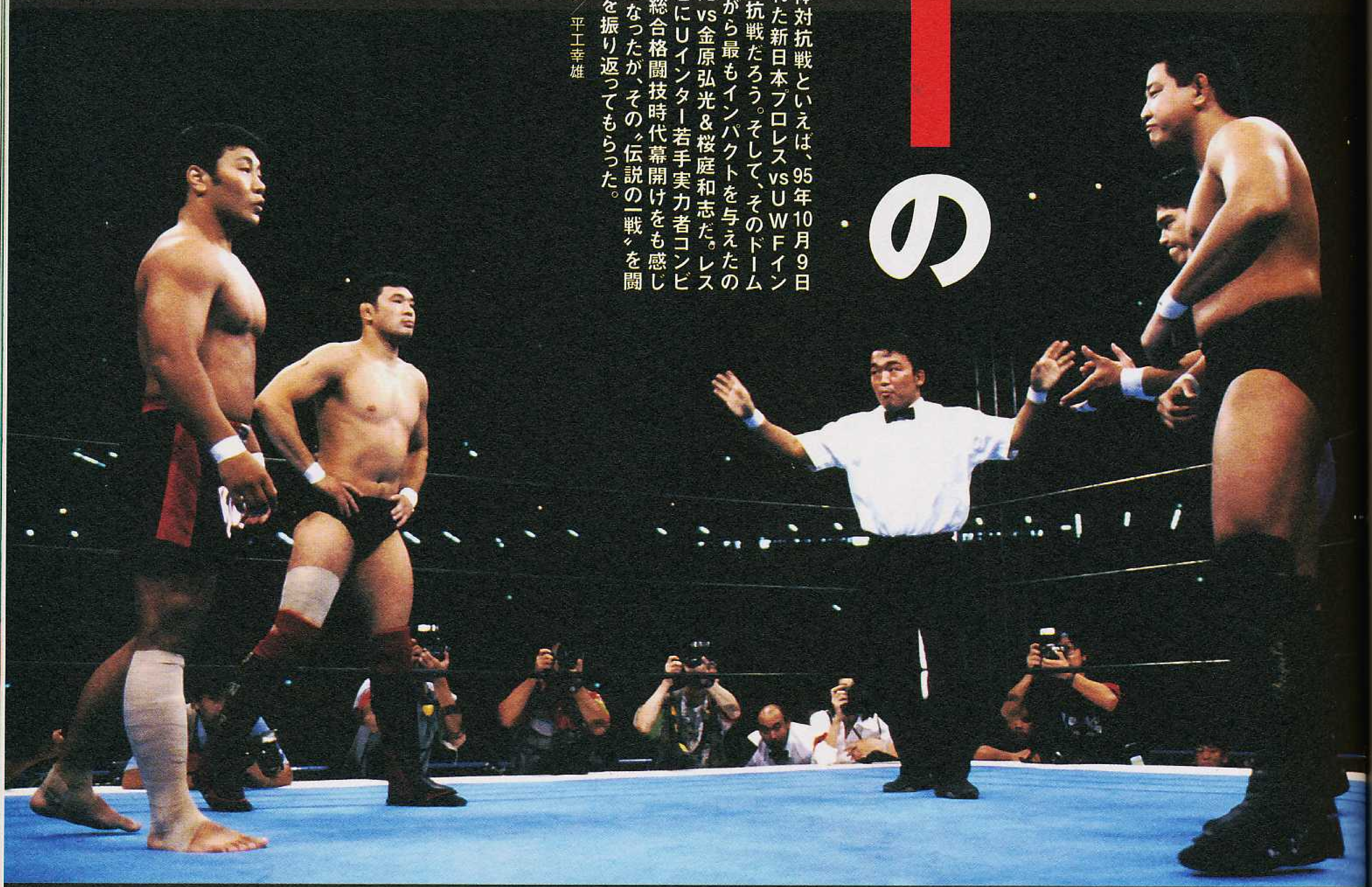
史上最大の対抗戦
新日本vsUインターの真実



永田裕志（新日本プロレス）×金原弘光（元UWFインターナショナル）
証言対談

プロレス史上最大の団体対抗戦といえば、95年10月9日に東京ドームで行なわれた新日本プロレスvsUWFインターナショナルの全面対抗戦だろう。そして、そのドームの対抗戦で第1試合ながら最もインパクトを与えたのが、永田裕志&石沢常光vs金原弘光&桜庭和志だ。レスリング全日本王者コンビにUインター若手実力者コンビが挑んだ試合は、のちの総合格闘技時代幕開けをも感じさせる緊張感ある闘いとなったが、その〝伝説の一戦〟を闘った二人に14年前の闘いを振り返ってもらった。

聞き手／堀江ガンツ　試合写真／平工幸雄



95年10月9日東京ドーム“伝説の第1試合”
永田&石沢vs金原&桜庭で何が起こっていたのか？

試合をさせてほしいと言っています

れてしまったのは厳しい現実なのか
もしれないですけども。選手たちは

んですか？」って話にもなるじゃな

【09年12月2日／電話取材にて収録】

永田裕志×金原弘光

永田さんが安生さんの顔面を素手で殴ったのは確信犯ですよね？（金原）

金原 どうもおひさしぶりです。

永田 （ガッチリ握手して）よろしくお願いします。でも、金原さんと対談する日が来るとは思いませんでしたね。金原さんは天山（広吉）との結びつきが強いと思ってたんで。

金原 天山とは新日本プロレス学校で同期でしたからね。

――今回はなぜお二人の対談かというと、今月号の特集が「対抗戦特集」ということで、対抗戦といえばなんといっても新日本vsUインターだろうと、95年の10・9ドームで伝説的な激闘を繰り広げたお二人に当時を振り返ってもらいたいんですよ。

金原 いやあ俺もさ、いままでリングスとかキングダム、PRIDEなんかも含めていろんな試合やってきたじゃないですか。でも、あのドームの対抗戦のインパクトが一番だったって、みんなに言われるんですよ。

永田 金原さんといえば、あの試合だ、と。

金原 もっといろんな試合があるのにな～、とも思うんだけど（笑）。

永田 でも、一発目でそれだけインパクト残すのも珍しいですよね。だって前座じゃないですか。

金原 東京ドームの第1試合ですもんね。

永田 しかも対抗戦は「全試合シングルマッチ」って言われてたのが、我々だけタッグマッチだったんですよね。

金原 そうなんですよ。なんでだろうって思ってたんですけど。永田さんは対抗戦が始まるとき、どうやって聞いたんですか？ 急に誰かに呼ばれて「対抗戦やるぞ」とか言われたんですか？

永田 いや、そうじゃなくて。夏休み中の8月末に「10月の頭に東京ドームでUWFインターと対抗戦をやる」っていうファックスが合宿所にきたんですよ。

――そんな知らされ方なんですか（笑）。

金原 俺らは一人ずつ道場に呼び出されたんですよ。で、道場に行ったら髙田さんと安生さんが凄く神妙な顔してて「金原、いまUWFは大変なことになってる。借金が凄い」って。

永田 そんなことまで説明するんですか（笑）。

金原 そういう会社の状況を最初に聞いて。で、「その借金を返すために新日本との対抗戦をやることになった。おまえはやるのか？ やらないのか？」って言われて、「わかりました、やります」って。

永田 一人ずつ意思を確認したんですね。

金原 ええ。でも、髙田さんに「やるか？」って言われて、断れるわけないんですけどね。

永田 僕らはとくに意思の確認とかなくて。ただ、やるっていうのが決まって、橋本さんとか武藤さんとか蝶野さんとか、そのへんの先輩方は嫌がってたって聞きましたけどね。逆に僕なんかは「おもしろそうだな」って感じでしたけどね。

――ドームのカードが組まれたとき、金原さんは永田さんと石沢さんってどんなイメージでした？

金原 やっぱりレスリングのオリンピック目指すような選手だからね、凄いエリートでしょ？ 新日本の中で一番強いのが出てきたなって感じはしたよね。

永田 当時もそれ言ってましたね、コメントで。

金原 あの頃、いろんな若手がいたと思うんだけど、その中でも一番強い二人が出てきたんだなっていうのは思ってたね。

――永田さんは金原さんと桜庭さんっていうのは？

永田 僕はまだ新日本プロレスに入る前、よく安達（巧＝元日体大レスリング部監督）先輩とUインターの試合を観に行ってたんで、金原さんがよく外国人選手をKOしたりする試合を観てたんですよ。だから「あの選手とやるんだな」って感じでしたけど、むしろ意識をしたのは桜庭のほうですね。桜庭のことは学生時代から知ってたんで、まさかこういうかたちで絡むとは思わなくて。

――あ、レスリング時代から桜庭さんのことは知ってたんですか。

永田 そうなんですよ。

金原 それに、永田さんは最初にUインターに入るはずだったんですよね？

永田 そういう話があったんですよね。

――じゃあ、新日本プロレスに入りたかった金原さんと、Uインターに入るはずだった永田さんの闘いだったんですね（笑）。

永田 だから、あの対抗戦が始まったときは、ちょっと複雑なものがあって。一歩間違えたら、逆の立場だったんだろうなって。

金原 しかも、いま俺は永田さんの出身校である日体大のレスリング部に練習に行ってるから、いまも逆の立場なんだよね（笑）。

永田 金原さんが日体大で練習してる話は聞いてたんですよ。けっこう行ってますよね？

金原 俺が日体大通うようになったきっかけは、対抗戦で永田さんたちにさんざん投げられて、「これはレスリングも学ばなきゃいけない」って思ったからですからね。それまでUWFは極めっこと打撃はあったけど、レスリング技術は正直未熟でしたから。

永田 そうだったんですか。

金原 永田さんは、なんでUインターに来ないで、新日本に入ったんですか？

永田 Uインターでやりたいと思ってたんですけど、先に話をもらったのが新日本なんですよ。自分がオリンピックの国内選考会に出てたとき、当時すでに新日本所属になってたカシンや中西（学）も出ていて、会場には新日本のスタッフがけっこう来てたんですよ。そのとき馳（浩）さんから声をかけられて。

金原 それで新日本に横取りされちゃったんですか（笑）。

永田 でも、その時点ではそんなに揺るがなかったんですよ。ただ、オリンピック出場がかなわなくてレスリングの現役を辞めたあとも、まだ未練があったんですよ。で、その当時、プロアマオープン化でプロレスラーでもアマチュアの大会に出られるようになって、団体に所属しながらレスリングを続けるっていうことをかなえてくれるのが新日本だけだったんですよね。これは憶測ですけど、Uインターで「アマレスやりながらやらせてください」って言ってもそれは無理だったろうなって。

金原 宮戸（優光）さんが絶対に許さないでしょうね。桜庭にも「大学辞めてこい。大学辞めるんだったら入れてやる」って言ったから（笑）。

永田 辞めたらもったいないじゃないですか（笑）。

金原 でも桜庭は「出席日数足りなくて卒業できなさそうだから、もういいです」って、すぐ大学辞めて入ってきましたけどね（笑）。

――永田さんと桜庭選手はどういう関係だったんですか？

永田 桜庭くんより僕のほうが学年は一つ上なんですけど、彼の同級生や一つ上で秋田商業出身というのが日体大にけっこういたんですよ。だから、土曜日になるとそのへんと連絡とって、桜庭くんが日体大の合宿所に泊まったりしてたんですよ。

――へえ、そうだったんですか。

金原 ほかの大学の選手もみんな日体大に集まって練習してますもんね。

永田 あと自分が学生のときは、田村（潔司）さんも練習に来てましたよ。

金原 田村さんはどういったコネだったんですか？ やっぱり安達さんですか？

永田 いや、田村さんは第二次UWFの頃なんで、僕が鈴木みのるに頼

金原 いや、あれは故意ですよ（笑）。

――完全に決めつけてますね（笑）。

聞かれて「いや、狙ってません。わざと空振りさせました」って言ったら、

分たちにもありましたよ。

――プロとしていい試合をやるって

ンディション作りのために休んで、猪苗代で合宿をやったんですよ。そ

殴ったのは確信犯ですよね？（金原）

永田　いや、田村さんは第二次UWFの頃なんで、僕が鈴木みのるに頼まれたんですよ。「ウチの田村がレスリングをやりたいっていうから、ちょっといい？」って感じで。

金原　へえ、そうだったんですか。

永田　だから、Uインターとは何かと縁があるんですよね（笑）。

——そしてUインターとの対抗戦ではトップバッターとして、10・9ドームの全面対抗戦前に9・23横浜アリーナの第一戦にも出てるんですよね。

永田　そうなんですよ。

金原　ああ！　安生さんの顔をボコーンて腫れさせたの永田さんですよね。

永田　僕が最初、片足タックルに入ろうとしたとき、ヒザ蹴りを顔面に入れられて、凄く腫れたんですよ。そのあと僕がマウントパンチしたんですけど。

金原　素手でマウントパンチやって。あれはよくないですよ（笑）。あれって確信犯ですよね？

永田　いやいやいや（苦笑）。

金原　だって、タックルにきたときヒザ蹴りで顔が腫れるのは偶発的な部分もあるけど、マウント取ったときに、顔面をバコーンって殴るのは故意ですよ。

永田　たぶんどっかで意識と反するところで身体が反応したんじゃないですか？

——本能で（笑）。

金原　いや〜、あれは故意だな（笑）。

永田　タックルにヒザ合わされて一瞬記憶が飛んだんですよ。こっちは動転というか、衝撃でどうなってるのかわかんなかったんですよね。

金原　いや、あれは故意ですよ（笑）。

——完全に決めつけてますね（笑）。

金原　だってそうじゃん。マウントで押さえつけて、拳で殴ってるんだから。でも、あの一撃でUインター側も緊張感が出てきましたからね。「これは単なる対抗戦じゃなくて、もっと違う何かがあるな」って。

——潰し合いみたいな。

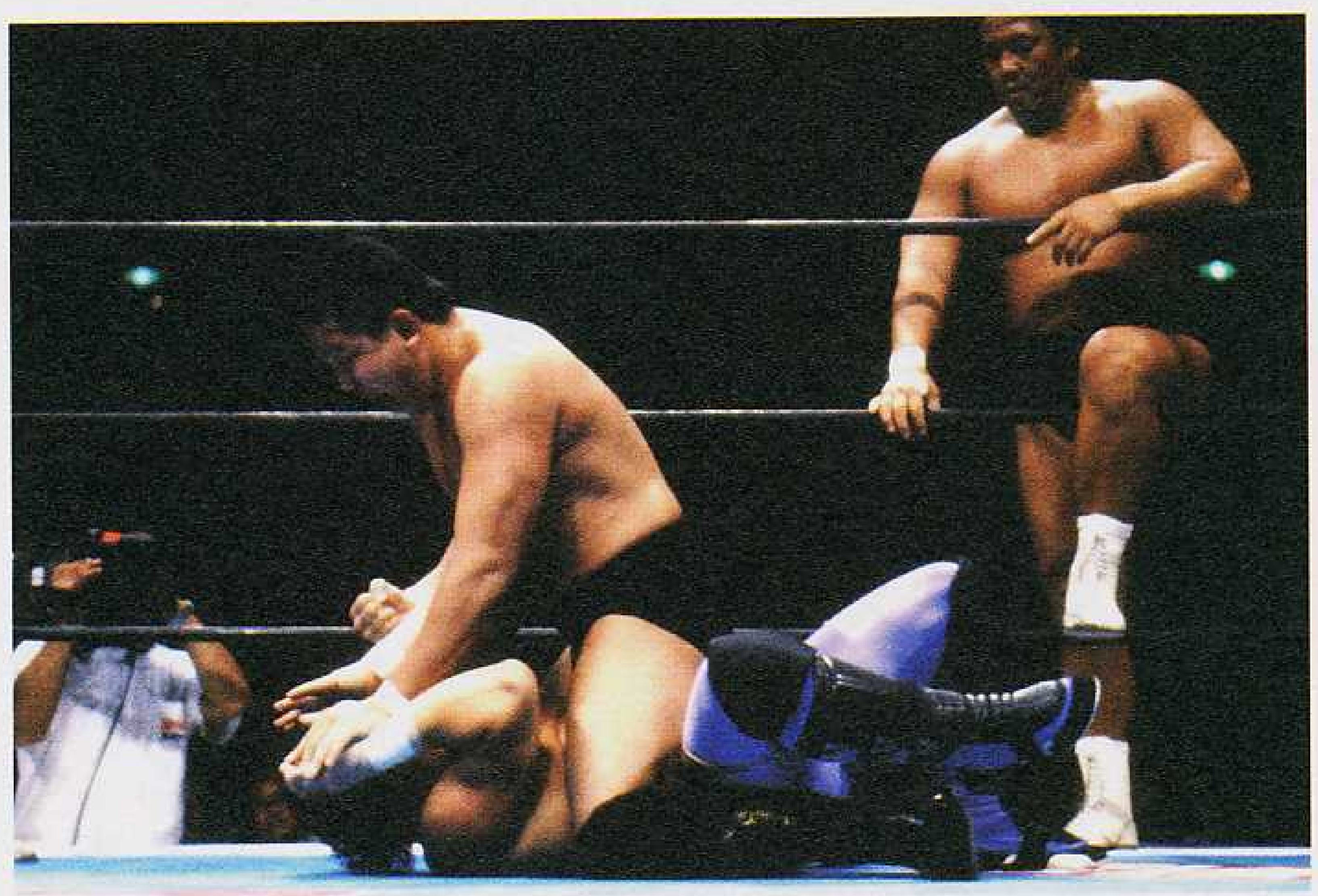
金原　そうそう。気を引き締めていかないと、何が起こってもおかしくないぞって。

永田　でも、あの試合のあと控室で長州さんに「おまえ、拳で殴っただろ。わざとか？」って言われて「いや、違います」って言ったんですよ。「そうか。おまえがいま『わざとです』って言ってたらクビだったよ」って。

金原　へぇ〜っ。長州さんってそういうところはプロなんですね。

永田　そう、だからドームで金原さんたちとタッグでやる前に口を酸っぱくして言われてたのが「石沢がキレたら止めろよ」「試合壊すな」ってことでしたから。

金原　そうだったんですか。俺もドームの試合でけん制のハイキックをおもいきり蹴って空振りさせたんだけど、試合後、髙田さんに「おまえ、ハイキックは頭狙ったのか？」って聞かれて「いや、狙ってません。わざと空振りさせました」って言ったら、「ならいい試合だ」って（笑）。やっぱり硬い素足でおもいきり蹴って当たったら、そこで終わっちゃうからね。



95年9月23日、横浜アリーナで行なわれた新日本vsUインター対抗戦第一弾、長州&永田vs安生&中野。「X」として長州のパートナーとして登場した永田さんは、試合に敗れたものの、素手のマウントパンチを安生の目に叩き込み顔面を腫れ上がらせ、存在感を見せつけた。

——ホント、ギリギリの信頼関係のうえで試合をしていたわけでか。

永田　信頼っていうのがあったのかわからないけど。何が起こるかわからないっていう、心の準備はしてましたよね。

金原　当時の俺らは若手でイケイケだったから、ホントは何かあったらやっちゃいたいって気持ちはあったんだけど、やっぱり上の人の目が光ってたから、試合を壊しかねないようなことはできなかったよね。

永田　そういう部分は、やっぱり自分たちにもありましたよ。

——プロとしていい試合をやるっていうのをギリギリで保ちながら、潰し合いに近い闘いをしてたってことですよね。

永田　最低限の自制心ですよね。僕もあの頃はイケイケでしたし、まあ、金原さんは僕ら以上にイケイケだったと思いますけど（笑）。

金原　だから素足で蹴ったら危険なのに、なんで俺がドームでレガース履かずに出たかっていうと、やっぱり痛みを味わわせたかったんだよね。関節技じゃ、極まらないと痛みはないけど、素足で蹴ればローキック一つでも、もの凄い痛みを与えられるからね。

永田　こちらもレガースを着けてないってことは、安全性を放棄してきやがったなって、勝手に解釈してましたよ（笑）。

金原　だから、ローやミドルはおもいきって蹴っていったからね。

永田　ハイキックも、カシンがタックル入ったときは、カウンターになりそうで、ちょっと危ないところがありましたけどね（笑）。

——そういう、何が起こるかわからない危険な試合だからこそ、長州さんは最初の横浜でパートナーに永田さんを選んだんでしょうね。

永田　どうして僕が選ばれたのかはわからないんですけど、9月のシリーズが始まったとき、長州さんはコンディション作りのために休んで、猪苗代で合宿をやったんですよ。そこに僕も付き人だったんで付いていったとき、長州さんから言われたんですよ。9月23日に横浜でUWF（インター）との前哨戦を一つ組む。そのとき、おまえか安田（忠夫）でいこうと思ってる」って。

——vsUインター要員ってことでしょうね。

永田　長州さんって、普段、僕らが蹴りの練習とかすると嫌な顔するんですよ。とにかくUWFみたいなことが嫌いらしくて。ところが、その猪苗代のときは「おまえ、もし蹴りたいなら俺がミット持ってやるから」とか言うんですよ。絶対ありえねえだろって思ったんですけど（笑）。

——Uインターとの対抗戦のためなら、バンバンやれ、と（笑）。

永田　そうはいっても長州さんがペーペーの俺に対して「やるんならミット持ってやる」って。信じらんないですよ（笑）。

金原　俺、昔髙田さんの付き人だったんで、髙田さんがミット持ってくれるなんて言っても蹴れないよね、そんなの。長州さんのミット持ちって凄いなあ。

永田　それ言われても頼むわけにいかないでしょ（笑）。

——「じゃあお願いします」ってわけにいかないですね（笑）。でも、そこでパートナーに選ばれたってことは、

長州さんに「わざと拳で殴ったならクビだ」って言われましたよ（永田）

対抗戦のときは外国人選手もエキサイトして
ホークに握手求められましたよ（笑）（永田）

永田さんが長州さんの懐刀みたいなみたいな部分はあったんでしょうね。

永田　どうですかね？

金原　対抗戦のときって、タッグマッチになるとトップと若手のコンビって多かったんですよ。要は実力はあるけど、負けても傷つかないっていうパートナーが必要で（笑）。

――かつての猪木さんにとっての藤原（喜明）さん的な（笑）。

永田　それと、これは僕の勝手な解釈ですけど、中野（龍雄）さんと安生（洋二）さんが相手だったんで、「おまえらなんかウチの新弟子で充分だ」っていうことをアピールしたい気持ちが、もしかしたら長州さんの中にあったかもしれない。

金原　でも、そうはいっても当時、永田さんたちが一番強かったんじゃないですか？

永田　そんなことないですよ。

金原　道場でスパーリングとかやりますよね。

永田　ええ。

金原　そういうスパーリングになったら、絶対に永田さんや石沢さんは強いですよね。

永田　カシンは強かったですよ。だからレスリングやってた人間がポジション取って、あとは極めを覚えれば強かったんでしょうけど。

金原　その極めっこは道場でやってなかったんですか？

永田　やりましたけど、基礎トレーニングを徹底的にやってボロボロになったあとやるんですよ。だからスパーリングになっても、疲れきってて力が出せなくて。徐々に体力がついてきて覚えてきたら、先輩から一本取ったりはありますけど、自分が先輩より絶対に強いとか、そういうのはわからないですよね。

金原　それはわかりますね。俺らも若手の頃はヒンズースクワットとか腕立て伏せをやったあとにスパーリングやってたから。組んだときにはもう力が入らないのよ（笑）。

永田　だから天山とかはレスリングを知らなくても体力だけはズバ抜けてたから、入門した頃は基礎トレのあとに、体重100キロの天山にガーッとやられたら、力抜けちゃいましたから。コントロールしようにもできなくて、極めたりはなかなかできませんでしたよね。

金原　新日本の選手は体力ありますもんね。みんなデカいし。だから対抗戦のとき、90キロそこそこの俺らが蹴ってもそんなに効かない感じがしましたから。

永田　やっぱり、ただデカいだけじゃないですしね。

――だから対抗戦では、新日本の選手は凄く強く見えました。体力あるし、レスリングができる人が多かったし。

金原　それにさ、俺らUインターの若手が蹴っても、新日本の選手は痛みをお客さんにアピールしないのよ。それってプロとしてどうなの!?って思ったりもしたけど（笑）。

――ダハハハ！　やせ我慢で痛くないふりをされましたか。

金原　もう、それが腹立ってね。ドームのあとで、俺が高田さんと組んで長州さん、健介さんとタッグでやったときがあったのよ。

永田　ああ、大阪ですよね！　高田さんのヒザ蹴りで長州さんの歯が飛んじゃったとき。

金原　あのとき、高田さんの攻撃では倒れるのに、俺が蹴っても健介さんとか全然効いてないふりするんだよ。

――格の差を見せつけようとして（笑）。

金原　そうすると、こっちもホントに効かせてやると思って、どんどん蹴りが強くなるじゃないですか。そうすると、ますます痛がらないから、こっちも容赦なくバンバン蹴ってね。

――嫌な若手ですねえ（笑）。

金原　いま思えばね（笑）。だから俺、昔のビデオ観て、やりすぎたと思って凄い反省してるんですよ。あの頃は若気の至りで。

永田　だからおもしろかったんですけどね。

金原　でも、あの頃の自分は、新日本の上の選手にとったら嫌だっただろうなって思って。野上（彰＝AKIRA）さん、飯塚（高史）さんとか、木村健悟さんなんかにも、けっこうやってるんですよ（苦笑）。

永田　ああ、木村さんのこと踏んづけまくってましたよね（笑）。

――大先輩をボコボコにして（笑）。

金原　みんなホント凄い蹴ってるんですよ。テレビで観たとき、「なんて悪いヤツだ！」と思って。

永田　自分で観て（笑）。

――普通に考えたらUインターのいち若手相手に、新日本の名前がある人がいいとこ見せるわけにいかないですからね。

永田　それは僕らも一緒ですけどね。僕だってあの場に出たときは、安生さんとか中野さんって名前あった人ですからね。

金原　そうですよね。安生さんの顔、ボコーッて腫れたから、あれは衝撃的だったもんなあ。

永田　横浜の最初の対抗戦では、控室のモニターで観てた外国人選手もエキサイトしてたんですよ。ホーク・ウォリアーとかスティング、クリス・ベノワ、それからいまのウィリアム・リーガルとか、あいつらすげえエキサイトしてて。

――WCWのスーパースターたちも燃えてましたか（笑）。

永田　ホークはとくに熱くなってましたね。試合後、僕は長州さんに怒られてシュンとしてたんですけど、ホークが「よくやった！」って握手も求めてきて（笑）。僕の顔面が腫れてるのを見て「なんだあいつら、次に何かあったら俺がいってやるぞ！」って言ってましたね。

――ホークまで対抗戦出撃準備OKでしたか！（笑）。

永田　ホークだけじゃなくて、みんなエキサイトしてましたね。外国人からしたら、ああいう試合はありえないと思うんですよ。

――そうでしょうね。でも、腕っ節に自信があるケンカ屋ばかりだから、ケンカならいつでもやってやるぞ、と（笑）。

永田　ホークなんか六本木でよくケンカしてたし、試合直前のランディ・サベージを控室でボコボコにしちゃったこともありますからね。

金原　へぇ～、そういうのもあるんですね。ホーク・ウォリアーは気が短いんですか？

永田　普段はいい人なんですよ。僕らは凄くかわいがってもらったんですけど、いざケンカになるとあいつは凄いですよ。

――まあ、アメリカの本物の不良ですもんね。

永田　ホントにストリートファイトに明け暮れてたらしいですからね。

――ホークに対抗して、Uインターもゲーリー・オブライトとかが対抗戦に出てたら大変なことになってたでしょうね（笑）。

金原　そうだよね。外国人が出ててもおもしろかったよね。ゲーリーも酒飲むと悪いヤツになってたから（笑）。

永田　ホントにケンカになって、試合にならなかったかもしれないですけどね（笑）。

――あの横浜アリーナでは、Uイン

永田裕志×金原弘光



対抗戦で猛威を振るったのが、金原の打撃。じつはこの時点で、本場タイでムエタイの試合にも出場していた金原の鍛えた生ズネでの蹴りは、対抗戦の緊張感をより一層高めた。

ター側の控室はどんな雰囲気だったんですか?

金原　Uインター側はみんなアリーナ席に座って観てたんだけど、永田さんの故意のパンチで安生さんの顔が腫れたから、ピリピリしてたよね。

永田　なんか故意って決めつけてるけど(笑)。故意だったらもっと腫れてますって!

金原　でも、あの永田さんのパンチが対抗戦の緊張感を高めたのは事実ですよ。

永田　あの試合のあと、安生さんと病院で一緒になったんですよ。それで僕は安生さんのヒザで、眼窩底折れててもおかしくなかったんですけど、安生さんのケガのほうが心配でしたね。もし安生さんがケガで10月のドームに出られなかったら……って思ったらね。

——確かに10・9ドームで長州vs安生っていうのは、メインの武藤vs髙田戦と並ぶくらい注目されてましたからね。

永田　そのカードが俺のせいで吹っ飛んだら大変だって、自分のケガよりそれが心配でしたよ(笑)。

——で、永田さんも無事ドームには出場できたわけですけど、お互い第1試合で闘ってみて、どんな印象がありました?

金原　俺は試合以前に、まずドームの雰囲気が凄かったことを覚えてますね。新日のファンの声援があまりにも多くて、最初に僕らが入場したら大ブーイングでしたからね。

永田　ブーイングだったんですか。

金原　もう凄かったですよ。あの満員の会場で、9割ぐらい新日ファンだったんじゃないかな。俺はそのブーイングが逆に気持ちよかったんですけどね。

永田　あとで映像観たら煽ってましたもんね。

金原　あんなブーイングされたり、罵声浴びせられたの初めてだったんで、妙に気持ちよかったんですよ。それで、俺らのあとに永田さんたちが入場したら、もうキャーキャーって歓声で、「なんじゃこれ?」と(笑)。

永田　僕は入場のときの歓声とかはわかんなかったんですよ。こっちも気合い入ってたし。歓声で覚えてるのは、金原さんと絡んだときかな? 倒して上から殴る振りしただけで、ドカーンッて沸いて。それは覚えてますね。

金原　今度は殴るふりだけだったんですね(笑)。俺はあのとき、とにかくバンバン蹴って、痛みを伝えてやろうと思ってましたけど。

永田　蹴りだけじゃなくて、蹴り足取ったら顔面もバンバンぶん殴ってましたよね(笑)。

金原　そう、蹴り足取られてもバランスよく立ちながら掌底でバンバン殴って(笑)。

永田　確かそのあと回し蹴りがきて、それをよけて倒したら、下からバーンッて蹴り上げてきて。それで俺も頭にきて、バック取ってそのままうしろにグレコローマンの底力でぶん投げて(笑)。

金原　ああ、そうだそうだ。そう考えるとおもしろかったですよね。レスリングvsムエタイみたいな感じで。

——対抗戦というより、異種格闘技戦に近い感じでしたよね。金原さんは、あの試合でレスリングの強さを知った感じなんですか?

金原　永田さんの胴タックルとか、あれは凄く有効だなって思いましたね。打撃の間合いを一気にゼロにできるという。石沢さんの片足タックルもよかったけどね。ちょうどあの頃、安達さんがUインターについてくれるようになった頃で「レスリングは大事だ」って言われてたんだけど、そのとおりだな、と思ったよね。

永田　安達先輩ってキングダムの前のUインター道場にも顔出してたんですね。

金原　そうですね。で、対抗戦が終わった頃、Uインターの末期に入って、そこからちゃんと教えてもらうようになったんですよ。だから、対抗戦の頃は安達さんにちゃんと習う前だったから、石沢さんが片足タックルできても、その切り方を俺たちは知りませんでしたからね。だからいいように転がされてたんで、対抗戦が終わった頃から、俺たちは安達さん指導のもとで、夢中になってレスリングをやったんですよ。

——そうだったんですか。U系3派の中で、Uインターが最もバーリ・トゥードに対応できたっていうのは、UWFの技術にレスリングが加わったからじゃないですか。

金原　ああ、それはあるよね、大きいね。

——そのきっかけの一つが、永田さんや石沢さんだとも言えるわけですね。

永田　その考え方は強引じゃないですか?(笑)。

金原　でも、実際そうですよ。初期のバーリ・トゥードってレスリングが強い選手が勝ってたじゃないですか。俺らキングダムは、UWFの技術に安達さんのレスリング、エンセン(井上)の柔術、それからボーウィー(・チョーワイクン)のムエタイが加わって完成したものですからね。

——そして新日本との対抗戦で、レスリングの気づきを与えられた、と。

金原　とくに永田さん、石沢さんはレスリングでも全日本選手権取ってるくらいの選手ですから別格ですよね。ほかの選手がタックルにきても、切ったりカウンターでヒザを入れたりできたけど、石沢さんのタックルは入り方が違ったから。

永田　石沢選手はホントにタックルうまいですよ。

金原　石沢さんといえば、年が明けて、たしか札幌2連戦をやったとき、

永田裕志×金原弘光

コーナーでクリンチしてブレークする際、頭を打ちつけてきて、俺の目がパコーンって腫れたんだよ。

永田 カシンの頭突きで金原さんの顔がみるみる腫れていったの覚えてますよ（笑）。

金原 あれはさすがに腹立って、ボッコボコに殴ったろうと思ったときに、石沢さんはパッて高岩さんかなんかにタッチするんですよ（笑）。

——それ観ましたね。8人タッグかなんかじゃないですか？

永田 そう、8人タッグ。

——それで高岩選手がひどい目に遭うんですよね。たしか前日は金原vs高岩のシングルで、二日連続ひどい目に遭うという（笑）。

金原 そうそう（笑）。

永田 でも、あのとき僕らは高岩に勇気をもらったんですよ。あの前日、高岩はシングルで相当やられて、それをやり返すために、手刀のためにテープでぐるぐる巻きにして、試合でもチョップで前に出ていってたから。

金原 でも、対抗戦はどの試合も緊張感ありましたよね。

永田 みんな、いい意味ですっげえ緊張してたし、集中してましたね。

金原 相手が何かやってくるかもしれないって、常に思いながら闘うわけだからね。こっちが先に一線越えたら怒られるけど、向こうがやってきたらやり返すっていう気持ちはずっと持ってたから。

永田 そういうギリギリの試合が多かったですよね。

金原 でも、僕がのちにリングスに移籍したとき、前田さんに「金原、おまえ新日本と対抗戦やったとき、なんで全部仕掛けてやらなかったんや。俺やったら全部やったるわ！ガハハハ！」って言われたから、これはこれですげえなと思って（笑）。

当時の金原さんの印象は、まさに「カ、カテエ……」ですよ（笑）

——さすがですね（笑）。いま思うと、新日本vsUインターより、その前の新日本vsUWF軍団のほうがもっとひどいことやってましたからね。

永田 ひどかったらしいですね。

金原 前田さんがハイキックで、おもいきり猪木さん蹴飛ばしてたんだよね。

永田 だって最初の5vs5イリミネーションマッチなんて、ホントに引いてるの星野（勘太郎）さんだけですよ。星野さんがなんとか試合をまとめてたんですから。

金原 あれは、俺らファンとしてテレビで観てて興奮したもんね。

永田 前田さんなんて、上田馬之助さんの顔面とか平気で蹴飛ばしてましたもんね。あんな大先輩をですよ！

——そう考えると、永田さんや金原さんは大人ですね（笑）。

永田 気持ちはイケイケでも、抑えるところは抑えてね。まあ、金原さんはあんまり抑えてなかったと思うけど（笑）。



かねはら・ひろみつ■1970年10月5日、愛知県出身。91年にUWFインターでデビュー。キングダムを経て、リングスに参戦。2000年のリングスKOKトーナメントでは、日本人最高の3位。「リングス最後のエース」と呼ばれた。現在はDEEPを主戦場に活躍中。178cm、84kg。

ながた・ゆうじ■1968年4月24日、千葉県出身。レスリング全日本選手権優勝し、92年に新日本入団。02年～03年にIWGPヘビー級王座10回防衛の記録を作り「ミスターIWGP」と呼ばれる。総合でもミルコ、ヒョードルと伝説的な死闘を展開した。183cm、108kg。

昔みたいにとんがるために、今度青義軍に入れてくださいよ（笑）

——金原さんだけ昭和UWFの大人げなさがありましたか。

永田 新日本の中では「金原は固い」って有名でしたから。まさに「カ、カテエ……」って感じですよ（笑）。

——ダハハハ！

金原 山本（喧一）もかなり固かったけどね。

永田 金原さんはトンガってたから、コメントもけっこうキツかったじゃないですか。だから、金原さんのことを言う人は多かったですね。僕がUインターに入りたかったことを知ってる人は「おまえが向こう行ってたら、ホント金原みたいだったろうな」とか言われて（笑）。

金原 ハハハハハ！

——金原さんは新日本の選手から嫌われてたんですね（笑）。

金原 当時とがってたから。昔のビデオ観て反省するもん、ホントに。

永田 いや、若いときってそうでしょ。俺らもとがってたのを抑えられてただけですから。

金原 でも、いまは逆にあの頃みたいにとんがりたいですよね。

永田 ああ、なるほど。そういうのはどうしても薄れますからね。

金原 年取ってきて、とんがりてえな、もっと強気でガンガンいきたいなって思うようになりましたよ。

永田 でも、金原さんはいまや格闘技界では大ベテランなのに、頑張ってますよね。DEEPとかいろいろ出て。

金原 地道に頑張ってますよ。俺もいつも『ワールドプロレスリング』で永田さんの活躍は観てますからね。今度、俺を「青義軍」に入れてくださいよ（笑）。

——ダハハハ！ 金原さんの青義軍入りはいいですねえ（笑）。

永田 いやいやいや（苦笑）。青義軍はダメなヤツを鍛え直す軍団ですから、金原さんみたいに鍛え直す必要がない選手は合いませんよ！

——あのドームの対抗戦でやり合った二人が、青義軍で青春ドラマのような熱さを展開するのも観てみたいですけどね（笑）。ま、お二人のますますの活躍を期待してお開きにします。ありがとうございました！

【09年11月25日／都内・某所にて収録】

ノアとの対抗戦が実現!
新日本プロレス
『レッスルキングダムIV in 東京ドーム』
東京・東京ドーム
2010年1月4日(月) 開場15:00
開始17:00

主要対戦カード

IWGPヘビー級選手権
中邑真輔 vs 高山善廣

GHCヘビー級選手権
杉浦貴 vs 後藤洋央紀

NJPW vs NOAH スペシャルシングルマッチ
棚橋弘至 vs 潮崎豪

IWGPジュニアヘビー級選手権
タイガーマスク vs J-CUP 5th ステージ優勝者

チケット料金
ロイヤルシート（特典付）30,000円
スペシャルシート（特典付）20,000円
アリーナA 10,000円 1Fスタンド 5,000円
2Fスタンド 3,000円
シニア・中高生（1Fスタンド）2,000円
小学生（2Fスタンド）1,000円

お問い合わせ
TEL.03-6407-3111



移籍したとき、前田さんに「金原 お
まえ新日本と対抗戦やったとき、な

青義軍に入れてくださいよ（笑）

——今回は戦極グリーンこと西垣梓さんが大晦日の『SRC』で戦極ガールを卒業されると聞きまして、「さようなら、戦極

西垣　ウフフフ。えー、なんにも考えてないんですけど、普通にパーティとかぁ、あとは実家でおそばを食べようかなーって。

ですよ

西垣　また～、バカにしてぇ。DREAMって私でも聞いたことあるんですよ。すっごい格闘技界で有名です！（キッパリ）。

——"紙"というのは、質問事項を書いたカンペのことですね。

西垣　ズルいですよね、ウフフフ。でも廣



12・31『SRC』中止で戦極ガールの"卒業式"も消滅!?

さようなら!? 戦極グリーン

西垣梓

今年の大晦日興行をもって涙の"卒業"となる予定だった戦極ガールたち。
しかし!『SRC』が中止になったいま、彼女たちの"卒業式"もなくなってしまう予感!?
はたして戦極ガールはどうなるの? 混乱している大晦日前のドタバタの中、
本誌でもおなじみ戦極グリーンこと西垣梓を直撃した! ホントに"さようなら、戦極グリーン"なの!?

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／松下ミワ

――今回は戦極グリーンこと西垣梓さんが大晦日の『SRC』で戦極ガールを卒業されると聞きまして、「さようなら、戦極グリーン」というインタビューをしようと思ったんですが……。

西垣　あ、なくなったみたいですね（アッサリと）。

――そうなんですよ。代わりに『Dynamite!!』という大会で戦極vsDREAMの対抗戦が実現することになりまして。ご存知ですか？

西垣　ちゃんとは聞いてないんですけどぉ、なんか合体するとか聞いて。菜々緒ちゃんからメールがあったんですよ。「DREAMと一緒になるらしいよ」みたいなぁ。

――ほう、戦極ブルーの菜々緒さんから連絡がありましたか。

西垣　菜々緒ちゃんって凄いマジメなんで一個一個ちゃんとしてないとイヤ、みたいな感じで。私は直前でもなんでも全然平気な人間なんで、ゆっくり待とうかなあと思ってて。

西垣のマネージャー　……じつはその件で西垣から連絡があったんですよ。「31日に予定入れてもいい？」って（苦笑）。

――アハハハハ！　いったいどんな予定を入れようとしたんですか？

西垣　ウフフフ。えー、なんにも考えてないんですけど、普通にパーティとかぁ、あとは実家でおそばを食べようかなーって。

――パーティは西垣さんらしいですけど、実家でおそばはイメージが湧きませんね（笑）。

西垣　なんかもうワクワクしてたんですよねぇ。

――パーティは楽しいかもしれませんけど、ワクワクしちゃダメでしょ（笑）。

西垣　そうなんですけどぉ、ブログ（SRCホームページ内のSRCガールブログ）書こうとしたけど、サイトすらも消えたっぽくて、どうしよう？　……みたいな。

――ああ、DREAMとの対抗戦が発表されるちょっと前、SRCのホームページがメンテナンス中だったんですよね。でも、いまはちゃんと復活してますけど。

西垣　あ、そうなんだ。

――『戦極』とDREAMの対抗戦って聞いてどう思いました？

西垣　なんか、前よりももっと大きな会場でやるとか聞いたんで、そんな大きい大会に『戦極』の選手が出られるようになったら素敵だと思います。

――ちなみに西垣さん、DREAMって知ってます？

DREAMって私でも聞いたことあるんですよ

西垣　また～、バカにしてぇ。DREAMって私でも聞いたことあるんですよ。すっごい格闘技界で有名です！（キッパリ）。

――ええ（笑）。

西垣　ん？　でもK-1は？　K-1もすっごい聞くんですけどぉ……。

――あの～、K-1は立ち技なので、総合格闘技の『戦極』やDREAMとは、またちょっと違うんですよ。

西垣　ふ～ん。でも一個になったほうがわかりやすいですよね？

――まあ、わかりやすいかもしれませけどね。……こういう状況なので西垣さんの卒業もどうなるかはわかりませんけど、これまで『kamipro』では西垣さんには名インタビュアーとして大活躍していただきました。

西垣　いや～、全然知識がないインタビューばっかりで、申し訳なくて。

――いえいえ、かなりインパクトもありましたし。一番最初に取材したのは廣田（瑞人）選手でしたけど、どんな印象がありますか？

西垣　廣田選手はなかなかしゃべってもらえなくてぇ、明るくしゃべってもらいやすいようにやったつもりなんですけどぉ。だから、"紙"も見ちゃいけないなって。

――"紙"というのは、質問事項を書いたカンペのことですね。

西垣　ズルいですよね、ウフフフ。でも廣田選手はマジメな方だし、試合を観てても、最初すっごい向こうが攻めてたじゃないですか。

――む、向こうというのは、ひょっとして……北岡（悟）選手のことですかね？

西垣　そう！　すっごい最初やられてて、これは無理だと思ったんですけど、でも一生懸命だから最後に逆転しちゃって凄いなって。だからホントにマジメな方なんだなと思いました。

――まあ、ナンパ話とかもしてましたけどね（笑）。

西垣　あ、そうだ（笑）。

――で、二回目は西垣さんがEXILEのメンバーの一人だと思っていた郷野聡寛選手で（笑）。

西垣　解説席に座ってて、ファッションを見て「今日のコメンテーターはEXILEなんだ」って思ってて（笑）。でも、そのあとでインタビューをしたときも、すっごいオシャレしてるから「何を示したいんだろう？」と思いました。

――アハハハハ！　あのファッションには何か思惑があるんじゃないか、と？

戦極グリーンのインタビューreveiw!



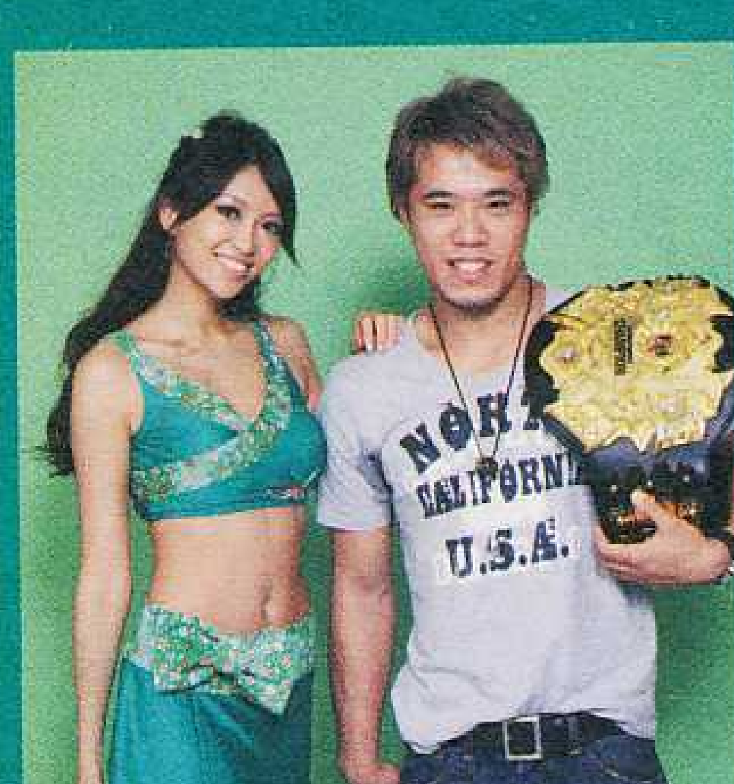
廣田瑞人

戦極グリーン初のインタビューは廣田瑞人。なかなかしゃべらない廣田だが、戦極グリーンは地元長崎でナンパをしまくってた廣田の過去を見事に引き出したのだった。



郷野聡寛

インタビュー第2弾は、"頭脳派"郷野聡寛。いつも『戦極』の解説席に座っているのはEXILEの人だと思っていた戦極グリーンだが、本人と対面し、EXILEではなかったことに納得。



金原正徳

第3弾は金原正徳。取材の終盤は戦極グリーンの"実体"に気づいた金原がツッコミ側に回るという内容になったが、当の本人はツッコまれてたことにまったく気づいてなかった様子!?



横田一則

最後は横田一則。戦極グリーン自ら"横田講義"だったというように、マット界の書けないことまで話しまくった横田。一方、戦極グリーンは横田と誕生日が同じだったことに感激!?

西垣　なんか主張とか威嚇じゃないけど、なんか持ってんだろうなと思って。

―主張はあるかもしれませんけど威嚇はないと思います（笑）。

西垣　（気にせず）そこを知らないうちに潰してしまったらすっごい怒られそうだなと思って様子をうかがってました。で、話してみたら、けっこうあれですよね？

―どうでした？

西垣　いい人だけど、戦略とかありますよね、ファンに対してとか。

―鋭いですね。

西垣　凄く考えてるなと思いました。でも、なんか脱ぐのも大変そうでしたね。なんだっけ、ダン・ホーンバックル？

―あぁ、ダン・ホーンバックル戦では郷ひろみばりのスーツ姿で入場してましたからね。

西垣　そうそう。でも、強いですよねぇ、ダン・ホーンバックル。

―郷野さんはひさびさの日本での試合だったんですけど、ハイキックでKOされちゃいましたからね。

西垣　でも、試合前に話を聞いたら、『戦極』と契約して、いままでより大きなお部屋に引っ越したから負けられない」って言ってたじゃないですかぁ。

―言ってましたね。

西垣　でも負けちゃったから、引っ越しのお金大丈夫だったのかなぁって。もうずっとそればっかり気になっちゃって。

―今度、聞いておきます（笑）。で、次は金原選手でした。また先の二人ともタイプが違いますけど。

西垣　金原選手は、もうずっと格闘技をやってきた人なんだなと思いました。

―う〜ん、わかるようなわかんないような。

西垣　なんか話とか盛り上げようとしたんですけど、はにかんで照れたりしてて。で、きっとベルトがもらえるぐらい頑張ってきて、これまで女の人と冗談を言い合ったりとか、しゃべったりしてなかったのかなあって。

―確かに最初は緊張ぎみでしたけど、打ち解けてからは逆に西垣さんにツッコミを入れてる感じでしたよ？

西垣　あー、そっかぁ、ツッコミ派だったんだぁ。



マルロン・サンドロのチームメイトから「キミを来年のカレンダーにする」と新手の手法でアプローチされたという戦極グリーン。仕方なく一緒に写真を撮ったそうだが、その人物とは？ ひょっとしたらこの中にいたりして。

―それもまたどうかと思いますが（笑）。

西垣　でも、逆に尊敬しました。ツッコミ派なのに格闘技も凄い頑張ってきてベルトも獲って。まだ若いのにぃ。

―西垣さんより年上ですけどね。で、一番最近、話を聞いたのが横田選手です。

西垣　横田講義ぃ、みたいな感じで。アハハハハ！

―横田先生の講義はかなりおもしろかったんですけど、載せられない話が多いんですよね（笑）。

西垣　そうそう。なんか、隠しごとが多いですよね。○○の話とか○○○の話とか。髪の毛が薄いのも隠そうとしてたし（笑）。

―ええ（笑）。

西垣　でも、インタビューする前って試合での印象しかわからないじゃないですか。で、横田さんって応援の人が凄くたくさんいたんで、友だち付き合いがいいんだろうなって。

―チケットもたくさん売ったみたいですからね。

西垣　でもぉ、思ったのが元ヤンとかって友だち多いじゃないですか。だからそういう人なのかなと思って。

―横田さんは元ヤンだと思ってましたか（笑）。

西垣　こーんなふうに（舌を出して）レロレロレローって相手を挑発するファイトとかして、「この人、性格悪そうに見えるけど、やっぱり元ヤン？」と思ってたんですよ。

―実際話をしてみて、それを確信したとか？

西垣　いや、話してみたら違うのかなって思ったんですけどぉ、じつはインタビューするとき「絶対怒られる」と思って、質問事項を読み込んで、失礼にならないように言い回しを丁寧に変えてたんですよ。

―そんな細やかな配慮をしていただいてたなんて気づきませんでした（笑）。

西垣　すぐ上からものを言ってるように聞こえるって言われるんで、私。威嚇系っていうか。でも優しい人でしたね。

私がインタビューした人はみんな勝ってほしいです！ 知らない人は……

―でも印象的だったのが、どの選手にも西垣さんは「筋肉が凄いですね！」って聞いていて。もしかして筋肉フェチなんですか？

西垣　いや、べつにそういう目で見てないですけどぉ……。なんか、恥ずかしい（急に顔を真っ赤にして）。

―威嚇系なのに恥ずかしがっております（笑）。

西垣　でもホント凄かったですもん、身体が。私も筋トレしてるんですけど、あんまり筋肉つかないんですよ。ジムで加圧トレーニングみたいなのをけっこうやってるんですけどぉ。

―それは本格的ですね。

西垣　私、ミスユニバースの大会でレッスン受けてたんですけど、けっこう海外の人に通用するぐらい「ボン！」って感じがいいんですよね。

―いわゆるボン、キュ、ボンというグラマラスな体型が選考基準的には重要ってことですね？

西垣　そうなんですけど、薄っぺらいんですよ、私。薄っぺらい人間なんです。

―薄っぺらい人間って（笑）。でも、西垣さんって、かなりナイスバディじゃないですか。郷野さんも横田さんも口を揃えて「戦極ガールの中で一番スタイルがいい」って言ってましたし。

西垣　いやいやいや（笑）。私もトレーニングして頑張って腕とか脚とか筋肉つけ

たんです。全然ナイスバディとかじゃなかったし、筋肉つけてもってるみたいな感じなんで。でも、格闘技やってる人って、そんなこと口にできないくらい鍛えてるんで、もうハンパないよぉと思って。そんな凄い人たちと話させてもらって、なんか悪いなと思っちゃいますよね。

―インタビューした選手以外で気になる選手はいました？

西垣 あー、マルロン・サンドロ！

―また、渋いですねぇ(笑)。

西垣 だって、彼が闘ってるときに、胸とお尻が凄い「ボン！」って女の人が、「はー、ガンバってー！ ガンバってー！」(必要以上に頭をぐるんぐるん揺らしながら)ってなってたんでぇ。「何、この人？」みたいな。

―サンドロの奥さんとか彼女だったんですかね。

西垣 なんか、ブラジル人っぽくて。で、最後にその人としゃべったりして仲良くなったんですよ。

―あ、そうなんですか(笑)。じゃあ、サンドロというよりは、その女性が印象的だったんですね。

西垣 ていうか、その「ボン！」の人だけじゃないんですよ。

―サンドロ陣営はそれだけじゃなかった？

西垣 サンドロさんのセコンドの人が私と写真撮りたいとか言ってきて、「ああ、このグリーンと写真が撮りたかったんだぁ、エヘヘヘヘ」って(またしてもオーバーアクションで再現)。

―その人もブラジルの人ですか？

西垣 たぶんそう。で、その人は「キミを来年のカレンダーに採用するよ」とか言いはじめてぇ。

―いったい、なんのカレンダーなんだ(笑)。

西垣 だからもう、「べつに写真ぐらい一緒に撮りますけどぉ」とか言って。でも、マルロン・サンドロは普通のいい人なんだなって思いました。

―あ、サンドロは普通なんだ(笑)。あまりにも話が急展開すぎて、ついていくのが精一杯です。



にしがき・あずさ■1984年4月3日、東京都出身。09年3月から戦極ガールとして活動している。08年にはミスユニバースのファイナリストとして、モデルやテレビ東京の『やりすぎコージー』のやりすぎガールなど、幅広く活躍中。最近は巨人のグライシンガーからアプローチされているというから凄い！

西垣 ウフフフ。周りが何をしてても「仲間たちは放任かよ！」みたいな(笑)。

―ラテンのノリなんでしょうか。

西垣 あとはやっぱり北岡選手はなんか凄かったです。

―あの入場とかインパクトありますもんね。

西垣 こんなんになってましたよね(と言って、永田さんばりの白目で北岡の入場シーンを再現)。

―アハハハハ！ ちょっとやりすぎです(笑)。

さようなら!? 戦極グリーン

西垣 そっか。でも、北岡さんってナンバーワンっていうか、オンリーワンですよね。ウフフフ。

―そういうことにしておきましょう(笑)。そういえば、西垣さんについてネットで検索していたら、巨人のグライシンガー投手が西垣さんにアプローチしてるっていう新聞記事を発見したんですけど。

マネ えっ、ホントっ!?

西垣 ウフフ。それ、いろんな人から言われましたぁ。

―なんでもグライシンガーさんは蛯原友里や道端ジェシカといったモデル系が好きだったけど、二人とも熱愛が発覚して、しばらくショックを受けてたらしいんですが、「新しいコを見つけたよ。西垣梓だよ」とアピールしていたらしいです。もしかして、知り合いとかですか？

西垣 いや、知らないです。私、一回『メトロポリス』の表紙をやらせてもらったことがあって。で、私って全然有名じゃないんですけど、外国人エリアの人しか見てないような雑誌だったら、たまたまそれ見たんだろうなあって。

―もしくは『kamipro』読者かもしれないですよね(笑)。

西垣 アハハハハ！ それだったら、おもしろーい！

―では、最後に対抗戦に挑む戦極ファイターにエールでも送ってもらいましょうか？

西垣 なんか、イメージ的にDREAMのほうが大きいと思ってたし、選手も強そうだと思ってたんで、ちょっとかわいそう。そんな人たちと闘うって。

―そんな弱気でどうするんですか！

西垣 でも、『戦極』の選手たちがテレビに出て大々的に取り上げられたら凄いチャンスですよね。だから、勝つか負けるかよりも、みんな満足できるように頑張ってもらって、やり終わったときに「よかったな」って思ってもらいたいです。

―いやいや、対抗戦なんで負けたらダメですよ。ある意味、戦争ですからね！

西垣 そっかぁ。じゃあ、私がインタビューした人はみんな勝ってほしいです！……知らない人は負けても心痛まないですけど(小声で)。

―まあ、そうでしょうけど(笑)。来年以降の野望とかありましたら聞かせてください！

西垣 やりたいことはいろいろあるんですけど、アジアンハリウッド女優になりたいかなって思っていて。いま、ハリウッド映画とかで日本人役を演じてる女優のほとんどが中国人なので、ホントの日本人が演じる日本人役を務めたいなって。

―ほう、それは素晴らしい！

西垣 一応、私、英語もできるんで、海外に向けていろいろ活動していきたいっていうのはありますね。

―格闘技つながりでいうと、UFCのオクタゴンガールっていうのもありかもしれないですね。明石家さんまさんとかもお気に入りのオクタゴンガールがいるみたいですし。

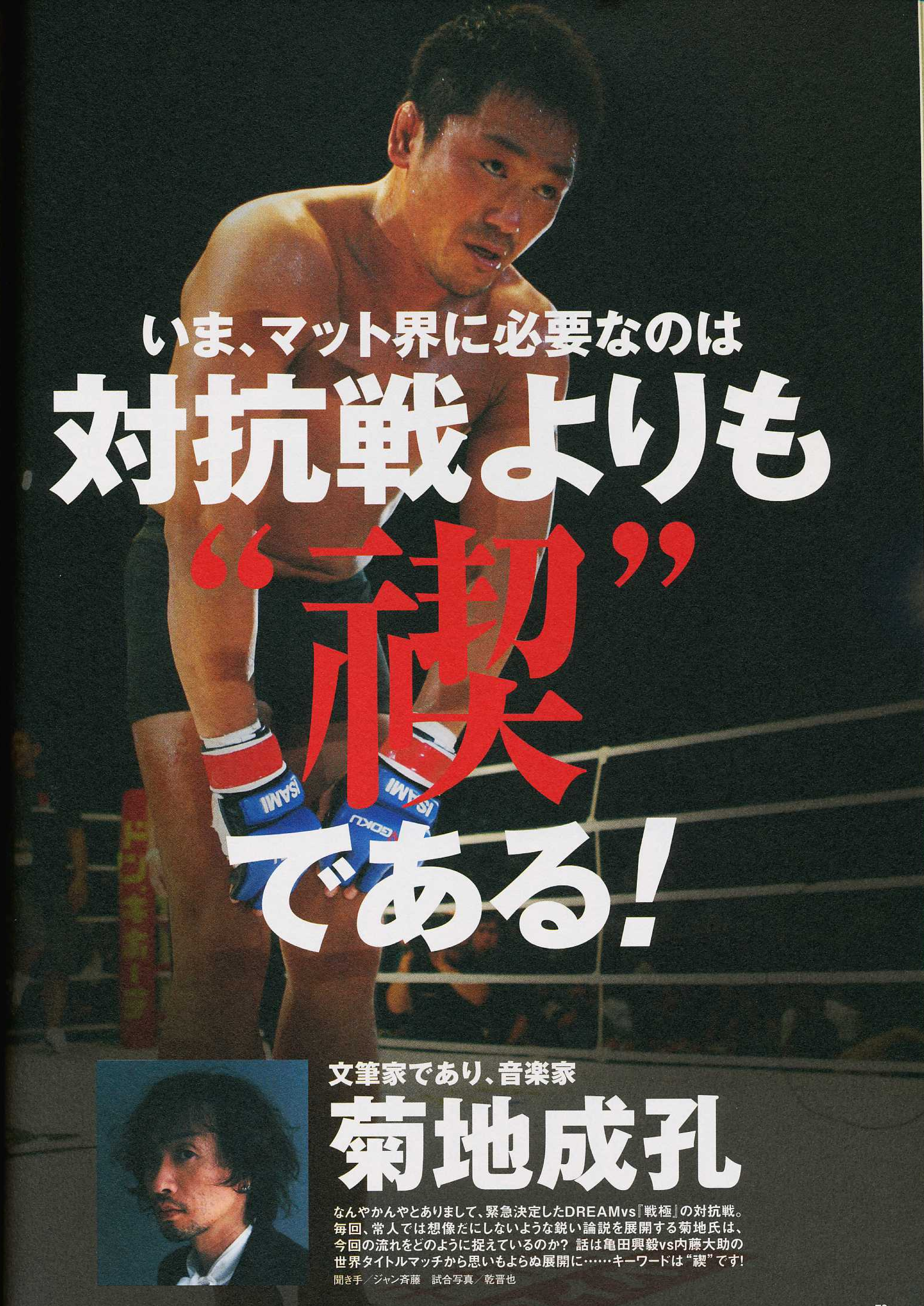
西垣 わー！ じゃあオーディションに出てみようかな。で、私と一緒に『kamipro』も海外進出しよう、みたいな(笑)。

―わかりました、一緒に進出しましょう！ ……じゃあ、最後に戦極ポーズで締めましょうか？

西垣 えっ、なんですか、それ？

―一、十、百、戦極ッ！ 戦極ッ!!(ヤケクソ)。

【09年12月4日／都内・『kamipro』編集部にて収録】



いま、マット界に必要なのは

対抗戦よりも“禊”である!

文筆家であり、音楽家

菊地成孔

なんやかんやとありまして、緊急決定したDREAMvs『戦極』の対抗戦。毎回、常人では想像だにしないような鋭い論説を展開する菊地氏は、今回の流れをどのように捉えているのか? 話は亀田興毅vs内藤大助の世界タイトルマッチから思いもよらぬ展開に……キーワードは“禊”です!

聞き手/ジャン斉藤　試合写真/乾晋也

—現時点ではまだカードは一つも発表されてませんけど、大晦日にDREAMと『戦極』の対抗戦が行なわれるんですよ。

菊地　正直言って、格闘技は何が起きてるのかがよくわかってないんです（苦笑）。亀田（興毅）と内藤（大助）のボクシング世界戦は観ましたけども。

—あの試合、とんでもない高視聴率でしたね。

菊地　平均が40パーセント超え、瞬間最高が50パーセントを超えた。要するに〝昭和のボクシング世界戦〟ですよね。あの日、仕事でいろいろな場所に移動していたんですが、すべてのテレビモニターがアレ映してました。

—それにしても、あそこまでの数字を獲るとは思いもしませんでした。

菊地　禊が済んだということなんですよね、おもに。

—禊ですか？

菊地　うん。亀田一家がみそいだことで日本中が「許してやろうか」ってことで獲れた数字だと思いますよ。いまの日本のキーワードは「禊」だと思うんです。こないだ、名古屋に行って公演してきたばっかりなんですけど、リーマンショック以来、もうトヨタ丸抱えで名古屋市自体が倒産すんじゃないかって話だったんですけど（笑）。

—その危機からは脱出してたんですか？

菊地　まあ、景気がちょっと良くなったといってもこのご時世ですから、たいしたことないですけど。フルハウスになりました。まあワタシの興行の話はともかく、「エコカーによる盛り返し」っていうのは、やはり、禊によるものだと思うんですよ。トヨタが誰彼に土下座したという話ではない。間接的にみそいでいるわけ。アメリカでGMとかの大手メーカーの管理職が次々と自殺している話がたくさんあって、誰が見ても「もうホントにヤバいな」と、一回思わせたんだよね。トヨタもホンダも、そうやって結果的に禊を済ませた印象があります。日本人はもともと禊が大好きなんだけど、ここんところポジティブシンキングみたいな……古いですけど（笑）、ひたすらくじけない感じとか、アメリカ式の、胸張り通す感じが定着してきて、そのまま立ちいかなくなったんで、いま、禊が復権しているように思いますね。ただ、どうするとみそいだと認識されるかが難しいんですけどね、たとえば……『ハッスル』は禊をしてなかったと思うんですよね。

—『ハッスル』は禊どころか、前日中止になった大会チケットの返金すらゴタゴタしてますからね（笑）。

菊地　石油ショックぐらいまでの日本には、土下座信仰みたいなものがいきいきと残っていた。バブル以降、それがまぁ、消えた、と。で、いま復権している、と。亀田もずいぶん長い時間をかけて禊キャンペーンをやったことで、選手としては、そもそもアウトボクシングの巧い、なかなかいいボクサーなんだし、お父さんだって根は悪い人じゃない。みんな「許してやろうか」ってなったことであの数字を獲ったんだと思うんですよね。まあ、TBSは全然みそいでないですけど。



本誌No.140で菊地氏は「（RAIDENという言葉に）得体の知れない力は感じられなくもない（笑）」と語った『SRC』だったが、結局、大晦日開催はお流れに……。

—TBSの辞書には、そんな言葉すらないと思います（笑）。

菊地　まあ、『YouTube』や、パンドラみたいので、テレビの地上波全体がかなりヤバくなって、という状況はもう共有されてますよね。それが間接的な禊になるかどうかが問題だと思いますけどね。最近また「地上派が盛り返してきた。これからはツイッターと地上派の二刀流の時代だ」とか言ってるから、禊になってないかな（笑）。話が全然あらぬほうに飛んじゃうんですけど、さるH報堂という広告会社がありまして。そのH報堂がクリエーターを教育するためにH報堂大学というものをやってるんですが、そこでは文化人が先生として新入社員もしくは中堅社員に勉強させるんですよね。要するにみんな就活の勉強しかしてないんで、いざ会社に入って「広告を書け」って言われると何もできない人が多いらしいんです。

—広告会社なのに。

菊地　その大学の先生をやってくれって言われまして、「ええ？　だって、社員の教育は社員がするんじゃないの？」と言ったんですが、外部のフレッシュなチカラがほしい、と。要するに、H報堂さんですら、立ちいかなくなっているらしんですよね。「どうしらたいいんでしょうかね？」とか言うわけ（笑）。ですからハッキリ申し上げたのですね。「禊を済ませたほうがよろしいのでは？」と（笑）。

—ダハハハハ。

菊地　「いままで、AからBに物を移すだけで何億円って儲けてきてすみませんでした!!（土下座のポーズ）」みたいなね（笑）。みんな「広告屋ファック！　ハイプ！」って思って、もうそう思うのも飽きてるくらいじゃないですか。「じゃあ、どうしたら広告会社が禊をしたように見えるでしょう？」って言われたんで、「たとえば糸井重里さんが行方不明になるとか」と（笑）。

—糸井重里ですらも食えないんだ、と（笑）。

菊地　言うまでもないですけど、もちろんこれ、非常にタチの悪い、しかし、なんの悪気のない冗談ですけれども（笑）、要するにそれほど禊が難しいんだということです、広告会社は。

—そう考えると、格闘技界も瀕死のわりにあまり同情されていないのは、禊が済んでないからかもしれませんねぇ。

菊地　対抗戦をやるより禊のほうが先ですよ。対抗戦はドラッグですから、打ちゃあいくらかはアガるわけだけど、現代的なおもしろさという意味では、禊に比べたらずいぶんと落ちます。そもそもワタシ、DREAMと『戦極』がどうなってるかっていうのは噂レベルでは聞いてるんですけど、まだ話がよくわかってないんですが。

—いまもまだグチャグチャしてるんですよ。

菊地　この時期におよんで（笑）。あの、『Dynamite!!』はあるってこと？

—ありますね。

菊地　魔裟斗は引退する。

亀田vs内藤が高視聴率だったのは亀田一家がみそいだからだと思う

——します。

菊地　ここらへんは動かないわけよね。『戦極』自体はこの先はもうやめるの？　質問がドシロウトのレベルになっちゃってますが（笑）。

——オフィシャル的には継続するとは言ってますね。

菊地　ワタシにコントロール権があったら、「『戦極』はもう潰れそうなんです！　すでに社員に自殺者が出ています」といった赤裸々な記者会見をやって……いや、やらずに黙ってのほうがいいかな。いずれにせよ後楽園から再スタートさせますけれども。

——「いったい何が起きてるんだ!?」みたいな感じで。

菊地　たとえばのりピー（酒井法子）がみそがずに済ませようとしてるじゃないですか。大学に入った瞬間に、ファック度が急上昇したと思うんです。禊ってのは実質じゃなく、それこそ我が国お得意の精神論じゃないですか。



現在46歳、まさにバブル世代の山口日昇。今回の分裂騒動で選手もスタッフも去ってしまい孤立無援（？）の状態に。『ハッスル』もバブルのように弾けて、このまま遠くへ飛んでいってしまうのだろうか？

——気持ちの問題。

菊地　そうそう。ですからＦＥＧも『戦極』も、何が禊になるか考えるといいですよ。シャブより禊です。

——そういえば、『戦極』側の有明大会中止の理由が凄いんですよ。「あまりにも人気が殺到してるために有明コロシアムには入りきらないから」って。

菊地　見事な〝逆禊〟ですね（笑）。まあ、みそぐか旧日本陸軍になるかの、二者択一ですね。

——絶対にアメリカに負けるとわかっていても……。

菊地　うん。「神風が吹いて勝つんだ！」っていう精神状態に陥る。戦後にも、いまは意味が違っちゃってますけど（笑）、〝勝ち組〟って人たちがいて、「第二次世界大戦で日本は負けてない」って信じ込んで軍服を着たままブラジルの奥地で暮らしていた。

——でも、戦時中は旧日本陸軍のプロパガンダに乗っかってる人たちはたくさんいたわけじゃないですか。

いま、マット界に必要なのは
“禊”である!

『戦極』の有明大会中止の理由は見事な〝逆禊〟というか（笑）

菊地　いっぱいいた。

——いまの旧日本陸軍的な人たちって、完全に裸の王様ですよね。

菊地　まあ、本気で狂ってるか、狂ってるとわかってるかの差は大きいですが。

——ナメられてたまるか！　と。

菊地　そうそう。要するにいまでもイスラムがやってる自爆テロや当時の神風特攻隊のように命を落として突っ込むことで、「うわっ、こいつら狂ってる。本気だ！」っていう迫力を出す。まあその迫力もね、最終的にはさほど功を奏さないんだけど。

——しかし、力を持ってないと、狂気か、禊を選ぶしかないんですねえ。

菊地　まあ、破滅を前にしたハードコアな極論ですけどね。そういう意味では昔からずっとその二者択一はあるけど、いま偶然、トレンドみたいにしてうまく禊を済ませた人はみんなちゃんと報われてるんですよ。みそいだのに報われない人はなかなかいないっていうか。いまは国民全体が自分を含めて「みそいで許されたい」っていう気持ちがどうもあると思うんですよね。だいたい全員逼迫してるんだから。逼迫してないのはユニクロとエイベックスだけなわけじゃない。あと、日本マクドナルドと王将と、立ち飲みの日本再生酒場（笑）。

——それ以外はみんな逼迫してる国、それが日本（笑）。

菊地　けっこういい国かも（笑）。いま花園神社が酉の市で、商売繁盛の熊手を売ってるんですけど、今年も同じ店に買いに行ったの。そしたら「お客さん、今年どうでしたか？」って聞くから、「おたくの熊手のおかげでたいして悪くなかったよ。ちょっとだけだけど、上がったもん。ありがとう」って言ったら、ホントに暗い顔して「ウチ、もうダメです」って（笑）。

——凄く縁起悪いですねえ。

菊地　熊手屋がそれを言ったらダメじゃないって（笑）。気風がいいはずの神田の熊手屋さんが鬱みたいになってるのがいまの日本なんです（笑）。

——嫌な国ですね（笑）。

菊地　やっぱり嫌な国だった（笑）。まあでも、禊とまで言わなくとも、「いやあ、いままで悪かったね」というチャンスが平等に広がってるんですよ。大不況時というのは。

——そこで突っぱってる場合じゃない。ＤＲＥＡＭも「カンセコを出してすいませんでした！」とか頭を下げてくれたらイメージは違うんですけど。胸を張ってますからね（笑）。

菊地　謝るべきことは誰しもいっぱいあるんだよね。前にも話しましたけど、谷川さんも旧日本陸軍みたいになってるでしょ。「Ｋ−１はまだまだイケてんだ！　ＵＦＣなんてローカルスポーツだ！」なんて、あまりにも図式的にアメリカに喧嘩を売ってる旧日本陸軍的ですよね。

——本気で言い張りますからね。そこには確かに狂気がある（笑）。

菊地　まあ、旧日本陸軍の姿勢で進んで、そのままうまくいっちゃったっていう例が一つでも出ると、日本も何かが変わるかもしれないですね。ツイッター使いもうまいらしいですし（笑）。我々の中には旧日本陸軍が突っぱって、結局原爆を落とされたっていう記憶があるから、突っぱったとしても待ってるのは悲惨な末路だっていう原風景が、21世紀になっても抜けないんじゃないでしょうか。突っぱってればやがていい福が来たよっていう例が思い浮かばないんですよね。アメリカとかにそう教わってるだけで。

——そもそも禊の方法がわからないってこともありますね。

菊地　どうやったらみそげるのか、各選手がみそぐのか、団体がみそぐのか、団体代表者がみそぐのか、あるいは禊もどういうかたちになるのかわからない。だからおもしろいかおもしろくないかで切ってしまえば、とてもおもしろいことではあんだよね。あとは勝ち組のままなんとかなっちゃうっていう前例を誰かが出したらおもしろいし、主観上は全員そうなろうとしてるんだよね（笑）。

——それこそ脳内では。

菊地　「弱気になったら終わりだ。このまま走り続ければ、きっと事は好転するだろう」「武士の誇りだ。弱音は吐くな」みたいな。『ハッスル』もまだまだあきらめてないんでしょ？

——ですね。

菊地　ハッスルエンターテインメントは倒産とは言わない？

いまの世の中はバブルの人たちが動かしてることで逆バブルになってる

——言わないみたいですね。

菊地　まあ、突っぱり続けると禊ができなくなるというわけでもないですけれどもね。

——ホントに山口日昇さんは折れないですね。いまでも満塁ホームランを狙うあの狂気性にはビックリしますね。ランナーは一人もいないんですけども。

菊地　禊も日本の文化だけど、弱みを見せないのも日本の文化ですもんね。山口さんはワタシと同じでバブル世代ですからね。いまはバブル組が組織のトップに立ってるケースが多いでしょ。バブル組の跳梁によって、何かがつっかえてる感じはあるよね。

——あ〜（笑）。

菊地　絶対にその問題はあるでしょ。バブル組全体が一種の"勝ち組"で……アマゾンのほうですよ（笑）。彼らはバブルが崩壊したことを認めてないの。頭では認めてるんですが、身体は認めてないです。ワタシもそうだから、よくわかります（笑）。

——成孔さんも（笑）。

菊地　数字が下がってることは読めるんですよ。読めるんだけど、実感としてダメだと思わない。まだまだいけると思ってしまうのがバブルの人。アップセット信仰が抜けないんですよ（笑）。だから谷川さんもバブルでしょ？　山口さんもバブルでしょ？　いま42歳から46歳くらいの人がみんなバブルだとするならば、いま実質、バブルの人たちが世の中を動かしてることで、結果的に逆バブルが来てるんです。

——なるほど。みんな夢をあきらめないんじゃなくて、バブルにしがみついてるんですね。簡単に言ってしまうと往生際が悪い（笑）。

菊地　バブルの人たちがダメだと思わないで粘っちゃうおかげで、早く医者に行けばよかったのに治療が遅れて重症化するみたいなことが、あらゆる業界で頻発する世の中になってると思うんですよね。で、バブルの下の世代、35〜40歳の人は子どもの頃がバブルで、大人になってバブルが崩壊したから優しく優し〜く保険をかけて傷つかないようになってんだよね。だから上のバブルの人たちをうまくひっくり返せないんだよね（笑）。そうすると結局ね、「私は死んでいない」っていう狂った指導者のもとに組織が崩壊していくっていうことがあっちゃこっちゃで起こっちゃうんじゃないかな。

——え〜っと、いろいろと心当たりがありますね（笑）。

菊地　で、90年代渋谷系が青春だったみたいな人が「上のバブルの人がさすがにもうヘバッたからオレがいくか」みたいな感じで止まっている、という構図なんじゃないですかね。でも、バブル組はなかなかどかないんですよ。高度成長があって、自分が就職したときはバブルだったけど、自分が管理職になったらリーマンショックがきた。だから「勝ち」「勝ち」「負け」ときてるから、まあ自分が負けてるとは思わないよね。2回勝ってるから。



きくち・なるよし■1963年6月14日生まれ。音楽家、文筆家。ジャズミュージシャンとして活動する一方、音楽、映画、料理、ファッションなどの著作多数。『kamipro』の論客としても知られ、谷川貞治FEG代表のキャッチフレーズ"谷川黒魔術"の生みの親でもある。格闘技批評に『サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍（白夜ライブラリー）』。

——まだ勝ち越してる、と。

菊地　それに、いよいよ自分が管理職になったら負けたなんて、自我が許さないでしょう。

——山口日昇さんも2回勝ってますからね。PRIDEで勝って、DSE時代の『ハッスル』で勝って。

菊地　2勝1敗の感じでしょ。『ハッスル』だって立ち上げのときには大勝でしょ。だから負けを認めるわけがないですね。手に取るようにわかりますよ。オレが山口日昇だったら負けたとは言わない（笑）。

——ダハハハハ！

菊地　少なくても「えっ、負けてんの⁉」っていう感じだと思うんだよね（笑）。「うっそ、まだ大丈夫でしょ！」っていう。たぶんそれが谷川さんとも響き合っちゃって、共闘関係みたいな感じで「俺たちは負けてない」って言い張ってる画が見えなくもないです（笑）。

——そういえば、ここ1〜2年になってまたお互いに連絡をとるようになったみたいですけどね。

菊地　やっぱ話は合うでしょうね。バブル同士だから（笑）。見てきたものも、上に対する感覚も同じだし、下に対する感覚も同じでしょ。

——ちょっと批判すると「おまえらには作り手側の苦悩がわからない」って感じですよね。イベンターがそれを言いだしたら完全にアウトなんですけど。

菊地　みそいで変わる、という発想は……あんまりイメージできないかな（笑）。

——マット界で禊の第一人者って誰になるんですか？

菊地　高田延彦ですね。

——なるほど！

菊地　あの人もバブル世代だよね。生まれてから野球がいい頃に野球をやって、黄金期のプロレスをやって、UWFがあって、PRIDEでしょ。

——絵に書いたようなバブル世代（笑）。

菊地　バブル、バブル、バブルだけど、早めにみそいだじゃん。

——ヒクソン戦の敗北。

菊地　「いままで最強とか言ってすいませんでした！」（笑）。それに『泣き虫』を出してプロレス方面もみそいだ。だから高田延彦が禊の先駆なんだよね。で、早めにみそいで早めに救われたから、いま二回目の春が来てるでしょ。PRIDEが潰れたときはつらかったと思うけどさ、いま同い年のダウンタウンと一緒にビールの宣伝に出てるもんね。

——テレビにもバンバン出まくってますし。

菊地　子どもができないとかいろいろと大変なことがあり、世間がみそいだと認定したんですよね。本人が望んでみそいだというより、そういう天性があったんだろうね。とにかく早くて確実なの、禊が。

——バブル組唯一のリアル勝ち組ですね。

菊地　そういえば、ドラゴンゲートの岡村社長も同い年なんですね。長与千種も同い年。80年代にウハウハ言ってた人たちが、何をやったってうまくいくと信じてた人たちが、いま何をやってもうまくいかないっていう状況に立ち合ってどう動くかっていうのが凄く興味があります。

——大晦日どころの話じゃない（笑）。

菊地　『ハッスル』なきあとの『スガッスル』が楽しみかな（笑）。あの団体（笑）のマッチメイカーもバブル世代ですけどね。

【09年12月1日／都内・菊地氏の事務所にて収録】

椎名基樹のサムライ三昧

第44回

『ランバー・ソムデートという奇跡』



2度目の対戦（前回もランバーの判定勝ち）となる田原をスタンドで圧倒し、世界フライ級初代王者となったランバー。総合格闘技の世界ではタイ人として初の世界王者となったランバーは試合後「ずっとタイトルマッチあるならありがとうございました」とカタコトの日本語で毎試合タイトルマッチをアピール。

大晦日の対抗戦の前に、それと比べるとささやかに、しかし熱く、修斗とパンクラスの対抗戦が行なわれた。所はJCBホール。ニアライブ中継をしたサムライTVの実況によると、JCBホールは『修斗伝承』シリーズの最終興行、新生バリジャパと、観客の爆発必至で、新たな修斗の聖地となりつつあるという。筆者も5月の五味vs中蔵の熱狂を昨日のことのように思い出し、同時にもう年末であることに愕然とする。しかし、ありゃ行ってよかったな、うん。

確かにJCBホールは、サイズもいいし、音響は最新式で内臓に響くクラブクオリティ、筆者はアリーナ席であったが、スタンド席はヨーロッパのオペラハウス式といえばいいのか、垂直の壁に大きな窓が開いた部分に席があり、高い場所から見下ろすリングは、いかにもMMA観戦向き。五味vs中蔵のことを原稿にしたとき「初アリーナの喜び」を書きたかったのだが、字数の都合で書けなかったので、今年最後の原稿で報告できて、自己満足。肝心の対抗戦であるが、修斗とパンクラスのあいだには、10年来の激しい冷戦があったそうで、今回電撃的に交流が達成されたとサムライ中継では言っていた。しかし、筆者は正直、そんなことはまったく知らなかった。陰でこっそり憎み合っていたんだな、コノヤロー！このスケベ！

そんな冷戦の歴史を知ってか知らずか、選手たちは対抗戦に抜擢されたことを、意気に感じて闘っているようで、試合から非常に良い緊張感が伝わってきた。

とくに朴光哲vs坂口征夫は、口あんぐりの壮絶な試合となった。リップサービスもあるだろうが「自分は平和主義者でケンカは嫌いですが、これは戦争です」と対抗戦の意欲を語っていた朴。試合は、その言葉どおりのド突き合いとなった。テクニックで上と見ていた朴が、予想どおり試合開始直後からジャブを当て、優位に立ったのもつかの間、坂口が右フックを朴のコメカミに当て、ダウン奪取。意識朦朧のまま、なんとかパウンドを凌ぐ朴。坂口はバックチョークに。仰向けにされた朴は、白目を剥いているように見える。チョークもクリアして、なんとか立ち上がった朴であるが、完全に足にきている。カサにかかって坂口が攻めた瞬間、朴の左フックが坂口のアゴにヒット。前のめりに倒れる坂口。トドメのパウンドに行こうとする朴。しかし、ピクリとも動かない坂口を見て、それをとどまる。それが余計に戦慄を走らせた。今年のベストKO賞は、これで決まりだ。もし対抗戦でなかったら、朴はやられていたかもしれない。そう思わせる「闘う意義」が見られる対抗戦であった。

対抗戦がクローズアップされがちのこの興行であるが、メインはランバー・ソムデートM16vs田原しんぺーの世界フライ級初代王者決定戦であった。ランバーが戴冠を果たしたわけであるが、この試合、じつは世界のMMAを変えてしまうほどの意味があった試合かもしれない。それは、言うまでもなく「立ち技最強と言われる（もちろん筆者もそう思っている）ムエタイのラジャ・ルンピニーの上位ランカーだった選手が、MMAに対応したらどうなるのだろう?」という疑問に答えが出されたとことだ。

ランバーの立ち技は、いままでの全MMA選手と比べてもトップと言っていいだろう。それは、アンデウソン・シウバも凌駕するのでないだろうか。筆者は常々、ムエタイ選手がするように右構えの前足である左の蹴りを、ビシバシ繰り出すMMAの選手の登場を待ちこがれていた。やっと現われたのがランバーだ。パンチでもキックでも、左を制す者は世界を制すはずだ。さらに、左の蹴りと同等に破壊的なのが、ムエタイ独特の首相撲の技術である。ランバーのそれは、いまやMMA必須の「クリンチの中の打撃」の最も洗練された（この場合〝洗練される〟と〝残酷な〟は同義語であるが）かたちであろう。

シュートボクセ勢、ミルコ・クロコップが提示し、いまではMMAの主流となりつつある「絶対、倒れるな。倒れたらすぐ起きろ」のスタイルの究極のかたちをランバーは完成させてしまったのかもしれない。恐ろしいことに、サムライ解説によると、ランバーは寝技は起き上がる練習しかしていないという。

そして、それを示すかのように、ランバーがこの試合中に見せた唯一のサブミッションが立った状態でのアナコンダチョークだった。それは、まるでシュートボクシングを見るようだった。このアナコンダチョーク、ギロチンチョーク、スピニングチョークの「フロントチョーク系」は唯一ポジションを奪わなくても極められるサブミッションだ（下からの腕十字は凌がれれば下のポジションになってしまう）。それだけを会得しているところもランバーのムエタイ型MMAのスタイルが練り込まれていることがわかる。自信がつけば、タックルを切ってガブったら、フロントチョークという選択をランバーは見せるようになるかもしれない。

ランバーのスタイルは、青木真也が寝技で提示したスタイルの真逆の驚きがある。惜しいのはランバーがフライ級というMMAでは世界最小のクラスなことだ。彼の適正体重がせめて70キロあったら、世界のMMAの景色が、まったく変わってしまう可能性だってあっただろう。

ただ、極真によってキックボクシングが根づき、新日本プロレスから派生して総合格闘技・修斗が根づいたおかげで、奇跡的に日本に現われたランバー・ソムデートM16という選手に、不思議な運命のロマンを感じる。

よみがえれ！
新日本vsUWFインターの興奮!!

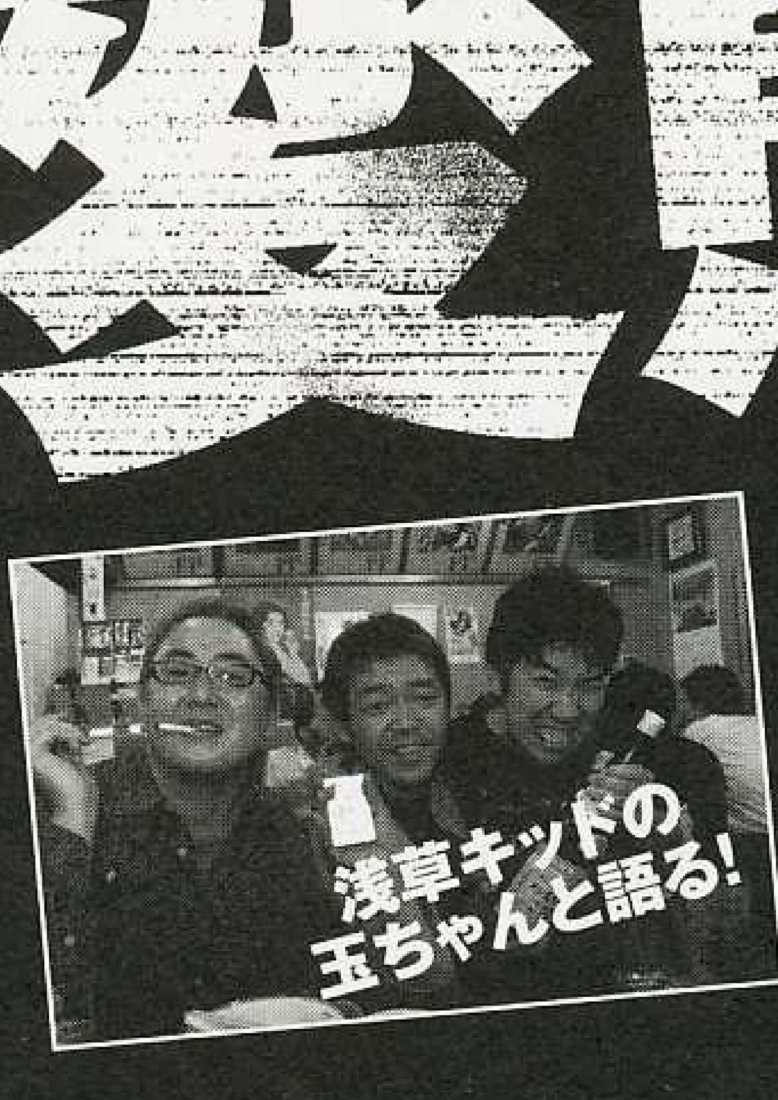


『Dynamite!!』でこの熱出せんのか！

俺たちの対抗戦 変態座談会

大好評！ 浅草キッドの玉ちゃんを迎えての変態座談会。
今回のテーマは大晦日のDREAMvs戦極の対抗戦実現を受けて「俺たちの団体対抗戦」！
かつて新日本vsUWFインターなどで熱狂した変態たちが、
今宵も居酒屋『加賀屋』で酔っぱらいながら、対抗戦の神髄をおおいに語り合います！

構成／堀江ガンツ　試合写真／平工幸雄


浅草キッドの玉ちゃんと語る！

俺たちの対抗戦 変態座談会

ガンツ では今年最後の座談会、よろしくお願いします。

玉袋 おう、よろしくお願いします。

椎名 お願いします！

ガンツ 年末らしくザワザワしてきましたね。

玉袋 ザワザワしてきたな～、やっぱそうじゃねえとねぇ。

椎名 例によってカードはなかなか発表されないけどね（笑）。

玉袋 そうなんだよ！　学習能力がねえのか！　まあ、毎年恒例だよ。こりゃもう、しょうがねえ恒例行事だから我慢しなきゃなぁ。

椎名 でも、今回はカードこそ出てなくてもDREAMvs戦極の対抗戦が実現するなら、超楽しみだけどね。

玉袋 対抗戦となったら、こっちもガンガン乗ってくよ。これまで俺たちは、プロレスでさんざん対抗戦観て燃えてきたわけだから。ただ、あのDREAMvs戦極が発表された記者会見を見るかぎり、選手側に対抗戦をやるって意識を表に出してなさすぎるんですよ！



DREAMと『戦極』の主力選手がズラリと揃って行なわれた『Dynamite!!』の会見。しかし、緊張感のある舌戦などは展開されず、対抗戦開戦の号砲としては物足りない内容だった。もっと俺たちを燃えさせてくれ！

ガンツ もっとピリピリしたり、ガンガンやり合ってほしいのに、「呼ばれて来たけど、なんですか？」みたいな感じなんですよね。

椎名 「え、対抗？　俺が？」みたいな（笑）。

玉袋 そうなのよ！　それはサクちゃんのマスク姿が象徴してたよな。「なんで対抗戦？」みたいな、選手はそんな感じなんだろうな。

ガンツ たぶん、選手側でDREAM愛、戦極愛がある選手って少ないんでしょうね。

玉袋 ファンだってそうだよ。結局、新日vsUインターのときの応援団っていったら大変だったたよ。

ガンツ ファン同士が闘ってましたからね。

玉袋 そう！　あんときの熱は異常だったよ。俺たちを本気にさせてくれたからさぁ。だから、今回の『Dynamite!!』で言いたいことは一つ。新日本vsUWFとか、新日本vsUインターのときの、あの熱出せんのか！　ってことだよ。

ガンツ ホントそうですよね。記者会見というスタートの時点から、全然違うというか。

椎名 普通、開戦を知らせる名ゼリフが生まれるもんだよね。「『戦極』でやってきた2年間がなんであったか……」とかさ（笑）。

玉袋 「2年間なんもなかったのかよ！」ってツッコミ入るよ！　記者会見からヒリヒリする部分が伝わってこないし、負けたらどうなっちまうっていうのがねえんだもん。

ガンツ 吉田秀彦一人、ピリピリムードを漂わせてましたよね。「大連立ふざけんな！」って感じで。

玉袋 吉田は良かった！　國保さんともども、吉田道場が『戦極』から捨てられた状態かも、って想像させて、それでもリングに上がるっていうね。本来は『戦極』の総大将だったはずの男がだよ。

ガンツ 吉田道場がいまやかつての国際はぐれ軍団みたいになってますからね（笑）。

玉袋 そうだよ。哀愁が漂い始めてるんだよ！

椎名 吉田がラッシャー木村で、小見川がアニマル浜口、瀧本が寺西勇って感じ？（笑）。

玉袋 思い起こせば『戦極』も国際プロレスも12チャンネルで放映されてたし。吉田の「名倉さーん！」発言は、平成の「こんばんは事件」以来のインパクトあるマイクだったしねぇ。

ガンツ ダハハハ！　確かにそんな感じですね。ナチュラルで。

玉袋 吉田秀彦もいまや、かつてのラッシャー木村同様「セメントならおっとうが一番つええよ」って感じが出てるし。

椎名 小見川が飲み屋で吉田に言うんだ「おっとう」って（笑）。

ガンツ それはメチャクチャ似合いますね（笑）。

玉袋 いまの吉田道場は、国際はぐれ軍団と同じ匂いだよ。で、新日本vs国際はぐれ軍団っていうのも、盛り上がったからね。DREAMvs戦極ももっとバチバチしてほしいんだよな。

ガンツ なんか緊張感が足りないんですよね。

玉袋 もちろん試合はガチガチで緊張感あるんだけど、対立構造として燃えさせてほしいんだなぁ。記者会見も大人の雰囲気でやってねえで、もっと言ってもいいと思うんだけどな。

椎名 もったいないですねえ。

玉袋 大連立して夢のカードが出るのは嬉しい。だけどそのカードに対する対抗戦の熱が、「なんとしてでも会場行かなきゃ」「なんかあったら向こうの応援団とケンカでもしてやろう」っていうぐらいの気持ちじゃねえと対抗戦じゃねえし、プロレス・格闘技の会場の熱じゃねえよ。

ガンツ じゃあこのへんで、なんでかつての対抗戦はあんなに熱があったんだろうってことを探るべく、ちょっと振り返ってみましょうか。

玉袋 おう、振り返ってみたっていいよ。

ガンツ やっぱり一番燃えたのは、新日本vsUインターですかね。

玉袋 あんときの煽りは最高だったよ。だいたい対抗戦ってのは、経営が苦しいときに助け合うって裏の面があるんだろうけど、あのときはそれを全然見せてねえから。今回、10・9ドームのパンフレット読み返してみたんだけど（と言って、カバンからパンフを取り出す）。

椎名 ちゃんとあのときのパンフレットを！（笑）。

玉袋 そう、持ってきたよ！　ここに載ってる「新日本vsUインター抗争史」がよくできてるんだよ。

椎名 これコラムで写したことあります（笑）。「それは突然決まった！」みたいな。

玉袋 対抗戦に至るまでのイザコザが全部書いてあるんだよ。バッドニュース・アレンを引き抜いたり、ベ

記者会見を見るかぎり、選手側に対抗戦の意識がなさすぎる！

座談会出席者

玉袋筋太郎
1967年、東京都出身の42歳。ご存知、浅草キッドの片割れ。子どもの頃から蔵前に通った変態プロレスエリート。『SRS』のメインパーソナリティまで務めたが、現在はWOWOWを通じて旧PRIDEファイターを追いかける。

椎名基樹
1968年、静岡県出身の41歳。本誌の好評長寿コラム『サムライ三昧』でもおなじみフリーライター、放送作家、構成作家。真剣勝負にあくなきこだわりを持ち、格闘技番組のチェックは欠かさないインドア系変態。

堀江ガンツ
1973年、栃木県出身の36歳。本誌変態座談会主宰者。子どもの頃から変態的プロレスファン、UWF信者として鳴らし、『kamipro』編集部に入ってからもUWF研究家を自称。最近、京都の鞍馬寺であの〝小太刀〟を購入。

イダーを引き抜いたり、山崎一夫がUインター離脱して新日本に参戦したり。で、永島のオヤジが、宮戸、

ガンツ 前売り券買うために、わざわざレッスル渋谷店とかに並ぶって、完全に変態ですよね（笑）。


スで猪木と抗
さがある！

イダーを引き抜いたり、山崎一夫がUインター離脱して新日本に参戦したり。で、永島のオヤジが、宮戸、鈴木健、安生を「クソガキの3バカ」呼ばわりして、それに対してまた怒ったりとかして……うまくできてるんだよ。

椎名 だってみんな本気でしょ、これ全部。

玉袋 だから、ある意味これはプロレスの活字で入ってくる一番のいいところだよ。ここに来るまでの丸ノ内線の車内で読み込んじゃったもん。ここ見てよ。「ルールは新日ルールで合意」「『東スポ』の調停により」だって（笑）。

椎名・ガンツ ガハハハハ！

玉袋 永島のオヤジと鈴木健のすっとぼけたタヌキ同士でさ、丁々発止やってるんだよ。

ガンツ 裏ではゴルフ仲間で、ゴルフやりながら対抗戦決めてるという（笑）。

玉袋 この会談に出席している倍賞（鉄夫）さんのヒゲが説得力出してるし。

椎名 ダンディですね。だけど大人ですよね、タヌキですもん。

玉袋 ファンを喜ばせる画を描く、ある意味ピクサーとかとやってることは変わってないんだよ。それで俺たちは並んでんだもん、このチケット先行発売で。

椎名 並びますよね。

吉田の「名倉さーん」発言は平成の「こんばんは事件」だよ！

ガンツ 前売り券買うために、わざわざレッスル渋谷店とかに並ぶって、完全に変態ですよね（笑）。

玉袋 ド変態だよ！ 早朝ヘルスに並んでるヤツよりド変態だと思うよ、俺は。

椎名 この10・9ドームが発表されたときK－1の石井館長がさ、「ついに最後の切り札切っちゃったな、もうこれ以上のものはもう切れないだろう」みたいなことを言ったけど、こんな凄い興行を実現できることが凄いんだから、やって大正解だったよね。

玉袋 大正解、大正解。

椎名 これと同じくらいの切り札あるなら、切ってみてくれって話ですよね。

ガンツ そうですよ、いま切ってくれって。どこにあるんだって。だって、このときって高田も武藤もほとんど全盛期じゃないですか。その二人がメインで激突するんですからね。

玉袋 最高なんだよ、二人とも。たしかこの日、俺は『浅ヤン』のロケだったんだよ。でも、ロケが終わってからドームに行ってたら間に合わねえかもしれないってんで、最後は後楽園でエンディング撮ってもらったから。

ガンツ なぜか番組的には無意味に後楽園でロケ終了（笑）。

玉袋 プロレスを観るために番組のロケ場所変えるなんて、こんなのねえよ！

ガンツ ボクはこの日、なんか知らないけどお昼ぐらいからドーム行っちゃいましたね。

椎名 もういてもたってもいられずに（笑）。

ガンツ 夜まで待ってられない。もうドームの周り、昼間っからプロレスファンだらけですよ！

玉袋 パンフ持ってウロウロしちゃってな。

ガンツ そしたら『トゥナイト2』のクルーが来てて、乱一世がプロレスファンにインタビューしてて。

椎名 『トゥナイト2』が放映されてた時代か（笑）。

ガンツ で、ボクも乱一世にインタビューされちゃったんですよ。

椎名 それ使われたの？

ガンツ たぶん使われなかったと思うんですけど。乱一世相手に「スタンドもグラウンドも、高田さんが負ける要素は一つもない」とか断言してました（笑）。

椎名 それ、絶対にク●ク●パーだと思われてるよ（笑）。

玉袋 「こいつはダメだ、もっと普通の人を映そう」ってな（笑）。でも、あの日を迎えるまでのソワソワ感といったらなかったよ。

椎名 試合前から燃えてましたよね。

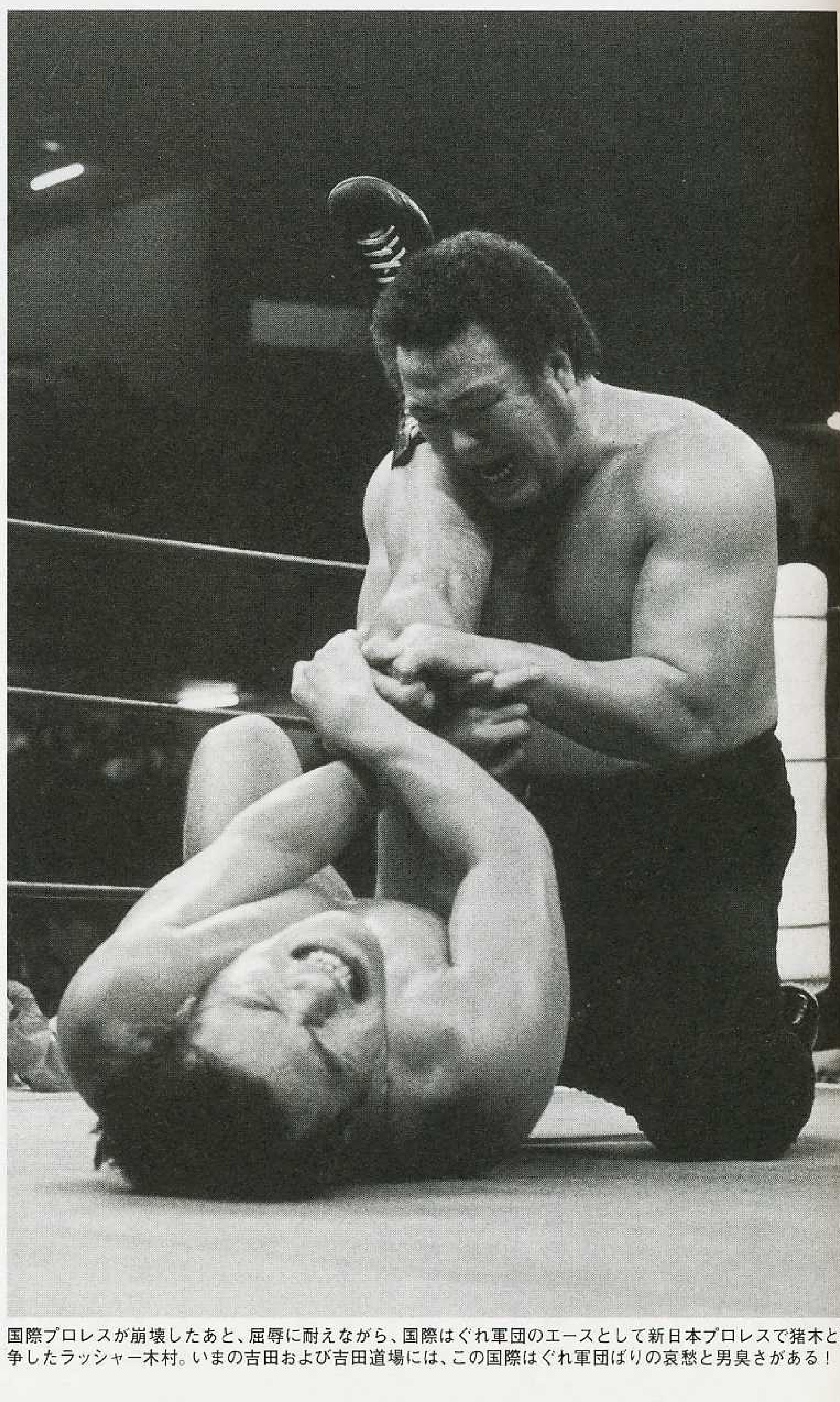
玉袋 事前の煽りも完璧だったよ。『週プロ』『ゴング』『ファイト』があって、新聞も毎日煽ってさ。天下分け目だったもんな。

ガンツ また『週プロ』が結果わかってるから、「10・9 Uが消える！」って試合前から打ってるんですよ！

玉袋 また山本の野郎か。俺はもう「ターザン」なんて呼ばないからね！ 戒名・山本隆司（笑）。

ガンツ その戒名（笑）が先に書きやがって。でもこっちは「そうはいくか」と。俺たちの力でひっくり返してやる、ぐらいの熱はありましたよ。

玉袋 俺はね、もう新日に金払うのシャクだから、一番安い2階スタンド席で観たんだよ。そしたら周りが新日ファンだらけでさぁ。Uインター応援してるヤツ誰もいねえんだ



国際プロレスが崩壊したあと、屈辱に耐えながら、国際はぐれ軍団のエースとして新日本プロレスで猪木と抗争したラッシャー木村。いまの吉田および吉田道場には、この国際はぐれ軍団ばりの哀愁と男臭さがある！

俺たちの対抗戦 変態座談会

もん。
ガンツ　ホント、満員のドームが新日ファンだらけでしたよね。
玉袋　「まだ新日応援してるのか。わかってねえな、おまえら」ってな。
椎名　「おまえらバカじゃねえの？」って。俺もバカなんだけど、いま思うと（笑）。
玉袋　大バカだよ。より変態的なプロレスファンなんだから。俺なんて、周りが新日本ファンばかりで、Uインターのシャツ着てるお兄ちゃんが一人いたから、そいつの隣の通路に座って一緒に観たからね。で、最後二人でガックリ肩を落としてよ。ドラゴンスクリューぐれえから、「やめろよ、おい」と。「それ付き合うのか？」って。
椎名　だけどいま思うと、あんなにナイスなフィニッシュないよね。
ガンツ　蹴り足をつかんだあと、ドラゴンスクリューで足を壊して4の字っていう、どプロレス技でUWFを破るわけですからね。天才ですよ、あれ。
椎名　ね、勝敗は政治力でどうにかできるとしても、あのフィニッシュ考えるのは難しいでしょって感じでさ。
玉袋　でもよ、あの高田が4の字で負けるんだぜ？　「UWF変態」の俺たちにとったら、男が男に顔射されるぐらいの屈辱だよ。あの夜は荒れたなあ……。
ガンツ　あの夜も、飲んだのはここ加賀屋ですか？
玉袋　たしかそうだったな（笑）。
ガンツ　あと10・9ドームといえば、第1試合（永田＆石沢vs金原＆桜庭）のおもしろさといったらないですよね。
玉袋　最高だよ！
椎名　いま思えば「なるほど！」と思うメンバーだよね。シュートになってもいけるっていうのは、このメンバーしかないもんね。
玉袋　なんだったら、今年の大晦日にこの4人で再戦してもらってもいいよ！
ガンツ　それは観たい！（笑）。
椎名　大晦日はお祭りなんだから、1試合ぐらいタッグマッチあってもいいもんね。
玉袋　でも、この第1試合は凄い。要するにこれで互いの団体の地肩がわかるってことだもんな。
ガンツ　リアルに実力測定ができる一番のカードですよね。
玉袋　その真逆で一番ズンドコな試合が、セミファイナルの橋本真也vs中野龍雄！
椎名　格闘技とは一番遠いところで、みっともないけど惹きつける（笑）。
玉袋　『トラック野郎』的な、サービスエリアの闘いだよ。でも俺たちさ、こうなってしまって、Uインター勢が次々と負けて、どうにかならないのかって思っててさ、カッキーが勝ったときのあの嬉しさ！　「カッキーが勝ったよ！」って。
ガンツ　スモールパッケージホールドみたいなヒザ十字ですよね（笑）。
玉袋　しかも健介が仏頂面で「俺、負けか？」みたいな。
ガンツ　入場の時点から「なんで俺が負けなんだ！」って顔で出てくるっていう。
玉袋　北斗晶という、光をつかんでない頃だったのかなぁ。
ガンツ　プロレス道にあるまじき行為ですよね。正々堂々と出てくる高田を見習えって！
玉袋　ホントだよ！　でも、よかったよな、この夜はホント。
椎名　そうですよね。
玉袋　だって10月9日なんてさ、あれ以降意味もなくすごしてるときあるんだけど、「あ、10・9だ！」って思うもん。



これが『東スポ』桜井康夫氏を仲介人として行なわれた、10・9ドームのルール会議の様子。新日本側は永島のオヤジ、倍賞取締役（当時）、山本小鉄審判部長、Uインター側は鈴木健取締役、安生洋二、和田レフェリーが出席。こういったディテールの細かさが対抗戦を熱くさせるのだ！

10・9ドーム"伝説の第1試合"を今年の大晦日にまた組むのもいい

ガンツ　思いますよね（笑）。
椎名　「今日は何の日？」みたいな。
ガンツ　その二日後に10・11でまた「あっ！　今日は高田vsヒクソンの日だ」ってなりますよね。
玉袋　だから大晦日もね、そうやって記憶の中の記号になるような大会にしてほしいよね。それを期待する。で、選手も凄いお膳立てができてるはずなのに、それの乗り方がわかってないからもったいない！　対抗戦だったらもうやり合っちゃえ、言い合っちゃえ！
椎名　そうなんだよね。このあいだJCBホールで、パンクラスと修斗の対抗戦を観たんですよ。ちっちゃい対抗戦なんだけど、凄い熱だったよ。やっぱり本気で対抗すると燃えるんですよ。
玉袋　いまの選手は『1・2の三四郎』とか読んでねえのかなあ？
ガンツ　技術的にはもちろんハイレベルなんですけど、闘いに対する心意気がいまいち伝わってこないんですよね。
玉袋　だから、相撲学校みたいに格闘技学校みたいの作ったほうがいいよ。で、梶原一騎から小林まことから"課題図書"を読ませてさぁ、グッとくる煽り、「やってやる！」みたいな心意気を学んでほしいよ。まあ、アスリートだし、もの凄い練習ばっかりしてるから、時間ねえんだろうけど。
ガンツ　これでプロとしてのケレンが身についたら、もっと燃えるんですけどね。
玉袋　だから、実現するしないはともかく、たとえば記者会見で青木が、政治的状況で難しい立ち位置にいる五味に対して、挑発なりラブコールなりしてくれたら、それだけでこっちは燃えちゃうぜ。
椎名　おぉーーーーっ！　素晴らしい！　そうですよそうですよ！
玉袋　天皇陛下の前で「次のオリンピックは目指しません」って宣言して、既成事実作っちゃった石井慧みたいにさ。発言一つで流れを作ってほしいんだよな。
椎名　相容れない仲とも言われる五味に、青木が手を差し伸べたりしたら最高だよね。
玉袋　燃えるよ。NHK教育の『明るいなかま』的なよ、「♪あいつを～初めて～知ったとき～ジロリと睨んだだけだったぁ～♪嫌なヤツだと思ってたけど話せばわかるヤツだった～♪」ってな。
ガンツ　青木vs五味は誰もが観たいカードですからね。五味もサーフィンにうつつを抜かしてる場合じゃないですよ！
玉袋　『kamipro』の「燃える五味の日」ってコピーで固くなったって話はあるけど、俺たちは好きだぜ。こうなりゃ、とことん固くなってもいいけど、五味は"不燃五味"

いまこそ「誰が一番強いか決めたらええんや」と言ってほしい！

でいちゃいけねえ、〝可燃五味〟でガンガン燃やさねえと！

椎名　五味が大晦日に出る可能性もあるの？

ガンツ　まだ少し残ってますけど、可能性は少なくなってきましたね。

玉袋　もったいねえなあ。明日俺、K−1 WORLD GPの撮りがあるから、谷川さんに直接言うよ。「頼む！　五味を出してくれ！」って。いろんなことがあるかもしれねえけど、青木vs五味や川尻vs五味っていうカードが出てこねえっていうのがおかしいんだよ！

ガンツ　格闘技がホントに復興するためには、外に向かって魔裟斗の引退試合とか、石井慧のデビュー戦というのも必要ですけど、格闘技ファンがホントに燃える核になるカードがほしいですよね。

玉袋　そうなんだよ！　種火がしっかりしてくんねえと、火なんかすぐ消えちまうんだから！

椎名　そうですよね。種火があれば、新聞紙くべるだけで燃えるんだから。

玉袋　青木vs五味なんて組まれたら、さいたまスーパーアリーナ大炎上だよ！　魔裟斗引退試合もいいんだけど、それだけじゃ燃えねえ部分もあるんだから。

椎名　魔裟斗引退って、どうでもいいですよね？

ガンツ　ぶっちゃけ（笑）。

椎名　あれがメインって冗談じゃねえって。

玉袋　まあまあ、そこは最後の縁起物ってことで、送り出さないと。魔裟斗選手の貢献度は計り知れないんだから。

椎名　名前もなんか縁起物っぽいしね（笑）。

ガンツ　魔除けっぽいですよね（笑）。

玉袋　破魔矢じゃないんだから（笑）。年越しにはピッタリかもしれねえか。

椎名　でも、〝男たちの楽園〟である、さいたまスーパーアリーナに、K−1 MAXの黄色い声援の人たちも来るんですかね？

玉袋　そりゃ来ますぞ！

椎名　だけどさ、あれどこから連れてきてんの？　俺も長いこと格闘技のコラムとか書いてるけど、MAXで黄色い声援飛ばしてる人と知り合ったことないから。

ガンツ　不思議なんですよね。会場にはいるんだけど、会ったことない人種（笑）。

玉袋　B'zファンと一緒だよ。B'zってあれだけ売れてるけど、B'zファンって会ったことねえもん。俺の友だちでいねえんだよ。

椎名　まあ、俺たちの交友関係が問題なんだろうけどね（笑）。

玉袋　類は友を呼んじゃって、変態ばっかりだからかな（笑）。

ガンツ　だから大晦日は、黄色い声援の女性ファンと、男の変態格闘技ファンが同居する凄い空間になるかもしれませんね。

玉袋　黄色い声と変態の対抗戦だよ。

ガンツ　それは燃えますね（笑）。

玉袋　その歓声の中で「いい試合だ男」が出てきたりするんだよ。まだいたか、みたいな。

ガンツ　絶対に来てるでしょうね（笑）。

玉袋　黄色い声援からいい試合だ男まで全部ひっくるめて、もっともっと熱くなってほしいよ。

ガンツ　今年の大晦日は格闘技界にとっては最後くらいの大チャンスですからね。

椎名　ヒリヒリするようなカードやればいいのにね。どうせグチャグチャしてるんだから。

玉袋　そうだよね、グチャグチャしてるんだったらやっちまえって話だよ。いまこそ「誰が一番強えんかハッキリさせればええんや」っていうさ、あのフレーズがほしいよ。記者会見で、その言葉が誰からも出なかったことが問題であって。

ガンツ　そのへんの感性がちょっと違うんですよね。

玉袋　谷川さんもたぶんそこはガックシきてると思うよ。お膳立てはしてるわけだから。あとは選手だよ。

ガンツ　あれでライト級のトップが「誰が強いか決めたらええんや」って言ったら、来年も『戦極』とDREAMが一緒になってライト級GPができるし、盛り上がりますよね。

椎名　青木vs廣田とか、川尻vs廣田とか、大晦日じゃなくてもメチャクチャ観たいよ！

玉袋　だから種火だよ、種火！　とにかく燃やし続けてくれ！　永島のオヤジと串焼き屋の鈴木健ちゃんがあんだけのことやったんだから、頼むぜ、ホント！

ガンツ　では、大晦日にまた会いましょう！

【09年12月4日／都内・『加賀屋』中野坂上店にて収録】



青木真也、川尻達也、そして五味隆典。やはり、いま最も観たいのはこの3人がらみのカード。ここに北岡悟、廣田瑞人、横田一則、さらに外国人勢などが加わったら、最高のライト級となるのだが……。

90年代黄金期と2000年代前半の低迷はいかにして起こったのか？


新日本プロレススタッフが語る

対抗戦の効果と副作用

新日本プロレス ライセンス事業部
阿部タケシ＆山本貴弘

90年代にUWFインター、WARなどとの対抗戦で東京ドームを次々と満員にし、巨大化していった新日本プロレス。しかし、2000年代前半は、その反動からか低迷期も経験した。そんな新日本のスタッフである阿部タケシさん、山本貴弘さんに、対抗戦の効果と副作用について聞いてみた。

聞き手／堀江ガンツ　試合写真／平工幸雄



——今回のテーマは「対抗戦」ということで、新日本プロレスのフロントである阿部さんと山本さんに、対抗戦の功罪、作用副作用をうかがいたいと思います！

阿部・山本　よろしくお願いします！

——新日本プロレスといえば、これまで多くの対抗戦で、他団体を食って大きくなってきましたよね。

阿部　それもありますけど、逆に言えば他団体から狙われやすいというか（笑）。

——名前を売るにはもってこいの団体でもある、と。

山本　新日本っていう名前は出しやすいんですよね。だから、表でも裏側でも、いろんなところから話が来ますよ。理想をいえば、お互いのステータスを上げて、また自分のリングに持ち帰れるような対抗戦がいいですよね。

——でも、90年代は他団体を吸収するか、潰してしまうような全面対抗戦で隆盛をきわめましたよね？

山本　そうですね。でも、あれはプロレス界全体にパワーがあった90年代だからできたのかもしれませんね。

——90年代は一方が潰れたら、一方が巨大化してましたけど、いまは一方が潰れたら業界のパイが減ってしまう、と。

山本　それに90年代は対抗戦によって、ビジネスを相乗効果で巨大化させてた部分があるんですよ。潰し合いをやりながら、会社としては双方が儲かるようにしていたというか。

阿部　90年代中頃に新日本はUインター、WARと対抗戦をやってましたけど、対抗してるはずなのに、3社が協力して『週刊プロレス』を取材拒否してたのは、端から見ていてかなり疑問に思ったクチです（笑）。

——ありましたねえ。その3団体はケンカしてるんじゃなかったのかよって（笑）。

山本　そこの部分で言うと、対抗戦とはいえ、信頼関係があるからこそビジネスができる。それが大前提なんですよね。

阿部　この前『kamipro』で元Uインター取締役の鈴木健さんと、元新日本取締役の永島さんが対談してましたけど、あの対談は興味深かったですね。必死にやり合ったからこそお互いを認めている、というか。

——リング上でやるか、やられるかの闘いをやってる裏で、フロントのトップ同士はゴルフ談義で、いろんなことを決めているという（笑）。

山本　だから、あの新日本とUWFインターの対抗戦というのは、凄くいいかたちの企業と企業の〝商品交流〟だったんですよ。

——ビジネスでいえば、対抗戦という名の〝コラボレーション〟だったわけですね。一番、功罪の幅が大きそうなUFOとの対抗戦はどうだったんですか？

阿部　あのUFOとの対抗戦のとき、僕はいなかったんですけど、あの頃、ドームになると小川さんと橋本さんがやってましたけど、そのあいだのシリーズはどうしてたんですか？

山本　小川さんと橋本さんはシリーズには出てなかったんですよ。小川さんは最初からシリーズっていう概念はなかったんで。通常のシリーズは武藤さん、蝶野さん、天コジが中心になって、ドームになると橋本vs小川戦が組まれる感じでしたね。

阿部　あの二人がシリーズに出ないで、集客に影響は出なかったんですか？

山本　その頃は全然なかったですね。武藤さん、蝶野さんのタッグとかでまだ全然超満員の頃ですから。

——通常のシリーズはnWoやTEAM2000人気で満員続きで、ドームになると、そこに小川vs橋本戦が加わる感じですか。

阿部　へぇ、スゲェなぁ。4ヵ月にいっぺん『Dynamite!!』やるようなもんじゃないですか。

山本　それができたのは、新日本プロレス内にタレントが豊富だったのと、あと〝外の材料〟もいろいろあったんで、それこそいろんな対抗戦をやって、それで年3回のドームが全然回せてましたからね。

——そのへんをあまりにもダイナミックにやりすぎた反動というのが、2000年代に入ってから一気に来ちゃった部分もあるんですかね。

山本　そのバランスが難しいんです。対抗戦というのは、最初は刺激があって当然なんですけど、薄れていくときの怖さがありますよね。

——普通の試合が物足りなくなっちゃう、ということですよね。

山本　だから、さっきのUFOとの対抗戦の話じゃないですけど、あまりにも対抗戦頼みにならないことですよね。あの当時、蝶野さん、武藤さん、天コジで揺るぎない人気を作っていたように、内部を充実したうえで、プラスアルファぐらいで考えないと基盤が危うくなります。

阿部　だからこそ、ここ1～2年は

数年前は「ドームだ、なんとか外敵集

——どんな大会でしたっけ？

ないですか。これがもし後楽園ホー

乗り込んできたりしましたよね（笑）。

いまはファンから「安易な対抗戦はやめて」という意見も来ます

阿部 だからこそ、ここ1〜2年は中の闘いを充実させることに力を注いでますし。本当は、願わくばドームも新日本だけでできれば〝超理想〟ですけどね。でもドームという器はやっぱりお祭りが似合いますよ。もちろん身内の集大成もゴールとしてあるべきですけどね。

山本 いまは対抗戦を発表したりすると、ファンのほうから「新日本の中での闘いが観たい」とか、「安易な対抗戦はやめてほしい」みたいな意見も来るんですよね、正直。

――ファンもちゃんと歴史から教訓を学んでるんですね(笑)。

阿部 豪華なカードをドーンと出して、それを毎回するのもいいですけど、結局行き着くところは〝その場しのぎ〟なんですよね。

――格闘技界のほうはそこに問題があって。たぶん、『Dynamite!!』の先のことは何も考えてないんじゃないかっていう(笑)。大晦日にとにかく視聴率を獲ってお客が入らないことには、来年度のスポンサー、テレビ契約、すべてに影響してきてしまう感じなんでしょうけど。

阿部 僕らはもう夏のG1とかの日程調整も始めてますもんね。

山本 夏と1月4日と、この二つがポイントですからね。交渉なんかもどうやって考えるか。

――そのへんは新日本さんもかつての反省を踏まえたものなんですか? 数年前は「ドームだ、なんとか外敵集めてやろう」ってよく言われてましたよね(笑)。

阿部 「ドーム押さえました、さあどうしよう?」ってことですか(笑)。

山本 ああ、ありましたねえ。その当時の反省でいうと、やはり対抗戦をやるにしても、新日本の選手を輝かせないと先につながらない。そこらへんのバランスですよね。

阿部 数年前、高山さん、鈴木さん、健介さんらがリングの中心で、新日本が総崩れだったときがあったじゃないですか。あれは僕は外部から見てて「おもしろい! でも新日本ホント大丈夫なの?」って、正直思ってましたからね。

――無法地帯でしたね(笑)。

山本 あの当時、新日本の選手の価値を、新日本自体が落としてたんですよね。ああいうビジネスはしたくない。ウチで頑張ってる選手を優先に、どれだけ輝かせてあげられるかっていう。ひいては、みんなの生活にそれが還元されますから。

阿部 あの頃渉外をやられてた方は大変そうだったといまでも聞きますよ。で、長州さんが現場監督を復帰されたときの一発目のドームも大変そうでしたよ。

――どんな大会でしたっけ?

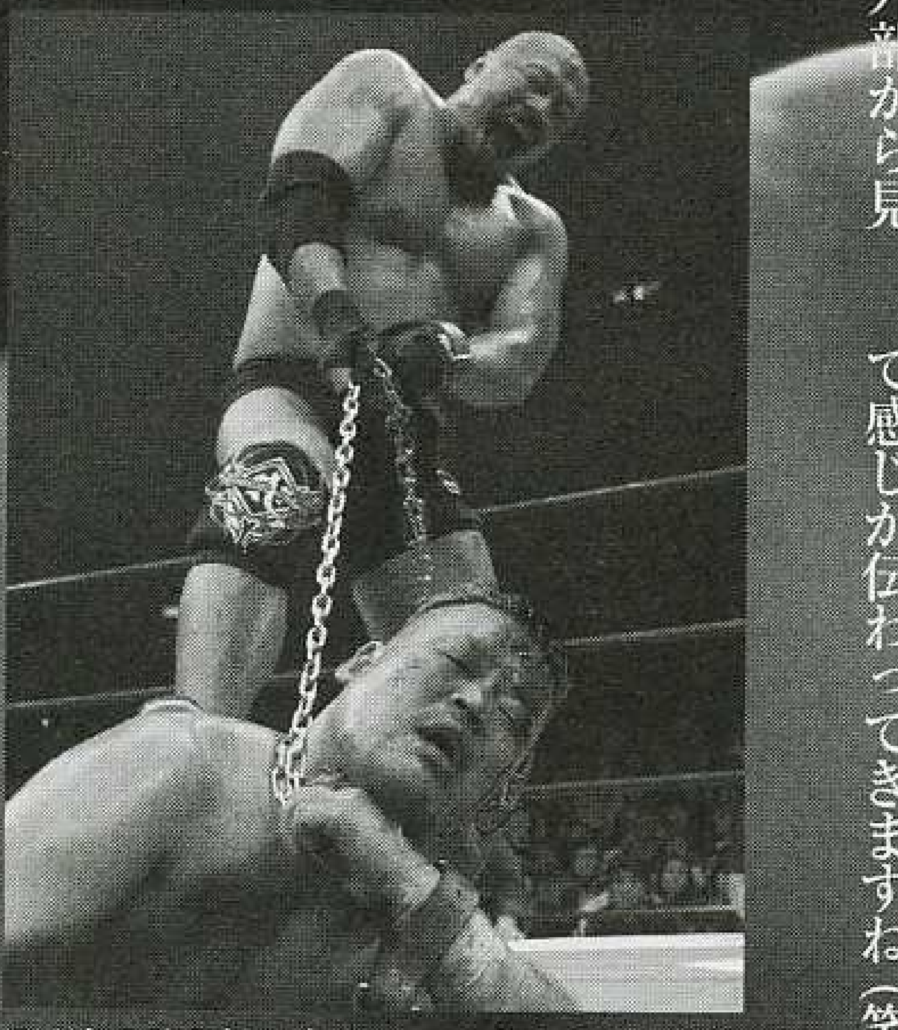
阿部 ZERO1&アパッチ連合軍との対抗戦をドームでやったんですよね?

山本 しかも、新日本はそのZERO1&インディー連合に負け越してしまったという……。

――ガハハハハ! いま考えると恐ろしい興行ですね。

山本 ドームでZERO1&インディーに敗北というのもさすがに「新日本」の看板が危うかったですよ。

――まさに「対抗戦の成れの果て」って感じが伝わってきますね(笑)。


このところの新日本は、ヒール化した飯塚高史と天山広吉の抗争など、対抗戦に頼らず団体内での闘いに力を注いできた。そこにはもちろん対抗戦時代の反省があってのことだった。

阿部 端から見てどうなることかと、ひやひやしました(笑)。

――で、そのあと新日本プロレスは、内部の充実に力を注いで復活してきたわけですよね。

阿部 だから、いまの時代的に対抗戦っていうのが求められてるのかっていうのも、けっこうわかんなくなるときがあるんですよね。

山本 ただ、規模縮小はしたくないですからね。新日本でいったら年一回のドームと2〜3回の両国っていう、これはもう37年ぐらい経ってこういうシステムでずっときてるじゃないですか。これがもし後楽園ホールがビッグマッチで、新木場で定期戦みたいになるとマズいですもんね。

――そんな新日本プロレス、観たくないですよ!

山本 だから、このサイクルは崩さずに、いろいろ仕掛けができればという感じですね。

――次の1・4ドームはどうなりそうなんですか?

阿部 なんだかんだ言いましたけど、ガンツさんの好きな対抗戦もありますよ(笑)。

――べつに好きってわけでもないんですけど(笑)。

阿部 実際のところまだ流動的なのがいくつかあるんですけど、ドームはやっぱり世間が興味を引きそうな選手の参戦もあって、もちろん一年やり続けた〝新日本としての闘い〟も存分に見せますよ。

――年に一度のお祭りであり、さまざまなトップレスラーが集まるイベントというか。

阿部 そうですね。あれだけの空間にたくさんのお客さんを呼ぶとなると、いまの新日本プロレスだけでは行き届かない部分もありますから。先日業務提携したCMLLからルチャドールを呼んだり、アメリカのスター選手を呼んだり、夢のある、そして世間に届くようなカードも用意できればな、と思ってます。

――IGFとの対抗戦というのは、ありうるんですか?

阿部 ないです(キッパリ)。

――ジョシュ・バーネットやモンターニャ・シウバが突然、後楽園ホールに来たり、なぜか澤田敦士が両国に乗り込んできたりしましたよね(笑)。

阿部 中邑はアントニオ猪木さんの名前を出しただけですから。

――IGFの選手を引っぱり出してきてそれを叩くっていうことには魅力はまったく感じてないですか?

山本 ないです(笑)。

――新日本のフロント内にも、世代世代で「小川直也」とか「サイモン」とかそういうNGワードがあるわけですか(笑)。

阿部 べつにNGワードではないですけど(笑)。もう終わったことですよ。中邑もキッパリあきらめましたし、気持ちを切り替えましたから。

山本 お客さんは、単純に勝敗だけじゃなくて内容にも期待してるはずです。

――確かに昔のUインターやWARとの対抗戦では、ケンカマッチではあっても、いい試合でしたもんね。

阿部 ちゃんとプロレスというフィールドで、〝ケンカマッチ〟というのは大好きです。当時はそういうプロの闘いが多かったですね。

山本 ちゃんとお客さんに満足してほしいですもんね。内容でも見せたいですよね。それが次につながっていくというか。いまは一回裏切られるとなかなか戻って来ないですね、お客さんは。

――いままで積み上げてきたファンとの信頼をIGFとの対抗戦で壊すわけにいかないってことですね(笑)。

阿部 そうとは言ってません!(笑)。

――では、対抗戦も含めて、1・4ドーム大会に期待してます!

山本 ぜひ、期待してください!

【09年11月27日/都内・新日本プロレス事務所にて収録】

——今回は「対抗戦特集」なんです
よ。

スの試合も休まず動き回ってました
よね。

プロレスを変えちゃったことからス
タートしてるですよ。それが時代と

小林　うん。相手がいないとプロレ
スができないからね。相手を巻き込

的なことができてないと、プロレス
ラーじゃないですよ。「プロレスラ



昭和維新軍、ジャパンプロレス、平成維震軍……
数々の対抗戦を闘った
反体制のプロレス人生を語る！

小林邦昭
維新対抗戦人生

「維新軍が全日本に行って日本のプロレスをすべて変えてしまったんだよ」

プロレス界が新日本、全日本の両巨頭時代、その垣根を越えて初めて本格的な団体対抗戦に挑んだのが、ジャパンプロレスとして新日本を独立し、全日本に殴り込みをかけた長州力率いる維新軍だ。小林はそんなジャパンの一員として全日本と闘い、その後、再び新日本に戻り、後年は誠心会館と抗争するなど、常に対抗戦の真っ只中にいた。そんな小林に、数々の対抗戦を振り返ってもらった。

聞き手／堀江ガンツ　試合写真／平工幸雄

全日本では馬場さんに「レイスの試合観て勉強しろ」って言われたよ

——今回は「対抗戦特集」なんですよ。

小林　俺は対抗戦なんて維新軍からずっとやってるからね。

——対抗しっぱなしのプロレス人生でしたか（笑）。対抗戦というと普通の試合とは違った緊張感があると思いますけど、最初に新日本から全日本に参戦したときはどうでしたか？

小林　参戦する前、長州とかと全日本の会場に下見に行ったんですよ。

——後楽園ホールで観戦したんですよね。

小林　そのとき、こんなこと言ったら失礼かもしれないけど、俺たちのプロレスとは、ロックとワルツの違いがあるなって思いましたよ。

——もちろん全日本がワルツ。

小林　うん。いま日本中の団体が、技を休みなく繰り出すハイスパートレスリングっていうものをやってるけど、あれを作ったのは当時の昭和維新軍なんですよ。その僕らから観ると、全日本のプロレスっていうのは、全然違うものに見えましたね。

——テンポが違って、優雅にやってましたか。

小林　うん。オーソドックスなスタイルでね。だから、俺らが全日本に参戦し始めたとき、馬場さんに言われましたよ。「おまえらの試合は軍鶏のケンカだ」って。軍鶏のケンカって休まないじゃないですか。

——そして維新軍、ジャパンプロレスの試合も休まず動き回ってましたよね。

小林　それは従来のプロレスとは違うスタイルだったから、馬場さんには「おまえら、ハーリー・レイスの試合観て勉強しろ」なんて言われたけどね。でも、ハーリー・レイスの試合なんて、（フィニッシュの）ダイビングヘッドバット仕掛けるまで1分ぐらいかかるような動きなんだよ。

——超ゆったりしたリズムのプロレスなわけですよね（笑）。じゃあ全日本を観たときは「なんだこりゃ？」っていうような部分はあったんですか？

小林　そこを引っかき回してやりたかったですね。飛び込めば流れは変わると思ってたんで。俺たちはとくにタッグマッチでは、最初から最後まで動きっぱなしだから、向こうの選手は違和感あったと思いますよ。

——全日本を自分たちのプロレスに変えちゃおう、みたいな気持ちがあったわけですか？

小林　ありましたよ。実際、変えちゃいましたからね。いまのノアみたいなプロレスは、俺たちが全日本のプロレスを変えちゃったことからスタートしてるですよ。それが時代とともにハイスパートになりすぎちゃって、そこには少し責任を感じてますけどね。

——でもその当時は「これがいまのプロレスだ、俺たちのプロレスなんだ」っていう思いですよね。

小林　うん。そんな古いプロレスやってちゃダメだって感じだったね。



80年代のプロレスブームを牽引した長州率いる維新軍。彼らがジャパンプロレスとして独立し、全日本プロレスに殴り込みをかけたことで、全日本に新日的な闘いを持ち込み、日本のプロレスを変えるきっかけとなった。

——全日本の選手で、最初に維新軍のプロレスに食らいついてきた人って誰ですか？

小林　やっぱり天龍（源一郎）と三沢（光晴）だよね。三沢はジュニアで僕とずっとやってたし。

——そういう人とやると、「あ、俺たちのプロレスができてるな」みたいな感じがありました？

小林　うん。相手がいないとプロレスができないからね。相手を巻き込んでいかなきゃならなかった。

——プロレスを変えるために「全日本よりも俺たちのほうが全然練習してるし鍛えてるぜ」っていう意識はありました？

小林　それはもちろんあったよね。最初からなにしろ練習はしましたよ。最初から最後まで動きっぱなしの試合をやるためには、練習しかないからね。

——練習方法一つをとっても全日本と新日本では違いがあったんでしょうね。

小林　やっぱり馬場イズム、猪木イズムと言われたくらいで、根本的な考え方、教育そのものが違うんでね。俺たちは全日本に行っても、猪木さんの教えを忠実に守ってプロレスというものに取り組んでたから。

——その猪木さんの教えの一つが、とにかくトレーニングをやる、ということですか。

小林　そうですね。やっぱりプロレスというのは、試合もそうですけど、それ以前に身体を見せる商売でしょ？　ちゃんと身体を鍛えないと、お客さんがお金払う価値ないでしょ。やっぱり厳しい練習してね、入場してきた身体を観ただけでお客さんがどよめくぐらいじゃないと。いまけっこうそうじゃないヤツがリングに上がってるけど、僕からしたら、それはプロレスはやっていても、プロレスラーとは言えないよね。

——ただ、プロレスをやってるだけで、「プロレスラー」ではない、と。

小林　練習してれば鍛えあげられた身体は作れるでしょ。そういう根本的なことができてないと、プロレスラーじゃないですよ。「プロレスラーなら身体を作って、鋼鉄みたいな身体でリングに上がれ」って言いたいね。

——当時のジャパンプロレスは、いま小林さんが言ったような意識の塊のようでしたよね？

小林　俺たちは入門当時から、選手として上で闘ってるときも、ヒンズースクワット1000回、腕立て伏せ1000回やってたよ。ベンチプレスも300キロ挙げたからね。

——ジュニアヘビー級で300キロを挙げますか！

小林　（ダイナマイト・）キッドなんかもやってるから、負けてられないからね。

——そういうジャパンプロレス勢の練習やプロレスに対する姿勢に、全日本の若い選手が影響を受けてた部分ってありました？

小林　あったんじゃないですかね。全日本でも俺たちに負けないくらいやってる選手はいましたよ。それは俺が名前を挙げなくても、お客さんが観ればわかることだろうけど。

——小林さんは新日本で、ずっと初代タイガー佐山さんとやってて、全日本で二代目タイガーの三沢さんとやった感想はどうでしたか？

小林　三沢はかわいそうだったね。佐山は何をやらせても器用だし、三沢にそのまねっこをしろっていうのは、酷だったよね。三沢本人もなんとかタイガーの動きをやろうとしてたんだけど、身体の大きさも違うし、初代があまりにも強烈なインパクトだから、それ以上のことをやらない

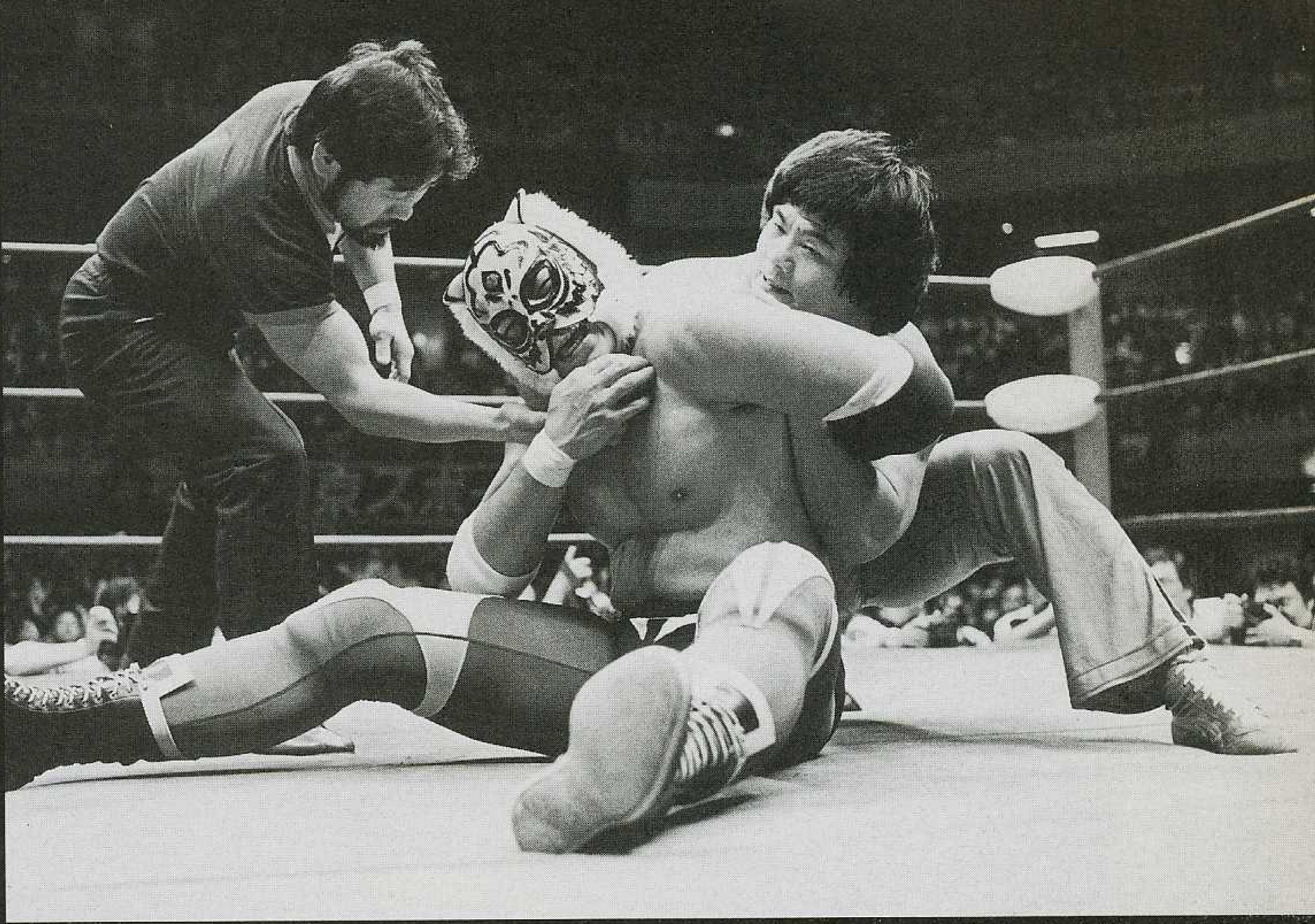
とお客さんが認めてくれない。そういう意味では比較されてかわいそうな部分があったよね。

――小林さん的にも、佐山さんとの試合とは違う、新しい小林vsタイガーをやらなければばっていう気持ちはありましたか?

小林　でも、難しかったよね。小林vsタイガーというのを全日本でもやって、いい試合はできたんだけど、なんかいまいち自分の中に燃えるものがなかったよね。それは三沢にしてもそうだったと思う。

――三沢さんにしてみたら、小林さんというのは〝自分の恋人〟ではなく〝佐山さんの恋人〟なわけですからね。

小林　だから三沢はタイガーマスクから解放されてから、本領を発揮したよね。



オーソドックスなアメリカンスタイルが浸透していた当時の全日本において、のちの三沢光晴、二代目タイガーマスクは真っ先に新日的な闘いに対応した一人。ただ小林との抗争は、どうしても初代タイガーと比べられてしまい、なかなかファンの支持を得られないでいた。

――では、小林さんが全日本時代に一番燃えた相手って誰でしたか?

小林　意外と言ったら失礼だけど、燃えられたのは渕（正信）だったね。

――渕さんですか。全日本での後期に抗争してましたよね。

小林　いまは陰に隠れてオジサンになっちゃったけど、当時は渕とやってみて、うまいし、凄いなって思いましたよ。やっぱりゴッチさんのところで鍛えられてるから、基礎がしっかりしてたしね。

――小林さんと渕さんが抗争してたときは、タイガーマスクのライバルだったジュニアのトップである小林邦昭と全日本の前座の渕じゃ、格に差がある感も少しありましたけど、やっぱり渕さんもそれだけの実力者だったんですね。

小林　だから渕と抗争してる最後の頃、武道館でやったとき凄く盛り上がったからね。彼は陰に隠れた実力者だったよ。のちに彼がコーチになってから、全日本はいい選手がたくさん出てきたじゃない。そういうキレ者だったよね。

――なるほど。そのあと小林さんは長州さんらとともに新日本に戻るわけですけど、あれは全日本でやり続けることに限界を感じたんですか?

小林　やっぱり僕も長州も、抗争を2年もやってると、どうしても先が見えてきちゃうんだよね。あのままやってても、ジャパンは全日本に吸収合併されていただろうし、新しい燃えられる相手を見つけるために新境地というか、猪木さんの元に帰ったんだけどね。

俺が全日本で一番燃えられた相手は三沢じゃなくて渕正信だったね

――全日本の条件は良かったんですよね?

小林　良かったですよ。でも、ビジネスマンもそうだろうけど、同じ職場で定年まで続けるより、もっと上を目指したいって気持ちは絶対にあると思うんだよね。

――しかもイケイケな時代ですもんね。

小林　うん。長州だってまだ30（歳）ちょっとだよ。イケイケだし若かったから、守りに入らず攻めの姿勢だったよね。たとえば、これで新日本に帰って失敗しても、それは自己責任だと思ってたから。ただ、新日本に戻るときちょっと不安はありましたけどね。

――どういった不安ですか?

小林　そのとき、新日本のジュニアっていうのは、越中（詩郎）vs高田（延彦）の名勝負数え唄で盛り上がってましたからね。はたしてそこに俺が乗り込んでいっていいものだろうかっていう不安があった。でも、ほかにターゲットにするような選手もなかなかいなかったしね。

――新日本を留守にしてる2～3年のあいだに、世代が変わっちゃってたわけですね。

小林　うん。世代が変わっちゃうと難しいですよね。僕が佐山とやってた頃、道場で自分たちが教えてた人間に、今度は俺たちが食ってかからなきゃいけないジレンマはありましたよ。

――新日本側の選手も反発があったでしょうしね。

小林　だからなんとなく無理に上がってた感じがしましたね。自分の中では、全日本で三沢とやったり、越中や髙田とやったりもしたんだけど、ジュニア戦士としての小林邦昭が最高に燃えたっていうのは、佐山が引退した時点でもう終わってましたね。佐山とやったときが一番燃えたし、そのあとは頑張ってたんだけど、なんか一本筋が通らないような感じでしたよ。

――新日本に戻ってすぐに、ジュニアのトーナメントで優勝してIWGPジュニア王者になりましたけど、やっぱりちょっと違うなっていう部分がありましたか。

小林　ありましたよ。俺も佐山とやってたときほど燃えてないし、越中や高田もそれは同じだったと思うんですよ。そしてそれは長州も同じで、またやっぱり新日本に戻ってきて、また長州vs藤波っていうのをやったけど、昔みたいな長州vs藤波戦はできなかったからね。

――そうですよね、なんか噛み合わないというか、燃えないというか。

小林　戻ってきてからまた長州vs藤波をやっても、視聴率が全然上がらなかったからね。昔は視聴率26パー

自分もお客さんも燃えられる試合をやるには対抗戦は最適だと思う

セントとか獲ってたのに。だから、お客さんの期待度が落ちていたし、本人たちもそこまで燃えるものがなかったんだろうね。

――だから、小林さんもジュニアヘビー級とか関係なしに、誠心会館との抗争になって、ようやく新しい小林邦昭として再び燃えられたんじゃないですか？

小林　そうですね。あれは偶然、火がついちゃったんだけど。

――控室でのちょっとした揉め事が発端ですよね。

小林　あのときは後楽園ホールの控室で、青柳（政司）の付き人みたいなことしてた門下生が、ドアを開けっ放しで出ていったんで、「ちょっとおまえ、閉めろよ」って言ったら、なんか知らないけど口答えしたんですよ、生意気なヤツで。それで僕は頭にきて張ったんですよ。

――あたりまえですよね。

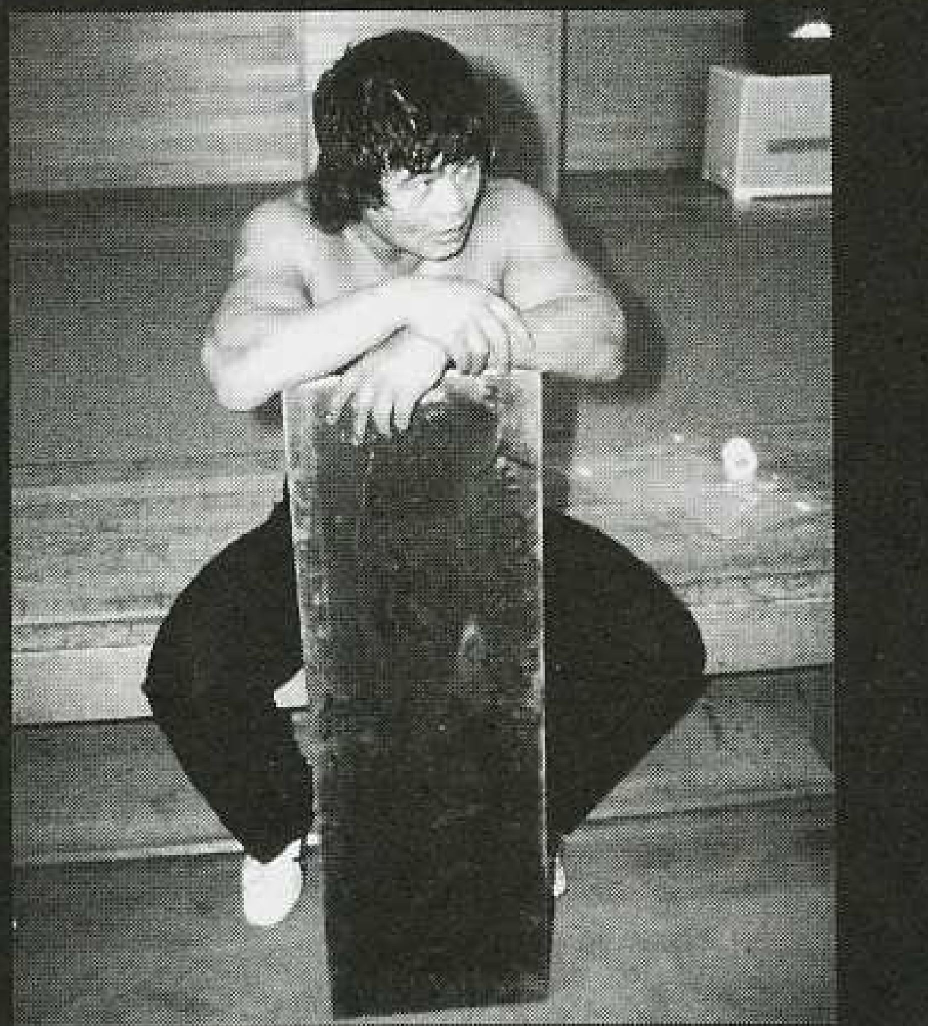
小林　そしたら倒れちゃって、口切っちゃってね。そこから始まっちゃったんだけど、こっちもプロレスラーとして許せないからね。だから、そのあと齋藤（彰俊）が出てきて大田区でやったんだけど、きれいな格闘技戦にはならなかったよね。

――文字どおりのケンカマッチでしたよね。

小林　あのとき6～7分しか闘ってないんだけど、あの試合で齋藤彰俊っていうのを一夜にしてスターにしちゃったのかっていうのは、それだけの熱とインパクトがあったってことだから。あれがドロドロした試合じゃなくて、普通の格闘技戦だったら、齋藤はあそこまでいかなかったと思う。

――あのときの抗争は、ミスター高橋さんが「俺が全部シナリオ作ってたんだ」みたいなことを言ってましたけど、どうだったんですか？

小林　フフフ、それはないですよ。まあ、言うのは自由だけどね、シナリオ作ってやるなら、もっときれいにやりますよ。あんなドロドロしない。いまだに正拳で殴られた痕が残ってるしね。両国で齋藤とやったときも、誠心会館の門下生がたくさん来てリングを囲んでね。異様な雰囲気だった。それこそアントニオ猪木vsウィリー・ウイリアムスみたいなね。



92年初頭に勃発した、小林と誠心会館の抗争は、凄惨なケンカマッチの連続で強烈なインパクトを残した。最終的には小林が齋藤彰俊を破り道場の看板を奪うが、その後は和解。これがのちの平成維震軍結成につながった。

――そういう闘いをやる中で、徐々に彰俊選手とかとはプロとしての試合ができるようになってきた感じですか？

小林　うん、やっぱり区切りとして両国で、向こうが看板懸けて、こっちは引退懸けて闘って、僕が勝って看板を取ったということで、一度終わりましたよね。ただ、看板取ったはいいけど、じゃあこの看板をどうすんだ、と。

――そこまでは考えてなかった、と（笑）。

小林　で、名古屋の誠心会館の興行に僕が出て、「俺が持っててもしょうがないから。おまえら看板がないとやってけないだろ」って返したんですけどね。もう誠心会館と新日本の関係が切れたあとだったから、俺たちが勝手に行ったことで揉めちゃってね。

――あれってやっぱりリアルに揉めてたわけですか？

小林　そうそう。会社としても「行くな」って言われてたんだけど、俺の気持ちの中では「もういつ辞めてもいいや」と思ってたんで。ただ、謹慎と減俸の処分食らったあと、このまま辞めるのも癪だと思って、越中に「ちょっと二人で組んでやってみようか？」「そうですね」ってことで、反選手会同盟がスタートしたんだけどね。

――なんか昭和維新軍がスタートしたときと似てますね。リアルな揉め事、リアルな反発心がそのまま抗争につながるという。

小林　そうですね。やっぱり気持ちの中で、僕も越中もおもしろくない部分があったんですよ。お互い新日本のジュニアを引っぱって、一時代を築いてきた自負はあったんだけど、そういう人間に対する会社の扱いっていうのがおもしろくなくて、やっぱり反発してたし、それがかたちになったのが、平成維震軍ですよね。

――リアルな反発心があったから、あれだけ燃えられたわけですね。

小林　気合い入りましたよね。平成維震軍は7年間という驚異的な長さで続きましたから。普通、ああいう抗争って長くても2年以内で絶対に終わるからね。

――平成維震軍が続いた理由はなんだと思いますか？

小林　やっぱり結束力ですよ。そこは、どんな軍団よりあったんじゃないかな。

――じゃあ昭和維新軍も平成維震軍も、かたちだけのユニットみたいな感じとは違ったわけですね。

小林　うん、全然違うね。本当の結束力があったからこそ、「対抗戦」というのも成り立ったんだと思うし。

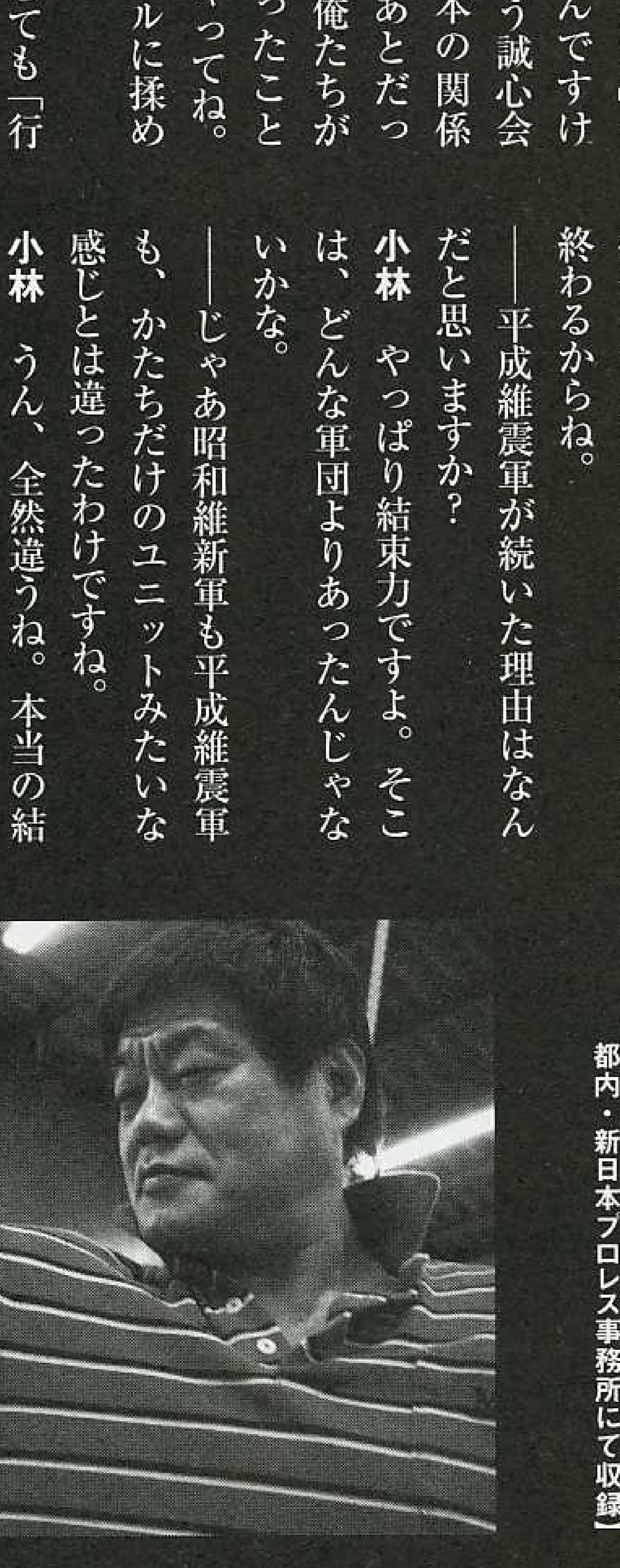
――とくに平成維新軍は、WARなんかとも抗争しましたしね。では、小林さんにとっての対抗戦というのは、自分がホントに燃えられるシチュエーションを求め続けた結果という感じですか？

小林　そうだろうね。第1試合だろうがなんだろうが、燃える相手がいれば、絶対にそれに伴なっていい試合ができるし、そういうライバル心、燃える気持ちがなくて、ただ組まれた試合をやってたら、勝っても負けても意味がないから。

――意味のないカードは闘う意味がそもそもない、と。

小林　やっぱり自分が燃えられる相手だと、お客さんも期待しているわけで。そういう試合をすれば、たとえ負けても〝死ぬ〟ことはないんですよ。何もない試合っていうのは、自分が負けたら死んじゃうけどね。だから自分が燃えられて、お客さんも燃えられる相手を見つけるっていう意味で、対抗戦というのは最適だと思いますよ。そうすれば自分も輝けるわけだからね。

【09年11月25日／都内・新日本プロレス事務所にて収録】



こばやし・くにあき■1956年1月11日、長野県出身。72年に新日本プロレス入門。80年代前半、維新軍の一員として初代タイガーマスクとの抗争で大ブレイク。その後、ジャパンプロレス、平成維震軍の一員として活躍。現役末期、胃ガンを患い2000年に引退。現在も新日本プロレス道場管理人として、日々、練習に励み、ガン患者とは思えぬ肉体を誇る。

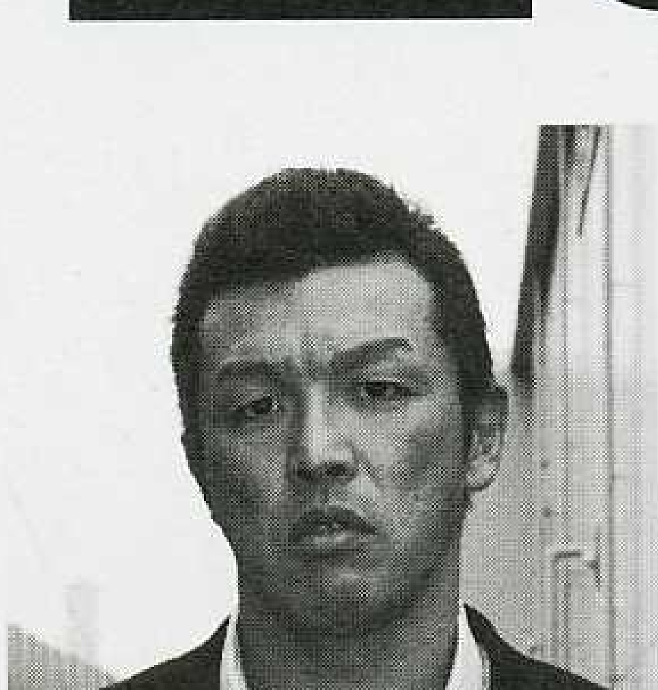
――村上さん、おひさしぶりです！
村上 『kamipro』なんて、ホ
――あの1・4はまさにケンカでし
たよね。しかも、6万人の観客の前
村上 ただ棒で殴るとか、集団でリ
ンチするとかは僕はケンカじゃない
コボコにされた飯塚（高史）さんを
長いあいだ追いかけ回してましたか



これぞリアル対抗戦

新日本vsUFOから生まれた男

「猪木さんの命令は絶対でした」



村上和成

これまでマット界ではさまざまな対抗戦が行なわれてきたが、その衝撃度では新日本vsUFOの対抗戦に敵うものはないだろう。小川が橋本にシュートを仕掛けた“1.4事変”を筆頭に、この対抗戦では両団体の創始者アントニオ猪木プロデュース（?）の“一寸先はハプニング”な事件が続出。この対抗戦から生まれた男、村上に当時を振り返ってもらった。

聞き手／阿修羅チョロ　試合写真／平工幸雄

僕の中では対抗戦もプロレスもすべてケンカだと思ってるんで

——村上さん、おひさしぶりです！

村上 『kamipro』なんて、ホントにひさしぶりですよねぇ。

——村上さんは現在、長期に渡り負傷欠場中ですけど、先日は健介オフィス興行に乗り込んだりしてましたし、復帰も間近なのかなと思ってるんですが？

村上 僕自身は身体のことを抜きに考えると、いつでもいきたいんですけど、まだドクターストップがかかってる状態なので。

——あ、そうなんですか。

村上 「大丈夫かな？」と思うような気持ちがゼロにならないと今回はまずいな、と。まあ、いままでみたいに「なるようになるさ」っていうのは今回はナシかなって思ってるんで、もう少しかかると思います。

——早期復活を期待してます。で、今回は対抗戦について、いろいろと話をうかがいたいと思っていまして。村上さんといえば、例の小川vs橋本戦があった1・4からプロレスラー人生が始まったようなかたちで、対抗戦男っていうイメージもあるじゃないですか。

村上 まあ、そうですよね。わけもわからないままプロレスのリングに上がってボコボコにされて、いまに至りますからね（苦笑）。逆にスタートがあれだったんで、いまでも自分の中ではプロレス＝ケンカだと思ってますし。

——あの1・4はまさにケンカでしたよね。しかも、6万人の観客の前での大喧嘩とでもいうか（笑）。

村上 そうですよねぇ。それこそ、対抗戦っていうのもケンカだと思うし、僕の中ではプロレスっていうのは名前であって〝闘い〟っていうのはすべてケンカだと思ってるんで。やっぱり、感情がなければ闘えない。だから、たとえば、エンセン（井上）とも何度もド突き合いをしましたけど、いまはエンセンとも凄く仲がいいですからね。それは何も持たずに拳と拳で殴り合いをして、拳でわかり合うっていうことができたからだと思うし。

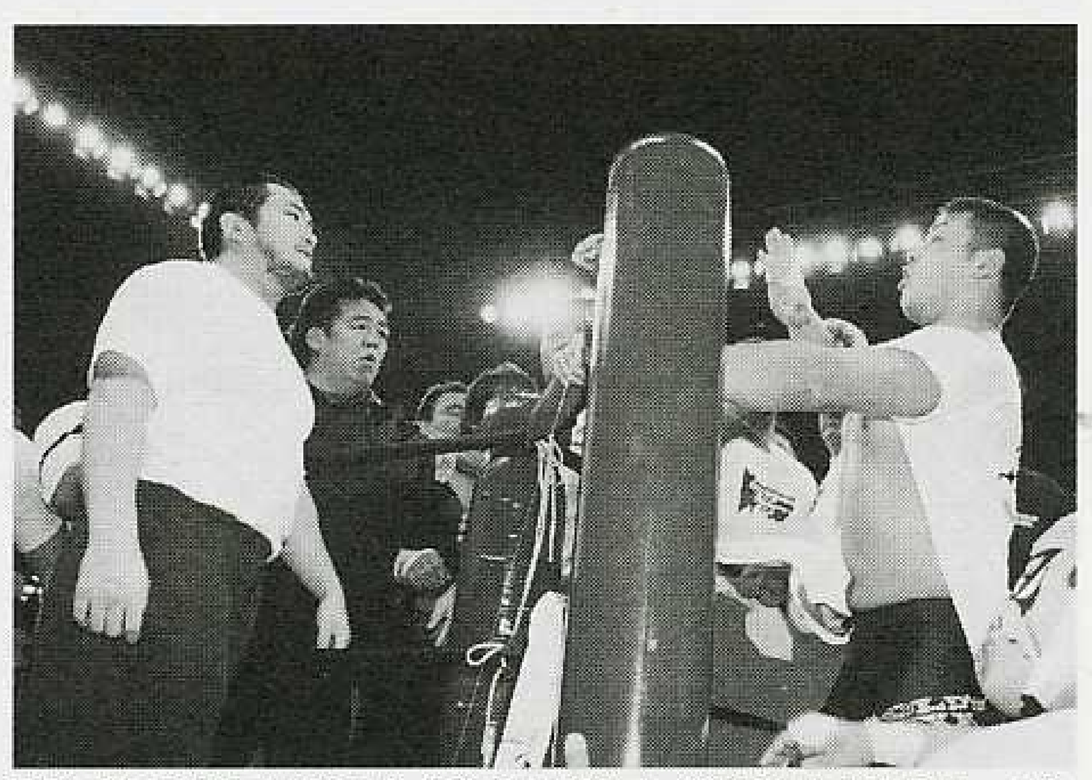

戦前から不穏な動きが漂っていた99年1月4日の小川直也vs橋本真也戦。小川のセコンドには村上のほかに"死神"ゴルドー、バンテージを巻いた佐山聡、佐山の弟子4代目タイガーマスクがついた。

——マンガの世界だけではなく、実際に拳でわかり合えることがあるわけですね。

村上 ただ棒で殴るとか、集団でリンチするとかは僕はケンカじゃないと思うんで。それはケンカの糧であって、「ホントのケンカをしようや」って思うんだったらタイマンすればいいいやって話なんですよ。

——それこそ村上さんも関わっているアウトサイダーや『KRUNCH』みたいな世界ですよね（笑）。

村上 一緒だと思いますよ。そこに出てきたことに意義があって、結果はどうでもよくて。リベンジして最終的に自分が勝って納得できればいいんですよ。99回やって、100回目に「もう一回やろうぜ！」って負けたほうが言っても、「もういいよ。俺は降参するよ」ってなったら、それは闘わずして勝ったわけだから。そういう執念とか想いっていうのは、僕はもう2年半以上離れてますけど、いまのプロレスになくなってきてるんじゃないかなって感るんですよね。


試合後の乱闘では新日サイドの小原道由、飯塚高史が大暴れ。4代目タイガーはマスクを破られ、村上は新日勢から集団暴行を受け失神。一寸先はハプニングどころか、生命の危機にさらされる結果に。

——それこそ村上さんは1・4でボコボコにされた飯塚（高史）さんを長いあいだ追いかけ回してましたからね（笑）。

村上 やられたら、やり返さなきゃ気がすまないっていうのも当然あったし。そういった本気の度合いがいまのプロレス界ってあまり感じないじゃないですか。

——ある意味、プロレスの対抗戦よりもそういう闘いのほうがリアルな覚悟とかはシビアな部分はあるでしょうね。

村上 失うモノは大きいですからね。それで負け続ければ「アイツ、口だけで弱いじゃん」ってなっちゃうんで、それで勢力図もリアルに変わってくるんで（笑）。

——そうでしょうね。でも、1・4も新日本とUFOの勢力図争いといった部分も大きかったですよね。

村上 そうですよね。自分のところへはそういった裏事情はあんまり入ってこなかったですけど（苦笑）。

——当時の村上さんは格闘家上がりで、プロレスのことをほとんど理解しないままに大乱闘に巻き込まれたわけですけど、よく、この世界でやっていこうと思いましたよね。

村上 そうですよね（笑）。まあでも、ああいうことがあって「プロレスっていうのはホントに怖いんだな」って思ったんですよ。自分は最初はプロレスをナメてたので。

——プロレスの仕組みというか、プロレスとはどういうものなのかは、当時は格闘家としてある程度のイメージはしていたと思うんですけど、実際ドームで体感したものは紛れもないケンカだったわけですよね？

ドームで空前絶後の大乱闘！“1・4事変”とはなんだったのか？



これまでプロレス界では、さまざまな対抗戦が行なわれてきたが、インパクトという意味では、99年1月4日、新日本プロレス東京ドーム大会での小川直也vs橋本真也戦が一番だろう。

すでに10年以上経っているため、知らないという人も多いと思われるので、ここでその経緯を簡単に説明しよう。

小川直也をエースに98年にUFOを立ち上げ、同年10月に旗揚げ戦を行なったアントニオ猪木と、その言動に不信感を募らせる新日本の関係は日増しに悪化。一方の橋本は会社批判により1・4ドーム大会後のシリーズより無期限出場停止処分を下されるという、何やら不穏な空気が充満する中、組まれた小川vs橋本の3度目の一騎討ち。

開始早々から明らかにプロレスの枠を超えた攻撃を仕掛けた小川は橋本をボコボコに。異変を感じた橋本は試合を止めようとしてかレフェリーにヒザ蹴りを食らわせるも、レフェリー不在となったリング上は無法地帯に。リング周辺では両陣営の小競り合いがボッ発する中、無効試合との裁定が下されると小川は飛行機ポーズから「新日本プロレスファンの皆さん、目を覚ましてください!!」とマイクアピール。

これがきっかけとなり大乱闘に発展。バックステージからは長州力も飛び出してくるも騒動は収まらず、村上は飯塚や小原ら新日勢から頭部を踏みつけられまくり、救急車で病院送りに。

黒幕と見られるアントンは、なぜか東三四郎のマスクを被り試合を観戦するも、途中で姿を消したのだった。

村上　あれはケンカでしたね。そういう意味では想像以上で（苦笑）。

——しかも、ああいう展開になるというのは、事前に知らされていたわけでもなかったわけですよね。

村上　なんとなく、ぐらいだったんで。だから、プロレスっていうのは自分の身は自分で守らなきゃいけないんだなっていうのは思いましたね。格闘技だったら、ケージ、リングならリングで闘うわけじゃないですか。で、基本的には礼で始まって礼で終わるようなところがあるわけじゃないですか。でも、プロレスは終わりがないんですよ（笑）。

——そうですよね。カウント3つ入ってリングを降りたあとも、まだ油断はできないというか（笑）。

村上　控室で殴られたりも普通にするわけじゃないですか。自分の場合は殴るほうが多かったですけど（笑）。総合格闘技で負けたら納得せざるを得ないんですよ。「あそこはこうすればよかった」って。でも、プロレスの場合は感情論なので「ふざけんな、コノヤロー！」っていうのがなくならない限りは、ずっと続いていくわけなので、リングを降りても、自分みたいな目にも遭うし、外を歩いても、そういう目に遭うこともありましたからね、実際に（苦笑）。

——村上さんは破壊王を駐車場で襲ったこともありましたし。

村上　ありましたねぇ（苦笑）。だから、「24時間、気をつけろよ！」とか、自分はよく言ったりしてましたけど、それは自分が身をもって体験しているので、プロレスっていうのは休まる間がないよ、みたいな（笑）。そういう意味では、この2年半近く、プロレスを始めてから、初めて休まった気がしますね。

——さすがに2年半近くリングから離れてる選手を襲おうと思うレスラーはいないでしょうけど（笑）。村上さんが体感した新日本vsＵＦＯの対抗戦というのは、プロレス界の対抗戦の中でも異質でしたし、あれだけ緊張感を持って続けられた対抗戦は、あれ以来ないいんじゃないかと思うんですよ。

村上　まあ、そうでしょうね。自分の中でもあの経験はデカいし、凄い財産になってる部分はありますよね。ただ、その頃って自分がどうのこうのっていうより、「小川直也の盾にならなきゃ」っていう気持ちしかなかったですから。それが僕の仕事だと思ってやってたんで。自分の中では小川直也がリングに上がって、100パーセント邪魔されることなく試合をする。その代わり、万が一、小川直也が危なくなったときは邪魔するぜ、みたいな（笑）。

——実際にそんな感じでしたよね。いろんなところで語ってますけど、1・4のときって村上さんは「何かあるんじゃないか？」っていう意識は少なからずあったわけですか？

村上　少なからずはありましたよ。佐山（聡）さんはバンテージ巻いたりしてたんで（笑）。

——セコンドがバンテージ巻くなんて普通じゃないですよね（笑）。

村上　ですよね（笑）。でも、自分は半信半疑だったんですよ。総合格闘技だったら試合でボッコボコにすればいいわけじゃないですか？　試合が終わってからそういうことがあるはずがない、みたいな（笑）。

——普通の総合格闘家ならそう思いますよね（笑）。

村上　そう思ってたし、そのときは「何がプロレスだよ！」って思ってたんで。だから、余計に理解できないところがありましたね。「プロレスってケンカなんだ」みたいな（笑）。

——アハハハハ！

村上　なんだかわからないまま、乱闘に巻き込まれて、袋だたきにあって病院送りですからね（苦笑）。ホント、ムチャクチャでしたよね。

——6万人の前でのケンカって、なかなか見れるもんじゃないんで「なんだかわかんないけど、スゲー！」と思っちゃいましたけどね。

村上　いや、それでいいと思いますよ。逆に自分の中では、殺し合いはしちゃいかんですけど、あの緊張感といい、あれだけの熱っていうのは必要だと思うし。結局いまのプロレス界にはああいう熱はないですからね。……あれがいいか悪いかは別として（苦笑）、ああいうホントの感情論のぶつかり合いを見せたら、お客さんは沸いてくれるし、だから、ちゃんとした対抗戦っていうのは、おもしろいと思うんですよ。

——いまは対抗戦をうたっていたも、交流戦のような感じが多いですからね。

村上　そうなんですよ。よその団体の選手同士が闘って対抗戦って言ってますけど、ホントの意味での看板を賭けた試合っていうのはないですから。「コイツらには負けられねえ」っていうケンカはないですよね。

——あの1・4から、なんだかんだいって10年経つわけですが、その間、猪木さんや佐山さん、ゴルドーなんかも、あのときの裏話を語ってましたけど、いまだから語れる1・4の真相とかないですか？

村上　どうなんでしょうね（苦笑）。まあ、猪木さんの言葉を使えば「ハプニング」でしょう（笑）。

——「一寸先はハプニング」ってことですか（笑）。

村上　結局は猪木さんというか、ケンカはボスが言うことがすべてなのかな、と。逆に言えば、昔の武士とかと一緒ですよ。信長が「行けー！」って言えば、下の人間としては、なんで行くのかわからないけど、とりあえず行く、みたいな（笑）。そんな感じでしたよね。ある意味、そういった関係はしっかりできてたので。

——その頃の猪木さんっていうのは村上さんにとって自分のボスっていう認識だったんですね。

村上　そうですね。ただ、僕にとって猪木さんはホントに雲の上の存在というか、全然見えないところにいる存在だったんですよね。そういう意味では、僕にとってのボスっていうのは小川直也でしたね。

——当時で言えばそうなんでしょうね。柔道をやってきた村上さんにとっては、小川さんはスーパースターっていうのもあったでしょうし。

村上　当時で言えば、僕にとって小川直也は憧れた人間であり、一緒に付いていった人間なので。この人間が「レッツ・ゴー！」って言えば、レッツ・ゴーなんですよ。逆に言えば、猪木さんが「レッツ・ゴー！」って小川さんに言えば、小川さんも首を縦に振らざるを得ない状態。その縦のつながりができてたんですよ。

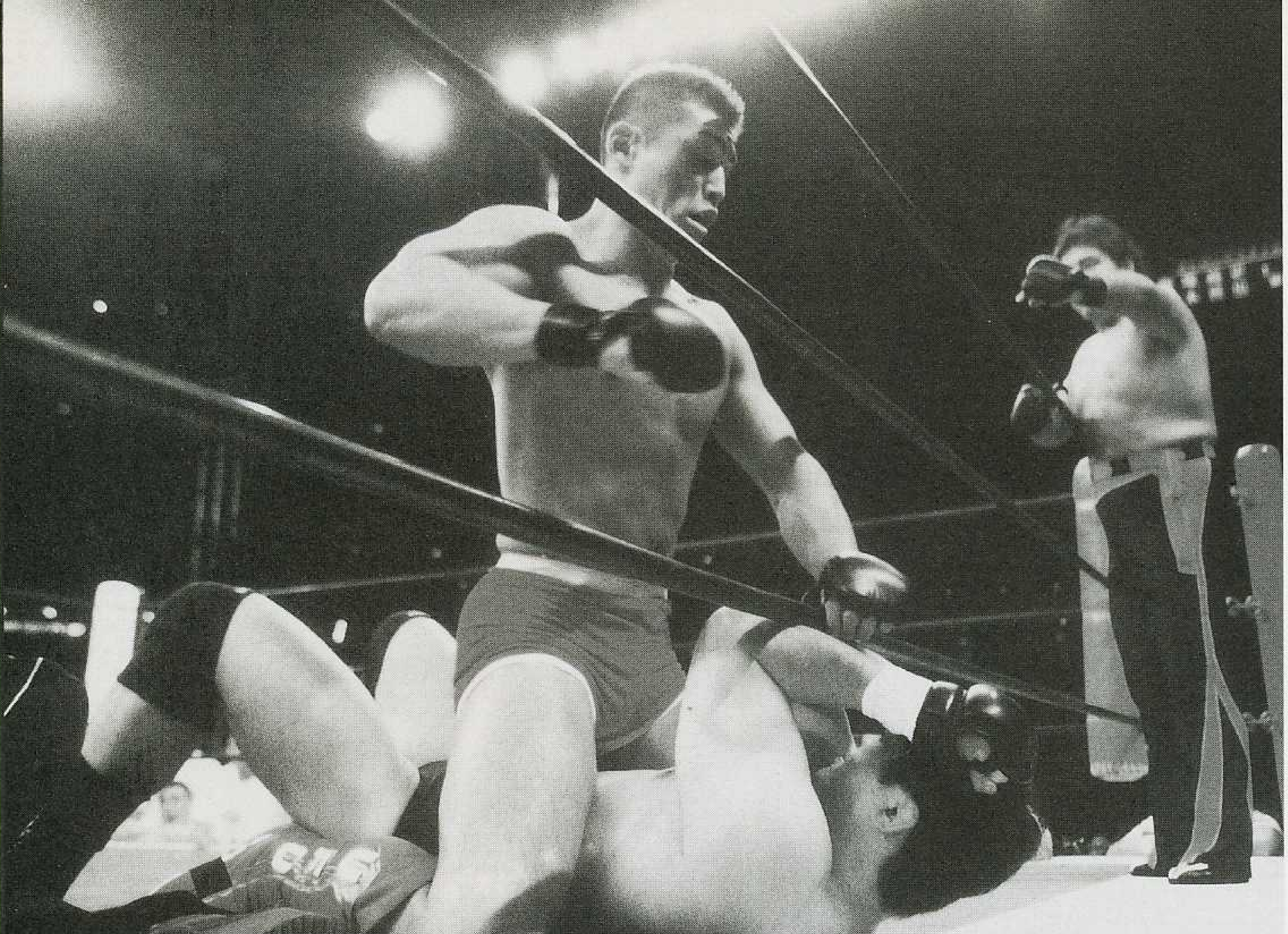
——村上さんにとって、佐山聡という人間はどういう存在だったんですか。ある意味、1・4の黒幕的存在という見方もありましたけど。

村上　佐山さんは、ある意味、猪木

"テロリスト"村上和成誕生！
破壊王を駐車場で襲撃!!



2000年3月11日に横浜アリーナで開催された『第2回メモリアル力道山』の試合前、橋本真也を襲撃したのがきっかけで"テロリスト"と呼ばれるようになった村上。"1.4事変"以来、リング上で火花を散らしてきた小川と橋本だったが、お互いの師匠でもあるアントンの要請で『メモリアル力道山』でタッグを結成することが決定(対戦相手は天龍源一郎&B・B・ジョーンズ)。このタッグ結成に納得いかない村上は、橋本の会場入りを待ち伏せし、その姿を発見するや猛ダッシュで近づき背後から不意打ち。倒れ込んだ橋本に、いまは亡きブラック・キャットが駆け寄るも、気がつけば橋本の額はパックリと割れ大流血。この凶行から3時間以上後のメイン開始時になっても血は止まらず流血したまま入場した橋本はリングに上がるやパートナーの小川を乱打し「小川ァ！試合前に村上になぜ俺を襲わせたァァァ！」と絶叫。仲間割れかと思われたがそのまま試合は続行。ケガの影響もあってか呆気なくジョーンズにフォール負けを喫した橋本は、試合後、襲撃事件の背後に「黒幕がいる」と怒りをぶちまけるも、アントン、小川は事件の関与を否定。村上は関係者の忠告により、しばらく雲隠れを続けた。



"1.4事変"から1年後の東京ドーム大会で小川直也と組んで橋本真也&飯塚高史組とタッグマッチで激突したのが村上の新日デビュー戦。その後も因縁の飯塚を中心に新日マットで大暴れ。小川と別れてからは魔界倶楽部の一員として活躍し、永田裕志が王者時代のIWGPヘビー級王座にも挑戦している。

村上和成

橋本さんを襲撃したときは普通じゃない人から電話があって……

さんがいて……、暴走族とかで言えば、旗持ちなのかなと。

——佐山さんは旗持ちでしたか(笑)。

村上 僕は特攻隊長で、小川さんは女王蟻みたいな(笑)。佐山さんは「ボスの言うことはわかってるよな?」って感じで、あまり多くは語らなかったですけど、こっちとしては「よくわからないけど、レッツ・ゴー?」みたいな(笑)。

——UFOらしいですね(笑)。その後も村上さんはZERO—ONEの火祭り参戦をドタキャンしたり、レジェンドや猪木祭りにもかり出されたりもしましたが、全部ボスからの命令に忠実に従っただけだと?

村上 全部そうですね。ボスから「行け!」って言われたら、どんなに準備してなかろうが、行くしかないでしょうっていう状態ですよね(苦笑)。

——猪木祭りではほとんど準備もなく、ステファン・レコとK—1ルールで対戦したりもしましたからね。

村上 ありましたね(苦笑)。でも、戸惑いはなかったですよ。この中に自分が入った以上はそれがあたりまえ。それが嫌だったら抜ければいいだけの話なんで。

——新日本とUFOの対抗戦の流れで、村上さんで印象深いのは、やっぱり、力道山メモリアル興行の試合前の破壊王襲撃事件だと思うんですけど。

村上 ありましたねぇ……。

——いまだから言うと、あれもボスからの指令だったんですか?(笑)。

村上 アハハハハハ! あのときはボスからは怒られましたからね。

——直後に猪木さんは激怒してましたよね。

村上 僕の中では、あのときの橋本真也が嫌だったんですよ。ある意味、橋本さんに自分の恋人を取られたじゃないですけど、いきなり小川さんと組めって言われて、「何、あっさり組んでんの?」みたいな。「おまえ、断れよ!」って思ったんですよ。

——因縁のライバル同士が簡単にタッグを結成するのはおかしいんじゃないかと?

村上 さんざんコケにされて、さんざん踏み台にされておいて、「何、負けてんのにタッグ組んでんの?」って。「俺はおまえのせいで死にかけてんだ」みたいなのもあったし(笑)。

——実際、死にかけたわけですし。

村上 そうですよ。それなのに、尻尾を巻いて「はい、組みます」みたいな。「なんだよ、それ! プライドもへったくれもないのかよ」ってムカついて、いてもたってもいられなくなって駐車場で襲撃してしまいました(苦笑)。

——そういった村上さんの感情もあったと思うんですけど、その裏には天使だか悪魔のささやきも当然あったんじゃないですか(笑)。

村上 どうだったですかねぇ……。まあ、あのあとはさんざんな目に遭ったんで、結果的には悪魔のささやきだったんじゃないですかね(苦笑)。

——たしか襲撃後は危ないからってことで、しばらく家にも帰れなかったんですよね。

村上 ホントに2週間ぐらい隠れてましたからね(苦笑)。「俺は犯罪者か」って思ってましたもん。

——まあ、普通は駐車場で人を血だるまにしたら犯罪者ですけどね(笑)。

村上 まあ、そうなんですけどね(苦笑)。結局、あのときは猪木さんに「おまえはほとぼり冷めるまで、表に出て来るな」って言われて、「わかりました」って言って。その後は携帯も切ってたんですよね。毎日、1日1回とか留守電とかチェックすると、すぐに満杯になってるんですよ。「なんだろう?」って思って、チェックすると、全然知らない人から電話が入ってるんですよね。「オイ、コラッ、殺すぞ! テメエ、どこにいるんだ、コノヤロー!」みたいな(笑)。

——それはただごとじゃない(笑)。

村上 もちろん、関係者からの電話もあったんですけど、普通の人たちじゃないような人からもありましたからね(笑)。

——まあ、興行前に看板レスラーをケガさせちゃったわけですから、いろいろと関係者以外の人も刺激させてしまったんでしょうね。

村上 まあ、そうなんでしょうね(苦笑)。僕の中ではトンチンカンで何が起こってるのかわかんなかったですけど、とりあえず猪木さんに言われるままに、ほとぼり冷めるまで身を隠してましたからね。

——まあでも、昭和時代は藤原組長が花道で長州さんを襲ってテロリストと呼ばれるようになりましたけど、村上さんは破壊王だけじゃなく、その後も大谷(晋二郎)さんを襲撃したり、かなりテロリストらしい行動を続けることになりますよね。

村上 そうですね。そう考えると、いま長期欠場に追い込まれているのも、ある意味、しょうがないんですよね(苦笑)。

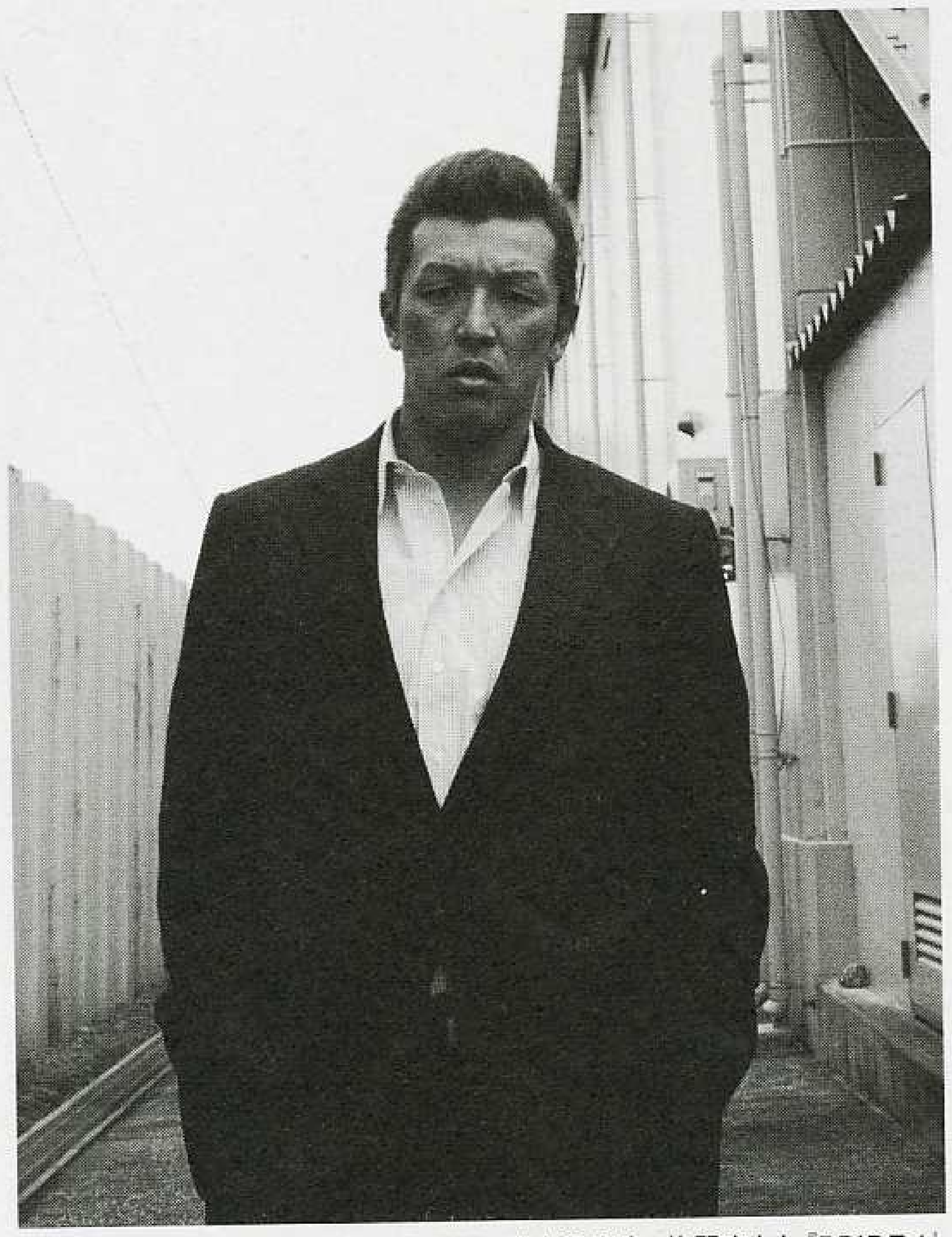
——因果応報というか(笑)。

村上 当然なのかなって思いますよね。基本的に感情論で生きてるので、相手も感情論になるじゃないですか。こっちが「コノヤロー!」ってなれば相手も「コノヤロー!」ってなるのは当然の話なので。

——基本的に村上さんのプロレス人

ボスと兵隊の関係がしっかりしてないと対抗戦は盛り上がらない

村上和成



むらかみ・かずなり■1973年11月29日、富山県出身。格闘家とし『PRIDE.1』などで活躍したのち、98年にアントニオ猪木率いるUFOに所属し、プロレスラーデビュー。その後は新日本を中心に活躍するも、05年5月にビッグマウス・ラウドの社長に就任。07年7月、大谷晋二郎戦での頭部裂傷により長期欠場中。186cm、105kg。

生はスタートからそうですけど、常に対抗戦って感じですよね。

村上　そうですね。結局はどこでやっても少数精鋭なので、とりあえず自分の感情で動かなきゃいけないっていう。感情論から入っていくので、どうしてもケンカというか対抗戦モードになってしまいますよね。

——いまは公私ともにいろいろとお世話になってるみたいですけど、前田（日明）さんがボス的な存在なんですよね。

村上　そうですね。いろいろとお世話になってます。

——一度、ビッグマウス時代に新日本との対抗戦があって、前田さんからシュート指令が出ていたにもかかわらず、村上さんも柴田（勝頼）選手もそういう試合ができなくて前田さんが激怒したということもありましたよね。

村上　結局、あのときの前田さんと自分たちの関係っていうのは、自分と小川さん、猪木さんっていう縦の関係がまだできてなかったんですよ。

——当時はまだ前田さんをボスと思えるような関係ではなかったと？

村上　まだボスではなかったですね。前田日明っていうのはあくまでも象徴であって、僕としても「前田さんがいろいろやってくれるんだ」っていうぐらいの関係だったので。結局、上井（文彦）の野郎が当時は仕切っていたので、その頃はアイツの指令だったんですよね。ボスなんて言葉は使いたくないですけど。

——新日本から挑発されてドームに出たかたちになってましたけど、じつは上井さんのほうから交渉してたとのちに明かしてましたよね。

村上　そうなんですよ。そういうのもあったし、ほかにもいろいろと悪事が発覚したんで。だから、前田が怒ってたのも全部、上井の野郎のことなんですよ。

——のちに上井さんと金銭面等で揉めて、村上さんたちとは離れたかたちになりましたよね。

村上　もう、こいつとは一緒にやってらんねえって思いましたから。その当時は前田さんが何を言ってるとかは自分らは基本的に知らなかったんですよ。直接何かを言われたわけでもないんで。

——そうだったんですか。

村上　そんな流れの中でやってたんですけど、時間が経って答えは見えてますからね。自分がいま前田さんのもとにいるっていうのが答えですよね。

——いまは上井さんとは絶縁状態みたいですからね。

村上　そうですね。もう関わることは一切ないですね（キッパリ）。

——そ、そうですか。リングス時代は前田さんのもとにいたヴォルク・ハンとかは「自分は前田の兵隊だから、行けと言われたらいつでも行く」と言ってましたけど、いまはそういう関係なんですかね。

村上　そんな感じですね。当時は兵隊じゃなかったから行かなかっただけで、いまはボスだと思ってるんで。いや、自分にとっての前田さんは、ボスというかそういう関係を超えてますね。ボスであり、アニキでありっていう。そういう意味では猪木さんとはまた違ったリスペクトがありますし。ホントにアニキ分的存在というか、プロレスや総合格闘技とかを抜きにした部分のパイプだなって思ってるんで。前田さんには身体を心配してくれて「プロレスはやめろ」って言われるんですけどね（笑）。

——「俺が食わせてやれたらいいんだけど」みたいなことも言ってもらってるんですよね。

村上　そうなんですよ。その気持ちだけでも凄い感謝してますね。そういう意味では、いまのプロレス界って、そういった縦の関係が見えづらいというか、しっかりできていないのも問題だと思いますね。

——と言いますと？

村上　UFOの頃とかも盾のラインができていたので、猪木さんの言うことは絶対だったわけですよ。それで統制が取れてたと思うし、ボスと兵隊の関係がしっかりしてないと、それこそ対抗戦なんかは盛り上がらないと思うんで。

——なんで対抗しているのかが観ている側に伝わらないと意味がないですからね。村上さんと対抗戦と言えば、かつてのボスだった小川直也という存在は切り離せないと思うんですけど、小川さんに対してはいまはどう思ってます？

村上　ここ数年は連絡も取ってないですし、離れてからは『ハッスル』もＩＧＦも試合は観てないですけど、周りから話を聞くと「小川さんは昔みたいな暴走王って感じは全然しない」って、みんな言うんですよ。

——いずれ闘ってみたいという気持ちはそれほどないですか？

村上　暴走王になった小川直也と闘うんだったらいいですよ。それだったら、ケンカもできると思うんですけど、自分と闘うことによって、「あのヤロー！」って暴走王をチラつかせるぐらいだったら、闘いたいとは思わないですね。僕がうしろから見ていた暴走王・小川直也が「テメエ、コノヤロー！　このガキが」みたいな話だったらいいですけどね。

——小川さんはかつて前田さんともひと悶着ありましたし、そういう背後関係を考えても、村上さんとの接点は観たい気はしますけどね。


村上　「一寸先はハプニング」なんで、どうなるかはわかんないですけど、暴走王・小川直也だったら決着を付けてやろうっていう気はありますよ。そうじゃない小川直也と僕が闘う必要性はないと思いますね。それこそレジェンドじゃないですけど、夢物語で終わっていくんじゃないですかね。僕たちはレジェンドでした、みたいな（笑）。

——アハハハハ！

村上　まあ、そうならないように、なるべく早く復帰して、またプロレス界にケンカをふっかけていきたいですね。

——対抗戦男の村上さんの一日も早い復帰を願ってます！

【09年10月25日／都内・ディファ有明にて収録】



本誌大好評企画
『変態座談会』シリーズと
『1993年の女子プロレス』&
『萌え萌え女々苑』まさかの合体!!

奇跡の狂い咲きをいまこそ再検証

女子プロレス対抗戦
変態座談会

掟ポルシエ
&柳澤健
激語り!!

マット界に団体対抗戦は数あれど、全団体同時対抗戦という空前絶後の奇跡が実現したのが、90年代前半の女子プロレスだ。最後の狂い咲きともいうべき、あの女子プロ対抗戦ブームを『1993年の女子プロレス』の柳澤健さんと、『萌え萌え女々苑』の掟ポルシェさんを迎え、変態座談会形式で徹底的に語りまくります!

構成／堀江ガンツ　試合写真／平工幸雄

してないと対抗戦は盛り上がらない

隊じゃなかったから行かなかっただ

女子プロレス対抗戦 変態座談会

——今日は女子プロレスの対抗戦をおおいに語っていただきたいと思います！

捉 今日は本気ですよ！ 一張羅の紅夜叉&長嶋美智子Tシャツを着てきましたし！

柳澤 あ、凄い！ でも、僕なんかが語っていいんですか？ 皆さんが萌え萌えの話をしようとしてるのに、場違いで申し訳ないなって。

——すいません、今日は萌え萌えの話じゃありませんから（笑）。

捉 団体対抗戦っていうテーマじゃあ萌え要素を差し挟む場所がないですよ！

柳澤 でも、知識じゃお二人に太刀打ちできないし。

捉 いやいやいや、柳澤さんみたいな冷静に語れる人がいないと、ただの『デラプロ』の投稿欄みたいな気持ちの悪い思い入れ大会になるだけですから。あ、柳澤さんの「1993年の女子プロレス」のインタビューシリーズ、最高ですよ！

柳澤 おもしろいですか、あれ？

捉 もの凄くおもしろいですよ！ 送本されてくる『kamipro』で、真っ先にあのページを読んでます！

柳澤 ホントですか？ ありがとうございます。

捉 柳澤さんにしかできない取材だと思います！

——『萌え萌え女々苑』も捉さんにしか絶対にできないコーナーですけどね（笑）。

柳澤 できないですよね。僕のブル中野インタビューのあと、えっちゃん（三田英津子）が出てきて、ちょっとこの落差は何？ みたいな感じもあった。

捉 三田英津子、どうですか？ 好きなんですか？

柳澤 僕、えっちゃん好きなんですよ。一時期、「ああ、えっちゃん……」と思ってウルウルしてましたから。

捉 柳澤さんも充分萌え萌えじゃないですか（笑）。まあ、えっちゃんはリアルお嬢様で萌える要素満載ですからね。

——だから当時の全女は、ハイレベルな試合と、レスラーの狂気にちょっとだけ萌えが入って、それらが渾然一体となった異常空間を作り出してましたよね。

捉 そうですね、「いやらしい目でなんか見ていないんだ！ 俺は……たぶん」みたいな、その言い訳込みで楽しめますからね。

——ちなみにお二人は女子プロレスを本格的に観始めたのは対抗戦ぐらいですか？

捉 上京してからなんで、90年代頭のブル中野全盛時代ですね。当時、全女の中継が深夜に月イチでやってて、そのときに中野さんが金網のてっぺんから飛び降りたのを観て、もの凄い衝撃を受けて。「こんなとんでもないことが起きてるんだ！ これは会場に行って、いまこの目で見なきゃダメだ」ということで、そこから全女の会場に通いつめるようになったんです。

——一番おもしろい頃ですよね。

捉 先立つものがないから、サラ金でガンガンキャッシングして、いい席をバンバン買いましたね。最終的には借金200万ぐらいに膨れ上がりました。それ、女子プロでできた借金ですからね。

柳澤 でも、そこにちゃんとアンテナを張ってらっしゃって素晴らしいですよね。僕なんて対抗戦が始まってからですから、4・2横アリを観てないですもん。

——あ、あのあとからなんですか？

柳澤 そうそう。インタビューするときは、当時から観ていたかのように聞いてますけど（笑）、じつはビデオだとか当時の雑誌だとかを必死に見て勉強しているんです。残念ながらブル中野全盛期や、4・2横アリは見逃してるんですよね。

捉 当時は何を中心に観てらしたんですか？

柳澤 リングスです。ヴォルク・ハンが大好きで。

捉 やはり格闘技系を……。

柳澤 はい、『Number』最初の格闘技特集号（『格闘者たちよ！』）も僕が作りました。すいません。

捉 いやいやいや、べつに謝ることは（笑）。

柳澤 要するに、僕の中では93年っていうのは、女子プロレスとUFCの年なんですね。

——対抗戦で女子プロブームが起こり、アメリカではUFCがスタートしましたね。

柳澤 どっちも、大事件が起こってから遅ればせながら「これは大変なことになってる！」とあわてるんです。『UFC1』は見逃して、『UFC2』をあわてて観に行く。女子プロレスの凄さに気づいたのも、結局は4・2横アリのあとです。ロッシー小川さんに「『Number』で女子プロレスの特集をやりたいんですけど、どこから勉強したらいいですか？」って聞いたら、「じゃあ、まずこれを観ないと話にならない」って言われて横アリのビデオを観るところからスタートしてるんですよ。勉強はしても感度が鈍い。

捉 若干出遅れたという気持ちがあるんですね。

柳澤 ええ。「ブル中野が初めて金網をやった、大宮スケートセンターの空気を俺は吸ってた！」という捉さんのような体験が全然ない。だから、横アリにすら行ってない人間が、いっぱしの顔をして捉さんや堀江さんと話すという構図にはちょっと抵抗があるんです。

捉 でも、生で観てないのに、あれだけのインタビューができるのはさすがですよ。柳澤さんが井上京子さんのインタビューをされたときの、「中野さんは体重100キロ超えるためにステロイドを打った」って話がとくに衝撃的で。お客さんを寄せつけるためには、どうしても怪物的なルックスが必要だってことで、中野さんは意図的に身体を大きくしたんですよね。そういうことができる本物のプロ、お客さんを呼ぶためにはキ○○イ沙汰に手を出すことをいとわないブル中野にいまさらながらシビレました。この人を追いかけてきて間違ってなかった



吉祥寺のオシャレな喫茶店で、大の大人が3人集まって、女子プロレスについて熱く語り合う！ こんな熱が93年〜94年の対抗戦時代は充満していたのだ。

座談会出席者

柳澤健
文芸春秋『Number』誌で史上唯一の女子プロレス特集も手がける。本誌では、大好評インタビューシリーズ『1993年の女子プロレス』を連載中。

捉ポルシェ
本誌好評連載『萌え萌え女々苑』で、女子プロレスの萌えについて啓蒙し続ける、女子プロレスファン。好きなレスラーは幸薄そうな長嶋美智子。

［司会］堀江ガンツ
本誌変態座談会主宰者。PRIDEやUFCの取材にのめり込んでるフリして、じつはクラッシュ時代からの全日本女子プロレスをこよなく愛する変態。

全女の会場に通いつめて借金が200万円になりましたよ（掟）

なぁと。

柳澤　そうそう、ブル中野からキ○○イ沙汰が始まったんですよね。

掟　そうですよね、それまでのノーマルな宝塚世界が、ブルvsアジャの抗争で一変しちゃったんですよ。

――当時は女の子のファンの思い入れも凄かったですよね。ブルvsアジャで男のファンが大量に流入してきた時代でも、後楽園のバルコニーに「北斗晶がリングに命捧げるなら我ら北斗信者、北斗に命捧げます」みたいな横断幕がかかってましたからね。

掟　そのへんはたぶん北斗ファンだった白鳥智香子とかが出してるんじゃないですかね。

――あの横断幕は驚きました。

掟　女の子は「どの選手が好きなんだ?」っていうところから始まりますもんね。俺が最初に全女を観に後楽園ホールに行ったとき、どの試合も魅力的に見えて、いい試合をする選手全員に声援してたわけですよ。そしたら横にいた中学生の女の子に、「おめー誰のファンなんだよ!」ってボロクソに怒られて。

柳澤　怒られたの?

掟　はい（笑）。その子は堀田祐美子のコアなファンで、堀田さんの試合のときにコールを入れることに生きがいを感じてるんですよ。「H・O・TTA!　堀田祐美子!　祐美ちゃん祐美ちゃん祐美ちゃん祐美ちゃん頑張って!」って。それでフォールに入るんですけど、そこで跳ね返されたら「スリ～～だよ!」って言うのが当時の定番で。アイドルの親衛隊と同じですよね。コールのときの声の大きさで選手への忠誠心を測るというか。まだまだその時代は宝塚的な要素と混濁した時代っていうんですかね。

――「対抗戦」に無理やり結びつけると、当時は男のファンと女のファンで対抗戦みたいな雰囲気がありましたよね。

掟　ちょうど入れ替わりの時期ですからね。いわゆる宝塚的なファンが居心地が悪くなってきた時期。

柳澤　嫌だったでしょうね、女の子たちは。

掟　でしょうね、もう汚らわしいって感じだったんでしょうね。とくに俺みたいなDD（「誰でも大好き」という差別的なアイドル応援用語）は（笑）。

――その男女ファン混濁時代を経て、対抗戦時代に突入するわけですけど、掟さんは最初にブル&北斗が出たFMWの横浜スタジアムは行ってます?

掟　もちろん行きましたよ!

――ボクも行きましたけど、素晴らしかったですよね。

掟　ええ。「ブル中野と北斗晶の試合が観たければ全女の会場に来い!」って最後にマイクで言ったんですよね。完璧な横綱相撲で叩きのめして。

――あきらかにメインの大仁田を食ってましたもんね。

掟　あの日は中野さんの印象しかないですよ!

柳澤　13団体が参加した『夢の懸け橋』だって、全日本四天王が出てきたときが一番盛り上がりましたけど、試合自体は全女のプロレスがどう見ても一番でしたからね。女子プロレスはどこの興行に出ても、一番でした。

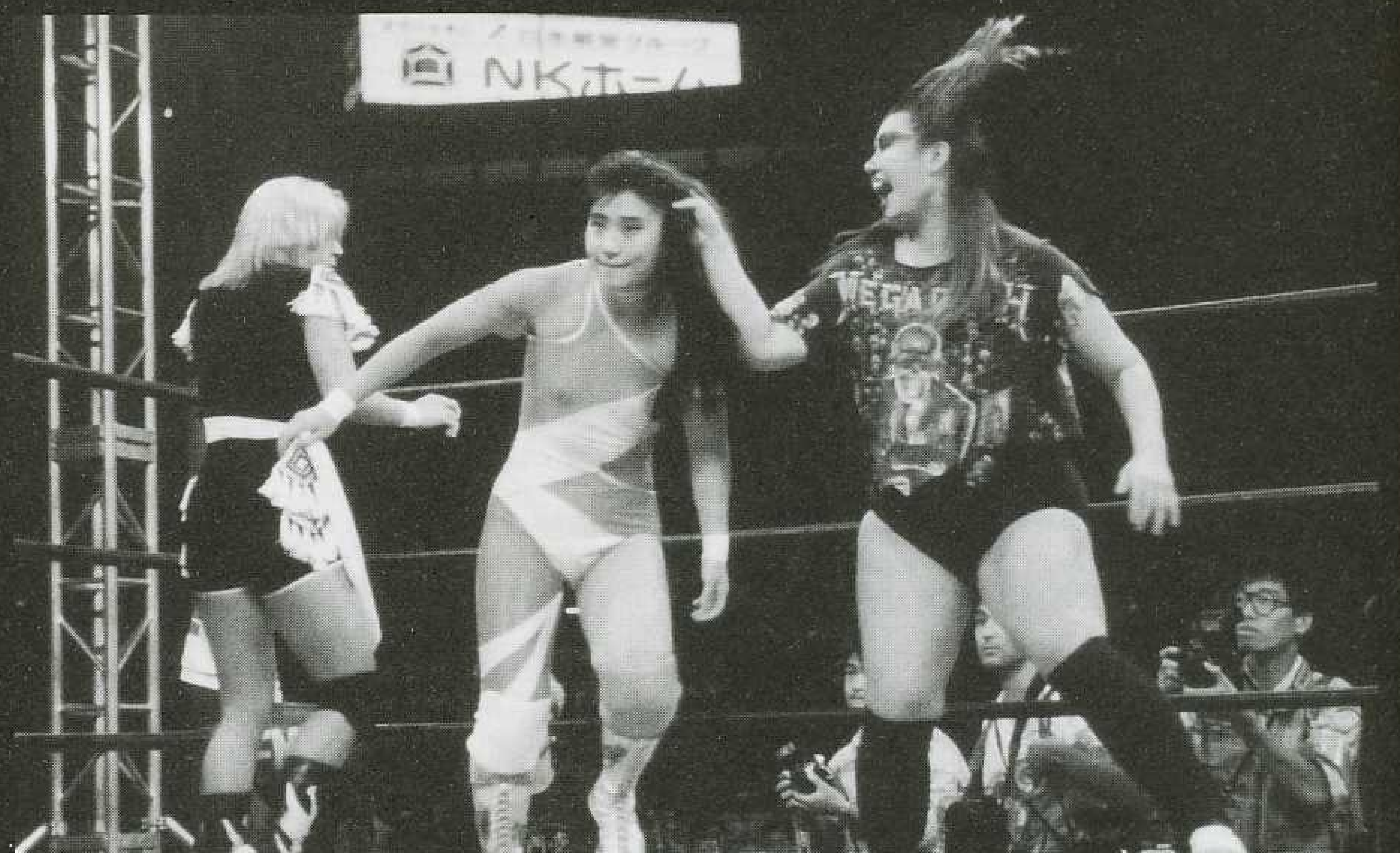
――試合も選手のクオリティも抜けてましたよね。全女のレスラー自身もそう思ってただろうし。

掟　う～ん、じつはそこが全女がつまらなくなった原因でもあると思うんですよ。「全女がイチバン!」という矜持を所属レスラーが持ちすぎたがゆえに、見た目のおどろおどろしさとかより試合内容だけで勝負するようになってきて、全女のもう一つの魅力であった〝いかがわしさ〟がなくなっちゃった。純粋なプロレスだけで勝負ができるという発想は、見せ物として危険だと思ったんですよ。プロレスはケレン味を捨てる方向に行くとだいたいダメになるから。で、そのいかがわしさをほかの団体が「味」として独占するようになったんじゃないかと。

柳澤　なるほど。それはあるかもしれない。

掟　だから、ちょうど「全女がイチバン!」って文句が出てきたぐらいの頃からLLPWのキャラクターレスラー化が始まってるんですよ。

柳澤　で、掟さんはそっちに行っち



対抗戦の幕開けとなったのは、じつはFMW。92年9月19日の横浜スタジアムにブル&北斗が参戦。圧倒的な存在感で、くどめ&コンバットに完勝し、全女を観たことがないプロレスファンの度肝を抜いた。


女子プロレス史上最高興行とも言われる、92年11月26日、川崎市体育館大会。豊田&山田がJWPのダイナマイト関西&尾崎魔弓を迎え撃ち、試合開始早々に豊田は強烈すぎるドロップキック。この一撃が対抗戦開戦の号砲となった。

対抗戦によって序列が再構築されることを北斗だけ理解してた（掟）

ゃうんだ（笑）。

掟　ええ。「これはひどい！　でもこのひどさはもともとすべて全女にあったもので、俺が愛していたのはこっちだ」という楽しみ方になって。全女時代は地味なコスチュームを着ていた長嶋美智子が、ＬＬで急にグレてヤンキーレスラー化したりして。いい大人がグレるってなんだよと（笑）。そういう無理矢理なキャラ設定大好きなんですよ。

柳澤　あと〝ジュリアナ〟キャラの穂積詩子がいたじゃない？　じつは穂積詩子の息子ってウチの息子の同級生なんですよ。

掟　えーっ！　そうなんですか？

柳澤　だから、息子が小学生の頃には、よく穂積詩子にも会ってたんですよ。で、旦那様は維新力さんでしょ？　維新力さんにもウチの息子が相撲大会でお世話になったりとか。ちなみに、維新力さんの二人の息子がね、イシンとリキっていうんですよ。字は違うんですけど。

——二人合わせて維新力！（笑）。

柳澤　それで二人ともプロレス大好きで。詩子さんが「プロレスなんてね、あんたね、××なのよ」とか息子に言うと、「じゃあ、なんであんたはやってたんだよ！」って言われて、一言も返せなかったって（笑）。

掟　「やらなきゃいいじゃねえかよ！」みたいな。親父なんかいまだにやってんじゃねえかよって（笑）。

——ちょっと話を戻しますけど、対抗戦本格スタートとなった92年の川崎市体育館は行きました？

掟　もちろん行きましたよ！

柳澤　うらやましいなあ。歴史の証人ですね。

——あの日は大興奮でしたよね。全女の対抗戦といえば、4・2横浜アリーナが日付変わるほど長かったことで有名ですけど、あのときの川崎もじつは11時すぎまでやってたんですよ。

柳澤　川崎で11時すぎは厳しいですねえ。

——しかも会場が駅から遠いんですよ！　この興行の長さも含めて全女イズムが爆発してましたね。

掟　この川崎では、中野さんが2年越しの抗争の末に赤いベルトをアジャ様に獲られるんですけど、試合後の中野さんのマイクでガッカリしましたね。

柳澤　あ、そうなんだ。

掟　チャンピオンになった相手に対して、「こいつは昔よ、リングの周りでチョロチョロしててよ、それがこんなになったんだぜ」みたいな。負けたのになんで相手を格下に見てるようなことをわざわざ言うのかって。いままでの凄い試合を台なしにしちゃうようなマイクはどうなんだと。そしたら、それに対してアジャ様が涙声で「中野さん……自分がここまで来れたのは中野さんのおかげです、ありがとうございます」みたいな。ごく普通の女の子が抱く感傷なんですよ。3カウント入った瞬間に中野さんがアジャ様を下からそっと抱きしめたのも含めて、この試合で全女の超人思想のすべてをぶち壊したなと思って。そこでこの二人の抗争劇が完全に終わったことによって、団体対抗戦の山田&豊田vs関西&尾崎戦のほうが印象に残ることになっちゃったわけですよね。

柳澤　なるほど！　そうだったんですね。

掟　ここで中野さんがヒールなのに赤いベルトを獲って、女子プロレスの歴史を変えるっていうストーリーが終わったんですよ。

柳澤　勉強になるなあ。参考にさせていただきます。

——だから、女子プロレス史上最も凄まじい闘いだったはずのブルvsアジャの決着戦より、豊田の一発目のドロップキックのほうがインパクトありましたもんね。

掟　そうですね、あのドロップキック一発で完全に目の焦点が合わなくなる尾崎魔弓っていうのが。

柳澤　豊田は尾崎から「おまえ、マジでやっただろ」ってあとで何度も言われたって言ってましたよ。でもさっきの「全女がイチバン！」っていうことで言えば、このあたりこそが「全女が一番であることを示さねばならない」っていう強い決意みたいなのが、あったことは間違いないですね。

——実際、規模から選手層から、ズバ抜けてはいたんですけどね。

掟　でも、よくホントに女子プロ全団体オールスター戦なんてやりましたよね。

柳澤　ロッシー小川さんいわく、「女子には全女という大きなものがドカンとあったからだ」と。「男子みたいに新日本、全日本と大きなところが二つあると、どちらも立てようとするから実現できない」って。

掟　確かに、ほかの団体を取り込めるだけの力はありましたよね。ＬＬＰＷとの対抗戦なんか、団体同士の力の差を嫌というほど見せつけてましたし。

柳澤　駒沢でＬＬＰＷが主催してやった全女との全面対抗戦なんて、ひどかったよね。

掟　ＬＬＰＷはほとんどの選手が1～2分で負けるんですよね。一番ひどかったのが、豊田真奈美とキャロル美鳥の試合！

柳澤　ローリングクレイドルだけで終わった試合ね（笑）。それは会場で観ました。

掟　ロックアップしてローリングクレイドルやって、それで3カウントなんですよ。

柳澤　50回転ぐらいしたんだよね。

——ファンが途中から、ジャイアントスイングみたいに回転数を数え始めたんですよね。

柳澤　そうそうそう。

掟　終わったあとのキャロル美鳥のコメントがいいんですよ。「いやあ、グルグル回ってるうちにわけわかんなくなっちゃって」って。確かにわけわかんなくなるだろうけど、それでフォールされることはないだろ！って（笑）。

柳澤　でもね、力の差がある相手でもいい試合をやらせてあげるというのがプロレスの基本ですけど、あれほどまでに差が開いてたら、極端なワンサイドゲームにしないと、観客を納得させられないって思いましたけどね。たとえば後楽園でやった北斗と紅夜叉の試合って大好きなんですけど、あれも紅夜叉が奇襲を仕掛けるんだけど、北斗は微動だにせず、ノーザンライトボム一発で終わりだったじゃないですか。

——あれは見事なプロレスでしたよね。

柳澤　それで完勝した北斗の「おい、バリバリ姉ちゃん！　挨拶が遅れたな。ア・タ・シ・が、北斗晶だ！」って、あの有名なマイクがあるわけでしょ。あれは非常に僕は納得したんですよね。

——作品として完成してるんですよね。

柳澤　そう、パッケージとしてね。

掟　北斗晶はマイクで試合を作る人ですよね。

柳澤　そうそうそう。

掟　試合後の勝利者インタビューで、紅夜叉戦のあとに「あの子、私とやるのは怖かっただろう」みたいなことまで言ってるんですよね。相手がこういう立場なんだっていうことを北斗さんが全部一方的に言葉で説明しちゃうんですよ。そこが北斗さんのプロレスの特徴的なところであり、頭がいいところで。

柳澤　あの説明能力の高さっていうのが、要するに頭でっかちな男子プロレスファン、『週刊プロレス』を毎週毎週見ていたヤツらにドカーン

変態座談会

4・2横アリを体験した人が心からうらやましいですよ（柳澤）

女子プロレス対抗戦

とインパクトを与えましたよね。

掟　あの当時って、ちょうど男子プロレスのファンが入ってきたばかりだから、彼らは女子プロに対してまったく測定値を持ってなかったわけですよね。

柳澤　まったくそのとおりです。

掟　そのときに北斗さんが測定値を1から自分でつけて説明したわけですよ。「こういう序列になってますよ」というのを男のファンは更地の状態で聞いてるから、北斗さんのマイクを信用するしかないんですよね。

柳澤　確かに、それはありますね。

掟　だって神取戦までの北斗晶の立場って、全女の序列の中じゃそんなに上じゃなかったんですよ。ルーダ（ヒール）になってからまだ1年ぐらいしか経ってなくて、そんなに強い選手や怖い選手だっていう認識もないし。

――後輩の豊田が台頭してきたことによって、窓際的ですらありましたよね。

掟　対抗戦によって、序列がもう一度再構築されることを最初から気づいてたんだと思いますよ。だからこそ「全女代表」みたいな顔して、神取を標的に定めたんだろうし。

柳澤　あの対戦のきっかけとなる「おい、神取！」っていうマイクの声って、恐ろしく大きかったですよね。素晴らしい。天才ですね。

掟　そこからの一連の発言が凄いんですよ。「神取、おまえにはプロレスの心がない」「柔道かぶれに負けるわけにいかない」。そのマイクによって、自分がプロレス側でプロレスを守る者であり、相手が外敵であるっていう、対抗戦というものをすべて説明するのと同時に、女子プロ知識のないプロレスファンを自分の味方につけてしまった。さらに、この試合が異種格闘技戦のような殺伐さを持ってるということも、マイクですべて言い表わすことに成功してるんですよ。

柳澤　プロレスvs柔道っていう図式にしちゃったんだよね、マイクによって。

掟　ホントはプロレスラー同士なのに、発言一つで他流試合に変えちゃったんですよ。凄いと思います。

――単なる対抗戦を〝高田vs北尾戦状態〟にさせちゃったわけですね。

柳澤　そうそう！　まさにあの図式ですよね。

掟　当日のテレビ解説もひどかったですよ。コーナーからのダイビングボディプレスを受けた神取に対して「神取さんはこういう攻撃を受けたことはないんじゃないですか？」とか言って。あるに決まってんだろ！　何年プロレスやってると思ってんだよ！（笑）。

――神取忍は不器用だけど、じつはプロレスうまいですよね。よく見るとプロレスを愛してることが凄くわかるし。

掟　そうなんですよ。ただ、神取さんの魅力であり、特徴である部分は、やっぱり技の一つ一つが雑なところですよね。そして雑なプロレスってじつは説得力があるんですよ。

柳澤　新日本的な感じですよね。ハンセンとかブロディと同じで。

掟　ちょっと事故が起こりそうな要素を一つ一つの技がはらんでる。で、神取戦で北斗さんは腕が抜けて、途中で戦闘不能になりますよね。そしてリング下でアイシングするんですけど、その状態がやたら長い。あれがどこまで本当なのかがわからないのがまた魅力でもあるんですけど。

柳澤　井上京子選手に言わせると「あれほど死んだふりのうまい人はいない」ってことですから、たぶん演出なんでしょうね。

掟　だとは思うんですよ。関節が外れて抜けた腕が痙攣するっていう。ファンタジーですよね（笑）。でも当時、一緒に観に行った20歳ぐらいの大学の後輩は、「初めてシュートマッチを観た」って言ってましたから。

――そう思わせるぐらいの迫力とリアリティがありましたよね。北斗が流血した血の量もハンパじゃなかったし。

掟　だから「ここまでしないといけないのかという怖さから試合後泣いた」って北斗さんが言ってましたよね。それがどれを指して言ってるのかわからないけど、打撃の当たってる音とか聞くと、とんでもなく恐怖感の伝わるプロレスでしたよね。

――最後のクロスカウンターなんて、ホントにガツン！って音が聞こえましたからね。

掟　あれを観たら、男のファンも納得するっていうか、脱帽するしかないでしょう。

――で、その北斗vs神取戦ってセミファイナルだったんですけど、それが終わった時点で、まだメインを残してるのに0時近かったんですよね（笑）。

掟　メインの豊田&山田vsくどめ&コンバットが終わったの0時13分ですから。

――最後まで観ていたら、絶対に帰れないという、もの凄いイベントですよね（笑）。

柳澤　でもね、それを体験できたことが素晴らしいですよ。「横浜アリーナから綱島街道を通って都内まで朝まで歩いて帰った人がいた」っていう『週プロ』の記事を読んだとき、「ああ、こいつらがホントにうらやましい！」ってしみじみ思ったの。その一文を読んだ瞬間に「『Number』で女子プロレス特集やらなきゃ！」って思ったと言ってもいい。僕も夜明けの二子橋を歩いて渡ってみたかった、と（笑）。

掟　あのときは、歩いていくよりほかになかったんですよ。近所の居酒屋が全部埋まってて。

――あの当時、新横浜って居酒屋が少なかったんですよね。だから居酒屋に入れなかった人は、行く場所がなくなって当時新横浜にあったSWS道場の周りに、なぜかゾロゾロ集まったりしてたんですよ（笑）。

掟　「近いから行こうぜ」みたいな？

――そうです。プロレスファンが知ってる新横浜のスポットってSWS道場しかないから、なぜかそこに集まって夜通し女子プロレスを熱く語り合ってたんですよ。4月2日だから、まだ夜は凄く寒くて。

柳澤　そういう記憶っていいなあ。僕は『週プロ』の記事を読んで、プロレスファンが「神取と北斗の試合、凄かったよな」とか言いながら夜明けの二子橋を、渡っていくっていう風景が、もうまざまざと浮かんでいるわけです。夜明けの二子橋をゾロゾロと歩く冴えない男たちの群れ。あれが僕の女子プロレスの原点ですよ。

掟　『週刊プロレス』が試合の記憶も、史実さえも作ってた時代のプロレスですよね。

――でも、『週刊ゴング』を見たら「三者三様」で、興行が0時越えたことの文句ばっかり書いてあって、腹立ちましたね。「なんもわかってない、このジジイたち！」って（笑）。

掟　あれがいかに楽しかったか！　その楽しさを、柳澤さんは行ってないのにちゃんと感じてたんだから。

柳澤　そこがね、『週プロ』と『ゴング』の違うところですよね。

掟　あの横アリ以来、対抗戦と名のつくものはほぼ観倒しましたね。

――横アリの数日後に大阪府立でオールスター戦第2弾があって、ボクは深夜バスでそれも行っちゃいましたね（笑）。

柳澤　それも凄いなあ。俺はその年の夏の武道館と、暮れの両国はどっ

女子プロレス対抗戦 変態座談会

結局は4・2横アリがすべてであり、それ以降は余波だった（柳澤）

ちも行ったんだけどね。

捉　両国は北斗vs神取の再戦ですよね。北斗さんが「負けたら引退」を宣言して。

柳澤　それで北斗が負けて「私の心は変わらない」とか言ったんだよね。あの頃の僕なんか、とっくにすれっからしのプロレスファンなんだけど、北斗に「（負けたら引退すると言った）私の、心は、変わらない！」って言われると絶叫しちゃうわけですよ。「北斗ぉーーーっ！辞めないでくれーーーっ！」みたいな（笑）。バカですよね。最初から決まってるのはわかってるのに。頭の中がもう『週プロ』読者だから、（ターザン）山本さんの言語空間と、北斗の言語空間の両方にバーチャルにやられちゃってて、完全に頭がおかしくなってる。ドラマの前に理性が吹っ飛んで、ヤバいですよね。

――女子プロも、そして『週プロ』もあの頃がピークでしょうからね。たぶん女子の対抗戦で、この両国が一番ギッチギチに入ったと思うんですよ。

捉　俺、両国の2階最後列で観てましたもん。

――ボクなんかチケット買えなくて、当日立ち見券を買ったんですけど、両国は立ち見スペースがないんですよ。だから通路で座って観てくれっていう、無理矢理な全女方式で観ましたからね（笑）。

捉　本来ない席をひねり出すっていう（笑）。

――全女に消防法は通じませんからね（笑）。

捉　あの試合でも、北斗のマイクの力が発揮されてましたよね。北斗さんが本当に引退するのかってことにみんなの目がいっちゃって、神取さんが勝ったことがあまり記憶に残ってない。

柳澤　ないです。北斗晶にしか目がいかない。

捉　神取さんが勝って、風間さんが凄く無邪気に喜んでたり、いいシーンはあったんですよ。観客は「北斗どうすんだろう？『負けたら引退』って宣言した試合で普通負けないもんじゃないの？」っていうのを感じながら観てるのに。のちに橋本真也の「負けたら即引退スペシャル」っていう特番がありましたけど、あの原点はじつはここにあるんじゃないですかね。

柳澤　それはあるかもしれないですね。

――結局、北斗は翌年引退するってことで、カウントダウンみたいな感じになったんですよね？



北斗晶引退の舞台でもあった94年11月20日の東京ドーム。『V☆TOP WOMAN日本選手権トーナメント』で北斗は決勝でアジャを破り優勝するが、女子プロ対抗戦ブームの終焉でもあった。

柳澤　そう。94年はたしか3試合（大会）限定出場になって。

捉　その第一弾として、3月の横アリで北斗と神取が組むことになって、それがまた一大事件で。

柳澤　ただ、94年になると対抗戦に振れすぎた流れを引き戻そうとして、夏の武道館とかでは豊田vs京子みたいなものを見せて、ちゃんと全女の凄さを見せてたんだけど、時代的にはまだ対抗戦だったよね。

――「対抗戦がおもしろいらしいよ」って来た客が多かったでしょうからね。

柳澤　うん、94年ではたぶんそういう段階で。だからこそ、東京ドームでできたんだろうし。

捉　ドームでは松永会長がオープニング挨拶で感きわまって声ひっくり返っちゃってましたから（笑）。

柳澤　でも、なんであんなに闇雲にドームを目指したんですかね。対抗戦時代って、3カ月に一回ぐらい横アリとか武道館をやってたでしょ？　あんなに大会場連発しなければ、もうちょっとブームも引っぱれたのに。

捉　まあ、取れるときに取れるだけ取れっていうのが全女ですからね。

――ビューティ・ペアやクラッシュギャルズのときも一緒ですよね。

柳澤　そうか。イケるときにいかないと、逃しちゃうっていうのがあるのか。

捉　雑なうえにイケイケドンドンですからね。ただ、ドームをやった頃は、もうある程度測定値ができちゃったんで、ファンがちょっと飽きてるところがありましたよね。それが満杯にならなかった原因でもあるんでしょうけど。

――そしてドームをピークに、翌年からは落ちていく一方ですよね。

捉　観客動員だけじゃなくて、このぐらいから全女は株式投機で失敗して、だんだん首が回らなくなってくるんですよ。

――そしてドームからたった3年で全女は倒産状態になるんだから、最後の狂い咲きだったんですよね。

捉　やっぱり全団体対抗戦というのは、禁断の果実だったんだと思いますよ。徳光康之さんの漫画『最狂超プロレスファン烈伝』の最終話が全団体対抗戦の話なんですけど。全団体対抗戦の前に世界最終戦争が始まって、日本がメチャクチャになりながらもプロレスファンは試合のあるはずのないドームに集まるって話で美しくて。でもそれってね、測定値を与えることは現実でもマンガでもめったに書いちゃいけないってことなのかもなぁと。

柳澤　だからね、結局4月2日の横アリがすべてだったんだと思いますよ。横アリこそが、ありえないこと、あっちゃいけない全団体対抗戦ですからね。だから、あれを体験した人たちが凄くうらやましいわけ。あれを観ている人と観てない人では、こ～んなに差があって。横アリ以降っていうのは、すべて〝余波〟でしかなかったんですよ。

捉　確かに。対抗戦以降、全女はどんどんケレン味がなくなっておもしろくなくなったと思ってるんですけど、かといってケレン味で勝負するLLPWさえあればいいかというと、何かが足りない。やっぱり、一つの団体の中にすべてのイデオロギーがあってこそ、かつての全女のようなリング上でのケンカがあったと思うんですよ。団体対抗戦がなぜ悪かったかといえば、ぶつかってしかるべき正統派と邪道が棲み分けちゃったってことなんじゃないかな。

柳澤　ホントによく考えてらっしゃいますね。

捉　いやいや、全然ですよ！（笑）。

柳澤　今日はホントに勉強になりました。「1993年の女子プロレス」も頑張ります！

【09年11月26日／都内・吉祥寺のオシャレな喫茶店にて収録】



イラスト◎ゴローちゃん

クリスマスイヴには家族サービスを取るか、新木場にターザン後藤を観に行くべきかで迷っている忘八者・掟ポルシェの『萌え萌え女々苑』。今回のゲストはジュエルスを主戦場に闘う総合格闘家・富田里奈選手！　なんと『kamipro』愛読者という奇特な富田さんの男の趣味は……!?

掟　今号が発売される頃には試合は終わってますけど、大会前日に取材させてもらって申し訳ないです！

富田　いや、大丈夫です。このコーナーに載せてもらえるのが嬉しかったんで。

掟　女子選手では珍しく、『kamipro』を4年以上買い続けてるみたいで。何を目当てに買ってるんですか？

富田　ほかの格闘技雑誌とは違って、ちょっとふざけた感じというか（笑）。

掟　編集者全員、冬でもヨレヨレのTシャツ着て半ズボン穿いて作ってますからね。ちょっと頭が足りない感じで。

富田　そういうところがけっこう好きだったりするので（笑）。

掟　『裏モノJAPAN』と同じく買い続けていると。

富田　そうです（笑）。

掟　女子として心配なほうにだけ一極集中型で尖ってますよね。子どもの頃どういう子だったのか気になりますけど、4歳のときに天皇陛下の前で踊りを披露したことがあるとか？

富田　あんまり覚えてないんですけど、その頃、体操教室に入ってて、マット運動から陸上、水泳、スキーとかも全部やるヤツに入ってたんですよ。たぶんそのときに体操か踊りかなんかを札幌の真駒内アイスアリーナでやるってことで、そのときに天皇陛下が来ていたんです。しかも、「私、天皇陛下の前で踊るんだ」みたいなことを凄い自慢してたみたいで。

掟　比べるのもなんですけど、芸能人に会うよりはるかに自慢できますよ！　富田さんは女子格闘家には珍しくサブカル好きみたいで。しかもかなりのラジオッ子で、ハガキ職人になりたかったとか。

富田　いまもなりたいですけど（笑）。

掟　なろうと思えばなれますよ（笑）。ハガキ書きゃいいんだから！

富田　そうなんですけど、でも、あの人たちって凄いじゃないですか。敵わないです。だから、ハガキ職人の人とかに恋しちゃいそうになったりとかして（笑）。

掟　「こんなにおもしろいことが書けるアナタって素敵！」みたいな？（笑）。

富田　そうなんです（笑）。顔とかも重要ですけど、お笑いとかの話が合う人に惹かれちゃうんですよ。あと、話がうまいとか文才がある人に惹かれる傾向があって。ハガキ職人でホントにうまい人とかにけっこうキュンとなっちゃって、「どんな人なんだろう？」みたいな（笑）。

掟　男選びのポイントがあきらかに異常です（笑）。いままでの彼氏も、ギャグセンス重視で付き合ったんですか？

富田　いままで付き合った人は、3人中3人が伊集院光とか爆笑問題のラジオとかを聴いてる人で（笑）。そのラジオの話が始まった瞬間にすっごい好きになっちゃうっていうか（笑）。



とみた・りな■1984年7月13日、北海道札幌市出身。学生時代はバスケットボールに打ち込み、上京してから周囲のアドバイスにより総合格闘技を始める。トイカツ道場を経て、現在は藤井惠率いるAACC所属。09年2月のジュエルス新宿大会のHARUMI戦でプロデビュー（腕十字で一本勝ち）後はジュエルスを主戦場に活躍中。得意技は三角絞め。166cm、54kg。サブカル好き&主食は納豆という富田の日常はこちらをチェック→http://blog.livedoor.jp/r713t/

掟　アハハハハハ！　「伊集院が好きなアナタのことが好き！」（笑）。

富田　そうなんですよ。女の子としてはあんまり最初に言いたくないじゃないですか？　「私、ラジオが好きでよく聴いてるんだ」みたいな。

掟　そこは非モテ要素だから隠したいですよね。

富田　そうなんですけど、ちょっと仲良くなって電話とかしてるうちに「夜はどんなテレビ観てんの？」とか言われて「あんまり言いたくないけど、伊集院光のラジオを聴くのが楽しいんだよね」とか言うと「あ、俺も聴いてるよ」「えっ、あのコーナー知ってる？」みたいな感じになって、そっから急接近で（笑）。いままでそれで3回付き合ってきました（笑）。

掟　いままでの恋愛がすべて伊集院つながり（笑）。

富田　でもテレビの伊集院さんは〝白伊集院〟って言われてるじゃないですか。だから「つまんない」とか言う人もいるんですけど、それは〝黒伊集院〟を知らないだけで。〝黒伊集院〟を知ってる人じゃないとあまり仲良くなれないです。

掟　男に対してのハードルは低いけど、伊集院についてのハードルは高いと（笑）。見た目も伊集院みたいな人がタイプなんですか？

富田　好きになっちゃったらいいんですけど、でも顔は松山ケンイチとか。

掟　そこは意外にオーソドックスですね。あ、でも「外見は松山ケンイチで中身は伊集院のハガキ職人が好き」っていうのはよけいにこじれてますかね（笑）。

富田　だったら最高なんですけど。あとは、山田五郎さんとか、みうらじゅんさんも好きで。そういう自分の知らないことをいっぱい知ってる人で、あんまり自慢げに言わない人が好きです。

掟　あ〜、自慢話は嫌ですもんね。

富田　はい。「そんなのはとっくに知ってるよ」みたいなのは嫌ですね。

掟　「コイツ、自分より薄い！」ということで冷めるのはヲタである証拠です！　今年2月のプロデビュー後は仕事を辞めたこともあって、食事はほぼ毎日納豆ごはんだとか。栄養足りてます？

富田　大丈夫です！　ブログを読んでくれた人からお米が贈られてきたりするんで（笑）。

掟　ファンからの贈り物がコメ！　実用的！　この際、気を利かせてセットでおかずも贈ってほしいですよね。

富田　そうですね。ホントのことを言うとプロテインとかサプリとかくれたらいいなぁとか思うんですけど（笑）。

掟　書いておきます（笑）。ちなみに、いまお財布の中身はいくらぐらい？

富田　えっ、（財布を確認して）いまは700円ぐらいです！（笑）。これであと3日はなんとかしないと。

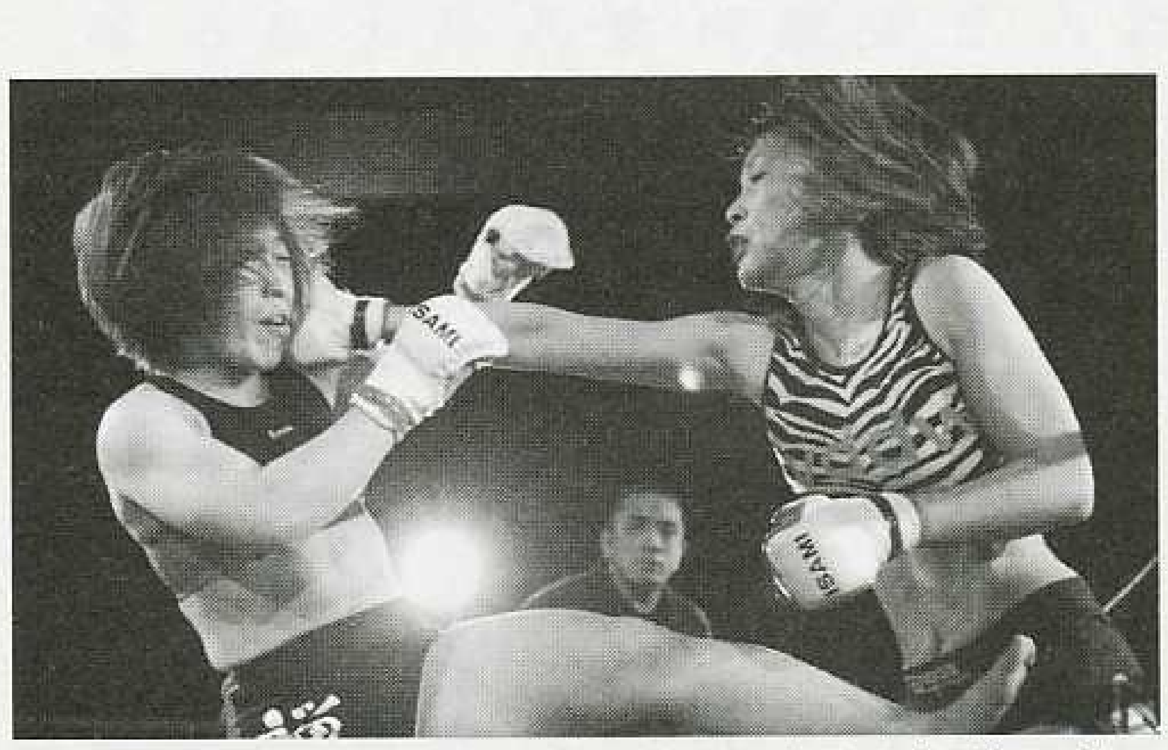
掟　皆さん、富田さんが所属するAACCまでいろいろ贈ってあげてください！

富田　とりあえず、会場とかで声をかけてくれる際には、何かお土産をいただければ、顔も覚えるし（笑）。

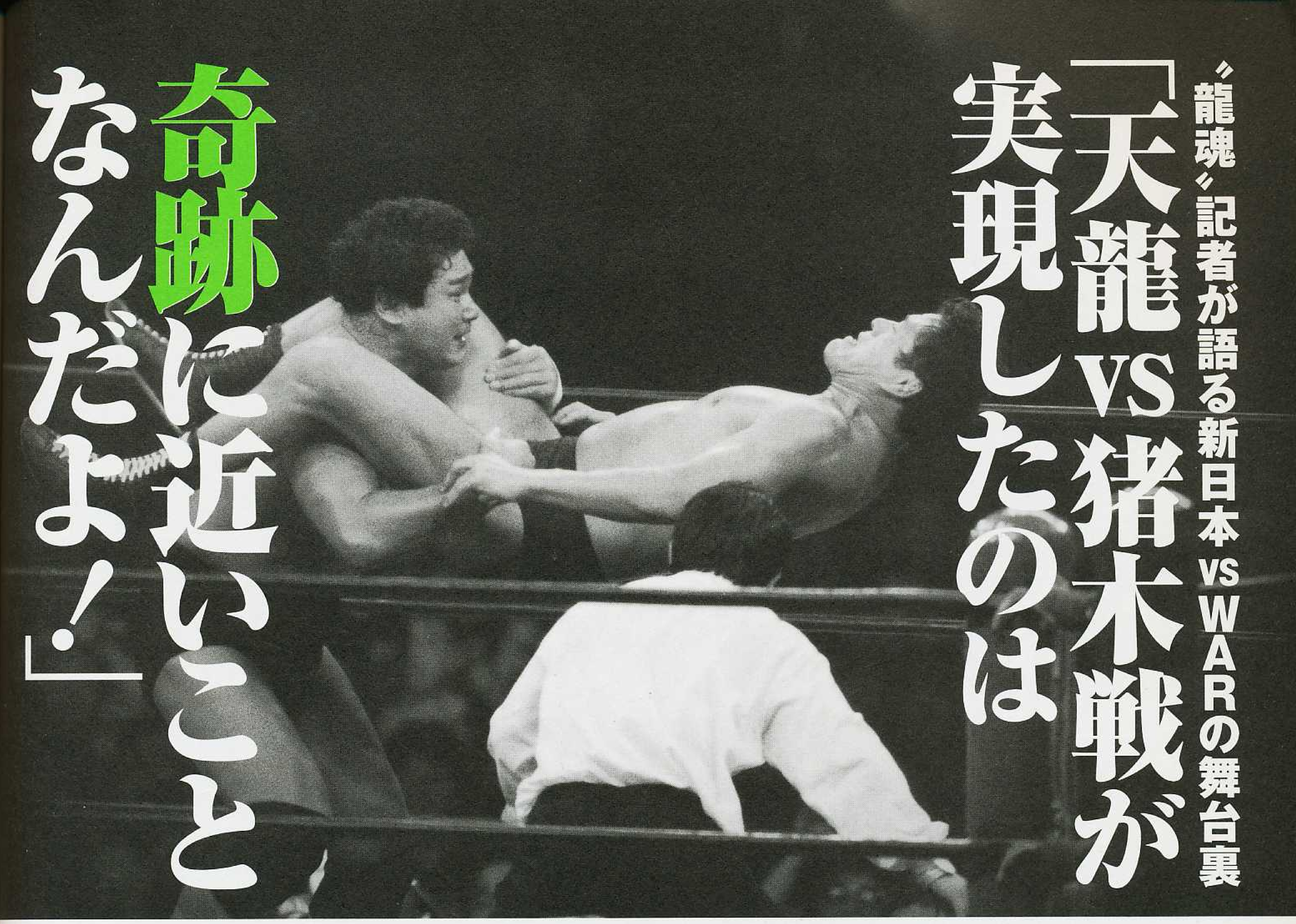
掟　モノをくれた人限定で、いいリアクションを返してあげると（笑）。どうします、結婚指輪をいきなり出されたら？

富田　結婚指輪はちょっと……、検討します！（笑）。

掟　皆さん、頑張ってくださ〜い！


取材翌日のジュエルス新宿大会では約4年半ぶりに復活した女子格のレジェンドファイター金子真理と闘った富田。試合はグラウンドで攻め込まれた富田の判定負け。3連敗で傷心中の富田にAACC宛に差し入れを!(送り先は各自調査)

Okite Porsche◎掟ポルシェ■田代まさしとの前科あり・なしテクノユニット『マーシー☆ポルシェ』が、12・31（木）沖縄・桜坂セントラル（098-861-8505）でカウントダウンライブ開催！　その後、田代さんなしの本業バンド『ロマンポルシェ。』で北海道ツアー!!　1・16（土）札幌・HALL SPIRITUAL LOUNGE（011-221-9199）、1・17（日）旭川・カジノドライブ（0166-26-6022）。詳細は電話か、掟ポルシェブログを死ぬ気でチェック！【http://blog.excite.co.jp/porsche/】



〝龍魂〟記者が語る新日本vsWARの舞台裏

「天龍vs猪木戦が実現したのは奇跡に近いことなんだよ！」

熱血プロレスティーチャー 小佐野景浩



90年代前半のプロレスを語るうえでは欠かせない、新日本とWARによる対抗戦。"天龍一家"を飲み込まんとする大帝国新日本と、それに立ち向かっていくWARの仁義なき抗争はマット界をおおいに盛り上げた。この平成新日本隆盛の礎ともなった対抗戦を、業界随一の"天龍番"が振り返る!

聞き手／鈴木佑　試合写真／平工幸雄

SWSの分裂騒動を経て、平成4年に天龍源一郎が旗揚げしたWAR。WRESTLE AND ROMANCEの略称と同時にWE ARE REVOLUTION（俺たちはレボリューション）の意も汲む団体は、まさにマット界に革命を起こそうと、越中率いる反選手会同盟との抗争をきっかけに新日本との全面対抗戦に突入。

その中では天龍vs長州をはじめ、天龍vs猪木、ザ・グレート・カブキvsザ・グレート・ムタやウルティモ・ドラゴンvs獣神サンダー・ライガーなど、数々のビッグカードが実現した。

92年9月15日の開戦から94年2月17日の天龍vs橋本戦まで、約1年半にわたって繰り広げられた対抗戦の知られざる裏側、そして観る者を熱狂の渦に巻き込んだその理由を徹底検証！

——小佐野さん、今号は「対抗戦」がテーマなんですよ。で、90年代前半のマット界を盛り上げた対抗戦といえば……。

小佐野　（さえぎるように）新日本プロレスvsWAR！　でしょ？

——ご名答です（笑）。ぜひ小佐野さんに〝龍魂〟記者として、当時のことについて語っていただきたいな、と。

小佐野　あの対抗戦は熱かったからね～（シミジミと）。当時、僕は『週刊ゴング』（以下、『週ゴン』）のWAR担当だったのね。で、まだ副編集長でポジション的にも動きやすかったから、こっちからもいろいろと仕掛けていって。

——そもそも、あの対抗戦の発端は『週ゴン』の記事がきっかけなんですよね？

小佐野　そうだね。まずさかのぼると、92年の5月にSWSの分裂騒動が起きて、天龍派と反天龍派に分かれた。で、経営母体のメガネスーパーとしては、プロレスをほっぽり出したってイメージがつくのも企業的にマイナスだから、「1年間は資金援助するから別々にやりなさい」というスタンスをとって。それでSWSの最後のシリーズが始まる前に天龍さんにインタビューしたんだけど、そのときに「もう新団体の旗揚げも決まってる。しがらみも何もないから引退試合をするなら長州とやりたい」って言ったわけ。

——そこで長州さんの名前を出したことから新日本との対抗戦につながった、と。あのときは水面下ではどんな動きがあったんですか？

小佐野　いや、インタビューの時点では対抗戦に向けてというような動きは全然なかったんだよ。だってそのときは団体すらできてないわけだから、具体的に動きようがないっていうか。で、その号が出たタイミングで金沢（克彦）くんに長州さんを取材してもらったの。そしたら長州さんも「俺個人の闘いの中に天龍は入ってる」と。そこで流れができたんだよね。

——なるほど。

小佐野　でも、その前にも91年の第1回G1クライマックスで長州さんが途中欠場して入院したときに、天龍さんと一緒にお見舞いに行ったことがあったんだよね。本当はそのときに、僕は新日本vsSWSというラインを作りたかったわけ。

——あ、WARの前に？

きは越中詩郎率いる反選手会同盟

「明日から新日本の巡業に殴り込

に関したゴタゴタ続きで、「プロレ

ブアップしそうになると場内から

折原vs彰俊戦で、興奮したファンが彰俊に殴りかかったこともあったね

——あ、WARの前に？

小佐野　うん。だけど、そのときは新日本のSWSに対するアレルギーが凄くて。やっぱり引き抜き騒動とかでわだかまりもあったし。それで「これは厳しいな」と思ってスーッと手を引いたんだけど（笑）。

——プッシュしようがない、と（笑）。

小佐野　でも、WARのときは天龍さんの発言にすぐ長州さんも呼応してね。それは長州さんも現場監督だからビジネスとして意識したんだろうし、あとはいちレスラーとして単純にやってみたいって気持ちもあったんでしょう。ほら、90年の2月10日に東京ドームで新日本vs全日本として、長州力&ジョージ高野vs天龍源一郎&タイガーマスクってやったじゃない？

——あのときは試合としてスウィングしなかったんですよね。

小佐野　そうそう。天龍さんには「いい試合をしよう」って気持ちがあったのに、新日本側は自分たちのことしか考えてない試合運びだった。あのときの天龍さんの結論は、「二度と長州とやることはない」っていうものだったしね。

——じゃあ、新日本vsWARはそのときの仕切り直しみたいな意味合いもあったんですかね？

小佐野　それはあったと思うよ。で、対抗戦の一発目が92年9月15日のWARの横浜アリーナ大会。そのときは越中詩郎率いる反選手会同盟が乗り込んだんだけど、その前に天龍さんと坂口征二さんが話し合いの場を持ったんだよ。そのときにあの温厚な坂口さんが、「ウチにWARの力は必要ないです。でも今回は行きがかり上、越中たちをそっちに出しましょう」って言ってね。

——かなり上から目線ですね～。

小佐野　もう、当時の新日本はことごとく高飛車だったから、天龍さんも怒ってたよ（笑）。まぁ、坂口さんにしてみれば「まだできたばっかの海のものとも山のものともつかない団体とウチを同列に見るな」、と。

——対抗戦の開戦はWARのリングなのに、新日本への声援が凄かったんですよね。

小佐野　そうね。なんでそういう雰囲気になったかっていうと、いかんせんWAR側が弱すぎた（笑）。

——弱すぎましたか（笑）。

小佐野　あのときのカードは青柳政司vs折原昌夫、越中&木村健吾vs冬木弘道&北原辰巳（現・光騎）だったんだけど、要はそうとられてもしょうがない内容だったんだよね。結局、WAR勢は全日本プロレスの流れを汲んだ受けのスタイルで、あのときの反選手会は自分たちの凄さだけ見せつければいいっていう試合っぷりだったから。大会後、当時のWARの営業部長で、のちに社長になる武井（正智）さんが、折原に「明日から新日本の巡業に殴り込め！」って激怒してたから（笑）。

——フロントも熱くなるくらいだった、と（笑）。

小佐野　ただそのとき、じつは冬木さんはリングに上がれる状態じゃなかったんだよ。この試合直後、敗血症で入院しているんだよね。

——あ、そうだったんですか？

小佐野　大会当日も高熱だったけど、対抗戦一発目で休むわけにはいかないからマスコミにも一切言わずにね。しかし、あのときはWAR勢も相当へこんでたな～。あれで「新日本はこうくるんだ」っていうのが身に染みてわかったんじゃない？　それと、あの興行で嶋田家はグラついたらしいし……。

——え～、敗戦スタートに加えて、いきなり台所事情の危機が？

小佐野　WARは最初こそメガネ（スーパー）の援助があったにしろ、「ウチ、貯金いくらある？」ってところからスタートした団体だったから。あと、天龍さんは当時、同じメガネがスポンサーを務めてた藤原組の東京ドーム大会のオファーを蹴ってるんだよね。そこに出てればメガネのバックアップもいい条件になってたかもしれないけど、天龍さんは全選手を事務所に集めて「自分としては新日本に出たい。でも、みんなの生活もあるから藤原組に出てくれというなら出る」って伝えて。でも、選手は全員「天龍さんの好きにどうぞ」って言ってね。

——まさに天龍一家というか、天龍さんに全幅の信頼を寄せてた、と。

小佐野　あの頃は天龍さんもSWSに関したゴタゴタ続きで、「プロレスやるか辞めるか」って時期だったんだよ。そんな中でも選手が「協力します」って言ってくれたからこそ、vs新日本に乗り出せたと思うんだよね。で、10月21日のWARの札幌大会で天龍さんが対抗戦に初出陣して（天龍&北原&折原vs越中&木村&青柳）。僕はビデオの解説で行ったんだけど、あれはホント凄い熱気だったよ！　札幌の観客っておとなしいんだけど、あのときはまるで後楽園並みの盛り上がりで、隣の実況アナウンサーの声がよく聞こえないくらいだったから。

——それは相当な熱ですね～。

小佐野　やっぱりWAR、天龍ファンの必死さを感じたよね。結局、SWSのときに天龍ファンは『週刊プロレス』からバッシングを受けてイヤな思いをしてるわけじゃない？　で、やっと天龍さんが自分を慕ってくれるレスラーを集めて団体を持ったのに、いきなり窮地に追い込まれたから。さらにその札幌でも反選手会が勝っちゃったから、「次に負けたらWARも終わりだ」みたいな流れになっちゃって。

——団体存亡の危機だ、と。

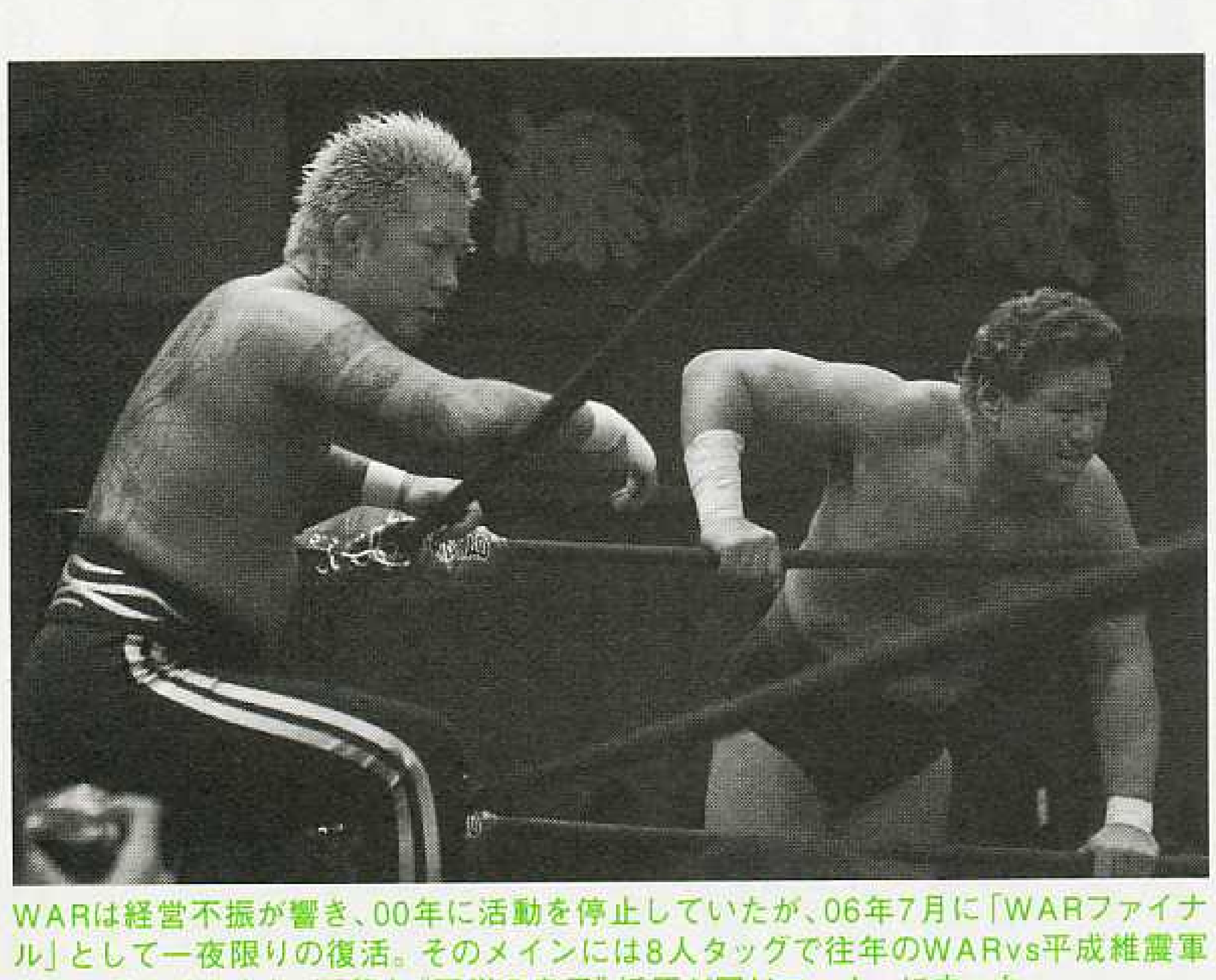
小佐野　で、それから二日後の10月23日に後楽園大会を迎えるわけだけど、そのときの熱気もハンパじゃなかったね！　やっぱり対抗戦は初っ端の盛り上がりが凄いというか。折原vs齋藤彰俊で、折原がギブアップしそうになると場内からファンの悲鳴が上がってさ。さらに、興奮したファンが場外で彰俊に殴りかかったからね。

——え～、試合中にですか？

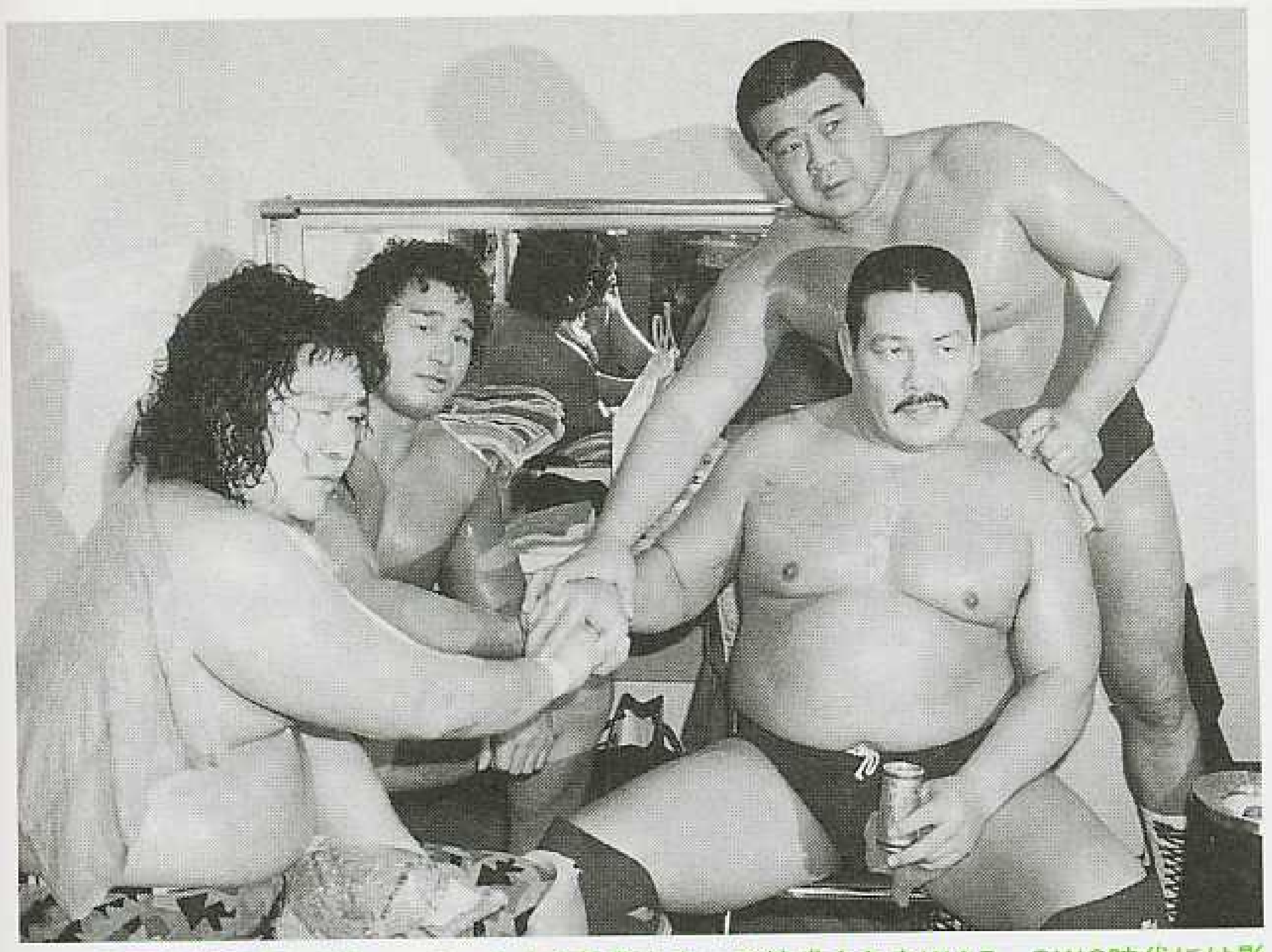
小佐野　そう（笑）。彰俊も後年、「あのときは熱かったですね。セコンドかと思ったらファンでしたから（笑）」って振り返ってたけど。

——そのくらいファンも入れ込んでたんですね。

小佐野　あの対抗戦でWARの選手もずいぶん変わったと思うよ。とくに、やっぱり折原は一皮も二皮も剥けたよね。もともと折原ってWAR旗揚げ当初は、アイドル路線で売ってこうとしてたんだよ。でも、あの対抗戦で頭も剃りあげてすっかり変わって。折原vs金本浩二とかメチャクチャだったからね。そうそう、たしかあの当時、折原が頭にWARのロゴをタトゥーで入れようとして、



WARは経営不振が響き、00年に活動を停止していたが、06年7月に「WARファイナル」として一夜限りの復活。そのメインには8人タッグで往年のWARvs平成維震軍がマッチメイクされ、天龍と"不肖の息子"折原が同じコーナーに立った。


SWSの天龍部屋「レボリューション」が基盤となって結成されたWAR。SWS時代には影の薄かった石川、冬木、北原といった面々が、新日本との日本人対抗戦ではおおいにその素質を発揮。ふてぶてしいファイトで新日本勢を手こずらせた。

みんなで止めたことがあったな（笑）。

——いまこそ折原さんもタトゥーだらけですけど、最初はWARになる可能性があったんですね（笑）。

小佐野　うん（笑）。あの当時、天龍さんは折原に相当思い入れがあったんだよね。一回こんなことがあってさ。もともと折原は腰が悪いんだけど、ある対抗戦のあとに控室でうずくまって立てなくなっちゃったの。で、折原は泣いてるわけだ。その様子をマスコミがカメラで撮り始めたんだけど、天龍さんが「撮ってんじゃねえ！」って怒りだしてね。それから少し経って、天龍さんが「声荒らげて悪かったな。アイツはウチの宝なんだよ」って言ったんだけど。

——いい話ですね。

小佐野　そのかわり対抗戦でふがいない試合をしたときは、天龍さんも容赦なく折原をぶん殴って気絶させたこともあったけどね（笑）。

——ハンパじゃないですね（笑）。

小佐野　それだけ気合いが入ってたってことだと思うよ。やっぱり新日本の強みというか、WARに対しては「対抗戦が盛り上がらなかったらウチはいつでも終わらせるよ」って切り方もできるわけじゃない？　へんな話、新日本も最終的にはよけいな団体を一個潰して、ほしい選手だけピックアップすればいいくらいの気持ちだっただろうから。

——新日本の対抗戦って基本的にそうですよね。相手の団体を飲み込んでいくっていう。

小佐野　天龍さんも新日本のそういう意識は常々感じてたって言ってたから。だからそのへんはフロント同士の駆け引きもあったしね。たとえば、どのカードをWARに持ってこさせるかっていうのであったり。

——バックステージの熾烈な争いもあった、と。

小佐野　うん。新日本には大もとに長州さんがいて、永島勝司さんが窓口になって。一方のWARは武井さん。たぶん「ふざけんな、この野郎！」って感じでかなりぶつかり合ってたはずだよ。武井さんは舌鋒鋭いし、「永島さん、それだったらウチには何をしてくれるんですか？」って理詰めに持っていく人だから。

——新日本という大帝国に対して引かないのは凄いですね。

小佐野　武井さんにしてみると「自分はプロレス村の人間じゃないから」っていうのが切り札なんだよね。あの人はもともと不動産会社の社長で、要はプロレス以外の社会を見てるっていうのが強みだから。永島さんも「武井は頭カテェな」ってボヤいてたよ。ほら、プロレスってナアナアで口約束みたいなところがあるじゃない？

——どんぶり勘定的なところが（笑）

小佐野　そういう部分をあの人は突いていくから。どっちかっていうと天龍さんなんかは何か頼まれると「やってやるよ」って気軽に引き受けちゃう人だから、下手すりゃ利用されちゃうじゃない？　そこをうまくフォローしてたというか。

——対抗戦が軌道に乗ると、新日本のビッグマッチは天龍さんがメインを飾ることが多くなりましたよね。実質的な新日本のエースが天龍さんになっていったっていうか（笑）。

小佐野　そうだね（笑）。93年の9月なんかは馳浩、蝶野正洋、藤波辰爾と3連戦だったからね。あの頃は新日本がいいように天龍さんをひっぱり出してる感じだったから、武井さんは責任を感じてたよ。「こんなハードなスケジュールじゃ大将の身体が壊れちゃう」って。

——ちなみに新日本サイドは天龍さん以外のWARの選手をどう見てたんですかね？

小佐野　越中さんに「どうですか、WAR勢は？」って聞いたことがあるんだよ。そしたら「あいつらが必死なのはわかるんだよ、俺は認めてる。それが客にはなかなか伝わんねえんだよな〜」って言ってたのは覚えてる。でも、冬木さんは新日本の選手の評価も高かったね。

——理不尽大王になる前の冬木さんですね。

小佐野　冬木さんは敗血病で身体を壊したことで、受けのレスリングができなくなったから、攻めに試合スタイルをチェンジしたのね。で、それまで受けだったぶん、攻めのタイミングもわかるんだよ。だから橋本との試合なんかガッチガチのしばき合いだったしね。みんなが嫌がるキックを平気で受け流すから、橋本も「お、冬木って強いじゃん！」って内心では舌巻いてたと思うよ。

——体格的にも負けてなくて（笑）

小佐野　お互いに「ただのデブかと思ってた」って感じてたんだろうけど（笑）。あと、評価が高かったのは石川（敬士）さんかな。結局、あの頃は（阿修羅・）原さんも身体を壊してたから、石川さんが天龍さんのサポート役に回って。

——確かに藤波さんからフォールを奪ったりしてましたね。

小佐野　石川さんはWARの選手があまり持ってない器用さもあったから。まぁ、試合巧者なぶん、対抗戦の殺伐としたムードは少し消えるんだけど、新日本にとっては厄介な存在だったと思うよ。

——あの対抗戦の中で小佐野さんが感慨深いのは、やっぱり93年1月4日の東京ドームで天龍vs長州が実現したときですか？

小佐野　いや、僕としてはそれよりも猪木戦（94年1月4日）のときのほうが感慨深かったよ。WAR旗揚げのときに、天龍さんが「長州の師匠である猪木さんとも一回肌を合

天龍vs新日本 主要シングルマッチ戦績
※92年12月〜94年2月

92年12月14日／大阪府立体育会館
○ vs 越中詩郎
（20分42秒 エビ固め）

■

93年1月4日／東京ドーム
○ vs 長州力
（18分4秒 エビ固め）

■

93年2月6日／千歳市スポーツセンター
○ vs 木村健吾
（10分42秒 エビ固め）

■

93年4月6日／両国国技館
× vs 長州力
（14分53秒 片エビ固め）

■

93年6月17日／日本武道館
○ vs 橋本真也
（18分23秒 エビ固め）

■

93年8月8日／両国国技館
○ vs 橋本真也
（21分25秒 エビ固め）

■

93年9月12日／幕張メッセ
○ vs 蝶野正洋
（14分35秒 エビ固め）

■

93年9月23日／横浜アリーナ
○ vs 馳浩
（19分07秒 WARスペシャル）

■

93年9月26日／大阪城ホール
× vs 藤波辰爾
（9分32秒 グラウンド・コブラツイスト）

■

94年1月4日／東京ドーム
○ vs アントニオ猪木
（15分56秒 エビ固め）

■

94年2月17日／東京ドーム
○ vs 橋本真也
（15分04秒 片エビ固め）

あの対抗戦で新日本にも他団体を尊重する意識が生まれたんだよ

わせてみたい」って言ったから、こっちもすぐに動いて新間寿さんと会わせたんだよね。そしたら新日本と新間さんのあいだで猪木さんの取り合いになっちゃってさ。

――裏でそんな抗争も勃発してましたか（笑）。

小佐野　猪木さんの手紙を持って新間さんがＷＡＲの大会に来場したときも、事前に永島さんから「新間さんを行かせないでくれ」って電話がこっちにまで来たんだから（笑）。

――ダハハハハ！

小佐野　新日本としては新間さんに介入されるのはイヤなのよ。もしかしたら猪木さんを担ぎ出して単独興行をやるっていう可能性もありえるし。そういう動きがあったからこそ、新日本も本腰で猪木vs天龍に向けて動いたんじゃないかな。こういう紆余曲折があったから、ようやく実現したときには「ああ、天龍さん、ここまでたどり着いたか」っていう気分だったね……（シミジミと）。

――試合自体はいびつでしたよね。

小佐野　ロープブレイクのときに猪木さんが指折りにきてね。天龍さんも「うわ、こういうことを平気で仕掛ける人なんだな」って言ってた。これが本当の猪木なんだなって。さらに天龍さんはスリーパーで絞め落とされるんだよね。やっぱり猪木さんも天龍さんをビビらせたかったんじゃないかな。

――長州さんが張り手で天龍さんを蘇生させて（笑）。

小佐野　あと、天龍さんは猪木さんのセコンドに星野勘太郎さんが付いたのも印象深かったみたい。要は新日本って団体の威信を懸けた闘いになると、「何かあったら行くぞ！」っていう要員が配置されるから、「ああ、いるいる」みたいなね（笑）。

――最終的には猪木戦が実現したことで、この対抗戦も収束に向かっていきました。

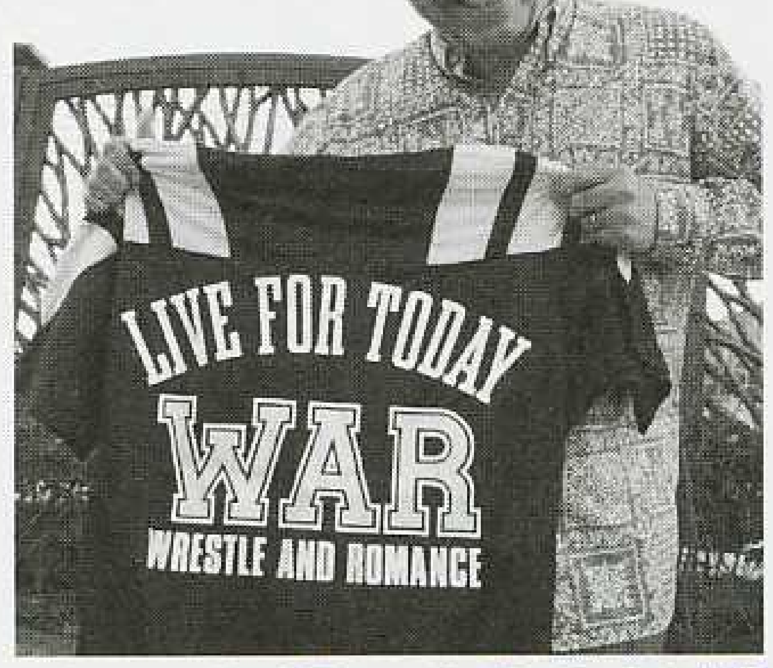
小佐野　そうね、天龍さんが94年の2月に橋本に負けて一段落ついて。ビジネスとして天龍さんの頭の中にも新日本とは94年の春までという意識があって、93年の年の瀬には次を見据えて大仁田厚と話をしてたからね。まぁ、そういう状況の中で、最後の最後に急転直下で猪木戦が決まったから、天龍さんもビックリしたみたいだよ。

――結果的に「馬場と猪木からフォールを奪った唯一の男」っていう称号を得たわけですけど、猪木さんは全盛期ではないとはいえ、よくフォールを許したなって思うんですよ。

小佐野　うん。あの試合が実現して、なおかつきちんと成立したのは、いま考えても奇跡に近いことだと思う。あの勝利は天龍さんも、やっぱり嬉しいというよりは責任の重さを感じたんじゃないのかな。

――あのときの対抗戦の魅力ってなんですかね？

小佐野　やっぱり火がついたのは、新日本が「ＷＡＲなんか認めない」っていう一段下に見た姿勢だったからだろうね。あの頃の新日本ファンも選民思想じゃないけど、新日本は選ばれた人間がいる団体っていう意識もあっただろうし。ＷＡＲファンは見返してやりたいっていうか、「天龍が新日本に飲み込まれる」みたいな危機感の中で試合を観てるから、とにかく熱かったしね。



おさの・かげひろ■1961年9月5日、神奈川県出身。フリーのプロレスライターとして『Gスピリッツ』、『東京スポーツ』などで執筆中。またGAORA『全日本プロレス中継』、サムライTV『S-ARENA』などでコメンテーターも務めている。 ハワイ情報満載のHPアドレス→http://maikai.boy.jp/index.htm

――あの抗争の中で「試合が壊れるんじゃないか」みたいな瞬間はありました？

小佐野　それはやっぱりお互いプロだから、ギリギリのラインで保ってたと思うよ。ただ、猪木さんみたいに一線を踏み越えようとする人もいたけど（笑）。

――「猪木なら何をやっても許されます」みたいな（笑）。あの対抗戦がもたらしたものというと？

「天龍vs猪木戦が実現したのは奇跡に近いことなんだよ！」

小佐野　あれによって新日本がいろんな団体との対抗戦に乗り出したっていうのはあると思う。Ｕインターや大日本プロレスや全日本だったり。新日本が90年代の黄金期を築くきっかけになったよね。たとえば、vs第二次ＵＷＦのときは業務提携だったし、新日本内部での闘いっていう面が強かった。でも、vsＷＡＲのときは新日本が常に高飛車で、スキあらば団体を潰そうって感じが見えたから。

――なるほど。

小佐野　でも、あの対抗戦を通して新日本には他団体を尊重する意識も生まれたんだよ。その後、ジュニアで『スーパーＪ ＣＵＰ』を開催したり、みちのくプロレスはじめいろんなインディー団体と交わりだして。

――外の世界を知ったというか。

小佐野　選手にとってもカルチャーショックだったんじゃないかな。「外にも巧くて強い選手はいるんだ」って。だから、新日本にとってＷＡＲとの対抗戦がもたらしたものは大きかったと思うね。

――なるほど。さて、小佐野さんとＷＡＲといえば、95年4月2日にベースボール・マガジン主催で開催された『夢の懸け橋』に対抗して、同日行なわれたＷＡＲの後楽園大会をプッシュしたことがありましたよね。

小佐野　あ～、あったね～！　あれも一種の対抗戦というか（笑）。あのときはターザン山本！さんの「ウチに協力してくれれば誌面も割きますよ」みたいな風潮と、それに「本当は出たくないんですけど、背中向けたらターザンに何されるかわかんないんで」みたいな団体にカチンときてね。やっぱりマスコミに左右されるプロレス界であってほしくなかったから、「ビビってんなよ、おまえら！」っていうかさ……。うん、あのときは山本さんへの怒りよりもプロレス業界への怒りのほうが大きかったかもしれない。

――『週ゴン』読者の後押しも感じましたか？

小佐野　いや、意外と反論もあったよ。「『週プロ』はターザン山本という独裁者に牛耳られ、『週ゴン』は小佐野という独裁者に牛耳られてしまった」とか（笑）。

――独裁者扱いですか（笑）。

小佐野　「昔の穏やかな『ゴング』が好きだった」とかね。でも、話、あれで毎週お互いに違う主張をぶつかり合ったから、相乗効果で両方とも売れたと思うしね。そういう意味では、結果的にはお互い成功だったんじゃないかな。

――小佐野さん、その『夢の懸け橋』が今年の大晦日に復活するんですよ！　舞台は東京ドームから新木場1stリングと、大幅に規模縮小するわけですが（笑）。

小佐野　あぁ、みたいだねえ～。いまだから言えるけど、『夢の懸け橋』って本当に凄い興行だったと思うんだよ。だから、同じ名前でやんなきゃいいのになって。

――なるほど（笑）。もちろん小佐野さんも今年の大晦日は因縁深い『夢の懸け橋』の取材に？

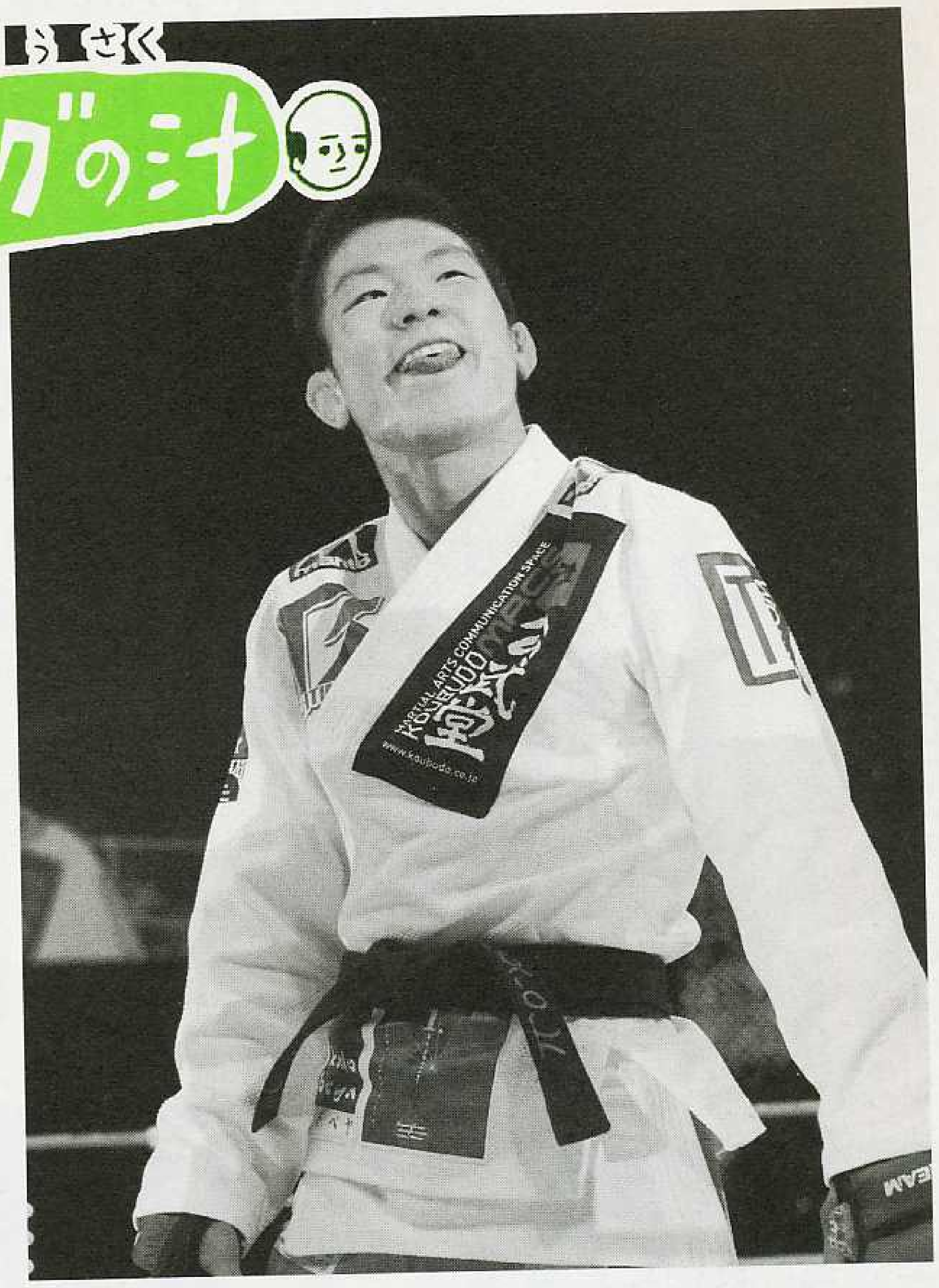
小佐野　いや、家でゆっくりテレビでも観る予定です（笑）。

【09年10月21日／都内・某所にて収録】

第49回

DREAM vs『戦極』で見たいのは

花くまゆうさくの豆リングの汁



DREAM vs『戦極』でなんのカードが見たいか？　PRIDE武士道のときは青木vs五味戦がとても見たかったけど、いまはもうそれほどじゃないかな。やれば見たいけど。それより五味は宇野のように、アメリカでやって燃焼してほしい。

青木vs横田戦なら見たいかも。青木の極めか横田の打撃かという面と、横田の場外逃避が火種になり、物騒なことになりそうなワクワク感もある。

こないだひさびさに生でZSTを見にいきました。バレットとヤノタク・山田哲也が絡むグラップリングがあったので。

近年、門脇チョークを多用するバレットと二人の絡みは、興味深くて見どころあった。相手と離れた状態でないとタッチできないとか、ルール変更したほうが決着ついていいと思ったけど、どうでしょうか。

メインの小谷vs中村も見どころたっぷりでよかった。そして何より、2時間以内で絶対に終わる大会進行があいかわらず最高です。同日の修斗JCB大会の朴光哲も最高でした。



Hanakuma Yusaku
◎村田くんと一緒に出演した映画『ダンプねえちゃんとホルモン大王』上映してます。

金ちゃんのどこまでやるの？

第41回　思い出の対抗戦の巻

今回、永田（裕志）さんと対談させてもらって、新日本vsUインター対抗戦の話をさせてもらったんだけど、コラムでは対談でしゃべらなかったことを少し書いてみようかな。

新日本の対抗戦というと、サクと組んで、永田さん&石沢さんと闘った10・9ドームの第1試合のことばかり言われるんだけどさ、俺自身が一番印象に残ってるのはあの試合じゃないんだよね。

俺個人としてはあの試合より、髙田（延彦）さんと組んで、長州さん&健介さんと闘った試合と、同じく髙田さんと組んで藤波さん&越中さんと闘った試合が印象に残ってるよ。

というのも、俺が髙田さんとタッグを組ませてもらった試合はこの二つだけなんだよね。俺としては「対抗戦」というより、「髙田さんとタッグが組める」っていうことのほうがずっと大きなことだったんだよ。

当時の髙田さんといえば、俺らUインターの若手にとって憧れの存在で、雲の上の人だったからね。Uインターの興行では毎回、満員の武道館でメイン張ってね。ベイダーとかゲーリー（・オブライト）、北尾なんかをKOしてきたスーパースターじゃん。その髙田さんとタッグを組んで一緒に入場するなんて、自分の中では考えられなかったよね。

しかも、相手が長州さんとか藤波さんだからね。俺はもともと大の新日本プロレスファンだったからさ。その俺がUインターに入って、まさか長州さん、藤波さんと闘う日が来るとは思わなかったよ。

だから、闘いながら凄く不思議な感覚でね。リキラリアットを食らったときは、試合が終わったあと、しみじみ喜びがこみ上げてきてさ。正月に田舎に帰ったとき、プロレスファンの同級生に「俺、長州力のリキラリアット食らったんだぜ」って自慢したからね（笑）。

でも「嬉しかった」とは言っても、リキラリアットってホントに効くんだよ。軽く100キロ以上ある長州さんが、おもいきりぶつかってくるんだから、それだけでも強烈なのに、ラリアットでマットに叩きつけられるんだからね。健介さんの逆一本背負いもキツかったな〜。

あと強烈だったのは、パワーボム。これは越中さんと、木村健悟さんにやられたんだけど、プロレス技の中であれが一番効いたね。もしかしたら、俺が蹴りまくってたから、その腹いせで、よけい強烈なパワーボムをやられたのかもしれないけど（笑）。とにかく凄いダメージを受けてさ、「こんなの毎日受けてるプロレスラーって、やっぱり凄いなあ」って、あらためてプロレスラーの凄さを感じたからね。

だからさ、新日本との対抗戦をやる前は、嫌だなあと思ってたんだけど、いまになるとやってよかったと思うよ。凄くいい思い出になってるからね。俺はあのあとキングダムになって、リングスに移籍して、完全に格闘技に移行してプロレスと交わることはほとんどなくなっちゃったからさ、あのとき子どもの頃から憧れてた新日本プロレスのリングに上がれてよかったよ。

いまだに「東京ドームでの永田&石沢組との試合凄かったです」とか言われるから、プロとしても財産になってるしね。だから、いまは総合格闘技の試合で、あのドームのインパクトを超えることが目標だよ。

そのためにも、あれぐらい注目される試合が組まれるといいんだけどな〜。団体関係者の皆さんオファーお待ちしてます（笑）。

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中！
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/


“60億分の1”エメリヤーエンコ・ヒョードルをめぐる闘い
『MMA Legend』No.1［世界最強戦史］発売!
世界最強──。
この四文字を我がものにするために、
多くのトップファイターが拳を交えてきた。
が、一人の男が誕生して以降、
彼を抜きに「世界最強」が
決まることはなかった。その男こそ、
“60億分の1”
エメリヤーエンコ・ヒョードルである。
『MMA Legend』No.1は
世界最強ヒョードルをめぐる物語を
テーマにした一冊である。
リングス、PRIDE、UFC……、
それぞれの時代における“最強”を
懸けたドラマとはいったい……!?
MMA Legend No.1
Emelianenko Fedor
Mirko CroCop / Antonio Rodrigo Nogueira
Josh Barnett / Brock Lesnar / Brett Rogers / Tim Sylvia / Andrei Arlovski
Alistair Overeem / Sergey Kharitonov / Hong Man Choi / Ogawa Naoya
Fujita Kazuyuki / Mark Hunt / Mark Coleman / RINGS RUSSIA
世界最強戦史
A・ホドリゴ・ノゲイラ／ミルコ・クロコップ／ジョシュ・バーネット／B・レスナー／B・ロジャース／T・シルビア／A・アルロフスキー／S・ハリトーノフ／アリスター・オーフレイム／小川直也／リングス・ロシア ほか
全国書店にて絶賛発売中! 定価=本体952円+税

おいおい、年末の一大イベントが迫っているというのに、締め切り間際の現段階でほとんどカードが発表されてないじゃないか。いったい何がどうなってるんだい? なんか揉めてるんだったらオレが手伝ってやってもいいぜ! え? よけいややこしい!? そうか、ユーたちはそんなふうにオレを見てたんだな……。ふん、オマエらなんて読者ペイジでも見とけばいいんだよ! ザッツ・トゥ・バッド!!



DECEMBER号へのお便り紹介

桜庭選手のページが最高でした! 理由は、桜庭選手が大好きだからです。TVでも観ていましたが（スカパー）、柴田選手が肩車していて、それがもうなんとも言えないくらい感動しました。桜庭選手には50歳ぐらいまでやってほしいです。

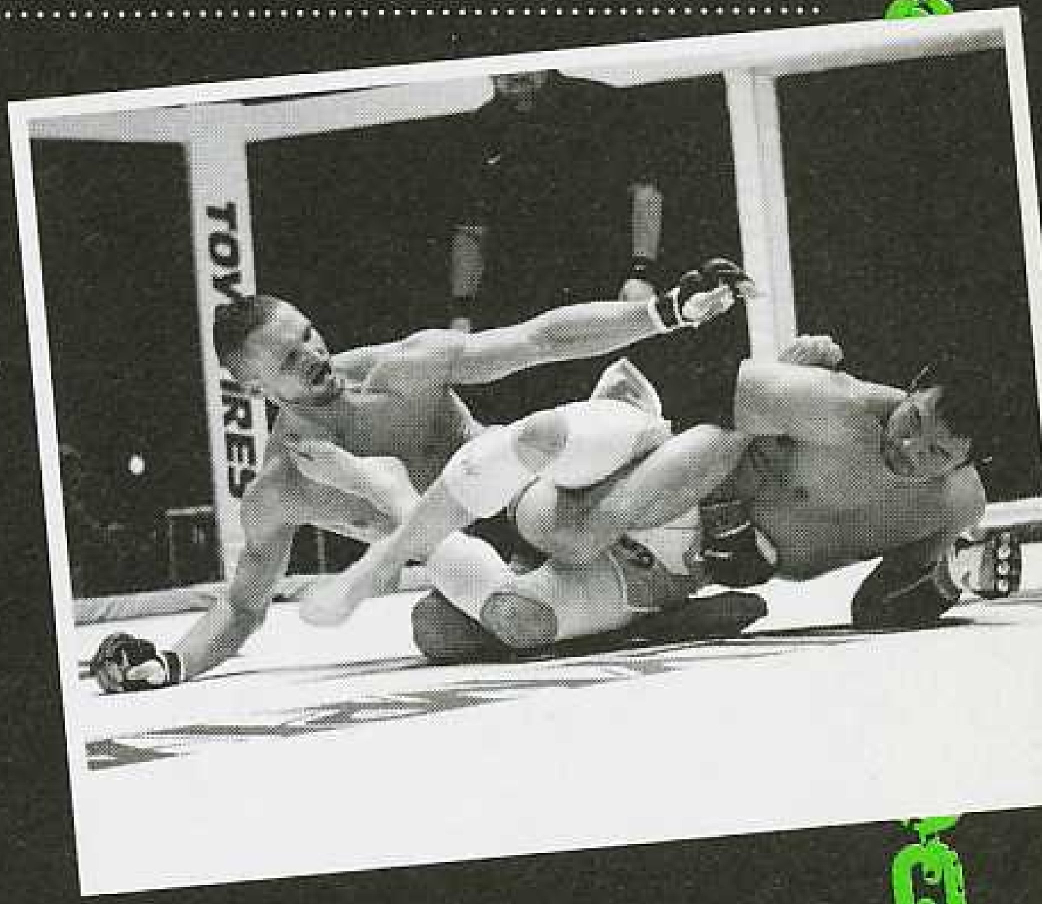
【兵庫県・長谷川友幸さん・運送業・19歳】

D アッハッハッハ! 50歳までだなんて、いくらなんでもカズシ・サクラバがたいへんなことになっちまうぜ。でも、ユーの気持ちはわかるって人間は多いだろうなあ。ホントにどこまでいってもカズシ・サクラバはヒーローだよな!

『プロレスは復活したのか!?』のお三方のインタビューはとてもおもしろかったです。その中でも華名選手です。「女子プロレスラーは自分がリングで目立つことばっかり考えているのか?」という印象を持っていたのですが、業界のことを考えている人もいるんですね。それがUスタイルというのも我々変態の心を揺さぶります。

【神奈川県・廣木和宜さん・会社員・44歳】

D 最近、『kami-pro』の連中はジョシカクとかジョシプロが好きだなあ。しかし、ジョシプロにもキレるガールがいるってもんだな。一部では、ケージーとかいうガールがブログでたいへんなことになっているというウワサも聞いたりするけどよぉ。



武田幸三の引退試合はOKだが、あのレフェリングはいかがなものか? 引退試合は花を持たせるのもOKだとは思うが、やりすぎ! 魔裟斗の試合もそうなるのか?

【北海道・佐藤稔さん・学校事務・43歳】

D 要するに、カクちゃんってヤツがヒドいんじゃないかって話だろ? 前回の『kami-pro』でさんざんレフェリング問題をやってるみたいだから、よかったら見てやってくれよ。しかし、この前のK-1WGPが妙にスッキリして見えたのは、これも誰かがいなかったおかげなのかい? クックックック。

泉浩×佐久間ゆいちゃんの対談がよかった。お互いのお国自慢や田舎のあるあるなど、格闘技の話ではなくプライベートの内容を聞けて、いつもと違う感じでとてもよかった。またゆいちゃんの突撃企画をやってほしいです!!

【千葉県・飯田共則さん・学生・17歳】

D つまり、ユーはユイちゃんってガールが好みなんじゃないのか? そうだろ? クックック。でも、オレはやっぱりグリーンだな。彼女は受け答えがハチャメチャだが、ハートウォーミングな感じがするんだ。え? ジャイアンツのグライシンガーもグリーンを狙ってるって!?

大晦日“夢を見たっていいじゃないか”座談会がよかった。大晦日はやはり五味隆典選手が観たい。そして五味選手の動向で夢のカードが実現する可能性もあるので、ぜひ大晦日、リングに上がってほしいです。五味選手には人を惹き付ける神がかり的な力があるので注目しています。

【福島県・紺野春樹さん・会社員・30歳】

D ゴミってボーイはホントに人気だな。しかし、本当に年末は出場するのかい? そうなったら正直オレもハイテンションだが、あんまり『kami-pro』の連中の妄想に乗せられると、あとでガッカリする可能性もあるから気をつけろよ!

ストライクフォース直前大特集! がよかった。皆、世界のトップ3くらいに必ず青木を入れているのを読んで、なんか嬉しくなった。この3人と青木の試合があったら、嫁を質に入れてでも見に行きたい。

【静岡県・節政徹也さん・大学生・21歳】

D ユーはアデランスのナカノってオヤジと張り合おうって気かい? 21歳なのに、珍しくヘンタイ臭がするじゃないか。クックック。しかし、ユーの世代は断然シンヤ・アオキなんだろうな。確かにシンヤはグレイトだが、アイツはヘンなヤツだぜ!

DESEMBER号 おもしろかった記事 RANKING

NO.1 お帰りなさい 桜庭和志

NO.2 特集・プロレスは本当に復興したのか?

NO.3 泉浩×戦極レッド

NO.4 マット界座談会

NO.5 小見川道大

OH! やっぱりカズシ・サクラバの人気は凄まじいな。確かに、あんな試合をすればファンは燃えるってヤツだ。しかし、今回のカミスペもヘンテコなランキングだぜ。プロレス特集がいいのかと思ったら、今度は戦極ガールだろ? ユーたちの趣味も多角化ってヤツかい?



『女子格はエッチな目で見てもいいのか?』がよかった。良いと思います。もっとみんなで応援しましょう!

『世紀末の格闘技』

肉質な均整のとれた体格をしてい

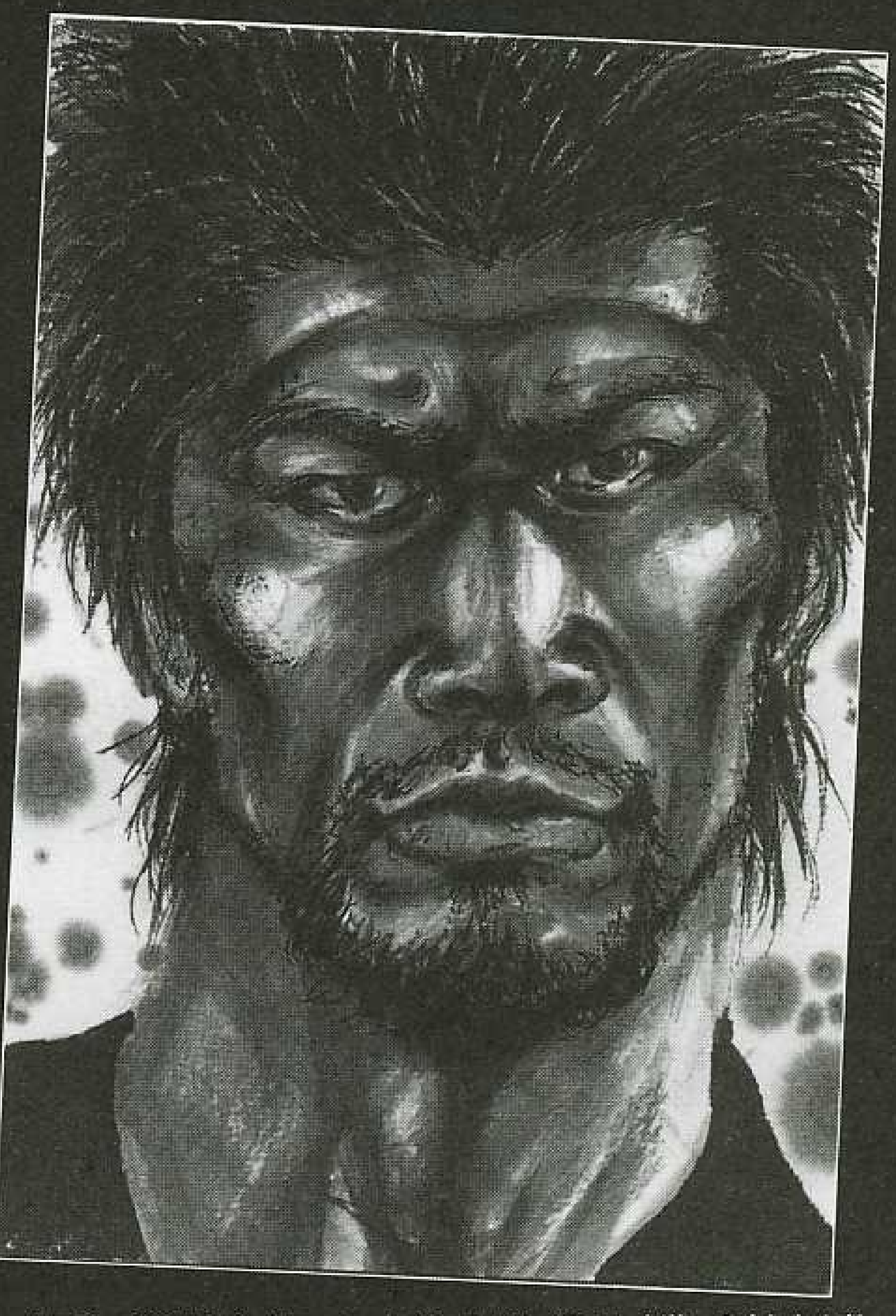
SRCが中止だって!?
危ない、チケットを買うところだったぜ……



プロレス大賞2009発表!

へい、ユーたちは“プロレスタイショー”ってヤツを知ってるかい? ナニ? 知ってる? ……正直言うと、オレはサッパリだ。しかし、よくわからないが「読者ペイジに載せておけ!」と言われたので、一応載っけとくぜ。……ん? マカベも表彰されるのかい? これはコングラッチュレーションだぜ! ヒャッホー!

最優秀選手賞 MVP	棚橋弘至（新日本）
年間最高試合	伊藤竜二×葛西純（11月20日、大日本）
年間最高試合 最優秀タッグ	曙&浜亮太
殊勲賞	杉浦貴
敢闘賞	真壁刀義
新人賞	浜亮太
技能賞	飯伏幸太
特別功労賞	三沢光晴
功労賞	松永高司、テッドタナベ
女子プロレス大賞	さくらえみ



大阪府・剣洋人さん／おっと、またヒロトはイラストを送ってくれたんだな。知ってるぜ、「クソッタレ!」のキャット・ボーイだろ? クックックック。

ファンキーでクレイジーなアイツが
読者のメッセージを
Check it out!!

"読者ペイジ" ジャクソン

141号へのお便り紹介

やっぱり恐ろしい山口日昇座談会がよかった。私は小さい頃の『紙のプロレス』も読んでいたので山口さんがとんでもない人だということは知っていましたが、まさかここまでとはビックリしました。元W★ING社長と山口さんがタッグを組んで新団体を作ったらおもしろいと思います。
【北海道・安倍正典さん・フリーター・37歳】

D この座談会にはオレもゾッとしたぜ……。バイトとはいえ、少なくともオレも『kamipro』編集部の仕事をやってるわけだからな。しかし、オレもこの編集部に来るようになってだいぶ経つが、ノボル・ヤマグチはとんと見かけないぜ！

ターザン山本！さんの元気な姿が見られてよかったです。『夢の懸け橋2009』は1500号を超えた『週刊プロレス』に載るのでしょうか？　期待してますよ！
【兵庫県・春名義行さん・会社員・43歳】

D ユーはターザンの行く末を心配している数少ないジャパニーズの一人なんだな。ユーは兵庫県に住んでるそうだが、もし東京に出てくることがあれば、ぜひ立石ってところに寄ってやってくれよな！　お土産を忘れるなよ！



レフェリー特集の長南亮のインタビューがよかった。関係者がオブラートに包んでしまうようなことをズバズバ言っていい。気持ちよかった！　吉田vsホイスでの野口レフェリーを名指しで「おかしい」と言ったのも男らしいです。
【静岡県・佐久間孝さん・会社員・37歳】

D チョウナンってボーイはなかなか歯切れがよくていいじゃないか。しかし、チョウナン自身がいったいどこで闘っていくかはまったくノー・トークなのかい？　まあ、マット界がたいへんな状況だからいろいろ考えるんだろうが、そろそろ教えてくれよな！

CBSの人のインタビューがおもしろかった。「ベストのアスリートがベストのパフォーマンスをすれば必ず視聴者は目を向けてくれる」というあたりまえのことが日本でできないのが悲しいなあと思った。
【静岡県・節政徹也さん・大学生・21歳】

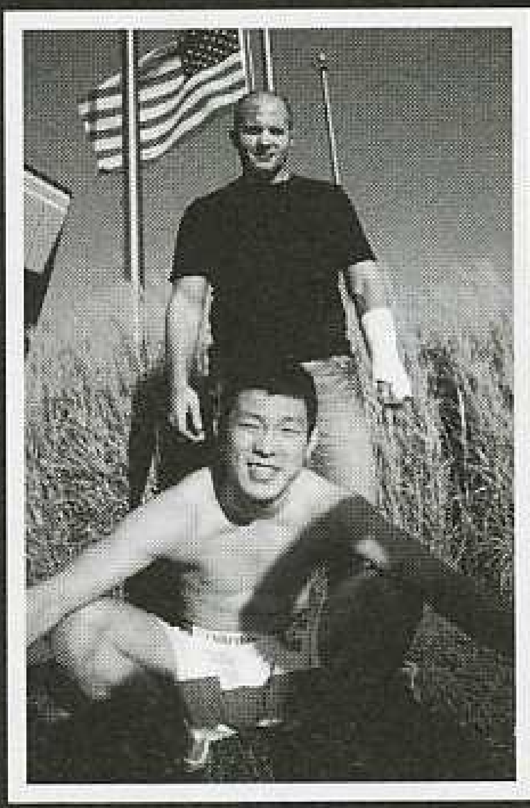
D まったくCBSってテレビ局はなんて物わかりのいいヤツがいるんだ。ここに書いているセリフはまったくそのとおりだ。一文字アルファベットが違うだけで、こうも違うというのは感激ってレベルを超えてるぜ！　……おっと、ちょっと辛口だったかい？

『女子格はエッチな目で見てもいいのか？』がよかった。良いと思います。もっとみんなで応援しましょう！
【香川県・佐々木輝さん・自営業・41歳】

D エッチだとかエッチじゃないとか、ユーたちはいつまでそんなくだらないことばっかり話してるんだい？　俺が言うのもおかしな話だが、もっと人生で大切なことってあるだろ？

ジョン・コロシがまだ格闘技界にいたとは……。これは、I編集長の魂がまだ生きているということだと思う。
【東京都・しばらくさん・会社員・30歳】

D コロシってボーイは何か特別なパワーがありそうだな。一部ではコロシは1000回プロポーズして愛を手に入れたと言われているそうじゃないか。コロシ、やったな！



青木真也×エメリヤーエンコ・ヒョードルの対談がおもしろかった。世界トップ2の言動に非常に興味があった。自分もヒョードルみたいな男になりたい！
【福岡県・向野征雄さん・フリーター・25歳】

D ヒョードルみたいなボーイに憧れるというのはなかなか珍しいじゃないか。この前、編集部に来ていたシーナとかいうボーイは「ダンヘンになりたい！」って言ってたぜ。オレは思わず笑っちまったけどな。クックックック。

141号 おもしろかった記事 RANKING

- No.1 青木真也×E・ヒョードル
- No.2 本当に恐ろしい山口日昇座談会
- No.3 長与千種
- No.4 レフェリング特集
- No.5 俺たちの『やれんのか! 大晦日! 2009』座談会

こっちの1位はヒョードルとシンヤか。はるばるアメリカまで行って取った甲斐があったってわけだな。しかし、2位にノボル・ヤマグチの座談会が入っているというのは凄いな。それだけ注目されているということか。まあ、個人的な理由で注目している人間もけっこう多い気がするが……。ちなみに、オレも充分注目しているからな!

目撃情報が止まらない!

★ちょっと前に水道橋で石川敬士を目撃しました。ビジネススーツ姿だった石川は、ケータイを片手に誰かと通話している様子でした。そんな格好をして石川を見て、いまいったい何をやっているんだろうと思いながらその場を通り過ぎたボクでした。
【東京都・ハカセさん】

★先日、山手線の中で華丸大吉の博多華丸(アタックチャンスのほう)と一緒になりました。マネージャーなのか後輩なのか、お連れの人がいて、芸能界のことについていろいろ話していました。ボクとしては、"昭和プロレス芸人"でもある博多大吉さんが一緒だったらよかったなと少し思いましたが、でも嬉しかったです。
【東京都・アタック25さん】

格闘技愛あふれる玉稿を チェケラッチョ!

前回は授業参観がどうのこうのという話だったな。
今号でも続きを載せるから、ユーたちはぜひ感想を送ってきてくれよ!
それじゃあ、スタートだ。

『世紀末の格闘技』

授業参観の日。
稜介は意外にも、スーツを来て現われた。紙は長いままだったが、きちんとオールバックにしていた。ひげも剃ってきている。
いつものようにジャージに下駄という格好で現われると覚悟していた千歳は見慣れない父親のスーツ姿に驚き、そしてほっとした。
稜介は千歳と目が合うと小さくうなずいた。それを見て、隣の女子が言う。
「あの背の高い人、千歳のお父さん?」
「うん、そうだけど……」
「かっこいいいね。千歳のお父さん」
「え?」
千歳は女の子の意外な言葉にびっくりした。
「そうかな……」
「そうだよ。背は高いし、おなかは出ていないし。私のお父さんとは大違い」
たしかに稜介は、背が高く、筋肉質な均整のとれた体格をしている。
しかし、千歳に言わせればそんなことよりも、ハゲでもデブでもいいから、仕事に就いている普通のお父さんのほうがよい。
それでも、父親のことを誉められたのは、単純にうれしかった。
ひととおり授業が終わって、生徒たちは教室を出た。親たちはこのあと、先生との話し合いがあるので、まだ教室に残っている。
千歳は、友だち二人と一緒に下校する。
三人でおしゃべりをしながら歩いていると、校門の近くで、
「東ー」
と大きな声で名前を呼ばれた。
振り返ると、背の低い男子が、走ってこちらに向かってくる。同じクラスの武山誠二。
【熊本県・塘岡真さん】

※おお、無事に授業参観が終わってよかったじゃないか! しかし、誠二というボーイは何者だい? 次回もドント・ミス・イットだ!

おハガキ募集!!

おハガキ、どんどん送ってくれよ!
ケータイからでもOKだぜ!!
どんな意見、感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだしでも、ぜーんぜんキャッチするから安心しろって! 待ってるぜ!
こんな情報も24時間どんとこい!
ってヤツだ。
- 譲ってほしいもの
- タレコミ情報
- 選手に対するコメント、試合の感想
- その他、オールOKだ!!

以上、すべてのお便り・イラストのあて先&メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ケ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス kamipro編集部
「ツイッターnow」係まで。

携帯サイト『kamipro Move』からの投稿もできるぜ。

kamipro books 驚ガク！ 衝ゲキ!! kamipro booksシリーズ！ 死闘インタビューの歴史的目撃者になれ!!

魔王 秋山成勲 二つの祖国を持つ男



秋山成勲なのか
チュ・ソンフンなのか——。

2006年12月31日大晦日『Dynamite!!』秋山成勲vs桜庭和志戦で発生したクリーム塗布事件。この一件以降、秋山は日本では悪質な反則選手、片や韓国では悲劇の元・在日韓国人と、評価が真っ二つに分かれた。本書籍は秋山成勲が、柔道界での挫折ののち、総合格闘技家としてデビューして"魔王"と呼ばれる怪物に至るまでを検証するノンフィクションである。

B6変型判　264ページ
定価=1,680円（本体1,600円+税）

PRIDE機密ファイル 封印された30の計画



ついにその秘密のベールを解禁!!
PRIDE幻の超極秘プロジェクト!!

★高田vsヒクソンの前座に前田日明登場!?★長州力、橋本真也、船木誠勝の参戦計画★ホイスvsケアー消滅の計画★PRIDEが小錦獲得に動いた!?★"皇帝"ヒョードルを二度破った男 ほか

その消滅から早2年——世界最高峰のリングに封印された30の計画を発掘！ さらに青木真也、三崎和雄ら6大インタビューも同時収録！

B6変型判　292ページ
定価=1,680円（本体1,600円+税）

新日本プロレス学習帳



"業界の盟主"の魅力を
凝縮したインタビュー12連発！

★鈴木みのる&獣神サンダー・ライガー★小林邦昭★平田淳嗣★金本浩二★山本小鉄★新倉史祐★田中秀和★中西学★天山広吉&金原弘光★マサ斎藤★永田裕志★中邑真輔

『kamipro』に掲載された新日育ちのレスラー&関係者のインタビューが一冊に！ これを読めば老舗団体の過去・現在・未来がまるわかり！

B6変型判　320ページ
定価=1,680円（本体1,600円+税）

八百長★野郎



ミスター高橋本から7年……
"呪いなき"時代のプロレス再入門書!!

★マッスル坂井★大槻ケンヂ★菊地成孔★森達也★杉作J太郎★ミスター高橋★菊池孝★高木三四郎★ハチミツ二郎★鶴見亜門★プロレス業界初"台本"全文掲載！

カミングアウト当事者から元ファンの知識人まで総動員してプロレスを再考！ "プロレスの向こう側、『マッスル』"の世界に迫る！

B6変型判　296ページ
定価=1,680円（本体1,600円+税）

生前追悼 ターザン山本！



え、ターザンが死んだ!?
90年代プロレスを徹底検証！

★浅草キッド★いしかわじゅん★堀辺正史★更級四郎★松本晴夫★杉山頴男★谷川貞治★山口日昇★金沢克彦★市瀬英俊★小島和宏★菊地成孔★Oka-Chang★原タコヤキ君★椎名基樹 ほか

『週刊プロレス』編集長として辣腕を振るった山本さんの人生を通して、90年代プロレスブーム、はたまたプロレスという生き様を振り返る！

B6変型判　304ページ
定価=1,470円（本体1,400円+税）

プロレス狂の詩 夕焼地獄流離篇



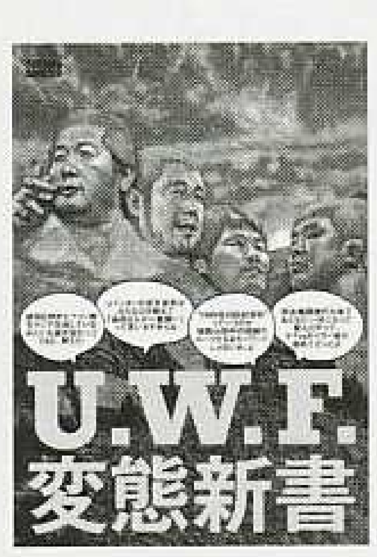
プロレス狂がシビれる
凄玉たちのインタビュー集！

★ジェラルド・ゴルドー★後藤達俊★小畑千代★ザ・グレート・サスケ×韮澤潤一郎★中島らも★大槻ケンヂ★シーザー武士★ダニー・ホッジ★高山善廣×金原弘光★真樹日佐夫×三池崇史

メインストリームからはみ出さずにはいられなかったファイターや、リング内外の裏表を凝視してきた関係者へのインタビューがテンコ盛り！

B6変型判　304ページ
定価=1,890円（本体1,800円+税）

U.W.F.変態新書



ダメな大人たちへ捧げる
"変態"とUWFの晩餐！

★UWF★前田日明★船木誠勝★髙田延彦★桜庭和志★ターザン山本！★キン肉マン★PRIDE★プロレス★変態とは何か？（菊地成孔スペシャルインタビュー）★変態解説

プロレス界の一大潮流となったUWF。そのUWFに人生を学び、人生を狂わされた変態的プロレスファンたちが、UWF神話を語り倒す！

B6変型判 296ページ
定価=1,680円（本体1,600円+税）

吉田豪のセメント!! スーパースター列伝 パート1



吉田豪インタビュー11連発!!
インタビュー本の最濃傑作！

★ストロング小林★阿修羅原★康芳夫★倉持隆夫★サムソン・クツワダ★猪木快守★イーデス・ハンソン★田中健一★小川宏★鶴見五郎★田代まさし

プロインタビュアーの吉田豪が、『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビューの一部を完全徹底再録!!

B6変型判　344ページ
定価=1,890円（本体1,800円+税）

底なし沼 活字プロレスの哲人 井上義啓 一周忌追善本



井上義啓とは底が丸見えの
底なし沼である——!!

★『週刊ファイト』&『SRS・DX』激筆再録★『猪木は死ぬか』、『不在証明あるいは猪木へのレクイエム』★新間寿★夢枕獏★ターザン山本&吉田豪★『kamipro』ラスト喫茶店トーク ほか

"活字プロレスの父"井上義啓氏の一周忌追悼本!! 氏を偲ぶインタビューや、人生最後の旅模様を振り返るエピソードも収録！

B6変型判　312ページ
定価=1,680円（本体1,600円+税）

紙の破壊王 ぼくらが愛した橋本真也 爆勝証言集




破壊王の三回忌追善本!!
泣けて笑えるエピソード満載!!

★破壊王ファミリー★天山広吉★西村修★山田千景（獣神サンダー・ライガー夫人）★馳浩★藤波辰爾★田中秀和★ケビン・ランデルマン★三浦大輔（横浜ベイスターズ投手）★折鶴兄弟 ほか

破壊王の原点である新日関係者が語ったエピソードが盛りだくさん！ みのもけんじ書き下ろし『紙のプロレス・スターウォーズ』も収録！

B6変型判　304ページ
定価=1,890円（本体1,800円+税）

enterbrain 発行／株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555（代表）
発売／株式会社角川グループパブリッシング
［エンターブレイン総合サイト］http://www.enterbrain.co.jp/



え〜、7年ぶりに
〝プロレス〟をゴールデンで
やることになりました……

バカヤローッ!!



“昭和プロレス芸人”がついにゴールデンに!

ク テレビ界に新春卍固め 家電じゃない方SP!!』放送決定!!

前のページでアントン（くりぃむしちゅー・有田）から発表があったとおり、約7年ぶりに〝プロレス〟のゴールデンタイムでの放送が決定しました……バカヤローーッ！

え〜、それがどういうことかは、このページを見ていただければ、もはや一目瞭然だと思うんですが、約7年ぶりに〝プロレス〟がゴールデンに復活というのは、新日本でもノアでも、残念ながらIGFでもない。それらの団体をはるかに超越（コスプレだけど）したファイターたちが勢揃いしたテレビ朝日系の人気番組『アメトーーク！』の特番のことなんですね。ンムフフフ。

まぁ、プロレスファン的には新年早々といえば、新日本の1・4東京ドーム大会が定番なんでしょうが、そうじゃねえんです。今回の特番はその3日後の1月7日（木）、19時から21時48分までの約3時間の特大ボリューム！番組タイトルはズバリ言って『アメトーーーーーーク テレビ界に新春卍固め家電じゃない方SP!!』ですから。

今回の特番は〝昭和プロレス芸人〟たちによる「俺たちのゴールデンプロレス」のほかに、「今年が大事芸人2010」「〇〇じゃない方芸人」の豪華三本立て。しかも、約3時間の放送時間の半分近くがプロレスネタだっていうから、こいつは新年早々縁起がいいや。ダーッハッハッハッ！

今回登場するのは、『アメトーーク！』では〝越中詩郎芸人〟として越中をブレイクさせた立役者ケンドーコバヤシ、そして数多くいるアントン芸人の中でもプロレス知識は断トツのくりぃむしちゅー・有田哲平。さらにはドラゴンものまねの第一人者ユリオカ超特Q、本物の武藤敬司とF−1タッグ王座を保持する神奈月など、おなじみ

時は来た!



2010年1月7日(木)19:00～21:48

テレビ朝日系『アメトーーク!』の人気企画“昭

『アメトーーーーーーーク テ 家

特Q、本物の武藤敬司とF―1タッグ王座を保持する神奈月など、おなじみのメンバーがズラリ。

前回の「俺たちのプロレスオールスター戦」でのジャンボ鶴田に続きTシャツを着てるだけの前田（博多大吉）や、ちっちゃすぎるアンドレ（竹若元博）、この日のためにパーマをかけてきた天龍（ユウキロック）などツッコミどころは満載ながらも、試合（というかトーク）内容にハズレはねえです。

ん？　詳しい内容が知りたいって？「俺たちのゴールデンプロレス」ってタイトルどおり、視聴率20パーセント超えを連発していた古き良き昭和プロレス時代の思い出深い必殺技、事件簿、外国人レスラーなどをクローズアップ。『アメトーーク!』でのプロレス特集では、すっかりおなじみとなっている有田プレゼンツの〝悲劇のマスクマン〟シリーズでは、ザ・コブラ、スーパーストロングマシンに続いて、なんとエル・サムライにズームイン！

ほかにも、大谷晋二郎がライフワークとしている、ある活動への密着取材では、長州小力が感動のあまりガチで泣いてしまったっていうから、しょうがねえな。おまえは「キレてないのかよ!?」って。ダーッハッハッハッ！

そういえば、『アメトーーク!』の特番には欠かせない、ある男の乱入の噂も出てるらしいじゃねえか！　プロレスに乱入はつきものだけど、ホントにあの男が乱入したら一寸先はハプニングじゃすまねえだろうな。ムフッ。

まあ、そんなことはどうでもいい。オープニングからメインまで見どころ満載の「俺たちのゴールデンプロレス」。観れんのか、オイ!?（ニヤリ）。

――今回、ひさびさに〝プロレス〟がゴー
ルデンタイムに進出すると聞いて話を聞

いです（笑）。
――深夜の『アメトーーク！』での「昭和

くても、ゴールデンでやりたいってだけで
すね。

からプロレスは好きだったんですよ。タ
イガーマスク世代ですし、全日本や『世界



元『ワールドプロレスリング』担当の 売れっ子プロデューサーが語る

プロレスとバラエティ

Professional Wrestling
Variety Program



テレビ朝日編成制作局 演出・プロデューサー

加地倫三

今回、約7年ぶりの“プロレス”ゴールデンタイム放送の仕掛人は、過去に『ワールドプロレスリング』のディレクターを務めていたこともあるテレ朝の加地倫三氏なのだ。現在は売れっ子プロデューサーとして『アメトーーク!』や『ロンドンハーツ』など多くの人気番組を抱える加地氏に“プロレスとバラエティ”というテーマで話を聞いてみました!

聞き手／阿修羅チョロ　写真協力／テレビ朝日

プロレスでいろいろと勉強させてもらったので、何か恩返しができれば

――今回、ひさびさに〝プロレス〟がゴールデンタイムに進出すると聞いて話を聞きに来ました！

加地　まあ、そうなるんですかね？（笑）。

――プロレスとしては約7年ぶりのゴールデン進出だということで。7年前というとフジテレビでやった『WRESTLE−1』以来ってことですよね。たしかキャッチコピーは「ボブ・サップのプロレスエンターテインメント」だったような（笑）。

加地　ありましたねぇ。テレ朝でも、橋本（真也）さんの即引退スペシャルのあとにサップを使って一回やってるんですよ。

――あ、東京ドームでやったサップvs中西学ですね。

加地　そうですね。当時のサップブームは凄かったですもんね。

――確かに凄かったです。残念ながら過去形になっちゃいますけど（笑）。

加地　でも、サップ以来そういうレスラーは出てきてないですよね、残念ながら。

――そうですね。橋本さんの即引退スペシャルには加地さんもおもいっきり関わっていたみたいですけど。

加地　オフィシャル的には関わってないんですけど、こっそりと裏で番組制作に関わっていたというか。

――そんなこんなで7年ぶりにプロレスがゴールデンでやると聞いて、プロレス雑誌としては取り上げるしかないかな、と。ここ数年のマット界の状況を考えると快挙だと思うんですよ。

加地　そう言っていただけるとありがたいです（笑）。

――深夜の『アメトーーク！』での「昭和プロレス芸人」や「俺たちのプロレスオールスター戦」が好評だったので、ゴールデンでもイケるという手応えがあったってことなんでしょうか？

加地　いやいや、正直、自信はないですよ（苦笑）。

――自信はない（笑）。

加地　全然自信はないですけど、結果が悪くても、ゴールデンでやりたいってだけですね。



07年にはケンコバの越中ネタがきっかけで越中ブームを巻き起こした『アメトーーク!』。ケンコバ以外にも、有田哲平、勝俣州和、ユリオカ超特Q、長州小力など"昭和プロレス芸人"は『kamipro』登場経験のある人がほとんど。ダーーッ!

――やりたいと思っても簡単にできるようなものでもないんでしょうけど。

加地　まあ、たまたま『アメトーーク！』が前回のSPで、視聴率がよかったんで、その貯金というか……。

――今回のゴールデンでの『アメトーーク！』は、「俺たちのゴールデンプロレス」「今年が大事芸人2010」「○○じゃない方芸人」の3部構成になるんですよね。

加地　そうですね。でも、メインはプロレスで、オンエア時間は一番長いんですよ。

――それは素晴らしいですねぇ。

加地　3時間の半分近くはプロレスで考えてます。まさに、いまスタジオに出すVTRを編集中なんですけど（笑）。

――でも、自信はないとはいえ、これまでに何度かやったプロレス特集は視聴率もよかったと聞きましたけど。

加地　いや、凄くよかったってことはないんですよ。まあ、『アメトーーク！』自体がおかげさまで数字がいいんで、そういう中でいうと、このあいだプロレスで2週やって、2週目はけっこうよかったですけど、1週目はそんなによくなかったんですよ。

――そうでしたか。芸人さんでプロレス好きはたくさんいますけど、加地さんも基本的にはプロレス好きなんですか？

加地　好きですよ。僕はもともと『ワールドプロレスリング』のディレクターなので。プロレス上がりです。

――いまは『アメトーーク！』や『ロンドンハーツ』といった人気番組の演出・プロデューサーとして活躍中の加地さんですが、テレ朝入社直後は『ワールドプロレスリング』も担当していたんですよね。

加地　そうですね。でも仕事で関わる前からプロレスは好きだったんですよ。タイガーマスク世代ですし、全日本や『世界のプロレス』とかも好きで観てました。

――『世界のプロレス』も観てましたか（笑）。

加地　『週プロ』とか、昔の『kami-pro』とかも読んだりしてましたし。プロレスごっこもいつもやってましたね。

――『ワールドプロレスリング』はどれぐらいの時期にやられていたんですか？

加地　僕は92年から94年までなんですけど、ちょうど、反選手会同盟から平成維震軍のときで。猪木さんが天龍さんとやってオンエアできなかったり、橋本さんがIWGPで防衛しまくってた頃ですね。

――まだドームとかも超満員になってた頃ですね。

加地　そうですね。ギリギリよかった時期かもしれませんね。

――いまは売れっ子プロデューサーとしてバラエティ番組を中心に活躍されていますが、プロレス時代に培った手法がいろいろと参考になっているみたいですね。

加地　そうですね。テレ朝に入ってからスポーツニュースとかちょこちょことやりましたけど、ディレクターデビューがプロレスだったんで、いろんなことが勉強になりました。そういう意味では、プロレスにお世話になったっていう気持ちもあるんで、プロレスに対する恩返しみたいなことができればなっていうのはありますね。

――なるほど。

加地　当時付き合いのあった若手プロレスラーも、いまはみんなトップで活躍してますからね。

――仲がよかった選手というと誰になるんですか？

加地　そうですね。一番仲がよかったのは、ヤングライオンと当時言われていた中

西、永田、天山、小島、大谷の世代が同世代なんですね。永田裕志と僕は同い年なんで、よく飲んだりしてましたし。

――そうなんですか（笑）。

加地　橋本さんは当時チャンピオンだったんで、いろいろ話もしましたし、自宅にもお邪魔したり、ＺＥＲＯ－ＯＮＥにも本気で誘われました。「テレ朝辞めてウチに来い」って（笑）。

――さすが破壊王ですね（笑）。

加地　健介さんもこの前、庄司（智春）とミキティ（藤本美貴）の披露宴で会いましたけど、健介さんや武藤さん、蝶野さんにもよくしてもらってましたし。そういう意味でも、何かプロレスに対して自分ができることがあればなぁっていうのは思っていて。ただ、ここ数年、僕自身もプロレスから離れていたんですよ。

――それは仕事としてだけではなく、プライベートでもって感じですか？

加地　そうですね。まあ、大きな情報は当然入ってきますけど、スポーツ新聞で目を通したりするぐらいで、そんなに観てなかったんですよ。でも、番組とかでプロレスに触れたりとかすると、「やっぱ、いいな。この感じがいまの自分の生活のリズムにないのって寂しいな」って思って。昔って月に一回とか、月に二回ぐらい凄いワクワクする日があって、それって格闘技だったりプロレスだったりして。「次、誰と誰、どっちが勝つんだろう？」みたいな（笑）。

――わかります。

加地　そのワクワク感みたいなのが最近ないなぁって思って。それってもしかしたら国民全体のことなのかなぁって。凄くカッコいい言い方をすると、プロレス界が盛り上がると世の中はもっと明るくなるんじゃないかなって（笑）。

――力道山の街頭テレビ時代のように？

加地　そこまでいかなくても、プロレスや格闘技って、国を元気にするっていうか、人の心を元気にするようなところがあると思うんで。他局ですけど、亀田vs内藤戦なんかもそうだと思いますし。

――亀田vs内藤戦は平均視聴率43パーセントも獲りましたからね。

加地　僕らも番組の収録の合間に食い入るように観てましたからね（笑）。さすがに亀田vs内藤までとはいかないまでも、『アメトーーク！』でもプロレスを題材にして、そういった気持ちにさせられたらいいなって理想はありますね。

――プロレス界的には、越中さんがブレイクしたのは『アメトーーク！』がきっかけですし、十二分に恩返しができていると思うんですけど。

加地　ありがとうございます。『ｋａｍｉｐｒｏ』さんでもケンコバとの対談をやっていただきましたしね。今回もケンコバとかに「ゴールデンでプロレス芸人やるよ」って言ったら、みんなノリノリで、「プロレス界のためだったら、自分もなんでもしますよ」って熱くなってましたよ。

今度の昭和プロレス芸人
注目はサムライと大谷だって!!



今回の『アメトーーク!』ではZERO1代表の大谷晋二郎がライフワークにしている、ある行動に密着。"昭和プロレス芸人"にかぎらず、これまでの『アメトーーク!』では、あまり観られなかった笑いなしの感動ドキュメントとなってます。必見!



コブラ、ストロングマシンに続き、くりぃむしちゅー・有田が自信を持って紹介する"切ないマスクマン"はエル・サムライ。秘蔵映像も交え、これまでのサムライのレスラー人生をおもしろおかしく振り返っている。サムライのブレークはあるか!?

estling Variety Program

――みんな熱いですねぇ。

加地　個人的にはＰＲＩＤＥとかも好きで観てましたけど、『アメトーーク！』を通じてやっぱりプロレスに少しでも興味を持ってもらいたいっていうのがあるんですよ。だって、年末の『Ｄｙｎａｍｉｔｅ!!』はほっといても盛り上がるじゃないですか（笑）。

――まあでも、「昭和プロレス芸人」もウチの読者だったら、ほっといてもみんな観てくれると思いますけど（笑）。

加地　そうだったらいいんですけどね（笑）。

――視聴率的には自信がないということでしたが、クオリティ的には当然自信はあるんですよね？

加地　そうですね。内容はおもしろいと思います。でも、逆に楽しみですね。どれぐらい数字を獲れるか。

――目標は何パーセントぐらいですか？

加地　「家電芸人」みたいな数字にはならないのはたしかで、たぶん、そこそこなんじゃないかな。具体的に何パーセントとか、目標っていうのは考えてないですね。ホント、ただやりたいってだけなんで。

――なるほど（笑）。

加地　目標も何もないから、「どうなんだろうなぁ」って。凄い無責任なんですけど、数字を見るのが楽しみです。よくても「なるほど」、悪くても、そこそこでも「あ～、そういう感じなんだ」って。ちょっと無責任すぎますかね（笑）。

――いえいえ。

加地　たぶん、プロレスを好きだったりとか、昔、プロレスを好きだった人とかが観てくれたら、喜んでもらったり、評価してもらったりするのは間違いないだろうなぁっていう自信はありますね。番組がきっかけで「またプロレス観ようかな」ってなってくれればいいですね。

――今回、プロレスを題材にしてゴールデンに進出するわけですが、加地さんの立場から見て、いまのプロレスの可能性ってどう思われます？

加地　それは難しい質問ですね。

――過去に『ワールドプロレスリング』に関わっていた人間として、あまり悪くは言えないとは思いますけど（笑）。

加地　いろいろ暴露本なんかで悪く書かれて、プロレスを観なくなった人が多いと思うんですけど、この前、大谷晋二郎のロケに行ったときに、プロレスを何も知らない子どもたちが純粋にプロレスを観てたんですよね。

――ゴールデンの特番で大谷さんの特集もあるみたいですね。『アメトーーク！』らしからぬ感動的な内容で（笑）。

加地　内容に関しては番組で確認していただければと思うんですけど（笑）、そのときの子どもたちがプロレスを観てる感じが、僕らが昔、プロレスを金曜8時に観てたときと同じような感覚だと思ったんですよ。だから、次世代が観るようになったら、またちょっとプロレスも変わってくるのかなって。最近の新日本やドラゴンゲートとかは若いコがけっこういっぱい会場に来てるっていうじゃないですか。

――ドラゲーとかは若いコがホントに多いですからね。

加地　そのコたちって自分たちの頃とはまた違う見方をしてるような気がするんで。なので、そういう若いファンだったり、昔、観てた人たちも一周して戻ってきたらいいなとは思うんですけどね。……でも、

プロレスの可能性と言われると、どう言えばいいんでしょう？　ちょっと難しい質問ですね。

——失礼しました（笑）。でも、『アメトーーク！』のプロレス特集って、プロレスから離れた人でも充分楽しめるでしょうし、知らない人も「なんだかおもしろそう」っていうのは伝わると思うんですよね。

加地　そう思っていただけるとありがたいんですけど、僕たちがバラエティでいじれるレベルっていうのは限度があって。やっぱり、最近のプロレスの話題ってなかなか取り上げられないじゃないですか。

——まあ、そうでしょうね。

加地　そう意味では、いまバリバリの現役レスラーからスターが出てくることが最善策でしょうね。プロレスにかぎらず、どの業種も結局は人材次第じゃないですか。ゴルフだって石川遼くんが出てきて盛り上がってるし。女子ゴルフもそうだし。

——確かに。

加地　ニワトリと卵、どっちが先かじゃないですけど、業界が盛り上がって新しいコたちが入りたいって思うからスターが出やすいのか、新しいスターができるから業界が盛り上がるのか、どっちかわかんないですけど、とにかくスター選手が出てきてほしいですよね。……っていうことぐらいしか言えないです。新日本でも真壁（刀義）選手とか、いい選手出てきてるんで、どうやってそれらの逸材を本当の意味でのスターにするかってのも重要なのかもしれないですね。

フリがあってオチがある。お笑いとプロレスは一緒だと思います

——いまは『ワールドプロレスリング』とは全然接点がない感じなんですか？

加地　接点はないですね。部署がまったく違うんで。『ワールドプロレスリング』も1時間にしてほしいですけどね。

——いまは深夜で30分枠ですからね。

加地　30分じゃ何もできないですから。プロレスを30分にするっていうことは、「もうやめろ」って言ってるのと同じことですからね。

——毎回、改編のたびに「打ち切りか？」なんて話題も出てますし。



かじ・りんぞう■1969年3月13日、千葉県出身。上智大学卒業後、92年テレビ朝日に入社。スポーツ局時代は『ワールドプロレスリング』のディレクターとして活躍。制作局に異動後は『アメトーーク!』や『ロンドンハーツ』をはじめ人気番組を多数担当している。

加地　いま作ってるスタッフは大変だと思います。やっぱり、僕はプロレスって入場シーンが大事だと思うんですよ。

——大事ですよね。

加地　そう思うんですけど、いまは入場シーンが使われないじゃないですか。放送時間が短いから、必然的にそうなってはいますよね。でもあれがよくないですよ。

Professional Wrestlin

——同感です。

加地　芸人さんとかもみんな言ってますけど。僕がプロレスやってたときは入場は絶対使ってたんですよ（キッパリ）。

——試合を多少カットしてでも入場は使っていた、と？

加地　そうですね。東京ドームとかでやると、入場は二人で7分ぐらいかかるんですよね。それも全部使ってましたから。

——入場ってある意味、試合よりも重要だったりしますからね。

加地　そうなんですよ。それに入場って、じつは大事なフリの実況を言ってたりするじゃないですか。その盛り上がっていくところをなしにスパンって始まっちゃうと、気持ちが持っていけないままになっちゃうというか。バラエティの収録で言うと前説がないまま本番が始まる、みたいな。急にスタジオにポンって入れられて芸人さんが出てきても、やっぱりみんな盛り上がれないですからね。

——そうですよね。

加地　そのための大事なストロークっていうか。どうしても、オンエア時間が短いとそうなっちゃうっていうのもわかるんですけどね。試合後のインタビューとかも使いたいでしょうし。

——『アメトーーク！』のプロレス特集ではよく使われてますけど、試合後もけっこうお宝映像はありますからね（笑）。

加地　そうなんですよ。それが次のフリだったりとかするんで。そのへんはお笑いとプロレスは一緒だと思うんでね。フリがあってオチがあるっていう。さらにストーリーが生まれたり。

——共通点は多いですよね。では最後に、何か『kami-pro』読者にメッセージでもあれば。

加地　番組を観てくださいっていうのはもちろんなんですけど、『アメトーーク！』の新作DVDも1月27日に発売されるんで、こちらに前回の「俺たちのプロレスオールスター戦」が収録されてますので、よろしくお願いします。それと、スペシャルは1月7日に放送しますけど、1月4日には新日本のドーム大会もあって、いま新日本・全日本・ZERO1と『アメトーーク！』とのコラボTシャツを作っています。

——あ、そうなんですか。1月にいろいろと集中してるんですね。

加地　そういう意味でも、1月はいい感じにプロレスを盛り上げて、うまく『アメトーーク！』のファンがプロレスに流れていき、逆にプロレスファンが『アメトーーク！』に流れてくれればいいなとは思ってますね。

——これからもプロレスをよろしくお願いします！

【09年12月3日／都内・某所にて収録】

選手&スタッフが大量離脱!『ハッスル・マニア2009』も正式に中止!!

「次にお目にかかれる日はくるのでしょうか?」



まさに尻に火がつく追撃特集

『ハッスル』瀬戸際のバックファイヤー

消滅危機がささやかれ、前号で緊急特集したばかりの『ハッスル』にさらなる追い打ちが!
なんと、選手やスタッフが新イベント『SMASH(スマッシュ)』の旗揚げを発表!
さらには正式に『ハッスル・マニア2009』の開催中止も決定……。
はたしてファイティング・オペラはこのまま時代の徒花になってしまうのか!?
と、とりあえずお約束なんでやっぱりいきますか〜? 3、2、1、ハッスル! ハッスル!!

10月28日、前代未聞の大会前日で

と思います。

いけば、と。興行スタイルを変える必

のことをどこまで考えていたかとい

スルーサイドには伝わらなかったです



新宿から
世界に向けて
『スマッシュ』
発進!

元・最高顧問がファイティング・オペラのズンドコ劇を激語り!

「『ハッスル』には新たな価値を生もうとする動きがなかったと思います」



『スマッシュ』代表

酒井正和

3、2、1、スマッシュ!　スマッシュ!!　ということで、元『ハッスル』最高顧問だった酒井氏が、そこから分裂するかたちで新たなプロレス・格闘技イベント『SMASH』の旗揚げを発表! いったい舞台裏で何があったのか、その真相を解き明かす!!

聞き手／坂井ノブ　試合写真／平工幸雄

10月28日、前代未聞の大会前日での中止会見を行なった『ハッスル』。それから11日後、『ハッスル』最高顧問の酒井正和氏が会見を実施した。

苦境に陥った『ハッスル』を新体制で支えると表明していた酒井氏だったが、この会見では「山口（日昇）社長と協議の結果、『ハッスル』のコンテンツを活かした運営は困難」と判断し、最高顧問の辞任を発表。

そしてこの会見には酒井氏とともに『ハッスル』の元所属選手であるTAJIRI、小路晃、大原はじめ、KGあらため朱里、そして島田裕二氏が出席し、彼らを所属選手とする新団体『スマッシュ』の旗揚げを合わせて発表した。

同団体はTAJIRIが統括するプロレス部門（『スマッシュ2010』※仮称）、小路が統括する総合格闘技部門（『スマッシュ・ファイトクラブ』※仮称）、さらにキックボクシング部門（『スマッシュ・グランプリ』※仮称）を三本柱として、2010年3月26日新宿FACE大会（プロレス）で旗揚げする。格闘技部門に関しては4～5月に開催する予定。

『ハッスル』から分裂するようなかたちで誕生した『スマッシュ』。今回の発表にいたるまでには何があったのか？　そして新イベントの目指すものとは――？

「いいかげんにしろ！」という本音が『ハッスル』には伝わらなかったです

――今回は『スマッシュ』旗揚げに至った経緯を中心に、お話を聞きたいと思います。

酒井　よろしくお願いします。

――そもそも『ハッスル』と袂を分かった理由というと？

酒井　まず、『ハッスル』はメガイベントですし、スポンサーがあってこそ成り立つものでした。でも、大きいスポンサーが離れたことで急激に経営が悪化してしまった。私が代表を務める「クォンタム・ジャンプ・ジャパン」は動産コンサルティング会社なんですけど、コンサルタントの立場から見ても、『ハッスル』はスポンサーありきじゃなく、選手の価値で観客を集められるような新体制に移行する必要があったと思うんです。そもそも、私は『ハッスル』の最高顧問に就任した当初から500～1000人クラスのハコで団体運営ができるような体制の整備を考えたんです。

――要はいまの『ハッスル』の身の丈に合った経営ですね。

酒井　はい。そうすることでファンとの距離が近くなれば、必然的にチケットも売れていくでしょうし、地域との結びつきが強いJリーグのサッカーチームのようかたちになっていけば、と。興行スタイルを変える必要があることは、山口社長にも提言しましたしね。

――でも、山口社長とは相容れなかった、と？

酒井　そうですね、溝が埋まらなかったというか。それに12月の両国大会開催についても、いつまでもファンを放置しているような状態だったので、今回の『スマッシュ』の旗揚げ発表に至ったというわけです。



ストーリー上だけでなく、高田純次もビックリのリアル"平成の無責任男"だったとささやかれている山口社長。最高顧問に就任する前から「ハッスル」をバックアップしてきた酒井氏だったが、さすがにこれ以上ビジネスを続けるのは難しいと判断せざるをえなかったようだ。

――溝が埋まらないというのは、『ハッスル』サイドはいまだメガイベント方式を模索している、と？

酒井　そういうことですね。でもそのやり方だと、たとえチケットが完売したとしても収支が合わないんですよ。やはり会場の演出費用や出演者のギャラなど、必要なお金は莫大なわけで。それと、『ハッスル』が先々のことをどこまで考えていたかというのも疑問ですね。

――と、言いますと？

酒井　『ハッスル』のブランドの効力という点では、小川直也さんの『ハッスル』ポーズの普及活動や、和泉元彌さんが参戦して世間を巻き込んだ04年～06年くらいがピークだったと思うんです。でも、ここ最近は実際にチケットが売れなくなってきた。そういうブランド力の低下をジャッジして、次の価値を生もうとする動きが『ハッスル』の中になかったと思うんです。ですから『ハッスル』の信用を復活させるには、凄い時間がかかると思いますね。

――結果的に今回『ハッスル』という名前からは決別したかたちになりましたけど、酒井社長はその看板にこだわりたい部分はありましたか？

酒井　そうですね。ここ最近の『ハッスル』は暗いニュースが多かったので、そのブランドを復活させたいと思ってましたし。やっぱり『ハッスル』って、言葉の響きはいいじゃないですか？　いまどこも不景気な中で元気を与えるフレーズというか。だからその名前でやっていきたかったっていうのは本音ではありますよね。

――酒井社長は今年の夏にリング上から「『ハッスル』はマンネリ化したストーリー、山口社長の放漫経営による経営の悪化が顕著です」ってバッサリ斬り捨ててましたよね（笑）。

酒井　いや、本当に社内の組織体制が放漫経営でしたから（笑）。あの発言はギミックでもなんでもなく「いいかげんにしろよ！」という本音なんですよ。でも、そういう部分が『ハッスル』サイドには伝わらなかったですね。

――結果として10月29日の後楽園大会が開催前日に中止という前代未聞の事態になってしまって。

酒井　そもそも『ハッスル・ジハード』も舞台裏では「本当に開催できるのか？」という部分はあったんですよ。あれは8月には座組みをしないといけないイベントなのに、ちょうどその時期に資金面で想像を超えた難題が出てきて。そうなれば、当然後楽園でやるのだって厳しいですよね。

――そんな状況だったんですね。

酒井　結局、このまま無理矢理にイベントを続けてもファンを裏切るかたちになると思ったので、私のほうからも『ハッスル』サイドに「大会は中止し、ファンに対してチケット代を払い戻したほうがいい」とアドバイスして。

――抱えてる問題を無視すれば突っ走れるかもしれないですが、そういうもんじゃないだろう、と？

酒井　そうですね。結局は傷口が広がっていくというか（笑）。あとは選手側に不信感も生まれてましたし。選手はホントに大変だと思いましたね。大会をやるかわからない状態で待ってるというのが一番つらいことだと思うんですよ。

――複雑な心理状態ですよね。

酒井　みんな多くは語らなかったですけど、僕はそれを早く改善したいなと思いました。

――そして、『スマッシュ』をやろうと決意した時期は？

酒井　11月上旬ですね。

――当初、10月28日に山口社長が年

内4大会の中止を発表した会見の際に、酒井さんも同席して新体制についてコメントするという話でしたが、出席したのは山口社長一人でした。あの時点から食い違いが？

酒井　もともと僕は出ないという話だったんですよ。その発表は山口社長の考えであって、私のほうからはべつに何かコメントをすることは考えてなかった。でも、その裏では新体制をどうやって整備していくかということはギリギリまで調整してましたよ。で、11月の頭には「『ハッスル』ではなく、新ブランドの立ち上げを考えている」と山口社長にも報告して。

――それを聞いたときに山口社長はどんな反応でした？

酒井　なぜか笑ってましたね（笑）。

――それはどういう心境で笑ってるのか興味深いです（笑）。

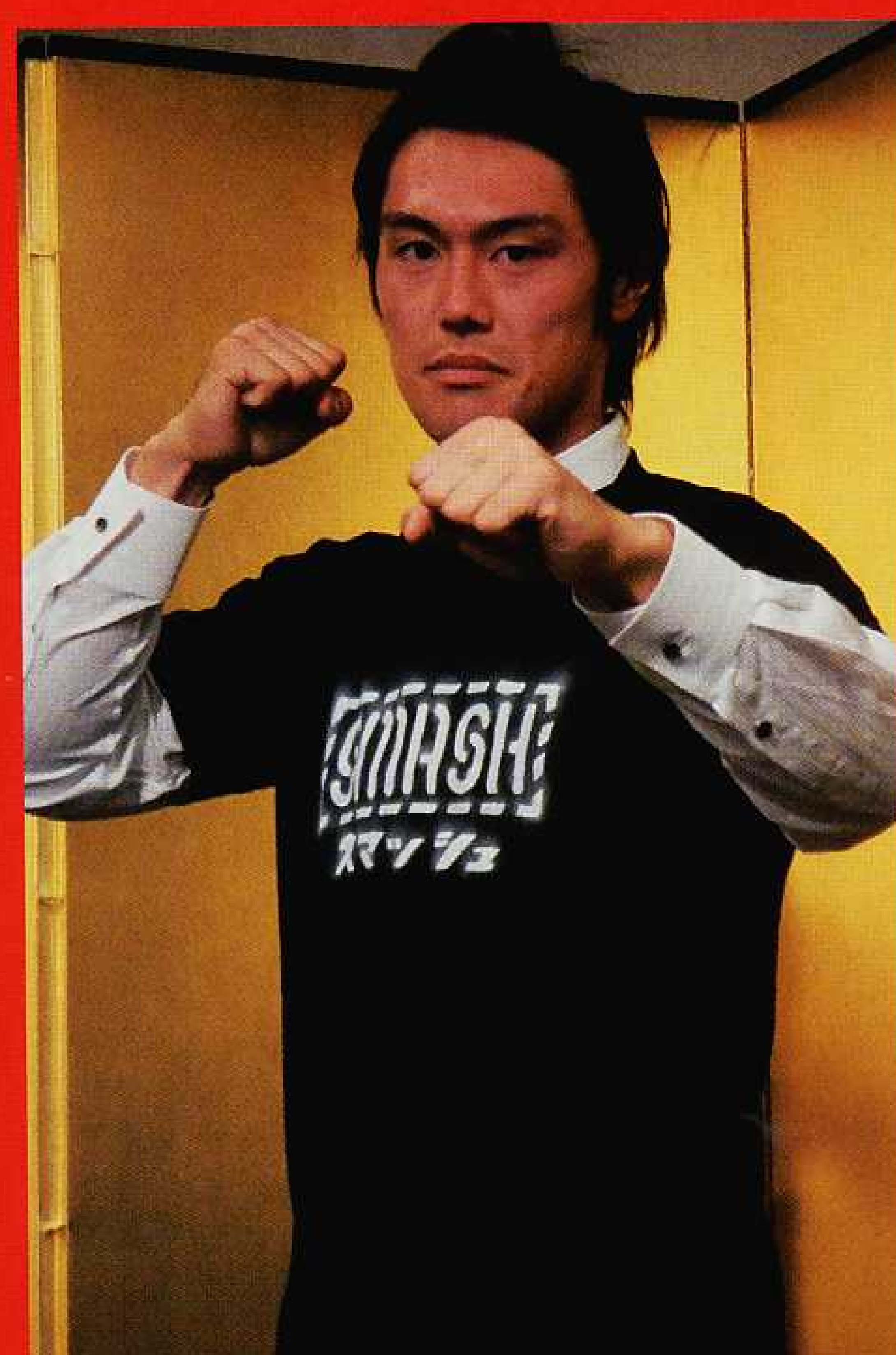
酒井　なんにしろ、『スマッシュ』は、いわゆるファイティング・オペラみたいなものにすることはまったく考えてないです。もともと僕が『ハッスル』を続けてたとしても、ああいったストーリー仕立ての部分はなくすつもりでいたんで。

――『ハッスル』の胆であったスキットの利用やマイクのやりとりという部分は必要ない、と？

酒井　もちろん、プロレスを初めて観る人にもわかりやすいように、選手紹介なんかの煽りVは導入しますよ。ただ、ハッスル軍vsモンスター軍のような展開というのは考えてないですね。ストーリーが先行すると、そこに縛られる部分も大きいと思いますし。『スマッシュ』は、プロレス・格闘技と音楽やダンスの融合を考えています。「スマッシュ×音楽」なんておもしろいと思いませんか？

――なるほど。

酒井　『スマッシュ』は従来のプロレスファンだけじゃなく、格闘技ファンや野球ファン、音楽ファンとか、ジャンル問わずでいろんな人が興味を持つようなものにしたいと考えてるんですが、そのあたりの見せ方としてはTAJIRI選手に期待する部分が大きいですね。彼には「そういう理念だったらついていきます」ということで参加していただいたので。



酒井氏イチ押しの元横浜ベイスターズの古木克明。今シリーズの終了後、トライアウトを2回受けたが声はかからず野球の道には一区切り。会見では「野球界への未練や後悔はありません。日本や世界を代表する格闘家としてやっていきたいと思います」と力強く宣言。

――『スマッシュ』では格闘技部門とキック部門も併設されるわけですが、3月26日の旗揚げ戦はプロレスなんですよね？

酒井　はい。これはもうTAJIRIワールド全開になると思います！　あの、TAJIRIのファンって凄く多いんですよ。なんでかというと、それはTAJIRIがファンのことを絶えず考えているからで。そこが『ハッスル』には欠けていた部分なんです。たとえばミュージシャンだったらファンクラブがあったりしますよね？　でも『ハッスル』の周りにはとくにそういったものがなかった。Jリーグもそうですけど、固定ファンがいてこそ選手は一生懸命闘うわけですから、そういった相互関係を作っていかないといけない。TAJIRIはそこをしっかり築いているので、あとはおまかせしてよけいな口はさまないつもりです。

――今回、ほかに参加メンバーとして大原はじめ選手とKGあらため朱里選手、それに小路見選手が発表されましたけど、これは酒井さんが声をかけて？

酒井　はい。まず、鍵になる人を集めたと思ってください。格闘技の小路には、PRIDE時代から培ったノウハウを活かしてほしいです。小路は、若手選手の育成に力を入れているじゃないですか。朱里も小路のもと猛練習しています。現在朱里は、総合格闘技デビューに向けて頑張っていますが、必ず勝つと思いますよ。朱里はスター性がありますからね。『スマッシュ』のコンセプトに合っています。また、大原についても同様に、TAJIRIの教育を受け、日々トレーニングを積んでいます。NWAインターナショナル・ジュニアヘビー級を5度防衛した元チャンピオンですが、ビジュアルは〝EXILE〟みたいなので、女の子にも受けますよ（笑）。最後に、今回『スマッシュ』に参加することになった古木克明（元横浜ベイスターズ）については、小路の指導のもと世界に通用する選手に育成していきたいです。私は古木をスターにする気でいます。K−1でいう魔裟斗にしたいんです。

山口社長に新ブランドの立ち上げを報告したらなぜか笑ってました（笑）

――ま、魔裟斗ですか！

酒井　はい。『スマッシュ』は若者であったり、第二の人生を考えてる人であったり、いろんなものを背負った人たちが勝負をかける場だと思うんですよ。それを真剣に『スマッシュ』でマネージメントしていく、と。ですから、新宿FACEでファンをつかんでいって、いずれ総合でいえばDEEP、そしてDREAMやUFCといった大舞台に巣立っていくという流れを、これから作れるように仕掛けていきたいですね。

――『スマッシュ』は入り口じゃなく出口も考えている、と。

酒井　やっぱり目指すは〝新宿発世界〟ですから！（キッパリ）。ウチには世界を知っているTAJIRIや小路、島田裕二がいますからね。ほかにそういう団体はないんじゃないですか？　まさにウチのコンセプトである〝世界に通用する選手育成を目指したコンテンツ〟作りですよね。

――な、なるほど。ちなみに道場を作る予定は？

酒井　それはもちろん。やっぱり強い選手を作るには道場がないとダメですよ。選手が相撲部屋のように住み込みで練習できる環境整備を考えてます。おそらく来年の早い段階には作る予定です。

――ちなみに場所の候補は？

酒井　新宿です。

――新宿に！

酒井　はい、そこがホームグラウンドなんで。新宿はメガステーションで、いろんな人が集まってくる情報発信の場です。でも、最近は新宿もコマ劇場がなくなったりと、少し落ち着いた



『ハッスル・ジハード』ではリング上から12.25『ハッスル・マニア』の開催を宣言、そしてハッスルポーズを決めた酒井氏だったが……。

風景になってきてるんで、ウチらが何か刺激を与えられたらいいなと思っ

明なんかは総合一本で育てていきたいなとは思ってます。

るので、あとは技術や精神的な部分を育てて、いずれは大舞台に出して

酒井　やっぱりイベントの主催側として、おもてなしをちゃんとして「よ

いなとは思いますね。目指すは世界ですから！

古木選手はいずれ青木真也選手と闘わせたいなって思いますね

風景になってきてるんで、ウチらが何か刺激を与えられたらいいなと思ってるんです。ただ、他の地域でも『スマッシュ』みたいなものをやれないかという声があれば、地方に進出することも視野に入れてますよ。

——あと、『ハッスル』で活躍していた天龍源一郎さんや川田利明さん、他団体の選手に声をかけることは考えてますか?

酒井　あの、私はプロレスラーをすべてリスペクトしています。なので、もちろんTAJIRIと相談してオファーをしていきたいですし、出ていただければ嬉しいことです。ゆくゆくは『ハッスル』vs『スマッシュ』という抗争も実現するかもしれないですしね。

——『ハッスル』vs『スマッシュ』!?

酒井　はい。そのためにも『ハッスル』には『ハッスル』で頑張ってほしいですね。まぁ、ファンの声があれば対抗戦や選手の貸し借りがあってもいいと思ってます。それは『ハッスル』にかぎらず、新日でも全日でも、ノアでもどこでも。

——たとえば、選手によっては『スマッシュ』でプロレスと総合、両方やる選手も出てくるんでしょうか?

酒井　とくには考えてないですね。でも、僕はプロレスラーには強さを証明したいという部分が根っこにあると思うんですよ。そういう意味では「プロレスだけに専念しろ」というのはまったくないです。でも、古木克明なんかは総合一本で育てていきたいなとは思ってます。

——そもそも古木選手とはどういうかたちでお知り合いに?

酒井　もともと僕が横浜ベイスターズと交流があったんですよ。その中で古木選手ともゴルフを一緒にやったことがあったんですけど、彼のブルース・リーみたいな身体つきを見て「これは格闘技やったらおもしろいな。イケメンだし人気も出るな」ってずっと思ってたんですね。で、今年に入って彼も球団のトライアウトを受けたりと紆余曲折があったので、こちらからも真剣にオファーしようと思って、大阪まで飛んで話をした、と。ちょうどお互いのタイミングが合致して、今回の発表につながったという感じですね。

——もともと古木選手はプロレス・格闘技がお好きみたいですね。

酒井　そうですね。しかし、ホント、体力とかハンパじゃないですよ！　旗揚げ会見前日に小路とのトレーニングを見たんですけど、練習初日にもかかわらず3時間くらいぶっ通しでやってましたからね。

——さすが元プロ野球選手というか。

酒井　小路もビックリしてましたから。基礎体力的な部分は完成されてるので、あとは技術や精神的な部分を育てて、いずれは大舞台に出してあげたいですね。彼はそういう逸材だと思いますし、これから『スマッシュ』のエースということで引っぱっていってもらいたいです。

——マスコミの取り上げ方も大きかったですよね。

酒井　ねぇ！　タイガー・ウッズの愛人騒動がなければもっと取り上げられてたと思いますけど（笑）。

——やっぱり、他ジャンルで活躍した選手で注目を集めるという部分では、『ハッスル』のノウハウを吸収したところも?

酒井　そうですね。ですから、これからも個人的にはメディアさんとどんどん向き合っていきたいと思ってるんですよ。僕なんかがよく記者会見を見て思うのは、報道陣の方にはせっかく来ていただいてるわけですから、お茶菓子くらいは出したいな、と（真顔で）。

——そんな心配りまで（笑）。



さかい・まさかず■1966年5月17日生まれ。クォンタム・ジャンプ・ジャパン株式会社代表取締役。今年8月に『ハッスル』最高顧問に就任するも、11月に辞任。そして『SMASH』旗揚げを発表した。ブログ『スマッシュの挑戦』http://ameblo.jp/smashxsmash/

酒井　やっぱりイベントの主催側として、おもてなしをちゃんとして「よろしくお願いします！」という立場じゃないといけないと思うんですね。だから私は取材オファーがあればドンドン出ていく心づもりですよ！　ギリギリまでしゃべります（笑）。

——いま、FEGの谷川イベントプロデューサーもツイッターをうまく利用して情報発信してますし。

酒井　あ、私もブログを作ったんですよ。これはぜひ宣伝してください！　ここから古木選手の練習風景だったり、いろんな情報をお届けしていきたいと思ってるので。

——ちなみに酒井社長はほかの総合のイベントなどもご覧になってるんですか?

酒井　もちろんです。やっぱり日本にも青木真也選手をはじめ、素晴らしい選手が多いので、古木選手ともいずれ闘わせたいなって純粋に思いますよね。僕なんか一人のファンとして見たら、たとえば古木選手がヴァンダレイ・シウバと闘ったらどうなるんだろうとかね。

——壮大なスケールで考えてますねぇ。

酒井　日本でいえば石井慧選手とか。

——デビュー前からそこまで見据えているわけですね。

酒井　やっぱり話題性のある選手同士がぶつかればファンも喜ぶと思いますし。私、中国にも仕事なんかで行くんですけど、あっちには日本で無名であっても魅力的な格闘家が多いんですよね。昔のPRIDEを彷彿させる荒々しい感じの選手というか。そういうところとも交流していきたいなとは思いますね。目指すは世界ですから！

——海外も視野に入れている、と。では最後に『スマッシュ』の今後の展望や理想をお聞きしたいんですが?

酒井　やっぱり所属選手には世界一を目指してほしいですよ。所属選手が世界に飛び出して活躍すれば、会社規模の大小は関係ないと思ってるんです。まぁ、とりあえず来年は新宿に根づくようにコツコツとやっていきたいと思います。それから古木選手のような有望株もいるわけですし、大舞台への道を作ってあげたいですね。プロレスに関してもTAJIRIのもと、選手が世界に飛び立てるような土台作りを考えて。

——ちなみにプロレスには古木選手のようなエース候補生はいますか?

酒井　……これはまだ内緒ですけど、すでに某一流アスリートにオファーを出してます！

——もう動かれてるわけですね！

酒井　これからメディアをにぎやかせていきますよ。まぁ、今後を楽しみにしてください（ニヤリ）。

——なるほど。今後の『スマッシュ』の展開に期待してます！

【09年12月9日／都内某所にて収録】

『スマッシュ』旗揚げ興行
東京・新宿FACE
2010年3月26日（金）

お問い合わせ
クォンタム・ジャンプ・ジャパン株式会社
TEL.03-5339-9190
オフィシャルHP
http://www.smashxsmash.jp/

――朱里さん、お疲れさまでした！ 今回は『ハッスル』を経ての格闘技デビュー

んですね。で、入場曲は『美少女戦士セーラームーン』を使うことに決めてたんで、

『ハッスル』育ちの原石がジュエルスの舞台でキラリ☆



——朱里さん、お疲れさまでした！　今回は『ハッスル』を経ての格闘技デビュー戦ということで注目が集まりましたけど、フタを開ければ見事な勝利で。

朱里　ありがとうございます！　あ、すいませんでした、取材お待たせしちゃって（インタビューは大会当日に収録）。

——いえいえ。撤収時間で場内の明かりが暗くなっても、最後までサインや記念撮影に応じる朱里さんはプロの鑑だと思いました（笑）。

朱里　やっぱり観に来てくれたファンの方には、感謝の気持ちを直接伝えたかったですし。『ハッスル』のときから応援してくれてる方もたくさんいたので、凄くうれしかったですね……（シミジミと）。

——なんでも今回はかなりチケットを手売りしたって聞いたんですけど？

朱里　そうですね、たぶん……80枚以上は。

——じゃあ単純計算すると、今日の来場者の少なくても10人に一人は朱里さんからチケットを買ってるってことですよね？　凄いな～。

朱里　それだけの方が応援してくれるわけですから、へんな試合はできないなって思いましたね。でもやっぱりデビュー戦で、しかもセミファイナルだったんで、ちょっと緊張しちゃったところはありましたけど。

——あ、そうですか？　入場時にセーラー服のコスプレで踊りながらポーズを決めたりして、全然そうは見えなかったですよ（笑）。

朱里　う～ん、自分の中ではけっこういっぱいいっぱいでした（笑）。

——ちなみに今回はなんでまた唐突にあいう格好を？

朱里　私、もともとアニメソングが好きなんですね。で、入場曲は『美少女戦士セーラームーン』を使うことに決めてたんで、それに合わせてああいうコスプレにしたんですけど……。ダメでした？　へんでした⁉（オドオドしながら）。

——いえいえ。客席も盛り上がってましたし、新たなファン層を開拓したんじゃないでしょうか（笑）。

朱里　それだったらよかったです！　私、もともとコスプレ願望が強いんですよ。だからこれからも入場ではいろんなコスプレをしたいなって思ってます（ニッコリ）。

——さて、試合を振り返りたいんですが、ゴング前にトレーナーの小路晃さんからはどんな言葉をかけられましたか？

朱里　「練習だと思ってやりなさい。いつもやってることを出せば大丈夫だから」ってアドバイスをいただきました。あと、TAJIRIさんからも「頑張れよ」ってエールをいただいて。

——試合の内容自体はどうでした？

朱里　もう、反省点ばっかです！　小路先生は「よかったよ、次またレベルアップして頑張ろう」って言ってくださったんですけど、もっと打ち合うんじゃなくて、距離をとって考えながら闘うべきだったなって。ガードもまだまだ甘い部分があって……。KOで勝つことを考えてたんで前に出るなら出るで、もっと狙ってパンチを繰り出せばよかったなって思います。

——器用に左右のミドルキックを使い分けたり、鋭いハイを繰り出してましたけど、やっぱり小さい頃からやってきた空手の経験が活きましたか？

朱里　そうですね。あとはもともとプロレスをやる前からキックのジムにも通ってたので、そういういままで培ってきたものが少しは出せたのかなって思います。

これからはプロレスと格闘技の両方で頂点目指します！

KGあらため 朱里


女子格デビュー戦で見事に勝利！空手美少女は本当に〝ツヨカワ〟だった!!

『ハッスル』でKGとして人気を博した朱里が"ガチ"のリングへ！ファイティング・オペラで培った勝負度胸を存分に見せて、デビュー戦にもかかわらず文句なしの判定勝ちを収めた。本誌前号の悲しげな表情とは一転、笑顔満載の喜びの声をお届け！

聞き手／鈴木佑　撮影／松山剛史







[12.11女子総合格闘技ジュエルス 6thリング]
東京・新宿FACE
シュートボクシングルール
○朱里 vs ASAKO×
(3R終了 判定3-0)

セーラー服で入場した朱里は、手拍子で観客を煽るなど『ハッスル』仕込みのパフォーマンスを披露。試合でも空手やキックの技術を駆使して一歩も引かず、激しい打撃戦を展開。さらに投げ技とフロントチョークでそれぞれポイントをゲットし、フルマークの判定勝ち！ この日の大会でMVP級の活躍を見せた。

お母さんを「丈夫に産んでくれてありがとう」って安心させたいです

――あとフロントチョークでポイントを取りましたけど、あれは最初から狙って？

朱里 はい。『ハッスル』のときから一緒に練習してる大原（はじめ）くんに、「試合で使えるんじゃない？」って教えてもらって。うまく極まったんでよかったです！

――『ハッスル』といえば、かつての仲間だったRGさんや\(^o^)/チエさんたちも応援に来てましたね。

朱里 はい！ 試合後に「頑張ったね、よかったよ」って言ってもらえたんでうれしかったです。やっぱりずっとお世話になってた方たちなんで、今日の勝利で少しでもお返しできたかなって。一応、RGさんはKGの名づけ親ですし（笑）。

――あ、そういえば、客席に前回のインタビューで朱里さんが真剣勝負での対戦をアピールした風香さんもいましたよ。

朱里 マジですか⁉（驚いた表情で）。……マイクで対戦アピールしたほうがよかったですかね？

――ダハハハ！ やる気マンマンですね（笑）。あと、今回お母さんは応援に来ましたか？

朱里 会場では会えなかったんですけど、たぶん来てたと思います。というか、無理矢理連れてこられたみたいで。

――む、無理矢理？

朱里 あの、今回は格闘技ということで、お母さんは私が顔を殴られたりするのを観るのが怖かったみたいなんですね。『ハッスル』のときはたまに観に来てくれたんですけど……。でも、お母さんの友だちが「娘の試合なんだから観に行かなきゃ！」って連れてきてくれたみたいです。やっぱりお母さんは親一人子一人だからなのか、凄く心配みたいで（苦笑）。

――そりゃ大事な一人娘ですもんね～。

朱里 だから、今日は家に帰ったらお母さんに「とくにケガもないから大丈夫だよ、丈夫に産んでくれてありがとう！」って安心させてあげたいですね。

――エライ！（笑）。さて、今回はシュートボクシングルールだったわけですが、実際にSBのリングに興味は？

朱里 機会があれば上がりたいです。女子だとレーナ選手が注目されてますし、凄い興味ありますね！

――レーナ選手も〝ツヨカワ〟ってことで、けっこうメディアに取り上げられてますしね。今回のジュエルスにはいろんな選手が出場してましたけど、気になった人はいましたか？

朱里 私、女子だけの大会って、もっと控室とかピリピリしたムードなのかなって



閉会式後、朱里のもとにはファンが殺到！ ジュエルスのスーパーバイザーの佐伯繁氏は、「今日は朱里選手に助けられた部分がありましたね。プロレス魂があって入場から違った。また呼びたいです」と絶賛。

『スマッシュ』所属になってましたね（笑）。

朱里 そう……ですね（笑）。これからは『スマッシュ』の朱里として頑張りたいと

るというのは凄くありがたいことだと思いました。

な」って言ってくださって。優しい言葉をかけてもらえてうれしかったですね……

いましたか？

朱里　私、女子だけの大会って、もっと控室とかピリピリしたムードなのかなって思ったんですよ。でも、対戦相手のＡＳＡＫＯさんや石岡（沙織）さん、長野（美香）とか皆さんとてもいい方で、優しく接してくれて。凄くうれしかったですし、なんか新鮮な感じがしました。転校生みたいな気持ちっていうか（笑）。機会があればスパーリングとかぜひお願いしたいなって思いましたね。

――ちなみにいまの朱里さんの練習環境というと？

朱里　小路先生の紹介で総合だと髙田道場、立ち技だと湘南格闘クラブやバンゲリングベイに行かせてもらってます。

――そういえばブログに髙田道場で石井慧さんと一緒になったときの写真をアップしてましたよね。

朱里　はい、石井選手とは一回だけスパーリングをやらせてもらいました。

――え～⁉　だって体格が倍以上違うじゃないですか。

朱里　もちろん、私は何もできませんでしたけど（笑）。やっぱり、いまは男の人と練習することが多いんで、もっと女子の選手とも出稽古とかでスパーリングしなきゃなって凄く思うんですよね。自分がどのくらいのレベルなのか知っておきたいなって。

――なるほど。さて、今回のジュエルス参戦発表会見のときは、『ハッスル』所属だった朱里さんですが、今日のパンフを見ると

山口社長が電話くれたんですよ！「KG、いろいろごめんね～」って

『スマッシュ』所属になってましたね（笑）。

朱里　そう……ですね（笑）。これからは『スマッシュ』の朱里として頑張りたいと思います！

――そもそも、『ハッスル』と別の新イベントができるっていうのはどんなかたちで知ったんですか？

朱里　具体的なお話を聞いたのははけっこう最近ですね。『ハッスル』の大会中止騒動の時点（10月29日、後楽園ホール大会）では全然知らなかったですし。いつ聞いたんだろ……たしか最初に聞いたのが焼き鳥屋だったのは覚えてます。



しゅり■本名・近藤朱里。1989年2月8日、神奈川県出身。08年10月26日の「ハッスル」栃木大会で"カラテガール"としてデビュー。現在、携帯サイト「kamiproムーブ」で日刊コラムを連載中。地球最後の日に食べたい物は「アイスクリーム」。164cm、51kg。ブログ「☆朱里のハッとした出来事☆」http://ameblo.jp/aaabbbcccdddabcd/

――焼き鳥屋（笑）。その話を聞いたときは率直にどう思いましたか？

朱里　『ハッスル』がこういう状況になって、「これからどうしよう？　どうなるんだろう？」って思ってたときに、また自分のホームというか、上がれるリングができるというのは凄くありがたいことだと思いましたね。

――『スマッシュ』は新宿を拠点に活動していくということですが、朱里さんは新宿に縁はあったりします？

朱里　いえいえ、全然ないです！　どうしてもいまは練習ばっかりなんで、新宿とかに買い物に行くこともないですし、遊ぶような余裕もないんで（苦笑）。

――そうですか（笑）。

朱里　でも、『スマッシュ』ではいままでどおり信頼する小路先生やＴＡＪＩＲＩさんに指導していただいて、ほかにも練習環境とかいろいろとサポートしてもらえるってお話を聞いてるんで、安心してるところはありますね。

――『ハッスル』では安心できなかった、と。

朱里　はい……え？　い、いや、そういうわけじゃ（あわてて）。

――ダハハハ！　いま『ハッスル』に対してはどういう気持ちですか？

朱里　やっぱり私は『ハッスル』のおかげでこの世界でデビューできたので、感謝する部分が大きいですね。いろんな素晴らしい方々との出会いがあったのも財産ですし。最後のほうはつらいこともありましたけど、もし『ハッスル』が前と同じように大会を開催して続いていれば、自分はＫＧとしてリングに上がってたと思います。

――ちなみに、前回のインタビューで朱里さんは「山口社長が電話に出てくれない」ってボヤいてましたけど、その後、連絡はとれました？（笑）。

朱里　あ、山口社長から電話をくれたんですよ！

――お～！　ちなみになんと？

朱里　「ＫＧ、いろいろごめんね～。まだまだ若いんだし、次の舞台でも頑張ってな」って言ってくださって。優しい言葉をかけてもらえてうれしかったですね……（シミジミと）。

――それはよかったですね！　じゃあ、『ハッスル』は『ハッスル』で頑張ってほしい、と？

朱里　はい、山口社長には頑張っていただきたいです！

――これから朱里さんは『スマッシュ』で活動するわけですが、何かビジョンみたいなものはありますか？

朱里　ビジョン……、やっぱりプロレスのほかにキックや総合の舞台もあるので、いままで以上にいろんなことに取り組んでいきたいですね。プロレスと格闘技の両方で頂点を獲れるように、多くの人から「朱里の試合が観たい」って思われるような存在になりたいです！

――とくに女子の場合、選手によっては試合以外の部分でメディアに登場する人もいますけど、朱里さんはそういう活動もやっていきたいなって思いますか？

朱里　そうですね。名前を知ってもらうためにもどんどん取り上げてほしいですね。ゆくゆくは写真集とかも出したりしたいですし。

――そういえば『ハッスル』のときはＣＤデビューの話もあったんですよね。

朱里　あぁ、ありましたね～。いつの間にかなくなっちゃいましたけど（笑）。でも、何をするにしろ、やっぱりリングでの実力が伴なわないとカッコ悪いと思うんで、もっともっと練習して強くなりたいです！　これからいろんなコスチュームを着れるようになるためにも（笑）。

――では今後は試合同様、入場にも期待してます！

【09年12月11日／都内・新宿にて収録】

ハッスル消滅の危機にこの男を千葉・鴨川でキャッチ!!

「俺はプロサーファーを目指す」

坂田亘

Wataru Sakata

『ハッスル』のリングで「俺こそハッスルだよ!」と絶叫していた坂田亘。活動休止状態が続いていたが、12・25『ハッスル・マニア』開催中止も正式アナウンスされた。そんな師走の晴れた日に彼の姿を千葉・鴨川のビーチでキャッチした。そこにいたのは鬼のような険しい表情ではなく、見たこともないほど穏やかな表情の坂田亘だった。これ、ホントに坂田なの!?

聞き手/坂井ノブ　撮影/梅木麗子



離婚問題についても言及!!

——坂田さんがサーフィンにハマってると国民的写真週刊誌のS元編集長から情報を聞きつけて、今日は千葉の鴨川までやっ

って言ってくれたよ。

——髙田さんのサーフィンはぜひとも見たいですねぇ。



な」と思ったんですけど。

坂田　ハハハ!　ボードに乗って波待ち

——坂田さんがサーフィンにハマってると国民的写真週刊誌のS元編集長から情報を聞きつけて、今日は千葉の鴨川までやってきたんですが、非常に楽しそうですね。

坂田　楽しいねぇ（しみじみ）。……非常に楽しい！　少年から大人になる狭間をこの業界で生きてきたからな。俺らの業界は仕事が趣味って人が多いだろ。プロレスラーだったらあたりまえのことだけど。

——そういう人ばかりですね、確かに。

坂田　いままでも俺には車が好きだったり、時計を集めたりっていう趣味はあったけど、自分で身体を動かして技術を習得していくっていう趣味は初めてなんだよ。

——坂田さんの時計収集の趣味はいろんなところに影響をおよぼしてますけど……。まあ、その話はひとまず今日は置いておきましょう。

坂田　でも、サーフィンを始めてからはこういう時計がいいなと思うんだ。これだと時間と一緒にその日の潮位もわかるんだよ（と腕を突き出す）。

——おおっ！　いままでの高級な時計とは真逆のデジタル腕時計じゃないですか。心底サーフィンにハマってますね。

坂田　この歳になってこんなに熱中するものがあるとは思わなかったな。

——見てるとやりたくなりますもん。

坂田　そうでしょ？　いろんな人を誘ってるよ。髙田（延彦）さんも誘ったし。

——髙田さんも！　やったんですか？

坂田　俺が熱心に誘うもんだから「わかった。じゃあ、亘が一年続いたら俺も行くよ」って言ってくれたよ。

——髙田さんのサーフィンはぜひとも見たいですねぇ。

坂田　小路（晃）も連れてきたし、ほかにもプライベートな友だちとか後輩とか、いろいろ声をかけてるよ。小路はすぐにヘコたれてたけどね（笑）。

——坂田さんは今日何本も波に乗ってましたけど、ああやって波の上で立つのはかなり難しいんですよね？

坂田　自慢じゃないけど、俺は運動神経はいいほうだから。10年くらい前に一度だけやったときも一日練習して最後にはボードに立ててたし。

——何がきっかけでハマったんですか？

坂田　今年の夏前に先輩たちと一緒にハワイに行ったんだよ。その先輩たちはトライアスロンにハマってて、俺はその大会の応援に行ったんだ。

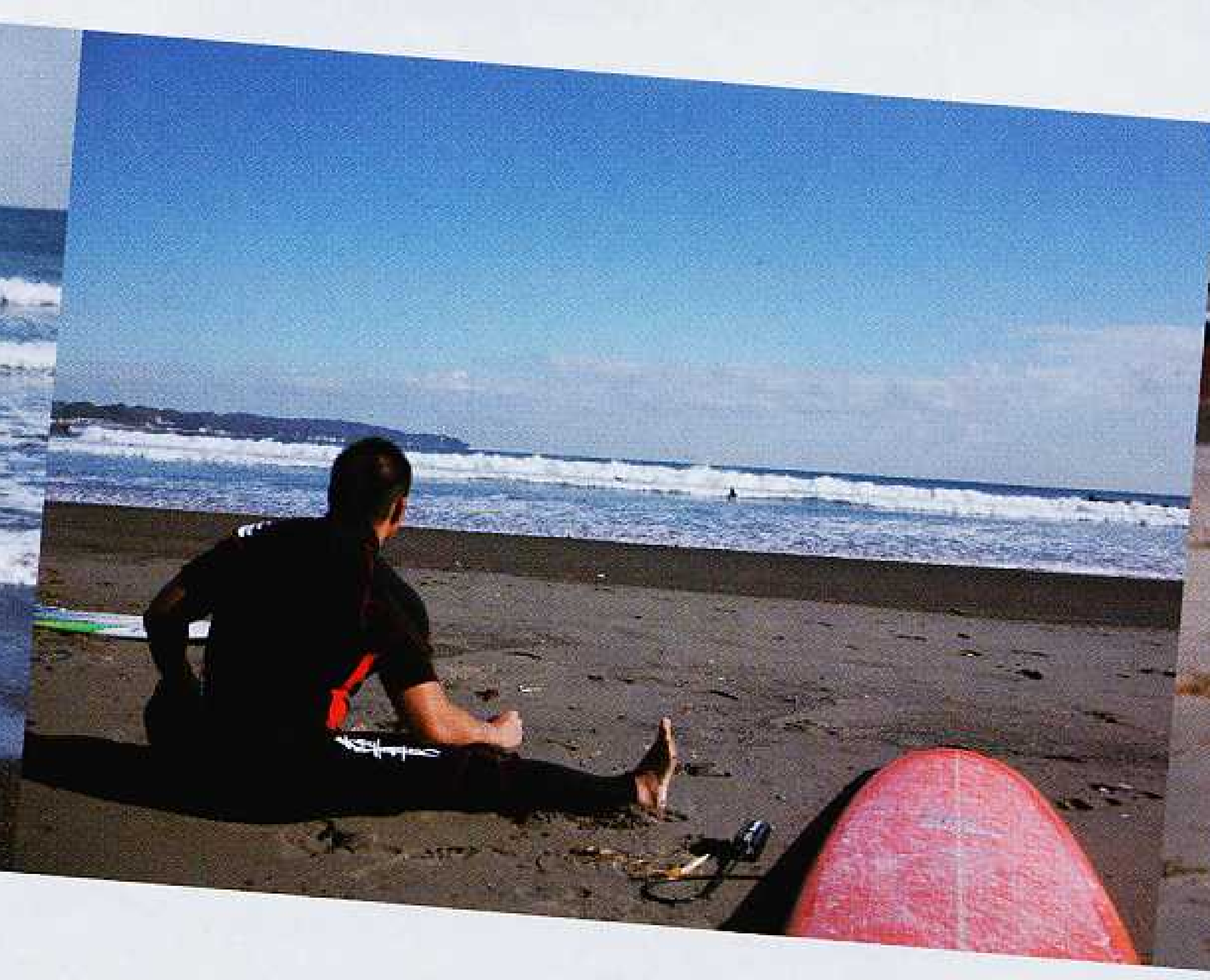
——坂田さんも出たんですか？

坂田　さすがにこの仕事やっててトライアスロンは無理だろ。過酷すぎるから（笑）。で、ホテルからビーチを眺めてたらサーフインやってる人たちがいっぱいいて「オフの日にはサーフィンやろう」って先輩たちと盛り上がってな。ただ、ハワイではクラゲが大発生してて、結局できなかったんだ。それで日本に帰ってきてから、ここに連れてきてもらって、そこからは一気にハマったな。いまじゃ連れてきてくれた先輩たちより俺のほうが頻繁に来てるもん。

——あまりにも坂田さんが穏やかな表情なので「日頃のストレスも忘れてるのかな」と思ったんですけど。

ボードに乗って波待ちをしてると現実逃避ができるんだよな……。







この日の鴨川は非常に波が高く、潮の流れも早いという厳しい条件。そんな海を目の前に情報収集、そして柔軟体操で集中を高めていく。ちなみに坂田はロングボードを使用。

坂田　ハハハ！　ボードに乗って波待ちをしてると現実逃避ができるんだよな。……って、まあそれは冗談だ。

——冗談にしては非常に実感がこもってるような気がしましたけど（笑）。

坂田　でもマイナスイオンが出てるからなのか、穏やかな気持ちになるのは間違いないよ。気持ち的な何かがなければ一人でここまでは来ないもんな。暇なときに首都高を車で走ったりしてたことはあるけど、それとは別次元の楽しさだよ。

——そんな穏やかな気持ちのときに恐縮ですが、ストレスのかかるような仕事の話を聞かせてください。

坂田　ああ。そっちが本題なんだろ？

——まあ、そうなんですけど（笑）。10月10日の『ハッスル・ジハード』以降、大会が行なわれていないんですが、この状況は選手としていかがですか？

坂田　プレイヤーとしては嫌だよね、いきなり仕事がなくなったわけだから。と同時に、こういう状況で大会が中止になったのは、応援してくれるファンやスポンサードしてくれた方々には非常に申し訳ない気持ちだよ。

——何も発表されないまま宙ぶらりん状態だから、みんなつらい状況ですよね。

坂田　大会中止の理由も資金難というアナウンスだったから、たとえば「年明けに再開します」と言ったところで、そんなに簡単なものではないだろう。選手や業者は「大会やるんだったら払うものを払ってくれよ」って人がほとんどだと思うからね。俺たち選手は現時点では自分のやるべきことがわからないまま時間だけがすぎているというか。俺たちにできることはリング上でのパフォーマンスや闘いを通じて

メッセージを投げていくことだからな。

―坂田さんは『ハッスル』の苦しい台所事情はいつ頃から認識していましたか?

坂田 ここまできたからぶっちゃけるけど、俺は去年末とか今年の頭にはそういう感じは察知してたよ。詳しくは知らないけど、山口さんは会見で「一部の選手には支払いが滞ってる」って言ったんでしょ?

―ええ。言ってました。

坂田 それは俺をはじめとして数人の選手だよ。そういう意味では、俺はずっとわかってたし。だからといって俺個人は山口さんに対して「早く金を払ってくれ」とは言ってないけどね。

―それはどうしてですか?

坂田 いままでの俺の試合やマイクアピールって「俺が『ハッスル』を引っぱっていく」ってことを本気で表現していたんだよ。わかるだろ?

―それは、誰に対してですか?

坂田 誰に対してってわけじゃなくて、大きな意味での愛情だよ。

―あ、愛情ですか⁉ マイケル・ジャクソン的に言うと「怒ってるんじゃないよ。愛なんだ。L・O・V・E」って感じですか。

坂田 そうだよ。映画『This is it』のセリフだろ? 俺も3回観て……泣いちゃったもんな。

―あれを観て、僕は「これって一番良かった時期の『ハッスル』の舞台裏そっくりだな」って思いましたね。髙田さんの本気モードのリハーサルにスタッフが本気で感動したり、川田さんが歌のリハーサルでモニタースピーカーの位置に異様にこだわったりして。あの熱気と本気さが一時期までの『ハッスル』にはありましたよね。

坂田 俺はずっとマイケル好きだったんだよ。いまも携帯の目覚ましアラームは『HEAL THE WORLD』だから。

―そんなに好きだったんですか?

坂田 おう。で、なんの話だっけ?

―マイケルじゃなくて、『ハッスル』に対する愛情の話です。

坂田 おお、そうか。俺の愛情は結婚生活にたとえると、普通のサラリーマンが奥さんをもらったとする。でも、会社からリストラされた。じゃあ、すぐに「離婚しよう」ということにはならないよね。奥さんのことはなんとしてでも俺が食わせてやるって覚悟するでしょ? わかりやすく言うとそういう感じ。こんなことぐらいであきらめられるかっていう気持ちだな。このままじゃ引き下がれんよって常に思ってる。ただ、その方法をいま考えてる。

―波の合間でその方法を考えてるわけですか。

坂田 そうだな。

―夫婦の話題が出たんでうかがいますけど、12月11日の『スポーツ報知』一面で離婚報道が出てましたね。

坂田 まったくのガセネタで、朝から大変だったよ。

―ということは夫婦間はなんの問題もないわけですね?

坂田 まったく問題ないよ。そもそもなんで、あんな根拠のないことで一面にできるんだろうね。

―なるほど。同じ日に12・25『ハッスル・マニア2009』の中止が発表されましたけど、坂田さんは他団体で試合をしていこうということは考えてないんですか?

坂田 まだハッスルは完全に終わったわけじゃないでしょ? そりゃ山口さんが「ハッスルを倒産させます」とか「自己破産します」って言うんだったら、俺も別の角度で考えなきゃいけないけど。山口さんはまだ情熱を失なってないし、あきらめてないと思うよ。俺と山口さんの関係も長いからな。

坂田 彼らには彼らの生き方があるから、もちろん応援はしてるし、頑張ってもらいたいと思うよ。とくに若いKGや大原(は



山口さんは経営者に向いてない！ いらんところでカッコつけるしな

はまだ情熱を失なってないし、あきらめてないと思うよ。俺と山口さんの関係も長いからな。

――リングス時代からですよね。

坂田　俺がリングスを離れるぐらいからの付き合いだよな。利害がなかった頃は、「かわいがってくれるおもしろい年上の人」みたいな感じだったけど、いまは……。おまえらもそうだろうけど、俺だってあきれ返ることは何回もあったんだよ。

――ハハハ……って、乾いた笑いしか出ませんが。

坂田　俺もしょっちゅうあきれてたよ。いまでこそ失踪しなくなったけど、肝心なときにいなくなったときは「次に失踪したときはボコボコにしてやるからな（怒）」って何回も言ってたんだから。まあ、あんな人間はなかなかいないよなぁ。

――坂田さんにとっては単なる先輩後輩でもないし、マスコミと選手でもないし、社長と選手でもない、と。

坂田　薄っぺらい関係ではないよ。そんなこと言ったら、ギャラが滞った段階で俺は『ハッスル』を辞めてるぞ。ギャラが遅れたり滞っても山口さんのやることだから、『ハッスル』だからこそという部分だよな。ほかの人はどうかわからないけど。これは俺個人の気持ちだけどね。

――髙田さんが『ハッスル』を抜け、TAJIRIさんが新日本とか他団体に出ていく、KGもジュエルスで格闘技をやりますけど、そうやって自分たちの活動を模索してますよね。

坂田　彼らには彼らの生き方があるから、もちろん応援はしてるし、頑張ってもらいたいと思うよ。とくに若いKGや大原（はじめ）には現実的な話でお金だって必要だろう。彼らに「もうちょっと待て」って言うのも無責任だしな。

――坂田さんの場合はお店（和食ダイニング「わたる」）を経営してたりするわけで、ほかの選手と経済的状況は違いますよね。

坂田　だからって余裕なわけではないよ。

――12月25日の両国国技館大会も正式に中止が発表されましたね。

坂田　まあ、10月に後楽園とか4大会の中止が発表された時点でこうなるとは思っていたよ。山口さんはこれ以上傷口を広げないようにしたかったのかもしれないけど、業者や選手への未払いやファンへのチケット払い戻しもきちんとできていないと聞いているし、傷口はすでに大きいからね。でも、山口さんは電話で話してもそういう部分で無責任な発言はしてないから。俺と一緒で「こんなところで終われるか」と思ってるし、いま言った関係各位への誠意を見せてくれると信じてるよ。

――ハッスル最高顧問だった酒井正和氏がSMASHを旗揚げしますけど、そちらに参加はしないんですよね？

坂田　俺のところに話はないね。俺たちとは違う業界からきて経営感覚もあるんだろうし、まあ頑張ってもらいたいね。でも、本気で業界を盛り上げるつもりじゃないと続かないと思うよ。

――『ハッスル』も本気でやってたと思う



サーフィンの大会には出てみたい。プロサーファーを目指したい！ シニア部門とかあるのかな？

んですよ。でも続かなかったですよね？
坂田　まあ、山口さんが経営者に向いてないってのが基本的かつ決定的な原因だよ。いらんところでカッコつけるしな。
――ああ、腕時計とか。
坂田　ハハハ！
――それはともかく、今後プロレス業界はどうなっていくと思いますか？
坂田　可能性がないとは思わないけど、もはやメジャーとインディーの差は思ってるほどないよな。テレビで放映されている団体なら食えるというのも崩れていくだろう。
――あとは個々で売れていくしかないですね。いまは佐々木健介&北斗晶夫妻のような勝ち上がり方もありますけど。
坂田　だけど、彼らのプロモーション（団体）のチケットが売れに売れてメチャクチャ潤ってるというわけでもないでしょ？『ハッスル』だって髙田さん、インリン、横綱、俺もテレビに露出してたけど『ハッスル』のチケットは苦戦していたわけだから。テレビとは別ジャンルと考えながらも意識しないといけないと思う。俺らの業界だけでなくタレント業界も厳しいだろうし。とはいえプロレスはなくならないと思うよ。
――そのプロレスを坂田さんが続けるかどうかはわからない、と？



さかた・わたる■1973年3月11日、愛知県出身。アニマル浜口道場でトレーニングを積み、リングスでプロデビュー。リングス退団後はPRIDEなど総合格闘技のリングに参戦しながら、ZERO-ONEにも参戦。04年からは『ハッスル』で活躍。07年に女優・小池栄子と結婚。現在はプロサーファーを目指し、週1〜2回のベースで鴨川でサーフィン特訓中。左は坂田と親交があり、サーフィンもコーチするプロサーファー・小川直久さん（坂田と同学年）。

坂田　自分が携わってるものだから、自分の全人生を賭けてやるような世界にしたいよな。こないだ山口さんと電話で話をしたときに「一緒に地獄の底に足をつけて、そこから飛び上がろう」って言われたけど、おまえが言うな！　って思ったよ（笑）。「俺以外の人間にそういうことを言うなよ」って釘も刺したけどね。
――今後はどうしましょう？　プロサーファーを目指します？
坂田　おまえ、そんな甘いもんじゃないよ。のりピー事件とかあってへんなイメージになりかかってるけど、俺の友だちで今日も一緒に乗ってた小川直久くんを見ても、本当にストイックに追求しないと務まらんからな。プロサーファー……、頑張ろうかな（笑）。
――最近では五味隆典選手も「プロサーファーを目指そうかな」って言ってましたけどね。なぜかプロレス・格闘技界ではサーフィンブームが起きてるんですよ（笑）。
坂田　なんだよ、それ。まあ、格闘技界も厳しいよなぁ。
――大晦日には坂田さんと親交の深い魔裟斗選手が引退ですよ。
坂田　いい時期に辞めるよね。凄い気持ちで闘ってたから、もういいんじゃない？
――引退したら一緒にサーフィンやるってのはどうですか？
坂田　今度誘ってみようかな（笑）。五味選手にしてもまーくん（魔裟斗）にしても、神がかり的な強さを発揮して、大きなものを背負った人間にはサーフィンで心のリハビリをしてもらおう。
――坂田さんはサーフィンでどこを目指してるんですか？
坂田　頑張って大会に出られるようになりたい。そしてプロを目指す！　でも、いまからだと歳を食いすぎか？　シニア部門とかあるのかな？
――わかりません（笑）。
坂田　とりあえず、次の取材は夏頃にして、おまえもサーフィンを体験しろ。
――ホントやってみたいですね。
坂田　もっとうまくなったら連載を持たせてくれ。サーフィンの魅力を語りたい。
――『紙のサーフィン』って新雑誌を作りましょうか。
坂田　おっ、いいな！
――山口さんが編集長で。
坂田　シャレにならんだろ！
【09年12月某日／千葉・鴨川『nonkey』にて収録】


Marquenhos Souza
Rubens Cobrinha
Leo Santos
Lucas Lepre
Guilherme Mendes
Rafael Mendes
Roberto Souza
Mauricio Souza
Marlon Sandro
携帯からのアクセスはこちら
www.b-j-j.com/m
BULL TERRIER
FIGHT GEAR
BULL TERRIER
LEONARDO SANTOS
BULL TERRIER
FIGHT GEAR
The Real Deal Aims at Bullterrier.
FIGHT GEAR
BULL TERRIER
Leo Santos
Brazilian Jiu-Jitsu World Champion
Senhoku Fighter
Marlon Sandro
Sengoku Fether weight GP Finalist
Wilamy Chiquerim
ブラジリアン柔術&総合格闘技専門店
ブルテリアブランドはじめ海外直輸入の様々なファイトブランドウェア取り扱い
Fighter's Shop
BULL TERRIER
www.b-j-j.com
お問い合わせはこちら
053-421-2534
ファイターズショップブルテリア
〒435-0006 静岡県浜松市東区下石田町1782-1
http://www.b-j-j.com
静岡県西部でブラジリアン柔術&総合格闘技を始めるなら
60畳のマットスペース、更衣室完備、冷暖房完備、シャワー完備、ウェイトトレーニングルーム完備、
ブルテリア格闘技ジム
お問い合わせはこちら
053-433-7971
〒431-3114 静岡県浜松市東区積志町 496-1-2F
営業時間：平日 19 時～23 時、土曜日 13 時～20 時 休刊日：日曜、祝日



「女子格はエッチな目でも見ていいのか?」という一見不毛に見えるテーマを掲げつつ、「エッチな目を間口の一つとして、幅広く女子格が認知されますよーに!」と、根底にはジャンルの発展を願って(?)お送りしている本誌の女子格企画。

しかし、ここ最近で登場したのは佐伯繁DEEP代表にヴァルキリー関係者の長尾メモ8氏とあって、読者からも「オッサンじゃなくカワイイ選手を取り上げてくれ!」というごもっとな意見がチラホラ。

そこで今回は「ビジュアル重視」をコンセプトの一つに掲げるジュエルスから、人気ファイターの石岡沙織と杉山しずかが可憐に登場!

この二人、その恵まれた容姿だけでなく、石岡はあの藤井恵相手に善戦を繰り広げ、杉山もジュエルス旗揚げから4連勝を飾るなど、ちゃんと実力も兼ね揃えている凄玉なのだ! 美貌に付け加えて強いだなんて、裏ドラが乗っかってるようなものというか、天は二物を与えたというか。

こんなステキな二人に、格闘技記者歴20年の大御所であり、いくつになってもアイドルウォッチングには余念がない熊久保英幸氏が、声を時折裏返らせながら肉迫!クマクマンボのスケベボイスを想像しながらお楽しみくださ〜い!

山しずかは美しい
(内館牧子調)

熊久保　杉山選手と石岡選手はジュエルスという団体のコンセプトをよく表わしているお二人だと思うんですよね。

杉山　へえ～。それはどういったコンセプトなんですか？

熊久保　まずはビジュアルですよ、ビジュアルッ!!（スケベボイスで）。そしてお二人はカワイイうえに勝ってるじゃないですか。

石岡　カワイイですか。う～ん。

熊久保　あれ？　石岡選手はカワイイと言われることに対してあまり嬉しくない感じ？

石岡　どうなんでしょう？　自分がそれに当てはまってんのかなあ……って考えちゃいますけど。

熊久保　じつは自信はあるでしょ？

石岡　いや～、それは言えないです。

熊久保　「言えない」ってことは自信があるってことですかね。

石岡　いやいやいや、怖いこと聞いてくる（笑）。

杉山　私は……。

熊久保　杉山選手の場合は？

杉山　そういうふうに言っていただけるのは凄く嬉しいですけど。

熊久保　そうでしょう！　強くてカワイかったら最高じゃないですか。

杉山　フフフ！　そうですねぇ。

熊久保　ねえ。だって男でいったら魔裟斗とか所（英男）くんとか、強いプラスイケメンみたいなウリじゃないですか。女子でもそういう選手がいてもべつにおかしくないでしょ。



僕は女子格をエッチな目で見てないですよ！

ジュエルスが誇る二大ビジュアル系エースに
クマクマンボがイヤらしくみだらに迫る!?

石岡沙織と杉山

ここ最近、"エッチな目"論争でオジさんばかりが登場していた本誌女子格企画に、満を持して美女格闘家が登場！
まさに両手に花で喜色満面、顔面崩壊状態のクマクマンボが、やっぱりちょっとエッチに直撃しちゃうぞ！　デへへへへ!!

聞き手／熊久保英幸（GBR）　撮影／金山フヒト

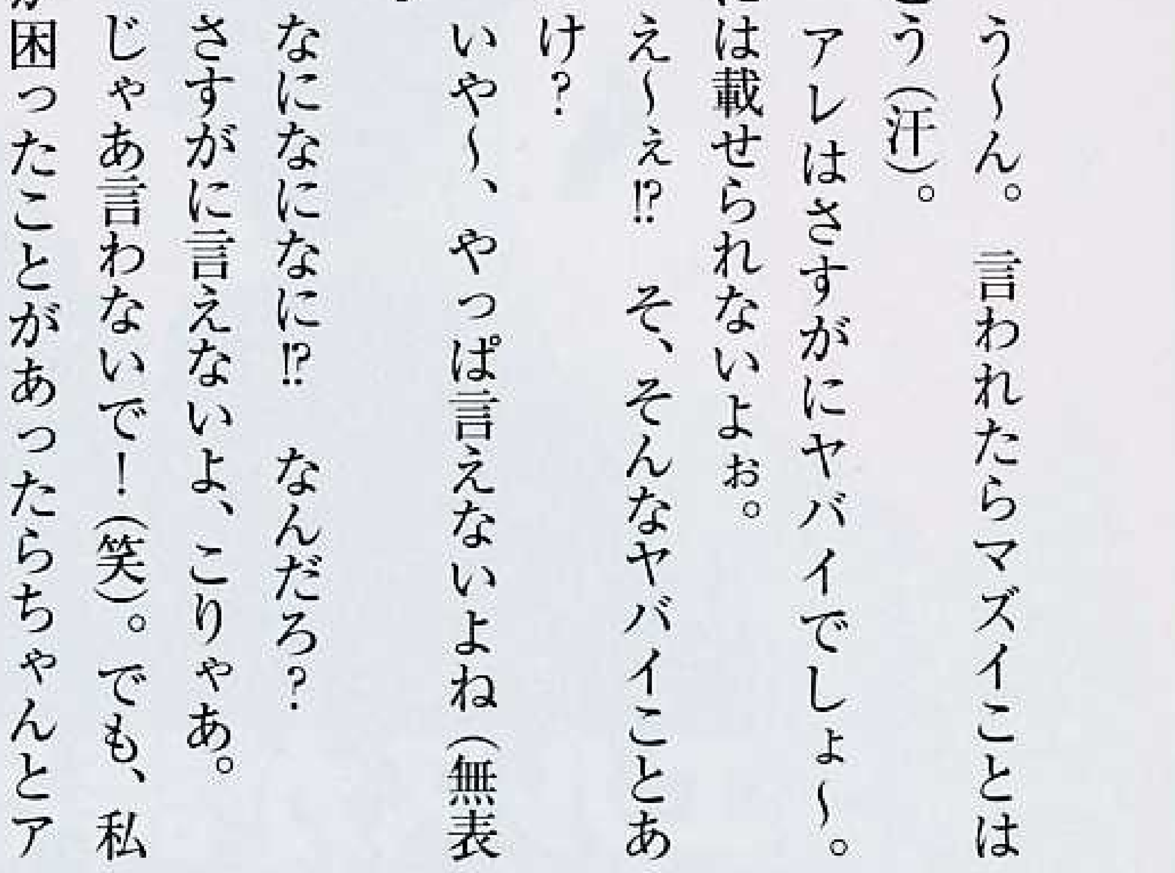
杉山　石岡は「カッコイイ!!」とか言われたりするよね？
石岡　そうですかね。どっちかというと。
熊久保　男と女のファンだったら、どっちに人気があったほうが嬉しいですか？
杉山　女の子ですねぇ。なんか同姓に好かれてるほうがいい。
熊久保　「憧れの女性」みたいな。
杉山　そうですねぇ。そういう存在であれたらいいなとは思います。
熊久保　石岡選手の中ではどういう女性がカッコイイんですか？
石岡　安室奈美恵さんや浜崎あゆみさんとか、女性のファンがいっぱいいるようになりたいですね。
熊久保　つまり〝サオラー〟、いや、〝サオリスト〟みたいな感じですか。
石岡　サオラーって、なんか怪獣みたい（笑）。
熊久保　でも、石岡選手のキャラ的には男っぽい女の子って感じじゃないですか。
石岡　あんまり意識したことはないですけど、私は女っぽくはないですよね。残念ながら。
杉山　そうかなあ。石岡は男っぽくはないと思いますね。髪の毛は短いけど、凄く女の子っぽいですよ。うん。…………うん？（怪訝そうな顔で）。
石岡　どっちなの？（笑）。
杉山　いや、うん、女の子っぽいです。……（石岡に向かって）そうだよね？
石岡　自分が言い出したんでしょ（笑）。
杉山　あの〜、石岡は几帳面なんですよね。
石岡　自分が大雑把なだけでしょ。
熊久保　石岡選手から見た杉山選手はどうなんですか？
石岡　不思議な先輩です。たまに宇宙と交信してる。
杉山　してないですよぉ。
石岡　絶対に狙ってやってる。さっきも撮影用のバラを宙にかざしてたんですよ。
杉山　あれは、ちゃんと理由があってやってるんだからね！　バラを光に当てたら喜ぶかなと思って。
熊久保　な、なるほどぉ。
石岡　でも、傍から見たら全然意味がわかんないから（笑）。
熊久保　逆に杉山選手は石岡選手の奇行を目撃したことはないんですか？
杉山　ありますよぉ。でも……これは言えないなあ（石岡のほうをジロリと見ながら）。
熊久保　石岡選手、何か心当たりはありますか？



私、おっとりしてるって言われますけど「ここぞ！」ってときに活躍するんです（杉山）

Shizuka Sugiyama

石岡　う〜ん。言われたらマズイことはけっこう（汗）。
杉山　アレはさすがにヤバイでしょ〜。雑誌には載せられないよぉ。
石岡　え〜ぇ!?　そ、そんなヤバイことあったっけ？
杉山　いや〜、やっぱ言えないよね（無表情で）。
石岡　なになに!?　なんだろ？
杉山　さすがに言えないよ、こりゃあ。
石岡　じゃあ言わないで！（笑）。でも、私に何か困ったことがあったらちゃんとアドバイスをくれたりするんです。先輩らしく。
杉山　……私、石岡にアドバイスしたことないよぉ。
石岡　あったでしょっ!!（笑）。そういうことを全然覚えてないんですよ。
熊久保　ダッハッハッハッ。
石岡　私が大事なことを相談したことさえ覚えてないっていうね。ま、べつにいいんですけど。
杉山　う〜ん……アドバイスしたっけ？
熊久保　話は変わりますけども。いま男のファンがジュエルスに増えてるじゃないですか。それで「一緒に写真撮ってください」とか「握手してください」とか凄く言われてるみたいですね。
杉山　……そうかなあ（首を傾げて）。
熊久保　そんなことはない？
杉山　うん。
熊久保　僕の聞いた話では、杉山選手のブロマイドを会場で売ったら完売したっていう。
石岡　凄く売れたんでしょ？
杉山　知らないよ、そんなの〜。
石岡　だって自分がサインして売ったんでしょ。試合が終わったあとに。
杉山　…………………………あっ!?
熊久保　あ、ようやく思い出した（笑）。
石岡　いつもこうなんです（笑）。
熊久保　ジュエルスになってから、そういうリング外の活動が増えたんじゃないで



杉山は12月11日のジュエルス新宿大会で、シュートボクシングからの刺客・尾関煌と対戦。フルマークの判定勝ちを収め、安定した勝負強さを見せつけた。

石岡　不思議な先輩です。たまに宇宙と

すか。

杉山　でも、それは長野（美香）さんですよね。

石岡　長野さんのグラビアが『FRIDAY』にも載ったし。

熊久保　自分たちもグラビアをやってみたい気持ちはあります？

杉山　私はないです。

石岡　私も。スタイルよければ出してもいいけど、そんな身体じゃないし。

熊久保　スタイルいいでしょ？

石岡　全ッ然!!

熊久保　見たい人は多いと思いますよ。

石岡　出てるとこが出てないですから。誰が見たいんですか、そんなの。

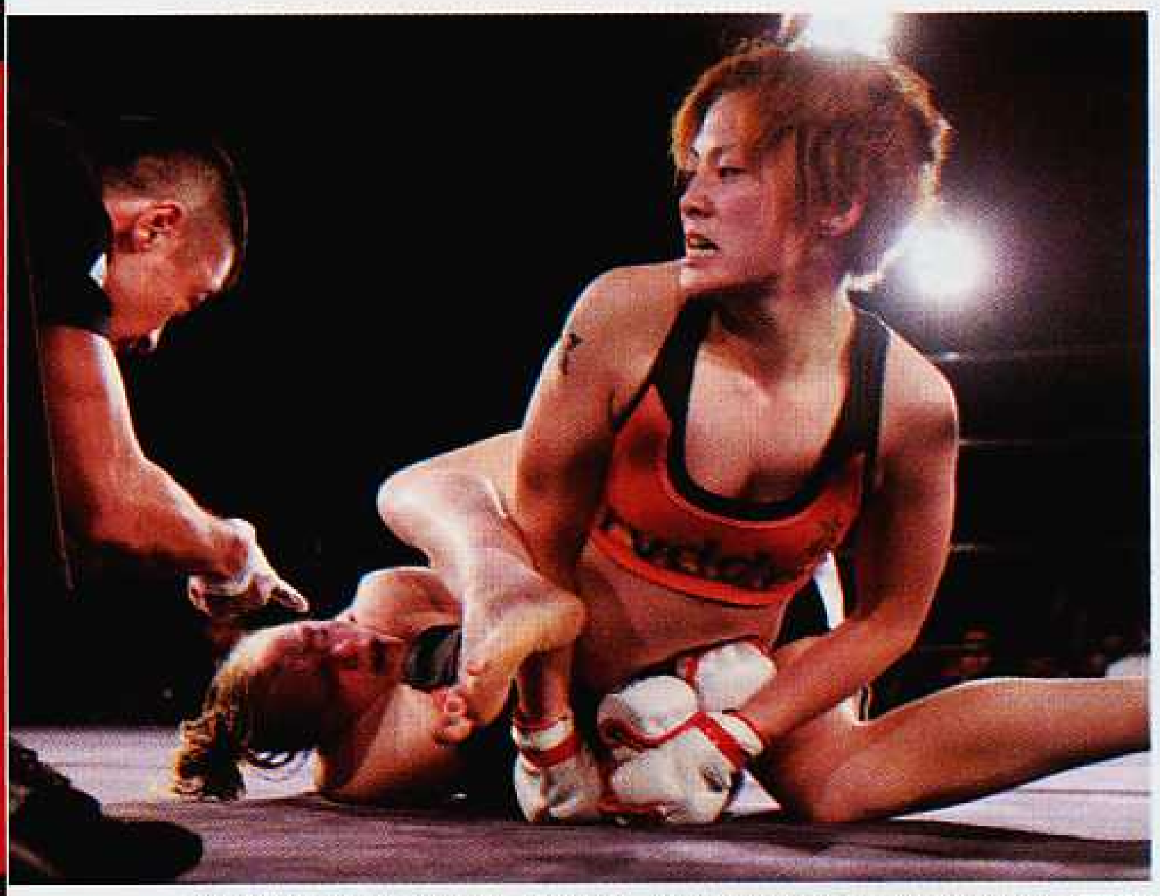
熊久保　そこがまたいい、みたいな。ウッヒョッヒョッ！

石岡&杉山　……（冷たい視線）。

熊久保　……あのね、言っておくけど、『kamipro』がこういうキャラでやってくれって言ってるんだよ。オレだってつらいんだよ？

石岡　（冷たく無視して）もうちょっと立派な身体でしたらね、お見せできるんですけどね。

熊久保　いまのコスチュームが限界？



同じジュエルスのメインで、石岡はアメリカのMMA二冠王サリー・クラムディアックと激突。石岡は電光石火のタックルから寝技に引き込み、腕十字で鮮やかな一本勝ち！

石岡　限界です。ホントに限界です！

杉山　でも、今度はもうちょっと露出が増えるかもしれないですよ。新しいのを作ったから。

石岡　そうそう。コスチューム、新しくお願いしたんです。

熊久保　それはもっと露出があるんですか？

石岡　そうですね。

熊久保　へえ～。それは佐伯さんの意向で？

石岡　今回は自分で（笑）。

熊久保　自分で「もっと出してみたい」って？

石岡　いやいやいや、そういうあれではないけど。動きやすくしただけです。

熊久保　これはほかの女子スポーツの世界でもそうなんだけど、やっぱりビジュアルから興味を持つ人が多いじゃないですか。フィギュアスケートやビーチバレーもそうですけど。だからグラビアなんかで露出すれば、女子格のファンも増えるかもしれないですよね。

グラビア？　もうちょっとスタイルがよければお見せできるんですけどね（石岡）



Saori Ishioka

石岡　そういう目的であればべつにやるけど。

熊久保　女子格のためなら一肌脱ぐ！　と。

石岡　くらいのつもりではいます。

熊久保　パチパチパチパチ!!（拍手）。そういう目的のためなら杉山選手もオッケーですか？

石岡　もちろん、ねえ先輩？

杉山　いやあ、でも、それは……。それは長野さんにお任せして。

熊久保　なるほどね。じゃあ芸能活動を考えたりしないんだ。

杉山　いやいや、自分は全然。

石岡　やっぱり格闘家としてまだまだなので。実力があってそういうふうに言われるんだったら嬉しいですけど。

熊久保　昔の女子プロだとリング上で歌を唄ったりしてるんですよ。どうですか、唄ってみたいとか思いませんか？

石岡　無理無理。上手だったら唄ってもいいけど。チョー音痴なんで。残念ながらそういう道は。

熊久保　なんかユニットを結成してジュエルスでデビューして試合後にサインすれば凄く売れるんじゃないですかね。

杉山　それも長野さんにお任せして

石岡　長野さんに振りすぎ、振りすぎ（笑）。

杉山　長野さん、歌もヤバイですよ絶対。カワイイ声してるもん。

熊久保　二人はカラオケとか一緒に行く？

石岡　あんま行かないです。

熊久保　普段どこか一緒に出かけたりするんですか？

石岡　住んでるとこ遠いもんね。

杉山　一緒には練習してないし。

石岡　DEEPジムに週一回集まって練習してるだけなんで。

熊久保　でも、杉山選手は石岡選手の家に泊まったりしてるんでしょ。石岡選手のブログで見ましたけど。

石岡　家には基本的にいろんな人が泊まりに来る。長野から禅道会の選手が試合に来るときも泊まるし。

熊久保　面倒見がいいですね。

石岡　いいかな？　普通だよね。

杉山　………（しばらく考え込んで）石岡は面倒見がいいんだと思うんだよね。

石岡　す、凄く考えたね、いま……。

杉山　そんなことないよぉ。

熊久保　なんか歳は逆ですけど、姉さんタイプと妹タイプみたいな感じですね。
杉山　う〜ん……、私は「ここぞ！」というときに活躍するんです。
石岡　自分で言う⁉
杉山　そうだよね？
石岡　うん。そのとおりです（笑）。
熊久保　杉山さんの「ここぞ！」というときって、たとえばどういうときですか？
杉山　困ってる人に優しいと思います。
石岡　また自分で言う（笑）。
杉山　でも、ホントにそう。
熊久保　最近、困った人を助けた例ってあります？
杉山　あ〜ぁ……。ここでは言えないんです。
熊久保　なんか陰に隠れて活動してる正義の味方っぽいですけど（笑）。
杉山　でも、そうだよね。「ここぞ！」というときに……。
熊久保　「ここぞ！」というときに活躍します？
杉山　（石岡に向かって）でしょ？　でしょ？
石岡　はい。「ここぞ！」というときに活躍しています（笑）。
熊久保　しかし、杉山さん、メチャメチャおっとりしてますよね。
杉山　よく言われます。
石岡　狙ってんでしょ？
杉山　そうです（真顔で）。
石岡　キャハハハハ！　言っちゃった（笑）。
熊久保　逆に石岡選手はハキハキしてるタイプですよね。活発というか。
石岡　そうです。
熊久保　男の子とばっかり遊んでたってタイプでしょ。
石岡　そうですね。ヤンチャに育ちました。
杉山　でも、最近は女の子っぽい格好をしてるでしょ。
石岡　最近スカートを穿いてみたりすると「女装してる」とか言われるんですよね。で、やめました！　それに最近は練習しすぎて筋肉がついてるのでカワイイ服が着れない。
熊久保　そういえば、リングに上がるときとかフジメグ選手とかみんなカワイイ格好を意識してるのに、石岡選手はあきらかに普段着ですもんね。
石岡　ジャージでいいんです。カワイイ格好は、好きな人にだけ見せるからいいんです!!（笑）。
熊久保　うわ〜、いいこと言うねぇ。ま、原稿ではカットしますけどね（笑）。
石岡　アハハハ！
杉山　………ちょっと待ってください。私、けっこうおっとりしてますかね？
熊久保　杉山さん、それ5分ぐらい前の話ですよ（笑）。おっとりしすぎですよ！
杉山　はあ〜。
熊久保　杉山さんは周りからなんて思われたいんですか？
杉山　え〜っと、ハキハキしてる？
熊久保　とてもハキハキしてるようには見えないです（笑）。
杉山　すいません……。
熊久保　感情もあまり表に出さないし。石岡選手は試合で感情が出てますよね。
石岡　出てます？
熊久保　出てます。まず顔に出るじゃないですか。「ヤロ〜!!」みたいな。
石岡　そうですね。凄い顔に出るんですよ、イヤなことに。
熊久保　あの表情はカッときたときの顔なんでしょうね。
石岡　あれはちょっとね、直さないとね。
熊久保　いや、あの感情表現がいいと思いますよ。
石岡　試合ではいいかもしんないけど、日常でもそうですからね。
熊久保　確かにそれはマズイ（笑）。
石岡　ちょっと直さないとね。いい大人なんだから。
熊久保　でも、感情は出したほうがいいと思いますよ。杉山さんは無理そうですか？
杉山　いや、できそうです。はい。
熊久保　けっこうポーカーフェイスですよね、試合中。
杉山　………………
熊久保　えー、ホントですか⁉　それはカッコイイですね。
杉山　自分で言いますか（笑）。表情を変えずに殴り合いをしてるじゃないですか。
杉山　たぶん、石岡は「コノヤロー」とか考えるけど、私は考えることが切れちゃってるんですよね。
熊久保　考えることが切れちゃってる？
杉山　何も聞こえないんです。試合があるじゃないですか、そして1ラウンドが終わってコーナーに座るじゃないですか。それで瀧本（美咲）先輩からいろいろとアドバイスをされても頭に入らなくて……。そうでしょう？（石岡に向かって）。
石岡　いやいや、セコンドとか周りの声、全部聞こえるよ。
杉山　そうなんだ……。そこがダメなんですよねぇ、私は。
熊久保　杉山選手は普段から聞こえない感じがします（笑）。
杉山　そうそう、そこがダメなところ。でも、「ここぞ！」というところではちゃんとしてるから（ちょっぴり力強く）。
熊久保　一度、杉山さんの「ここぞ！」という場面を見てみたいですね。どんな動きをするのか。
杉山　そうですね。ぜひ見せたいんですけどね。ここではちょっと。でも困った人がいたら助けますし、もし落ち込んでる人がいたら電話で励ましますよ。
熊久保　なるほど。石岡さんは電話で励ましてもらったりしました？
石岡　一度もないですね!!（笑）。

【09年11月25日／都内・DEEPジムにて収録】



すぎやま・しずか■1987年2月11日、米国ニューヨーク出身。小中高とバレーボールに打ち込む。その後、禅道会で空手を習得し、08年11月のジュエルス旗揚げでのHARUMI戦でプロデビュー。その後、現在までジュエルスには皆勤。空手道禅道会横浜支部所属。165cm、58kg。
ブログアドレス→http://www.kakutoh.com/pc/blog/sugiyamashizuka/

いしおか・さおり■1987年9月13日、広島県出身。高校まで続けた柔道をバックボーンに禅道会に入門し、07年3月のスマックガールでの高林恭子戦で総合デビュー。ジュエルスには08年11月の旗揚げより参戦。空手道禅道会小金井道場所属。156cm、51kg。
ブログアドレス→http://blog.livedoor.jp/saori_i/

真冬でもホットなTシャツ大特集!!

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①～⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(商品は2010年1月25日(月)頃発送予定です)。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦2009年のMVP、ベストバウト、ベスト興行は?⑧2009年のワーストMVP、ワーストバウト、ワースト興行は?

【宛先】〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス『kamipro』編集部
「バブル世代」係まで

※応募締切は2010年1月15日(金)当日消印有効

PRESENT*01

1名様



青木真也レヴェルテンTシャツ
[公武堂／非売品]

11月に行なわれた青木真也のDREAMライト級チャンピオン祝勝会で配布された非売品の記念Tシャツ。サイズはLです。

DREAM■http://www.dreamofficial.com/

PRESENT*02

4名様



ストライクフォースTシャツ
[STRIKEFORCE]

"皇帝"エメリヤーエンコ・ヒョードルが参戦し、DREAMとも提携する注目の米国MMA団体のロゴ入りTシャツ。M or XLのサイズ希望を明記。

ストライクフォース■http://www.strikeforce.com/

PRESENT*03

1名様



アントニオ猪木デビュー50周年Tシャツ
[アートジャンキー／¥3,990(税込)]

11月大会の大会ポスターデザインも手がけたアートジャンキーより、猪木デビュー50周年記念Tシャツを発売。サイズはM。

PRESENT*04

1名様



風香デビュー5周年Tシャツ
[アートジャンキー／¥3,990(税込)]

来春の引退を発表したアイドルレスラー・風香のデビュー5周年記念Tシャツ。女子にも嬉しいサイズXSです。

PRESENT*05

1名様



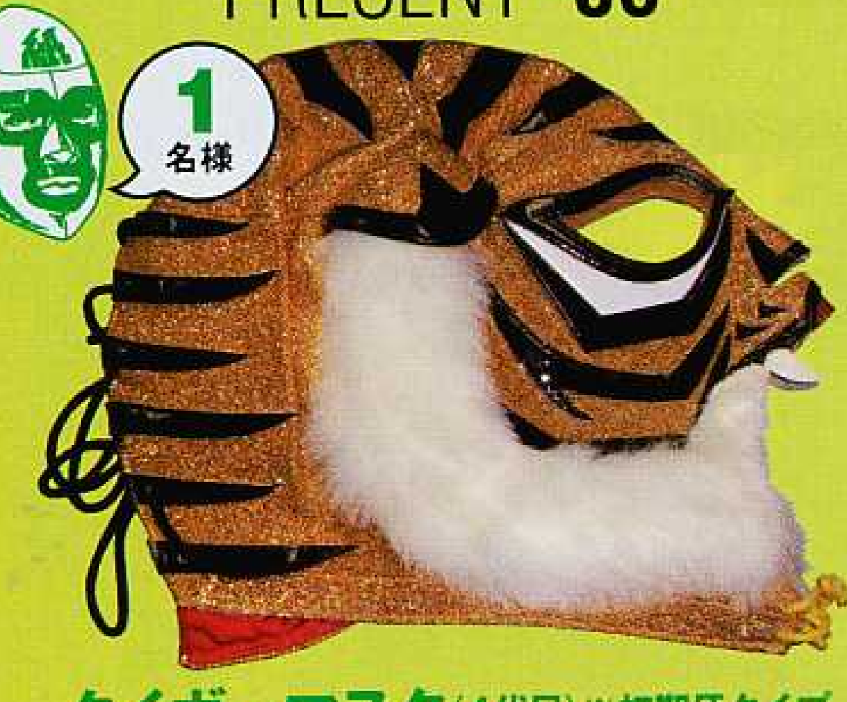
ミスター6号「1.2.3.4.GO! 6号」Tシャツ
[アートジャンキー／¥3,990(税込)]

東海地区では絶大な人気を誇る4歳でデビューした驚異のインディーレスラー、ミスター6号をモチーフにした大胆なデザイン!! サイズはL。

アートジャンキー■http://www.artjunkie.jp/

PRESENT*06

1名様



タイガーマスク(4代目)※初期牙タイプ
[闘道館]

プロレスマニア館製のマスクをプレゼント!! お宝グッズが闘道館に多数あり!! 店舗は東京都千代田区三崎町2-9-9ナガヤビル5F&6Fです。

闘道館■http://www.toudoukan.com/

PRESENT*07

1名様



UFC-究極格闘技-×キン肉マン コラボTシャツ
[WOWOW／非売品]

マンガ『キン肉マン』のキャラがUFCのオープンフィンガーグローブでファイティングポーズ!! こんなシビレるコラボTシャツをプレゼント!! サイズはL。

WOWOW■http://www.wowow.co.jp/

PRESENT*08

1名様



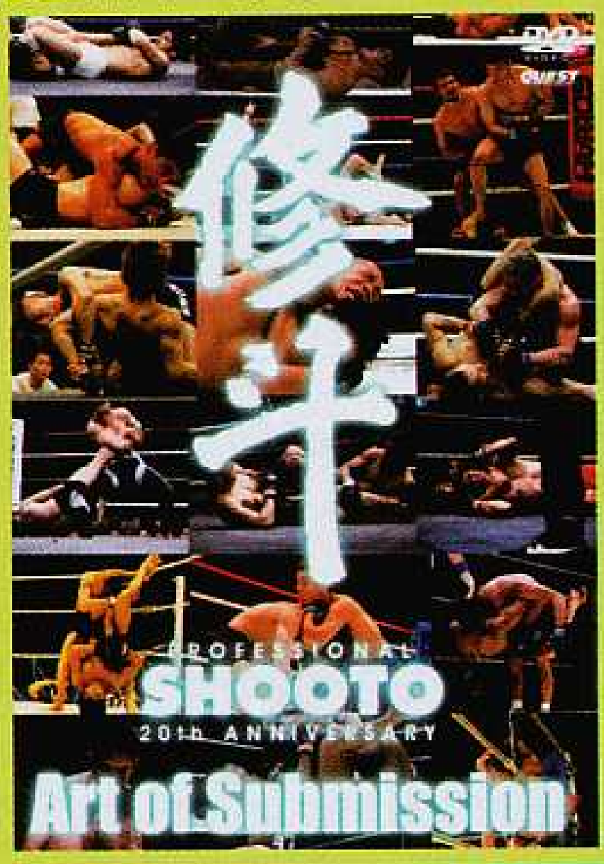
東京国際ブラジリアン柔術2009Tシャツ
[リバーサル／¥3,675(税込)]

桜井"マッハ"速人も出場した柔術大会の記念Tシャツをプレゼント!! サイズはL。リバーサルのウェアは下記URLから購入可能!!

リバーサル■http://www.rvddw.com/

PRESENT*09

1名様



DVD『修斗』20th ANNIVERSARY Art of Submission
[クエスト／¥5,880(税込)]

修斗20周年記念DVD第2弾は「打・投・極」の極にスポットライトを当てたサブミッション集。230分の超ボリュームでお楽しみください。

PRESENT*10

1名様



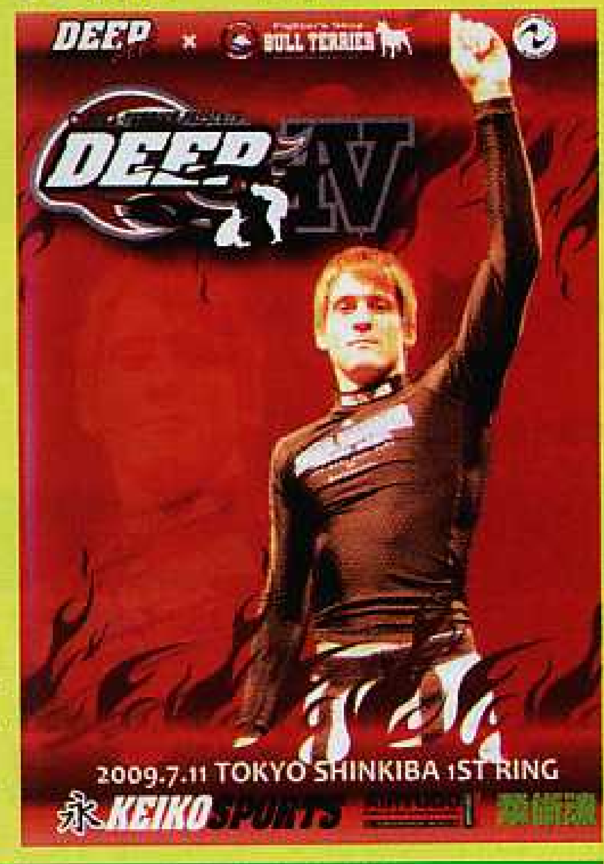
DVD『Krush Light Weight GP 2009』Final Round
[クエスト／¥5,040(税込)]

山本元気、山本真弘、石川直生、"狂拳"竹内裕二が闘う決勝トーナメント。60キロ級の日本最強がついに決する!! 映像特典としてライト級GPダウンシーンも収録。

株式会社クエスト■http://www.queststation.com/

PRESENT*11

1名様



DVD『DEEP X 4』
[ブルテリア／¥3,990(税込)]

7月に開催されたグラップリング大会『DEEP X 4』をまるごと収録!! 戸井田カツヤ、八隅孝平など日本のトップファイターの寝技を堪能せよ!!

ブルテリア■ http://www.b-j-j.com/

kamipro142 応募券
傷を舐め合ってます

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

こちらでも毎週プレゼント実施中!! **http://kamipro.com/**

kamipro 紙のプロレス
No.142
2010年1月5日 発行

発行人
浜村弘一
編集人
斉藤慎一
青柳昌行
編集統括本部長
ジャン斉藤
編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
スズキィ
八木賢太郎（ちゃんこ準備のため非番）
特命名誉バイザー
吉田 豪
助っ人
ジャイ子
編集次長（回収率68%）
松林 貴
デザインGM
出田さん（TwoThree）
デザイン班長
金井ヒサくん（TwoThree）
デザイン
松坂マツくん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
鎌田やっちゃん
白木みのる（以上、TwoThree）
カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
吉場正和
山口比佐夫
戸成嘉則
タイコウクニヨシ
梅木麗子
金山フヒト
山本千代
校定
工藤ちゃん
進T進出
入江イニエスタ（TwoThree）
総営業
堂前秀隆
中村宣忠
営業部
橋本“わらがみGA”義之
編集庶務
原 正典
山内ユリコ
特命名誉編集庶務
高木由美子
編集チアガール
金川“ナツコ”奈津子
白倉“クララ”明子
ダイナマイトマダム
廣橋久美子
発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）
発売元
株式会社角川グループパブリッシング
〒102-8177東京都千代田区富士見2-13-3
印刷
図書印刷株式会社
協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

■広告掲載のお問い合わせは下記まで
株式会社エンターブレイン
スポーツ企画編集部 ☎03-3265-7166

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00〜17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL: http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

SRC中止に続く衝撃……!?

次号『kamipro』にて
重大発表!?

（あくまで予定です）

NEXT ISSUE

対抗戦はどうなった!? 『Dynamite!!』速報!

kamipro Special 2010 FEBRUARYは1月9日（土）発売予定!

年末年始のイベントをまとめて大放出!

No.143は2010年1月23日（土）発売予定!

※地域によっては多少発売が遅れることがありますが、中止にはならないです。

ka
No.142
2010年1月5日

kamipro 2009 142

大混乱大晦日!! 二大柔道王が毒舌三昧!!

大晦日のくそったれ!!

2010年1月5日
発行人／浜村弘一 編集人／斉藤慎一、青柳昌行
発行所／株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)
発売元／株式会社角川グループパブリッシング 〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3

enterbrain

9784047261839

特別定価：本体895円＋税

雑誌 61971-23 Ⓗ2010.04

Printed in Japan 図書印刷株式会社

ISBN978-4-04-726183-9
C9476 ¥895E

1929476008954